宇野浩二	女人往來	並四六製	284	一、六〇	春秋社	一月	▲肉體の秋、暗夜、K市大火餘聞、幽閉記、の四篇を收めた第一小說集。	吉尾なつ子	女人一路	並四六製	406	一、八〇	時代社	十月	▲春の愁ひ、衣裳・白と黑、花咲く街にて、生活の自信へ、或る後悔等其他で描いた長篇
賀川豐彥	日輪を孕む曠野	並四六製	285	一、〇〇	講談社	三月	▲十津川の筏乘り山野義輝夫婦が新しき天地を求めて大陸に渡つて活躍せる樣を描く。	杉山平助	二十一世紀物語	並四六製	269	一、五〇	敎材社	九月	▲海龜と海豹、グレグレ博士、宇宙と蛭と、地球はどれだけ偉いか他五篇の物語を收む。
矢野朗	肉體の秋	上函四六製入	299	一、六〇	春秋社	一月	▲肉體の秋、暗夜、K市大火餘聞、幽閉記、の四篇を收めた第一小說集。	小島政二郎	新妻鏡	上函四六製入	446	二、四〇	主婦之友社	一月	▲盲目の美しき人妻が、荒狂ふ人生の海を乘切つて幸福な彼岸に到達する迄を描いたもの
室生犀星	乳房哀記（コバルト叢書）	並四六製	172	一、一〇	鱒書房	五月	▲乳房哀記、抗議、衞の宿、男信ずべからず偶然の祕密、の五篇の短篇集。	森三千代	南溟	並函四六製入	238	一、五〇	河出書房	十一月	▲南溟（長篇）、弱年、柘榴（以上短篇）の三篇を收めた小說集。
平林英子	南枝北枝（新ぐろりあ叢書(13)）	並四六製	307	一、八〇	ぐろりあそさえて	七月	▲南枝北枝、目醒時計、歡迎會、山の幸、失踪、歸鳥の六篇を收めた短篇集。	內田百間	南山壽	上函四六製入	419	二、一〇	中央公論社	九月	▲南山壽、昇天、盡頭子、山東京傳、棗の木蜻蛉眠る、青炎抄等其他を收めた創作集。
林芙美子	七つの燈	並四六製	340	一、九〇	むらさき出版部	二十二月	▲女は結婚すれば家庭の人達の燈とならなければならぬといふことを描いた長篇。	富山雅夫	那須野ヶ原（小說集）	上函四六製入	263	一、六〇	赤塚書房	二月	▲踏青賦、艶馬、那須野ヶ原、陽炎記、晩い花、の五短篇と手記一篇を收む。
小田嶽夫	泥河（短篇集）	上函四六製入	266	二、〇〇	砂子屋書房	十月	▲道化節り、思ひ出、泥河、瓢泊の魯迅、ますらを、波の音、窮死、以上の小說集。								

寺崎浩	女人心情	並四六製	316	一、五〇	通文閣	八月	▲昇降機、無言歌、港、花の歌、登場人物、看護婦、わかれ、列車、以上の短篇集。	川端康成・武田麟太郎・岡宮茂輔編	日本小說代表作全集（四・昭和十四年後半期）	上函四六製入	578	二、三〇	小山書店	七月	▲秋（横光利一）或る死・或る生（保高德藏）演習（中野重治）他十七篇を收載す。
川端康成・武田麟太郎・岡宮茂輔編	日本小說代表傑作集（五・昭和十五年前半期）	上函四六製入	556	二、三〇	小山書店	十一月	▲荒海（中山義秀）鸚鵡（井伏鱒二）川音（船橋聖一）等他十八氏の作品を收めたもの。	圓地文子	日本の山（新作長篇叢書(2)）	並四六製	338	一、七〇	中央公論社	二十二月	▲日蔭者とよばる不自然な環境にあり乍ら眞實を求めてやまぬ一女性の殉愛の記錄。
鈴木清次郎	日本橋（新人文學叢書(9)）	洋布四六判	303	一、五〇	宮越太陽堂	十月	▲日本橋、冬に近い夜、兩國附近、地方版、地下鐵横町、重役他七篇の短篇集。	島木健作	人間の復活（前篇）	上四六製	407	一、八〇	中央公論社	六月	▲秋山健吉、光惠夫妻を中心にして新しい考へ方、生き方を述べた長篇。
梶井基次郎	檸檬	上四六製	271	一、八〇	十字屋書店	二十二月	▲檸檬、城のある町にて、泥濘、路上、過去等十八篇の創作集。	尾崎士郎	猫	並函四六製入	206	一、五〇	三笠書房	六月	▲猫、鵺、狸、夏草、良夫歸宅、靴を忘るべからず、離婚委員他三篇の短篇小說集。
谷崎潤一郎	猫と庄造と二人のをんな（創元選書(56)）	上新四六製	449	一、六〇	創元社	八月	▲猫と庄造と二人のをんな、蓼喰ふ蟲、の二篇を收む。	竹田敏彥	熱情の翼	並四六製	338	一、一〇	講談社	三月	▲世界驚異の新鋭飛行機の機密を繞つて起つたスパイの暗躍や友情愛物語。
中河與一	熱帶圈	並四六製	326	一、五〇	第一書房	十二月	▲小說篇（天から生えた木以下八篇）隨筆篇（太古の季節以下十四篇）。	大佛次郎	熱（コバルト叢書）	並四六製	184	一、一〇	鱒書房	四月	▲熱風、愛情、新樹、女人高野、牧歌、の五篇を收めた短篇小說集。
小山いと子	熱風	並四六製	450	二、〇〇	中央公論社	十一月	▲熱風、慣性、夜霧、絹襤褸、海門橋、四A格、の六篇を收めた小說集。								

上林暁	野	加藤武雄	野の灯・街の灯（加藤武雄短篇選集(4)）	阿部知二	野の人（阿部知二自選集）	中里恒子	野薔薇	住井すゑ子	農婦譚	獅子文六	信子	清水桂一	はがき記（第一巻 上海時間）
四六判並製	四六判並製	四六判上製	四六判並製	四六判並製	四六判上製	四六判並製	四六判並製	四六判並製	四六判並製	四六判並製	四六判並製	四六判並製	四六判並製
246	323	260	333	169	287	314	273	316	291	274	395	303	
一、五〇	一、三〇	一、五〇	一、五〇	一、〇〇	一、八〇	一、八〇	一、七〇	一、七〇	一、八〇	一、八〇	二、〇〇	一、五〇	
河出書房	大都書房	河出書房	實業之日本社	青梧堂	洛陽書院	主婦之友社	泉書房	泉書房	明石書房	砂子屋書房	昭和書房	高山書院	
十月	八月	十二月	十二月	九月	九月	一月	八月	十二月	十二月	三月	二十二月	七月	
▲散歩者、幼友達、野、寒鮒、換氣筒の影、天草土產、花の精他三篇の短篇小說集。	▲第四卷は戀愛篇で野の灯・街の灯、小犬と結婚指輪、二つの愛等他八篇を收む。	▲日獨對抗競技、楕圓形のパラソル、草原の午後、北平の女、老馬行他二篇の小說集。	▲野薔薇、天國、晩餐會、露路、冬の海、おしんの場合等十三篇の小說集。	▲農村の眞生活を描いた農婦譚、村童抄、成長、の三短篇小說集。	▲大陸に於ける日本人の平和建設の苦心を表現せる長篇で第一卷は上海時間。	▲明朗活潑な女學校の先生信子さんが混濁の生活の中に正しく進むユーモア物語。	▲時局思想小說の第二卷で、本卷では米虫ルル子と結婚した味岡直人が活躍してゐる。	▲はなびら、街の童女、精靈送り、夫婦、通り雨、酌の六篇を收めた短篇小說集。	▲いまから二十年ほど前、巴里にゐた著者が描いた長篇小說。	▲巴里の宿、雨季、小紳士、猫、梵鐘、の五篇を收めた短篇小說集。	▲靜けさの仙女、雪の日前後の二部より成る長篇小說。	▲背景、帽子、雜草、第二の戰場、記代、美談、年月の七篇を收めた短篇小說集。	

布上芳介	墓	中岡宏夫	白像	佐藤虎男	裸の祝祭	永野滉	初戀（新人文學叢書(4)）	金親清	初戀（新鋭作家叢書(4)）	谷崎清二	花を賣る少女	徳田一穗	花（短篇傑作集）
四六判入製		四六判上製入		四六判上製入		四六判洋布		四六判上製		四六判並製入		四六判並製	
216		345		338		328		249		259		273	
二、〇〇		二、〇〇		一、八〇		一、五〇		一、五〇		一、三〇		一、八〇	
作品社		學藝社		春秋社		宮越太陽堂		六藝社		赤塚書房		人文書院	
十二月		十二月		四月		十月		十二月		八月		七月	
▲同情、志樂の置土產、夢と電報、源さんと紋つき等短篇十篇及小品十二篇を收む。		▲白像、末枯、風媒花、赤い鞄、古木の話、季節の貌、海鳥等七篇を收めた小說集。		▲裸の祝祭、舶來一家、倭寇、谷間、猫夫婦惡黨、歡樂の鬼、潮霧、の八篇の短篇集。		▲破れた繪、裏街で、蕗、小春日和、初戀、湖上祭の前夜、以上の六短篇集。		▲會津只見川地方の山地溪間を背景に描いた書下し長篇小說「初戀」を收めたもの。		▲都會の情熱、秋雨、新妻、東京の空の下、犬と寢る兒、花を賣る少女、以上の六短篇集		▲縛られた女、鰺ケ澤、急行券、麒麟館、結婚、花影、年賀狀、通信員他一篇の小說集。	

川端康成	花（昭和名作選集）	加藤武雄	華やかな戰車	舟橋聖一	母代	字野浩二	母と兄と子	丹羽文雄	母の青春	石川達三	花のない季節		
四六判並製	新四六判並製	四六判並製		四六判並製入		四六判上製入		四六判並製		四六判上製入			
499	315	273		251		324		337		355			
一、六〇	一、〇〇	一、八〇		一、五〇		二、〇〇		一、七〇		一、八〇			
大都書房	新潮社	人文書院		河出書房		櫻井書店		明石書房		中央公論社			
一月	二月	七月		十月		十二月		十月		三月			
▲黑髮、二鉢の薔薇、緣、秘密、人質、暮春もう一つの一對、貞操線其他で描いた長篇。	▲イタリアの歌、禽獸、これを見し時、父母父母への手紙、花のワルツ以上の短篇集。			▲母代（はは しろ）、姫鱒、日々の危機、枯木、舊い仲間他二篇の短篇集。		▲心つくし、足りない人、夏の夜語、從兄弟の公吉等六篇の小說集。		▲母の青春、花戰、の二篇の小說集。		▲富と美貌を持つ若き未亡人鷹子を中心にして彼女を取まく男性の葛藤を描いたもの。			

竹田敏彦	母のみる夢	上四六判製	328	一、三〇	博文館	六月
山岡莊八	母の行く道	並四六判製	334	一、三〇	讀切講談社	五月
中谷孝雄	短篇傑作集 春	上四六判製	242	一、六〇	人文書院	一月
北條誠	春服	並四六判製	267	一、六〇	竹村書房	二十月
高見順	遙かなる朝	並函四六判製入	586	二、五〇	學藝社	八月
湯淺克衛	長篇小說 遙なる地平	上函四六判製入	328	三、〇〇	東亞公論社	二月
打木村治	般若	並四六判製	322	一、五〇	通文閣	十月
中村地平	蕃界の女	並四六判製	286	一、五〇	新潮社	五月
佐藤春夫	びいだあ・まいやあ	並四六判製	294	一、六〇	文圓社	十月
長谷健	火のくにの子供	上函四六判製入	326	一、八〇	モナス	七月
太宰治	小說集 皮膚と心	上函四六判製入	246	一、八〇	竹村書房	四月
片岡鐵兵	緋の蜘蛛	並四六判製	333	一、四〇	新潮社	一月
中村地平	陽なた丘の少女	上四六判製	283	一、八〇	人文書院	二十月

▲母の見る夢、拾はれた母、緣の聖者、青葉の戲れ、流るる星座他一篇の小說集。

▲文鳥、火華散る街、愛の國境、炎の生活、母の行く道、大地の覺音の六篇の小說集。

▲春、父、痴情、雜草、都の花、倭寇、の六篇を收めた短篇集。

▲春服、影繪、蔓草の門、紫の帶、埴輪と鏡花木の心等六篇を收めた短篇集。

▲長篇小說「遙かなる朝」を收む。

▲默々として鍬を取り國防の第一線に働く北滿移民團生活の實狀を描いた長篇。

▲般若、淨恨婦、遮莫、久仁子と鐵道馬車、北庭の芽、代官行事他三篇の短篇集。

▲蕃界の女、岬の女行者、老年、戰死、土堤の上、ヒヨコの悲劇、失踪他二篇の短篇集。

▲びいだあ・まいやあ、我が夢の賦、寫生旅行、太平洋双方他四篇の短篇集。

▲一異常性格兒の心理的・生理的成長を中心にして小學校や家庭を描いた長篇。

▲俗天使、葉櫻と魔笛、美少女、畜犬談、兄たち、おしやれ童子他八篇の小說集。

▲新劇女優、青年飛行家、富豪令孃を中心にして愛と金との渦卷を描いた長篇。

▲旅さきにて、熱帶柳の種子、きつつき、應召記等九篇の短篇小說集。

戸川貞雄	光に立つ	並四六判製	348	一、三〇	博文館	十月
金史良	光の中に	上函四六判製入	347	一、八〇	小山書店	二十月
倉田百三	光り合ふいのち	並四六判製	310	一、八〇	新世社	二十月
林芙美子	長篇小說 一人の生涯	上新四六判製	288	一、五〇	創元社	一月
吉田十四雄	百姓記	上四六判製	426	二、〇〇	牧野書店	二月
荒木巍	開拓文學選書 百姓魂	並四六判製	326	一、五〇	洛陽書院	十一月
加藤武雄	加藤武雄短篇選集(2) 白衣夫人	並四六判製	344	一、三〇	大都書房	五月
佐藤春夫	ふるさと	並函四六判製入	257	一、七〇	河出書房	二十月
火野葦平	昭和名作選集 河豚	並四六判製	307	一、〇〇	新潮社	八月
林芙美子	林芙美子短篇集(下) 葡萄の岸	並四六判製	280	一、五〇	實業之日本社	十一月
泉本三樹	夫婦の記錄	上四六判製	303	一、六〇	六藝社	十一月
織田作之助	夫婦善哉	並四六判製	239	一、六〇	創元社	八月
林芙美子	林芙美子短篇集(上) 風琴と魚の町	並四六判製	330	一、五〇	實業之日本社	十一月

▲思はぬ災厄のために心痛する一女性の苦難な道路を描いた大衆小說。

▲老の中に、土城廊、天馬、蛇、コブタンネ箕子林、無窮一家等七篇の小說集。

▲幼年期から一高に入る迄の少年期の魂の發達を描いた倉田氏の自傳小說。

▲廣い世の中に、小さな生命の流れを抒情的に描いた林さんの自敍的小說。

▲貧農の生活を些の暗さもなく淡々たる筆致で有儘の事實を哀しく朗らかに描いたもの。

▲百姓魂、穗高萬里、北滿の花、心の道、新しき鶯、の五篇を收めた小說集。

▲子守唄、女人哀唱、みやま石楠、火華、眼の無い人形、白衣夫人他六篇の母性小說集。

▲南紀伊の古譚傳承を素材とせる短篇集で、丙午佳人傳、ふるさと他二篇。

▲河豚、糞尿譚、山芋、怪談宋公館、煙草と兵隊、南京、二福湯の七篇の小說集。

▲就職、黃昏の席、蜥蜴、一時期、小さい花清修館挿話、葡萄の岸他二篇を收む。

▲美しく、强く、信頼し合つた眞の夫婦と健全なる家庭を描いた愛情の書。

▲夫婦善哉、放浪、俗臭、雨、探し人、の五篇を收めた短篇小說集。

▲風琴と魚の町、クララ、舞姫、習性、大學生、母娘、霰の降る日他二篇の短篇集。

竹田敏彦	牡丹崩れず	上四六製判	316	一、三〇	博文館	十二月	▲美代、遠雷、罪の臺、春秋、風樹の懐、神々しい馬鹿、白い鳥、鶏の物語以上を收む。
石川達三	母系家族	上函四六製入判	388	一、四〇	新潮社	十二月	▲風俗、隣人、巷の早春、別府航路、失踪、朝、昔男ありて、他一篇の短篇小說集。
丹羽文雄	紅螢	上四六製判	366	一、七〇	時代社	七月	▲紅螢、隣同志、逝げていく妻、伊豆山の蟻椿の花、女優の家他三篇の讀物集。
小田嶽夫	北京飄々	並四六製判	249	一、六〇	竹村書房	八月	▲大過渡期に立つてゐる古都北京の印象を描いたルポルタージュ的長篇小說。
阿部知二	北京（昭和名作選集（12））	並四六製判	301	一、〇〇	新潮社	三月	▲北京、物語、楡の墓、の三篇を收めた小說集。
林芙美子	女の一生（林芙美子初期集（中））	並四六製判	238	一、三〇	日本實業之社	一月	▲狹き日記、小家庭、藤の花他二篇の短篇集。
大江賢次	ペンギン茶房	並四六製判	284	一、五〇	教材社	六月	▲ペンギン茶房、逃げた蜜蜂、肥料の話、の三篇を收めた短篇小說集。
里見弴	文學（小說集）	容函四六布入判	371	二、二〇	小山書店	五月	▲文學、無免許灸、土產話、くちゃね鳥、夫婦、餘談、或る氣質、やぶれ太鼓以上を收む
岡田三郎	冬去りなば（短篇創作集）	並四六製判	283	一、八〇	人文書院	九月	▲二百十日前、冬去りなば、春のたより、遺愛、なんぢやもんぢや他五篇の小說集。
北川冬彥	古鏡	並函四六製入判	267	一、五〇	河出書房	十月	▲古鏡、早春、狐、氾濫、曠野、樂天家、春堤の上、破山他二篇の短篇集。
丹羽文雄	二つの都	並四六製判	472	二、五〇	高山書院	十月	▲昭和十五年一月より六月まで大陸新報紙上に連載された長篇小說。
丹羽文雄	風俗	並函四六製入判	270	一、五〇	三笠書房	六月	▲風俗、隣人、巷の早春、別府航路、失踪、朝、昔男ありて、他一篇の短篇小說集。
外村繁	鳳凰（短篇創作集）	並四六製判	299	一、八〇	人文書院	四月	▲美代、遠雷、罪の臺、春秋、風樹の懐、神々しい馬鹿、白い鳥、鶏の物語以上を收む。

下村千秋	徨（小說集）	上四六製判	350	二、〇〇	牧野書店	四月	▲氷つた部屋、白鳥、粉雪の降る夜、裏街の灯、彷徨、父親、故郷他二篇の短篇集。
藤浦洸	放浪者ザリノ	並四六製判	317	一、二〇	學藝社	三月	▲放浪者ザリノ、忘れもの、失はれた接吻、レコードをこわす女其他を收めた小說集。
倉田百三	法の娘（倉田百三選集（6））	上函四六製入判	279	一、二〇	砂子屋書房	七月	△逆境に生きる娘に托して法の精神を說いた長篇小說。
石河穣治	蜂窩房	上函四六製入判	264	一、六〇	春陽堂	四月	▲蜂窩房、ジヤスポラ父子、の二篇を收めた小說集。
鵜見祐輔	北極光	上四六製判	402	一、八〇	春陽堂	七月	▲明治三十年代に取材して親子、家庭、戀愛結婚等の問題を通して幸福を描いた長篇。
佐佐木千之	間宮林藏	上函四六製入判	349	二、〇〇	至玄社（廣田發賣）	九月	△單身孤劍良く間宮海峽を探査せる愛國の志士間宮林藏の生涯を描いた長篇。
日比野士郎	牧の身邊	並四六製判	333	一、八〇	高山書院	九月	▲榊の枝、仙臺行、牧の身邊、棉の花、片脚の男、また合ふ日まで他三篇の短篇小說集。
川口松太郎	舞姫	並四六製判	468	一、六〇	小峰書店	十二月	△卒業後、記念會、善後策、それから、外交官、男の子等其他で描いた長篇小說。
岡本かの子	丸の内草話	並四六製判	253	一、三〇	青年書房	六月	△故岡本かの子女史の長篇「丸の内草話」を收めたもの。
眞杉静枝	萬葉をとめ	上四六製判	265	一、八〇	人文書院	十一月	▲母の傑作、ある作家の死、萬葉をとめ、阿里山、南海の記憶他六篇の短篇小說集。
濱川光太郎	末婚手帖	上四六製判	320	一、八〇	高山書院	十一月	△出版事業に奮鬪する若くて美しい一女性を描いた長篇小說。
吉屋信子	未亡人	並四六製判	385	一、五〇	主婦之友社	十一月	△未亡人問題に暗示を與へ未亡人の生き方に就いて解答を與へた長篇。
濱川光太郎	密獵者	並函四六製入判	291	一、七〇	小山書店	四月	△本年度芥川賞作品「密獵者」と流刑囚、吹雪の三篇を收めた小說集。

山中峯太郎	民族	並四六製判	282	一、五〇	同盟出版社	十一月	▲個我に生き、全的に奉仕的素質をもたないアイヌ民族の滅亡を描いた長篇。
中本たか子	むすめごころ	並四六製判	298	一、五〇 九	教材社	十月	▲感化院の四季に悲しき春恭とたたかひ拔く清純にして美しきむすめごころを描いた長篇
鹽田研一	武藏野の灯	並函四六製入判	360	二、〇〇 一〇	昭和書房	二十月	▲武藏野の一農家に起つた出來事を描いた長篇小說。
伊藤整	霧氷	並函四六製入判	247	一、五〇 一〇	三笠書房	六月	▲霧氷、牡蠣、の二篇を收めた小說集。
新田潤	小說集 娘	並四六製判	310	一、八〇 一〇	昭森社	八月	▲海、夜、極光、娘、小さな喫茶店にて、雨愚賞、旅立つ娘、他一篇の短篇集。
秦賢助	眞心叢書(3) 娘のまごころ	並四六製判	343	一、六〇 一〇	高山書院	九月	▲父よ行け五色旗の下に、處女哀歌、春涙多し、ほがらかな青春他八篇の感激實話集。
井上友一郎	胸の中の歌	並四六製判	326	一、五〇 一〇	通文閣	十月	▲胸の中の歌、にがよもぎ、初戀、熱病、架空の人物、Y先生他六篇の自選創作集。
逸見廣	新人文學叢書(8) 村一番の偉い娘	洋四六布	327	一、五〇 一〇	宮越太陽堂	一十月	▲死兒を燒く二人、光子の墓誌、村一番の偉い娘、委ぬる者他七篇の短篇小說集。
坪田譲治	村は晩春	並函四六製入判	417	二、一〇 一四	河出書房	六月	▲村は晩春、村は夏雲、鯰、鶴、河中の岩、老人淨土、柿の蔕七他十篇の短篇集。
石川達三	黑白叢書(8) 盲目の思想	上函四六製入判	227	一、八〇 一〇	砂子屋書房	四月	▲あんどれの母、盲目の思想、少年記、職業の問題、惰性と均衡、葛藤以上の小說集。
寺崎浩	短篇傳作集 森の中の結婚	並四六製判	300	一、八〇 一〇	人文書院	三月	▲角、楕圓の脈、森林の結婚、大陸の祭典、航路、翳ある影の六篇の小說集。
火野葦平	山芋日記	並函四六布入判	337	二、〇〇 一四	小山書店	十月	▲山芋日記、三福湯、雨後、船、傳說、白き旗、の六篇の短篇小說集。
大石千代子	山に生きる人々	並四六製判	343	一、五〇 一九	洛陽書院	九月	▲山に生きる人々、相剋、安住影あり、鶯と蝸牛等の海外に取材せる短篇小說集。

尾崎士郎	洋車の大將	上四六製判	355	二、〇〇 一〇	高山書院	九月	▲洋車の大將、客愁、生理、記憶、平俗、石切風來、粹な中尉さん他七篇の短篇小說集。
李光洙	有情	並四六製判	322	一、五〇 一〇	モダン日本社	六月	▲朝鮮の無理解な、愛を受入れようとしない社會へ暗默の抗議をした戀の純情物語。
長與善郎	幽明	並函四六製入判	338	二、〇〇 一〇	河出書房	九月	▲幽明、間道、友情難、女婿教育、夜の戲曲（脚本）の五篇を收む。
尾崎一雄	短篇集 夢ありし日	並函四六製入判	357	二、一〇 一〇	砂子屋書房	九月	▲風船と豆人形、二十日間、戰病兵と街を行く、湖畔記、一錢銅貨、山岳病其他を收む。
北村壽夫	夢多き日に	並四六製判	307	一、六〇 一〇	萬里閣	七月	▲夢多き日に、天城街道、神々の瞳、早春、藤枝先生、湖のある風景他十篇の作品集。
井上友一郎	夢去りぬ	上函四六製入判	339	二、〇〇 一四	大觀堂	二十月	▲著者の書下し長篇小說「夢去りぬ」を收めたもの。
室生犀星	小說 よきひと	上函四六製入判	250	一、八〇 一〇	竹村書房	三月	▲「週刊朝日」誌上に連載されて好評を博した「よきひと」を纏めたもの。
中本たか子	よきひと	上四六製判	322	一、八〇 一〇	モナス	二十月	▲つねに苦難の道を歩いてゐる作者の長篇小說「よきひと」を收めたもの。
丸山義二	夜明け	並函四六製入判	273	一、七〇 一〇	河出書房	一十月	▲故郷、部落の氣風、相分家、民話、警笛の五短篇と、創作ノートを收む。
富澤有爲男	夜の淡彩	並四六製判	326	一、六〇 一〇	時代社	九月	▲秋、旅宿、還らぬ荒鷲、湖畔記、童貞處女里子の一日、悲戀行他五篇の短篇集。
和田傳	昭和名作選集(7) 沃土	並四六製判	294	一、〇〇 一〇	新潮社	三月	▲農民の田地に對する執着を深刻に描いた長篇小說。
森九又	翼賛一路	並四六製判	314	一、六〇 一〇	俊平書房	二月	▲翼賛一路、征く日までの二篇を收めた小說集。
加藤武雄	加藤武雄短篇選集(3) 落花の如く	並四六製判	340	一、三〇 一〇	大都書房	七月	▲第三卷は田園篇で落花の如く、故園哀唱、天竺牡丹、夏草、小鳥の巢他五篇を收む。

武者小路實篤	樂園の子等	並四六判製	271	一、四〇	甲鳥書林	二十	▲樂園の世界を描いた著者の書下ろし小說。
伊藤永之介	隣村記	上函四六製入判	294	二、〇〇	新館書房	八月	▲東北農村出の二青年が、工場地帶に出て來て間もない素人工の生活を描いたもの。
横光利一	旅愁 第一篇	上四六製判	379	二、〇〇	改造社	六月	▲遙かに故國の限りなき前進を懷かしむ、旅行く日本人の桎梏を描いた長篇の第一篇。
横光利一	旅愁 第二篇	上四六製判	395	二、〇〇	改造社	八月	▲長篇小說「旅愁」の第二篇。
大坪草二郎	黎明の人々 第一部	並四六製判	266	一、七〇	改造社	十一月	▲幕末から維新の黎明期に活躍せる人々と、明治初期の文化を描いた長篇の第一部。
榊山潤	長篇小說 歷史 第二部	上函四六製入判	247	一、七〇	砂子屋書房	二月	▲一青年藩士（奥州二本松藩）の生活を中心にして明治維新を描いた長篇歷史の第二部。
野澤富美子	煉瓦女工	並四六製判	236	一、三〇	第一公論社	五月	▲隣近所の十ケ月、煉瓦女工、足跡、家出の子、救濟事業部雜記、他二篇の創作集。
羅田正夫	傳情小說 路傍の花	上四六製判	228	一、八〇	新泉社	一月	▲路傍の花、幸福を待つ少女、春を求めて、峠の記念碑、空に花輪を投ぐ等收めたもの。
藤口透吉	老骨の座	並四六製判	329	二、〇〇	學藝社	八月	▲老骨の座、秋情、漆、灰皿、人情風景、馬醉木のある家、生物、望樓、以上の短篇集。
一瀨直行	六區の女	並函四六製入判	242	一、五〇	春陽堂	三月	▲洋子、まさ子の生き方を中心にして東京下町にくらすたいはひせる女達を描く。
金聖珉	絲旗聯盟	並四六製判	419	二、〇〇	羽田書店	六月	▲半島に於ける愛國心を描いた「玄海を越ゆ」「亞細亞の民」の二篇の小說集。
田中忠一郎	新人文學叢書（7） わだち	並四六製判	321	一、五〇	宮越太陽堂	八月	▲小さき芽、飢餓群、わだち、爆發、義弟、鹿毛、村の收稅役他五篇の短篇集。
中河與一	われ誓ひし人	上函四六製入判	254	一、五〇	第一書房	五月	▲希望多き年齡、二つの幸福、傾き行く心、その日のこと其他にて描いた長篇。

岩越昌三	新人文學叢書（2） われに一人の乙女ありき	洋四六布判	308	一、五〇	宮越太陽堂	八月	▲間蓋を攀ぢのぼる女、美しい村、ある雨の深更、博物詩抄等他九篇の短篇集。
岩倉政治	若い世代	並函四六製入判	254	一、五〇	河出書房	八月	▲東醫院開業記、若い媒酌人、ベアリントン夫人の知遇、滿潮の下他二篇の短篇集。
芹澤光治良	若き女の告白	並函四六製入判	234	一、五〇	河出書房	十月	▲情愛の距離、黑髮に霜もおかで、父の胸像、霧海、若き女の告白他四篇の短篇集。
鷄田知也	コバルト叢書 若き日	並四六製判	226	一、一〇	鱒書房	一月	▲「夏」の改題で、美しき田園を背景にして至高至純の戀愛を描いたもの。
里見淳	若き日の旅	響函四六洋布入判	224	二、〇〇	甲鳥書林	六月	▲學習院在學中、木下利玄、志賀直哉の兩氏と關西旅行せる時の記錄を骨子に描いた長篇。
長見義三	新人文學叢書（1） 別れの表情	洋函四六布入判	313	一、五〇	宮越太陽堂	六月	▲背中あぶり、隧道、水仙、初穗誕生、青き名、大寒小寒、三軒家他九篇の作品集。
野村尙吾	新人文學叢書（6） 嫩葉の木立	洋四六布判	319	一、五〇	宮越太陽堂	十二月	▲雜誌「早稻田文學」編輯者としての著者の小說集で、嫩葉の木立、餘寒等七篇。
武藤直治	我ら起たむ	並四六製判	197	一、〇〇	產業文化會報國	二十月	▲眞劍に立ち上つて活躍しつつある產業報國運動を中心に描いた小說。

時代小說・大衆文藝

博文館編	愛戀小說名作集	並四六製判	318	七〇	博文館	五月	▲幼い薔薇（丹羽文雄）雪の夜奇談（三上於菟吉）勝負（武田麟太郎）他八篇の小說集。
谷川早	顎十郎捕物帖	並四六製判	330	一、〇〇	博文館	五月	▲顎十郎の捕物談十二話を收めたもので、稻荷の使ひ、猫屋敷、鎌いたち、一節功其他。
松波治郎	偉傑快傑	並四六製判	292	一、〇〇	宮越太陽堂	一月	▲櫻眞金、吉田松蔭、松本奎堂、三樹三郎、梅田雲濱、橋本左內其他の偉傑快傑を語る。
子母澤寛	意地ッ張地藏	並新菊製判	338	一、六〇	大道書房	十一月	▲青い頭にまばらに長く毛が延びて等其他で描いた大衆時代小說。

寺島柾史	雜新の處女地	四六判製並	288	一、二〇 九	讀切講談社	十月	▲雜新の處女地、札幌城攻撃、五稜郭史、變幻黑船往來他四篇の大衆時代小說。
山手樹一郎	うぐひす侍	四六判製並	400	一、〇〇 二	博文館	二月	▲うぐひす侍、紅書き御預記、一年餘日、身すぎ鈴慕、忘恩三年他八篇の大衆文藝。
子母澤寛	お小夜手鞠	菊判製五五頁横一八・五頁並製一	392	一、八〇 一〇	大道書房	八月	▲黑髮、玉取り踊り、白鬼、牡丹、十手、地獄駕、うき雲、淺春等にて描いた時代小說。
土師清二	おろしや船	四六判製並	403	九八 一〇	春陽堂	一月	▲おろしや船、どろんこ折助の二篇を收めた大衆文藝。
角田喜久雄	をり鶴七變化	四六判製並	361	一、一〇 一〇	講談社	三月	▲幕末騷亂の時代相を背景にして謎の劍俠七變化春之助の活躍を描いた時代長篇。
鷲尾雨工	續織田信長 一—三	四六判製上函入	387	二、〇〇 一四	春秋社	五月	▲中原布武の卷三はおみさ爭ひ、朝倉退治、小谷夫人、秀吉の戀心其他を收む。
土井內新作	王臣	四六判製並	202	一、一〇 六	興亞書房	二十月	▲幕末、下總關宿の久世藩に於ける勤王佐幕兩黨の爭を杉山正臣の至誠の志と共に描く。
博文館編	家庭小說名作集	四六判製並	315	七〇 六	博文館	二十月	▲大君の醜の御楯（加藤武雄）母の戰旗（大林清）愛するもの（横山美智子）他八篇。
三角寛	怪奇の山窩	四六判製上函入	460	一、八〇 一四	文藝春秋社出版部 小峰書店	四月	▲化け鵜、蛇に惑かれた女、眠り山、曉の妖精、片手の初、坂のお雪他五篇の山窩小說集
博文館編	感激小說名作集	四六判製並	319	七〇 九	博文館	七月	▲清水上等兵の母（山中峯太郎）月毛の密使（村上元三）他八篇の大衆文藝。
博文館編	義士小說名作集	四六判製並	319	七〇 九	博文館	七月	▲多門傳八郎（大倉桃郎）討入り（三上於菟吉）他十篇の赤穗義士小說集。
博文館編	勤王小說名作集	四六判製並	316	七〇 九	博文館	十月	▲征騎（村上元三）正成討死（直木三十五）名を捨て、（鷲尾雨工）等十一篇。
瀧川駿	熊澤蕃山 青春篇	四六判製並	353	一、五〇 九	讀切講談社	一月	▲陽明學の大家（熊澤蕃山）の生涯を描いた長篇で本輯は壯年期の蕃山を描く。

長谷川伸	玄武館の人々	四六判製並	305	一、五〇 一〇	交蘭社	七月	▲鷹匠・吉田平三郎、赤穗義士抹殺命令、阿片戰爭と日本人他七篇の史實小說集。
畑耕一	小塚つ原綺聞	四六判製上函	325	一、五〇 一〇	交蘭社	十月	△小塚原綺聞、假面二人武士、東條庫之助等他七篇の史實による時代小說集。
國民文學研究會編	國民文學代表作選集 昭和十五年度	四六判製上函	440	一、九〇 一〇	時代社	十二月	▲茶漬三略（吉川英治）達摩支那へ渡る（山岡莊八）他十八篇を收載す。
子母澤寛	三味線堀	四六判製上函	320	一、四〇 一〇	大道書房	七月	▲三味線堀、しぐれ曼陀羅、雪扇の谷、浮名千鳥、地獄花の五篇を收めた時代小說集。
三角寛	山女谷の山窩	四六判製並	235	一、〇〇 六	小峰書店	十二月	▲山女谷の戀櫓、いろは祭、犬娘お千代、勘進比丘尼等五篇の小說及び文獻一篇。
林房雄	西郷隆盛 第一卷 早春の卷	四六判製上函	309	一、七〇 一〇	創元社	八月	▲巨眼巨軀の英雄西鄕隆盛の生涯を描いた長篇で早春の卷は十八歲より二十二歲迄。
林房雄	西郷隆盛 第二卷 落花の卷	四六判製上函	282	一、七〇 一〇	創元社	十月	▲第二卷落花の卷は二十三歲から二十五歲に於ける隆盛を描く。
林房雄	西郷隆盛 第三卷	四六判製上函	294	一、七〇 一〇	創元社	二十月	▲第三卷は青葉の卷で、鐵鞭、兄と弟、朱房の貝、正氣の歌等十二章より成る。
三角寛	慈悲心鳥	四六判製並	310	一、二〇 六	小峰書店	二十月	▲飛騨山脈に住む美しい一人の娘を中心に起つた山窩奇譚。
三角寛	純情の山窩	四六判製上函入	502	二、〇〇 一四	小峰書店 文藝春秋社出版部	九月	▲帶解けお喜美、親分どつこ、搖れる山の灯子供の掟、伊賀の親分他四篇の山窩小說集。
今野賢三	松下村塾 小說	四六判製上函	328	一、七〇 一四	金星堂	六月	▲幕末維新の大業に貢獻せる吉田松蔭とその時代を描いた書下し長篇歷史小說。
三角寛	情炎の山窩	四六判製上函入	451	一、八〇 一四	文藝春秋社出版部	三月	▲羽黑行者、長壽の祕密、箕づくりの娘、河童と山女、處女の親分他四篇の山窩小說集。
奧村五十嵐編	新時代捕物帳	四六判製並	312	七〇 九	興亞日本社	七月	▲巨盜還る（野村胡堂）稚兒地藏（橫溝正史）幽靈水（佐々木味津三）他六篇の捕物談。

土師清二	破魔弓傳記	並四六判製	345	一、三〇 九	博文館	月九	▲五島の怪傑我馬造が洪秀全を助け大陸にての活躍を描いた新水滸傳。	子母澤寛	はれぼれ街道	上四六判製	317	一、四〇 一〇	大道書房	月六	▲はれぼれ街道、彰義隊、福山落城記、の三篇を收めた時代小說集。
							▲神變八咫烏、疾風浪土の二篇の時代小說集	神田伯龍	人情男一匹	並四六判製	314	九五 六	實話讀物社	月二十	▲非理法權天、猿鞭、生寫し、胸の小函、愛憎の焰、心身體得で描いた大衆時代小說。
								村上浪六	人間味 後篇	並四六判製	257	一、三〇 一〇	明文館	月三	▲浪六の人間味後篇（裸體の人間）を收めたもの。
								松前治策	灯火峠	並四六判製	310	一、八〇 一〇	愛亞書房	月十	▲時代を幕末から明治維新へ採つて、日本民族前進のために若人の熱と魂を描いた長篇。
								三角寛	飛散る山窩	並四六判製	282	一、一〇 一〇	小峰書店	月一十	▲雪女郎、利根の朝霧、椿山お香代、逃げ水お冬、足切喜三郎他二篇の山窩小說集。
								山本周五郎	土佐の國柱	並四六判製	310	一、〇〇 一〇	博文館	月一十	▲土佐の國柱、武道假名暦、矢一筋、新井峽祝言、粗忽評判記他三篇の時代小說集。
								角田喜久雄	鍔鳴浪人	上四六判製	360	一、八〇 一四	春陽堂	月五	▲幕末騷亂の中に美男美女の可憐な活躍を描いた大衆時代小說。
								中里介山	大菩薩 第十七峠	並函四六判製入	412	一、五〇 一〇	大菩薩峠刊行會	月二十	▲第十七卷は「山科の卷」を收めたもの。—普通版菊半截函入、價一、五〇—
								子母澤寛	大道	上四六判製	327	一、四〇 九	大道書房	月五	▲大道、二人新藏、中野碩翁、明月、大岡越前守、流山の朝、他一篇の時代小說集。
								博文館編	人傑小說名作集	並四六判製	316	七〇 一〇	博文館	月二十	▲弘法大師（大倉桃郎）時宗と祖先（長與善郎）上泉信綱（直木三十五）等十三篇。
								角田喜久雄	新變八咫烏	並四六判製	300	一、〇〇 九	博文館	月三	
								村松梢風	新水滸傳	並四六判製	399	一、五〇 一〇	朝日新聞社	月三	

白須賀六郎	葉隱忠臣藏	並四六判製	262	一、〇〇 九	宮越太陽堂	月二	▲葉隱忠臣藏、十萬兩不知火小判、の二篇を收めた時代小說集。	鷲尾雨工	鞘者交 上卷代	並四六判製	463	一、八〇 一四	講談社	月十	▲義田信長が本能寺に倒れ、曩臣秀吉が天下に名を擧げる間を描いた時代小說。
鷲尾雨工	鞘者交 下卷代	上四六判製	426	一、八〇 一〇	講談社	月二十	▲下卷は武田勝頼の最後から本能寺の變、秀吉鞘業の基礎をなした清洲會議迄を收む。	子母澤寛	飛驒の兄弟	並新菊判製	334	一、七〇 一〇	大道書房	月十	▲飛驒の兄弟、晴れば富士、恩讐三とせ日記、しぐれ椿他二篇の時代小說集。
鎧田研一	樋口一葉	並四六判製	340	一、五〇 一〇	第一書房	月六	▲美しき薄幸の天才、數奇な運命の閨秀作家樋口一葉の半生を描いた傳記小說。	大佛次郎	美女・櫻	並四六判製	364	一、三〇 一〇	博文館	月五	▲仁侠・劍客・强惡等の中に薄命の美女由利を繞つて起る奇異な運命を描く。
紀伊郷土社編	父母狀由來記	並四六判製	174	一、三〇 六	紀伊郷土社	月九	▲父母狀由來記、濱口大明神緣起、商人道の三小說と他に紹介一篇を收めたもの。	博文館編	武俠小說名作集	並四六判製	319	七〇 九	博文館	月五	▲戀の火術（野村胡堂）女禁制（土師清二）甚左戀風（湊邦三）他七篇の小說集。
博文館編	武將小說名作集	並四六判製	320	七〇 九	博文館	月一十	▲戰國吹雪（鳴山草平）出家修羅棒（大倉桃郎）川中島（直木三十五）他九篇を收む。	湊邦三	佛掏摸	並四六判製	324	一、三〇 九	讀切講談社	月七	▲佛掏摸、伊呂波骨牌、左門峠姿、淀川三十石船、仇討ち菩提他三篇の時代小說集。
吉川英治	松風みやげ	上函四六判製入	375	一、八〇 一四	大元社	十月	▲松風みやげ、鬼、東雄ざくら、歩く春風、悲母親晉、親鸞上人他三篇の時代小說集。	三木至編	名作武士道小說集	並四六判製	316	八〇 六	改洋社	月二十	▲田崎草雲とその子（吉川英治）吉祥鹿毛（長谷川伸）極意散華（土師清二）等十一篇。
佐々木杜太郎	名作主水捕物集	並四六判製	315	八〇 九	教材社	月九	▲疊切りの謎、河童地獄、萬兩花嫁、捕物軍學、唐繰り的他八篇の主水捕物談。								

名	作	切	頁	價	出版社	月	内容
教材社編	讀本（第一輯・探偵捕物名作篇）	四六判並製	319	六〇九	教材社	四月	▲椋綱のカーチン、密教悲願、鳥目の女、旗本名物男、惡魔の火他十一篇を收む。
海音寺潮五郎	柚木父子	四六判並製	392	一、七〇〇	時代社	十月	▲柚木父子、白日夢、城井谷崩れ、唐薯武士千石角力、梨花賦他四篇の時代小說集。
長谷川伸	夕立銀五郎	四六判並製	344	九六〇	春陽堂	三月	▲夕立銀五郎、鳥居太平記、次郎長の百兩、紋之助衣裳、村松三太夫他四篇の大衆文藝。
大佛次郎	夕燒富士	四六判並製	391	一、三〇〇	博文館	四月	▲父伊織の復讐を誓つて惡旗本を次々に襲ふ美丈夫水谷縫之助の活躍を描く。
村雨退二郎	妖美傳	四六判上製	402	一、八〇〇	教育社	十月	▲妖美傳、小原鐵心、誓願寺門前、若き武士道、天眞良寛九篇の時代小說集。
丸山義二	吉田松蔭	四六判並製	420	一、八〇〇	教材社	五月	▲幕末松下村塾を開いて幾多有能の士を養成せる吉田松蔭の生涯を描いた傳記小說。
村松梢風	浪人倶樂部（第一部）	四六判並製函入	380	一、五〇〇	文昭社	六月	▲第一部はろくろっ首、緣切榎、二人の素性雪乃家、早春譜、隱れ家等其他を收む。
村松梢風	浪人倶樂部（第二部）	四六判並製函入	372	一、五〇〇	文昭社	七月	▲第二部は水戸嚴上使、保名狂亂、生糸問答厨の唄、神奈川、夜のつづき等其他を收む。
城昌幸	若さま侍捕物手帖	四六判上製函入	349	一、五〇〇	春陽堂	十一月	▲舞扇三十一文字、艷容女裝白波、恩愛猿人眞似、隅田川戀慶者他八話を收めたもの。
林二九太	裏街の樂園	四六判並製	315	一、五〇〇	亞細亞書房	十月	▲裏街の樂園、銃後も又强し、寅年の令嬢、寫眞機に罪あり等其他のユーモア小說集。
サトウハチロー	ユーモア文庫 エンコの六	四六判並製	313	一、五〇〇	東成社	九月	▲六さんの二割デー、六さんの戀、六さんと脳落、フェミニスト六さん他七話を收む。
鹿島孝二	ユーモア文庫 海邊有情	四六判並製	320	一、五〇〇	東成社	八月	▲花婿の寢言、金あれば力あり、新父性學、認識の問題、他八篇のユーモア小說集。

諧謔小說

名	作	切	頁	價	出版社	月	内容
下村悅夫	時代ユーモア短篇集 鏡屋侍	四六判上製	310	一、三〇〇	高田書院	二十月	▲鏡屋侍、大臆病者、逃げる劍豪、嘘吐き彌次郎兵衛、腰抜け放れ業他二篇。
宇井無愁	きつね馬	四六判上製	297	一、五〇〇	朝日新聞社	六月	▲お狸さん、お嬢さん大賣出し、きつね馬、救世主降誕、他八篇のユーモア小說集。
北町一郎	啓子と狐介	四六判並製	376	一、八〇〇	婦女界社	四月	▲田舍からの轉校せる一中學生の目を通じて混濁せる東京を描いたユーモア小說。
佐々木邦	喧嘩三代記	四六判並製	305	一、五〇〇	東成社	七月	▲祖父から孫に至る迄の三代に亘つて喧嘩せる立石家を描いたユーモア小說集。
近江汎三	ユーモア文庫 女軍凱旋	四六判並製	316	一、五〇〇	東成社	十一月	▲煙草と惡魔、新婚行狀記、早慶戰前後、女軍凱旋、神童他四篇のユーモア小說集。
川原久仁於	ユーモア文庫 青春サーカス	四六判並製	291	一、五〇〇	東成社	十月	▲青春サーカス、新家庭爭議、一時預り所、新婚環狀線他三篇のユーモア小說集。
獅子文六	ユーモア小說集 斷髮女中	四六判並製	190	一、二〇〇	鱒書房	十月	▲斷髮女中、胡瓜夫人傳、今年の春外套、金髮日本人、四月の雷、他四篇を收めたもの。
獅子文六	東京溫泉	四六判上製	310	一、四〇〇	新潮社	一月	▲東京溫泉、團體旅行、豪傑、の三篇を收めたユーモア小說集。
玉川一郎	ユーモア短篇集 人情サキソフオン	四六判並製	291	一、五〇〇	富士出版社	二十月	▲米本先生、東京と巴里、艦上の合唱、風呂番の髭、人情サキソフオン等十一篇。
宇井無愁	ユーモア文庫 ねずみ娘	四六判並製	308	一、五〇〇	東成社	八月	▲ねずみ娘、きなこ餅、千日寺利生記、師走風景、漫才タクシー他五篇のユーモア小說集
北町一郎	ユーモア文庫 微笑部隊	四六判並製	308	一、五〇〇	東成社	九月	▲微笑部隊、やりくり女記者、商賣仇、コスモス夫人の失踪他五篇のユーモア小說集。
宮崎博史	ユーモア文庫 別世界の幸福	四六判並製	304	一、五〇〇	東成社	十一月	▲別世界の幸福、天晴れ歸還壽司、根本家の聟、預金殖すべし他十四篇のユーモア小說集
海老原鋼人	ユーモア文庫 めん鶏をん鶏	四六判並製	303	一、五〇〇	東成社	十二月	▲美人床、新開屋お嬢さん、十錢天國、出征八百屋等十二篇のユーモア小說集。

博文館編	名作文庫（第二輯・ユーモア小說傑作集）	四六判並製	320	六〇九	博文館	一月
佐々木邦	明朗人生（コバルト叢書）	四六判並製	206	一、一〇六	鱒書房	十二月
日吉早苗	屋根裏の年代記（ユーモア文庫）	四六判並製	306	一、三〇九	東成社	十二月
佐々木邦	嫁取アルバム（ユーモア文庫）	四六判並製	348	一、三〇九	東成社	十月
川原久仁於	若い夫人	四六判並製	260	一、三〇一〇	三笠書房	八月

▲求婚時代（佐々木邦）乾瓢海嘯（德川夢聲）夫婦談語（寺尾幸夫）他七篇を收む。

▲善隣仁義、ジヤンブル市、心のアンテナ、ある温泉の由來等五篇のユーモア小說集。

▲屋根裏の年代記、戀人の內職、驢馬と特急明眸交叉點、他八篇のユーモア小說集。

▲高砂小町の宍倉春江さんを繞つて、四人の求婚者の葛藤を描いたユーモア小說。

▲若い夫人、臍くり譚、企業夫人と名犬、四十米の戀他五篇のユーモア小說集。

探偵小說・冒險小說

三角寛	花咲く瀨降	四六判並製	334	一、三〇九	小峰書店	七月
木村荘十	南海の青雲	四六判並製	279	一、〇〇九	博文館	七月
北町一郎	東京探偵局	四六判並製	262	一、三〇一〇	婦女界社	二十月
博文館編	探險小說名作集	四六判並製	316	七五九	博文館	十月
北村小松	太平洋航空路（小說選集）	四六判上製	316	一、三〇一〇	博文館	二十月
楠瀨正澄	最近捕物實話	四六判並製	317	一、三〇九	人文閣	六月
博文館編	海と空小說名作集	四六判並製	313	七五六	博文館	二十月

▲黑き荒鷲（海野十三）混血兒の母（岩崎榮）海の仁義（甲賀三郎）他八篇。

▲黑髮手鞠、捨てられた花、色魔逃走曲、蜆のおふみ妖笑記他七篇の探偵捕物實話。

▲太平洋航空路、燃ゆる曠野、外人部隊、落下傘等九篇の航空小說集。

▲大暗黑（小栗蟲太郎）荒野の呼び聲（北村小松）他七篇を收む。

▲樽見樽平を主人公にした東京探偵局の動きを描いた探偵小說。

▲南海の青雲、大陸の黎明、黑苗族、曠野の先驅者、の四篇を收めた冒險小說集。

▲捉の捨兒、神さま親分、民十とその女房、蛇山の仙人、養父と養子他四篇の山窩小說。

永山長三郎	犯罪捜査實話集	四六判並製	458	一、三〇一〇	松華堂	十月
楠瀨正澄	犯罪裏表	四六判並製	228	一、三〇九	人文閣	七月
森至編	名作探偵捕物集	菊半截並製	319	四〇六	教材社	二十月
北村小松	燃ゆる大空	四六判並製	344	一、三〇一〇	講談社	五月
北村小松	燃ゆる大陸	四六判並製	284	一、〇〇一〇	博文館	二十月
大江太刀夫	闇の信號	四六判並製	328	一、三〇一〇	天元社	十月
小栗蟲太郎	有尾人	四六判並製	325	一、三〇一〇	博文館	七月

▲石川縣刑事として三十餘年間の警察生活中に經驗したる種々の事件を敍述したもの。

▲陰のある人間、眞鑄環の謎、切れば大きくなる死體、物を言ふ亂等其他の探偵實話。

▲車輪地獄（河村憲）血染の手型（下村悅夫）笛を吹く女（十條雄三）等十三篇。

▲燃ゆる大空、暗黑の觸手、の二篇を收めたもの。

▲大東亞建設の爲に一人の女性の數奇な運命を描いた長篇「燃ゆる大陸」他短篇二篇。

▲日露戰爭直前のロシアに起つた軍機漏洩事件に手材し、一日本青年の活躍を描く。

▲有尾人、大暗黑、天母峰、「太平洋漏水孔」漂流記、水棲人他一篇の怪奇小說集。

戰爭文學・從軍記

池田源治	インテリ部隊（手記）	四六判上製	299	一、三〇一四	中央公論社	四月
新垣恒政	醫療宣撫行（醫學博士）	四六判並製	294	一、三〇九	東亞公論社	二月
松本耿平	幾山河	四六判並製	245	一、三〇九	書物展望社	九月
中山正雄	一尺の土	四六判並製	222	一、〇〇九	陸軍畫報社	三月
伊知地進	一番乘り	四六判並製	335	一、三〇九	改造社	二月

▲武漢攻略戰に於て輝く武勳を樹てたインテリ部隊の奮戰記錄。

▲一昨年同仁會診療班長として渡支して醫療宣撫せる時の記錄を纒めたもの。

▲武漢附近の警備を始め、湖北殲滅作戰等各所に轉戰せる時の陣中手記。

▲一尺の土、雪と建設部隊、石を抱く母、准尉さんに聞いた話他二篇の從軍記錄集。

▲事變に取材して描いた短篇集で、西湖の月、運命論者、古風な隊長、勇戰日の丸其他。

陸軍少兵中尉 林 專之助	埋れた戰史	四六判 並製	278	一、四〇	博文館	七月	▲多くの埋れたる中の、一つの大いなる、そして眞に飾氣のない事實の戰史を綴つたもの。
杉村盛茂	馬と征く（戰記）	四六判 上製	182	一、五〇	平凡社	五月	▲輜重兵として二ケ年に亘る馬との行軍の間に於て見聞したこと、思出等を纏めたもの。
佐藤光貞	海の愛情	四六判 並製	320	一、五〇	第一公論社	一月一十	▲事變に應召せる一水兵の妹との交情を、通信體によつて描いたもの。
齊藤駿	衞生部隊前進	四六判 並製	253	一、三〇	大東出版社	一月一十	▲牧療部隊として中支の野に轉戰すること二年有餘に及ぶ、齊藤上等兵の陣中手記。
太田慶一	太田伍長の陣中手記	四六判 並製	259	一、〇〇	岩波書店	十月	▲東大經濟科を出たインテリ兵士故太田伍長の書簡及日記を土屋喬雄教授が編纂す。
陸軍軍醫大尉 醫學博士 河原魁一郎	火線の軍醫	四六判 並製	203	一、三〇	有光社	七月	▲軍醫として前線部隊に勤務せる時の十箇月に亘る印象を、簡明に記錄したもの。
北村小松	海軍爆擊隊	四六判 並製	289	一、五〇	興亞日本社	三月	▲今事變に活躍せる海の荒鷲を描いた海軍爆擊隊、渡洋爆擊隊の二小說を收む。
邑樂慎一	軍醫轉戰覺書	四六判 並製	203	一、〇〇	中央公論社	二月	▲戰場で遭つた三人の支那知識人、戰場で逢つた女達、陳氏の手帖他五篇を收む。
大隈俊雄	軍靴千里	四六判 並製	307	一、五〇	東進社	十月	▲谷川部隊の一軍曹として出征し、上海上陸以來戰傷歸還までの戰鬪記を錄す。
柴田賢次郎	警備戰線	四六判 並製	238	一、五〇	東亞公論社	一月一十	▲警備と匪賊討伐と難民保護に從事してゐた時の戰線手記を纏めたもの。
時雨晉羽	御用船（附・從軍詩日記）	四六判 並製	248	一、五〇	新興出版社	二月一十	▲南支海南島方面に從軍した著者の勞作とシナリオ「御用船」とを收めたもの。
李如雲	抗日兵の手記	四六判 並製	168	一、〇〇	日比谷出版社	一月一十	▲蘇州戰線にて戰死を遂げた支那將校陳哲のノートに記されてあつた彼の生涯を記す。
木村毅	皇軍百萬	四六判 並製	333	一、五〇	興亞文化協會	一月一十	▲防空指揮塔の五十五日、初陣、徐州大包圍戰、空の至寶、雲南爆擊行他五篇の小說集。

陸軍中尉 南方喜治	山西戰線	四六判 上製	222	一、二〇	講談社	十月	▲今次亨變に從軍し山西省大寧縣城北方桑壁鎭附近の戰鬪に負傷した南方中尉の戰場記錄
棚橋順一	散華	四六判 上製	288	一、八〇	砂子屋書房	八月	▲事變にて名譽の戰死を遂げられた棚橋大尉の遺稿の短歌、日誌、書簡等を收錄す。
佐藤光貞	支那海	四六判 並製	205	一、二〇	英語通信社	五月	▲二千八百五十浬に亘る支那海を完全に封鎖する海軍封鎖部隊の尊い苦難な記錄。
中地清	支那の人たち	新菊判 並製	245	一、五〇	至玄社	二十月	▲駐屯する皇軍兵士と支那良民たちの俘らざる信愛の生活を描いた小說。
佐藤觀次郎	自動車部隊	四六判 並製	448	三、五〇	高山書院	九月	▲自動車部隊石井部隊本部附主計としての一年有半に及ぶ生活を記錄したもの。
工藤芳之助	從軍繪日記	四六判 並製	422	一、八〇	第一書房	十一月	▲南支バイセス灣奇襲上陸以來の陣中日記と南支風物のスケッチを收錄したもの。
博文館編	征戰小說名作集	四六判 並製	316	七〇	博文館	九月	▲黃河敵前渡河（棟田博）他九篇を收載す。岸中隊長の戰死（中山正男）
松田利通	征野二千	四六判 並製	274	一、五〇	潮文閣	六月	▲赤柴・毛利兩部隊長の許に北支中支に進擊せる時の二ケ年半に亘る陣中手記。
田中正明	聖戰	四六判 並製	348	一、八〇	平凡社	三月	▲菊水部隊、股肱の道、皇風征江、大陸建國の四部にて今次聖戰の本義を述ぶ。
矢木澤健	赤十字旗（戰記）	四六判 並製	257	一、四〇	興風館	二十月	▲殉國の至情に花と散つた白衣の聖天使竹內喜代子の生涯を傳記化したもの。
松重多美	先發隊還る	四六判 並製	469	一、五〇	文英堂	九月	▲某勇士の遺した日記帳を基として、皇軍の忠勇義烈を描いた事變記念作品。
柴田賢次郎	戰死	四六判 上製	318	一、五〇	甲鳥書林	二十月	▲今事變に一兵卒として應召し上海、徐州、漢口攻略戰に身を挺して體驗した血の記錄。
尾崎士郎	戰場の月に題す	四六判 並製	283	一、五〇	萬里閣	十月	▲前線將兵の愉悅と勞苦、その士氣、その眞情等を描いて戰場の感慨に充ちた小說集。

陸軍軍醫中尉 岡山	芳次	戰塵の香	並四六判製	249	一、三〇	吉田書店	十月
	谷口雅春	戰線消息	菊上判製	236	一、三〇	光明思想普及會	一月
	上田廣	續建設戰記	並四六判製	337	一、五〇	改造社	五月
	棟田博	續分隊長の手記	並四六判製	290	一、三〇	新小說社	七月
	佐藤友松	第二戰線	並四六判製	220	一、三〇	春陽堂	九月
	粟井家男	戰ふ愛	並四六判製	298	一、六〇	學藝社	七月
	板野厚平	蝶と花 ―或る戰死者の手帳―	並四六判製	161	一、〇〇	矢の倉書店	七月
	關澤秀隆	敵前潛行	並四六判製	245	一、五〇	國際文化事業協會	七月
	山中峯太郎	鐵か肉か ノモンハン戰秘史	並四六判製	279	一、五〇	誠文堂新光社	七月
	新田義夫	特務兵の手記	並四六判製	277	一、五〇	今日の問題社	四月
	小林秀一	南支を征く	並四六判製	190	一、〇〇	潮文閣	三月
	樋口紅葉	ノモンハン實戰記	並四六判製	334	一、八〇	大東出版社	九月
工兵中尉	山口辰男	はり ―通信隊戰記― ね	並四六判製	249	一、五〇	昭晃堂	九月

▲軍醫として應召し、內地陸軍病院勤務中に於ける日記より當時を追憶なしたもの。

▲今次事變に應召し大陸の彼方より故國に宛てた百三通の便りを集錄せるもの。

▲ほんぶ日記、續建設戰記、陣中創作餘談、の三篇を收めた創作集。

▲山東だより、春戰場、よせがき旗、分隊異狀なし、臨城にて他三篇の從軍記。

▲戰鬪主力の周邊に、前後に、默々と戰ふ第二戰線！ 一出征警官の手になる戰記。

▲衞生兵として從軍し、人間的な暖い眼を以て描いた數々の愛の戰ひを收む。

▲徐州大會戰の直前、李莊の激戰に壯烈な死を遂げられた板野軍曹の日記を綴む。

▲蘆溝橋事件より上海陷落まで、上海陷落より南京占據まで、の二篇を收めたもの。

▲近代戰に於ける機械化部隊の必要を說きつつ描いたノモンハン事件秘史。

▲特務一等兵としての戰記で、バイアス灣上陸から廣東入城まで、海南島駐軍記其他。

▲南支戰線に參加して戰線にて體驗したこと見聞した支那のことどもを記錄す。

▲ノモンハン事件の眞相を物語り、皇軍將士の壯烈無比なる奮戰の樣を傳へたもの。

▲「はりがね」をたどり血眼になつて電線を架設する通信隊の現れざる奮鬪記。

陸軍少將	大內眞道	哈爾哈河	並四六判製	256	一、三〇	郁文社	十二月
陸軍少佐	本堂英吉	花咲く戰場	並四六判製	302	一、三〇	教育社	二月
	岩井節子	母の、從軍	並四六判製	331	一、五〇	女子文苑社	十月
戰人軍醫 前線手記	中村春臺子	春の戰鬪記	和四六判製	164	一、五〇	春秋社	十月
	松坂忠則	火の赤十字	並四六判製	253	一、三〇	弘文堂	三月
	伊藤武雄	左手の書 ―音樂伍長の手記―	並四六判製	187	一、〇〇	萬里閣	六月
	石川達三	武漢作戰	上四六判製	240	一、三〇	中央公論社	九月
	火野葦平	兵隊について	上四六判製	314	二、〇〇	改造社	十二月
	南部四郎	補充兵	並四六判製	189	一、〇〇	興亞書院	十月
新作長篇叢書（1）	立野信之	望樓	並四六判製	310	一、五〇	中央公論社	十月
	海道啓二郎	無言の戰士	並四六判製	188	一、〇〇	海道家（上田屋發賣）	四月
	丸山學	野戰風情	並四六判製	222	一、五〇	倭書院	十月
	東慈道	病める兵の手記	並四六判製	282	一、一〇	三友社	四月

▲始めて兵の手になつたノモンハン戰鬪記で哈爾哈河、ホロンバイルの秋の二篇より成る。

▲吳淞上陸以來各地の第一線の戰鬪に兵站業務に服したときの戰場の委を描いたもの。

▲家鄉に愛兒を殘し、赤十字看護婦長として應召せる岩井節子さんの看護手記。

▲杭州灣敵前上陸部隊中の工兵隊軍醫として行動せる毎日〳〵の日記を纏めたもの。

▲五百字制限によつて描いた從軍記錄で、集結地、トンガリ山、決死隊論議其他。

▲事變に應召し上海戰線にて遂に右手を失つた伊藤伍長の左手で書いた從軍記錄。

▲武漢作戰に於ける戰鬪を記錄したもので武漢戰以前、作戰基地安慶占領地區其他。

▲戰火と建設の大陸の人と自然を背景に日本の兵隊のモラルの遠さ愛しさ等を描ける長篇。

▲事變に應召し赫々たる戰功を樹てた村上一等兵の活躍を描いて、補充兵の眞價を强調す。

▲事變勃發以來三年に亘つて大陸建設の先驅となつた宣撫班の苦鬪を描いた長篇。

▲特務兵として從軍し、戰場の出來事を明細に日記に記錄したもの。

▲頭上で炸裂する銃砲聲の下で、クリーク轉進の途中等で書き溜めた戰場風景を收む。

▲不幸病のため內地に歸還する環境と心情を吐露した野戰病院日記、內地還送の二篇收錄

飜譯小說

吉田瑛	有輪擔架	上田廣	りんふん戰話集	上編四六判製人	370	三、五〇	牧野書店
田口精一	老特務兵	並四六判製	410	一、八〇	日本モダン社	十二月	▲軍務の餘暇に支那の生活、調度、民具、料理等を觀察し日記に記錄したもの。
上田廣	りんふん戰話集	上編四六判製人	247	一、五〇	河出書房	七月	▲地燃ゆ、鼻かたる、青い鳥、井戸、駐屯の頃の事、花園、背嚢他五篇の戰話集。
清水卯一	多兵軍曹 笑つて死なふ	並四六判製	156	七五	清水書店	三月	▲一特務兵として今事變に應召した著者が身を以て體驗した戰線日記。
							▲三部隊長の下に北支戰線にて活躍せる六十數回の歴戰手記を纒めたもの。
ヘイコックス作 双葉十三郎譯	アバッチ山脈の決戰	並四六判製	264	一、〇〇	スタア社	十一月	▲アバッチ山脈の決戰、町の挿話、驛亭、の三篇を譯載す。
メイ・シンクレア著 土居光司譯	アリンガム家の人々	並四六判製	434	一、八〇	昭和書房	十二月	▲六人の子女をもつた家族の生長史で、彼等の希望、夢、結婚等を雄く。
シュトラウス著 鼓常良譯	あひよる魂	並四六判製	250	一、五〇	白水社	七月	▲奔流、修道尼オイフェミア、序曲、戀の幻の四短篇を收めた"Hans und Grete"の譯。
アンドレ・コルテイス著 松永穣譯	ある女の告白	上四六判製	235	一、五〇	岡倉書房	九月	▲アカデミイ・フランセーズ大小說賞の受賞作品"Pour moi seule" 1919を邦譯す。
ウエイエル作 芹澤光治良譯	佛蘭西文學賞叢書 或る行動人の手記	並四六判製	286	一、五〇	實業之日本社	七月	▲一九二八年のコンクール賞作品「或る男が己の過去に身を傾けてのぞきこむ」の邦譯。
海南基忠他四氏譯	亞米利加作家撰集	並四六判製	346	一、八〇	スタア社	八月	▲五萬弗（ヘミングウエイ）天國への稅金（ドライザー）他八篇を譯載す。
ルイザ・メイ・オルコット著 清涼言譯	愛の姉妹 ―リットルウイメン―	並四六判製	464	二、〇〇	杉並書店	五月	▲各々異つた性格の四人の姉妹を主材に描いたオルコット女史の"Little Women"の譯。
アンドレ・モロア著 朝倉季雄譯	愛の風土	並四六判製	389	一、五〇	白水社	九月	▲モロアの出世作「愛の風土」（氣候）一九二八年を譯述したもの。

杉捷夫他三氏譯	青髯の七人の妻	アナトオル・フランス短篇小說全集(6) 四六判製	272	一、五〇	白水社	三月	▲青髯の七人の妻（杉譯）大聖ニコラの奇蹟（渡邊譯）襯衣（根津譯）他一篇を邦譯す。
杉木喬譯	コールドウエル著 秋の求婚	並四六判製	268	一、五〇	改造社	九月	▲秋の求婚、遲い春、客、苺の季節、コールテンのズボン等他十四短篇を譯載す。
入矢義高譯	朝元支那叢書(6) 雨窓歌枕集	上四六判製	175	一、三〇	創元社	十二月	▲支那の古い話本集「雨窓集」及び「歌枕集」より譯載した短篇小說集。
隅田久尾譯	プロムフイールド作 雨ぞ降る 上卷	並四六判製	510	一、三〇	改造社	三月	▲印度のランチバーを舞臺にして描いたプロムフイールドの長篇の前半を邦譯す。
隅田久尾譯	プロムフイールド作 雨ぞ降る 下卷	並四六判製	460	一、三〇	改造社	七月	▲下卷は第三編以下を譯出したもの。
G・ノリス著 新田潤譯	いのちの饗宴	並四六判製	330	一、六〇	昭和書房	八月	▲チャールス・G・ノリスの代表作「種子」（シード）を邦譯す。
ポール・ブールジエ著 廣瀨哲士譯	家 上卷	並四六判製	303	一、五〇	東京堂	四月	▲古きフランスの傳統と新しき思想との矛盾葛藤に惱む若き男女の悲戀物語。
ポール・ブールジエ作 廣瀨哲士譯	家 下卷	並四六判製	320	一、五〇	東京堂	七月	▲下卷は兩思想の間に立つて惱むジアン青年が遂に傳統主義に入るやうになる迄を描く。
スタインベック著 新居格譯	怒りの葡萄 上卷	並四六判製	373	一、五〇	第一書房	六月	▲資本主義機械文明に追はれたオクラホマ州の農民の悲慘を雄いた長篇の前半。
スタインベック著 新居格譯	怒りの葡萄 下卷	並四六判製	478	一、八〇	第一書房	九月	▲下卷は第十八章以下三十章迄を譯載す。
ブルジエ作 田邊貞之助譯	傷ましい謎	並四六判製	235	一、四〇	春陽堂	十一月	▲ブルジエの處女作「傷ましい謎」"Gruelle Enigme"を飜譯す。
キップリング作 宮西豐逸譯	印度の放浪兒	並四六判製	379	一、八〇	大元社	十二月	▲印度の眞髓を描いたキップリングのノーベル賞作品を邦譯す。
張資平	瑛姑娘	並四六判製	285	一、三〇	興亞書局	八月	▲現代支那第一流の文學者張資平氏の「最後的幸福」を譯したもの。

プロムフィールド作 大久保康雄譯	雨季來 上卷る	四六判製	312	一、八〇 一四	三笠書房	三月	▲印度に於ける東洋人と西洋人の生活を描いた長篇"The Rains Came"の前半譯。
プロムフィールド作 大久保康雄譯	雨季來 中卷る	四六判製	314	一、八〇 一四	三笠書房	四月	▲"The Reins Came"の中ほどを飜譯す。
プロムフィールド作 大久保康雄譯	雨季來 下卷る	四六判製	397	一、八〇 一四	三笠書房	六月	▲"The Reins Came"の後半を飜譯す。
マルセル・アルラン作 佐野一男譯	生れた土地	四六判並製	380	一、五〇 一〇	白水社	五月	▲九歳から十三歳頃までの生活を記錄した自傳的作品"Terre Natale" 1936を飜譯す。
ピー・トレイヴン著 山本政喜譯	海を歩く男	四六判上製	396	二、〇〇 一〇	三教書院	十月	▲奇妙な事情から船を失ひ、國籍と名前を失つたアメリカ船員の驚倒的な經驗の物語。
ポール・ヴィアラール著 柿本良平譯	海の薔薇	四六判上製	276	一、五〇 一〇	時代社	二十月	▲いつ沈むとも知れぬ古いガラクタ船「海の薔薇」に起つた出來事を描いた長篇小說。
ウイルダア著 伊藤整譯	運命の橋	四六判並製	296	一、四〇 一〇	新潮社	八月	▲ソーントン・ウイルダアの"The Bridge of San Luis Rey"を邦譯したもの。
カミ作 吉村正一郎譯	エッフェル塔の潜水夫	四六判並製	480	一、八〇 一〇	白水社	二十月	▲都會の幻覺、ヴイクシット嚴下、幽靈船の秘密の三部より成る長篇小說。
木村太郎他六氏譯	エヌ・エル・エフ小說集	四六判並製	335	二、〇〇 一〇	青木書店	二十月	▲作家（モオリヤック作木村太郎譯）言葉の力（シヤンソン作堀口大學譯）他八篇。
モルナアル著 飯島正譯	お人好しの仙女（コバルト叢書）	四六判並製	219	一、一〇 九	鱒書房	一月	▲モルナアルの戲曲"A jó tündér"をハンガリイ語の原本と對照し英譯より邦譯す。
ペイトリフ作 上田敏譯	黄金の仔牛（現代世界文學叢書（1））	横組十六判製	535	二、〇〇 一四	中央公論社	六月	▲新經濟政策から社會主義建設へ移つて行くソ聯の世相を描いた諷刺小說。
エルネスト・ルナン著 杉捷夫譯	思ひ出（幼年時代 青年時代の）	四六判並製	444	二、三〇 一〇	創元社	二十月	▲十九世紀後半のフランスの思想家として有名なルナンの幼年時代青年時代の思ひ出の譯
シュニツツラア著 福田實譯	女の一生	四六判並製	418	二、〇〇 一四	萬里閣	二月	▲圓熟枯脫せる晩年のシュニツツラアのテレーゼ（一九二八）を譯したもの。

デュヴェルノア著 柿本良平譯	女の藍に	四六判並製	273	一、二〇 九	大仙書房	八月	▲一九三三年度のアカデミー賞を受けた彼の代表作"A l'ombre d'une femme"の飜譯
ブルンク著 植村敏夫譯	女の水車小屋	四六判並製	450	二、〇〇 一〇	萬里閣	十一月	▲ブラジルを背景にした海外ドイツ人の生活を描いた作品を飜譯したもの。
アドリーヌ・トーマス著 原田正志譯	カトリン孃兵隊となる	四六判並製	357	一、三〇 九	教材社	五月	▲前歐洲大戰の體驗を基に描いた日記體の小說"Die Katrin wird Soldat"の邦譯。
オルダス・ハクスレイ著 西村孝次譯	ガザに盲ひて	四六判並製	654	二、五〇 一四	新潮社	五月	▲心理と生理との最も深い暗面の眞實を描いたハクスレイの「ガザに盲ひて」の邦譯。
F・W・クロフツ著 土屋光司譯	ガソリンの悲劇	四六判並製	330	一、八〇 一〇	日本公論社	八月	▲悲劇の發端、安全ガソリンの發明、研究完成、歸らぬプラット等其他で描いた探偵小說
ヨハン・ボーエル著 宮原晃一郎譯 西原外次	開拓者	四六判並製	437	一、八〇 一四	三和書房	六月	▲處女地と闘ふ鍬の戰士を物語つたボーエルの「ヂユレンダール農場」を邦譯す。
ゴールズワージー作 小稻義男他二氏譯	貸家（フオサイト家物語（3））	四六判並製	533	二、五〇 一四	三學書房	十一月	▲第三卷は「貸家」を邦譯す。
リル作 谷友幸譯	神様の話	四六判並製	319	一、五〇 一〇	白水社	十月	▲神の御手についての童話、未知の人、ヴエニス猶太人町での或る場景他十篇を譯載す。
林蘭編 吳守禮譯	雷賣りの童仙人（創元支那叢書（4））	四六判上製	174	一、三〇 九	創元社	八月	△南方支那に傳承されてゐる民間說話を蒐錄したもので、雷賣りの童仙人他三十話。
昇曙夢他三氏譯	戲曲（ゴオゴリ全集（3））	四六判並布函製入	524	二、五〇 一四	ゴオゴリ全集刊行會	五月	▲檢察官（昇曙夢譯）結婚（廣尾猛譯）賭博者（熊澤復六譯）他二篇を飜譯す。
クルト・マアレク著 小野芳之助譯	クルト・マアレクの手記	四六判並製	239	一、二〇 一〇	六興商會出版部	十二月	▲ナルヴイク進擊への獨逸軍の出航に始つて最後の勝利を確保する迄の記錄的戰記。
シュトラウス作 國松孝二譯	暗い春	四六判並製	326	一、五〇 一〇	白水社	二月	▲ウイーナーワルツの音樂家シュトラウス一門をたたへた讃歌"Freund Hein"の邦譯。
アンドレ・モオロア著 柳澤恭雄譯	軍醫オグレイディの話	四六判並製	275	一、五〇 九	萬里閣	四月	▲André Maurois の Les Discours du docteur O'Grady (1922) を邦譯す。

フランシス・カルコ著 永田逸郎譯	藝術放浪記	並四六判製	332	一、八〇	青木書店	十月	▲生れながらの街の兒でありボエームであるカルコの生活と狂的藝術愛を描いたもの。
フィリップ・ギブス作 宮田峯一譯	血縁	並四六判製	527	二、〇〇	育生社	二月	▲國際結婚を骨子として第一次世界大戰の裏面を描いた長篇小說。
矢崎彈編	賢者の妻	並四六判製	197	八六	鱒書房	十月	▲賢者の妻（シュニッツレル）夫の家出（ピランデルロ）他六篇を飜譯したもの。
今日出海編	現代佛蘭西短篇集	並横綴十六製物版	360	一、八〇	中央公論社	十一月	▲プラーグで逸つた男（アポリネエル）川口篤譯、他十九篇の飜譯小說集を收む。
モリス・バレス著 本田喜代治譯	コレット・ボドッシュ	並四六判製	297	一、五〇	白水社	十月	▲「コレット・ボドッシュ」を獻呈するに當りメッツ市立圖書館へ他三篇を譯出す。
パール・バック著 鶴見和子譯	この心の誇り	並四六判製	285	一、五〇	實業之日本社	七月	▲パール・バック女史の "This proud Heart" を邦譯したもの。
ヴェレサーエフ著 八住利雄譯	故郷失ひぬ	並四六判製	462	一、八〇	改造社	八月	▲日露戰爭に軍醫として從軍したヴェレサーエフの日露戰爭記を邦譯す。
エストーニエ作 櫻井成夫譯	孤獨	並四六判製	311	一、五〇	實業之日本社	一月	▲一九一九年アカデミイ賞を受けたエストーニエの "Solitudes" を邦譯す。
ブルジエ作 木村太郎譯	心	並四六判製	334	一、七〇	春陽堂	六月	▲ブルジエの晩年の作「物思ふ心その行方を知らず」を全譯なしたもの。
リチヤード・ライト著 江森盛彌譯	黑人の息子	洋函四六布入判	702	二、五〇	非凡閣	十二月	▲リチヤード・ライトの長篇小說「黑人の息子」を譯載せるもの。
ルウマア・ゴッズン作 鮎澤浩譯	黑水仙	並四六判製	403	一、八〇	今日の問題社	六月	▲印度の高峯カンチエンジュンカの麓の修道院に於ける修道女たちの生活を描いたもの。
パルザック著 小西茂也譯 水野亮譯	滑稽譚・赤い宿屋	ロマンチフク叢書	285	一、八〇	青木書店	十二月	▲バルザックの、滑稽譚（小西）と赤い宿屋（水野）の二篇を譯したもの。
ゴールズワージー作 小稻義男他二氏譯	裁判	フオサイト家物語（2）	沙汰		三學書房	十月	▲人間心理を解剖したゴールズワージーのノーベル賞作品フオサイト家物語の第二卷。

ジョーゼフ・サンタヤーナ著 阿部知二譯 飼長壽譯	最後の清教徒	中卷	並四六判製	380	一、八〇	河出書房	五月	▲中卷は第二部少年期（承前）第三部最初の遍歷第四部故國圖内での三部を邦譯す。
タロウ兄弟作 野成夫譯	作家の情熱	佛蘭西文學賞叢書	並四六判製	238	一、三〇	實業之日本社	九月	▲英國の南阿戰爭を扱つたタロウ兄弟の「名作家ディンリイ」の邦譯。
リラダン著 齋藤磯雄譯	續殘酷物語		並四六判製	323	二、七〇	三笠書房	八月	▲世界最美の晩餐、人間たらんとする慾望、王妃イザボオ等他十一篇の短篇を譯載す。
伊吹武彥譯	シルヴエストル・ボナールの罪	アナトオル・フランス長篇小說全集（1）	並四六判製	319	一、五〇	白水社	九月	▲第一卷は「學士院會員シルヴエストル・ボナールの罪」を飜譯す。
渡邊一夫 他十二氏譯	ジヤック・トウルヌブローシエのコント	アナトオル・フランス短篇小說全集（5）	並四六判製	302	一、五〇	白水社	一月	▲オリヴイエの法螺（渡邊一夫譯）他十二短篇を邦譯す。
佐藤正彰 杉捷夫譯	ジヨカストの獰猫	アナトオル・フランス短篇小說全集（7）	並四六判製	302	一、五〇	白水社	四月	▲ジヨカスト（佐藤正彰譯）獰猫（杉捷夫譯）の二篇を譯載す。
ノーラ・ワーン著 宮崎信彥譯	支那流浪記		並四六判製	448	一、七〇	改造社	七月	▲一九二〇から一九三二年に亘る支那の日常生活を客觀的に自己の體驗から描いたもの。
ワッサーマン作 角信雄譯	四十の男		並四六判製	303	一、五〇	白水社	十一月	▲四十の男、ヒルペリヒ、の二篇の小說を邦譯す。
ゴオゴリ全集（5） 上田進譯	死せる魂	第一部	布函四六裝入判	623	二、五〇	ゴオゴリ全集刊行會	五月	▲地主貴族の沒落と官僚社會の墜落とを容赦なく描き出した「死せる魂」の第一部。
ゴオゴリ全集（6） 能勢陽三譯	死せる魂	第二部	布函四六裝入判	372	二、五〇	ゴオゴリ全集刊行會	五月	▲死せる魂の第二部を邦譯す。
ブルジエ作 木村太郎譯	死の意味		並四六判製	270	一、六〇	春陽堂	三月	▲ポオル・ブルジエの "Le Sens de la Mort" を邦譯したもの。
ロオデンバッハ作 江間俊雄譯	死の都ブリウジュ		並四六判製	159	一、〇〇	春陽堂	七月	▲ロオデンバッハの名作 "Bruges la Morte" を全譯したもの。

G・E・ミラー著 市木亮譯	上海租界	並	四六判製	312	一、五〇 九	昭和書房	二月	▲米國の新聞記者・外交官ミラー（匿名）が支那のガン上海租界の内狀を暴露したもの。									
モオリアック著 原百代譯	宿命	並	四六判製	252	一、五〇 一〇	昭森社	七月	▲フランソア・モオリアックの "Destins" を邦譯なしたもの。									
老舍作 興亞書局同人譯	小坡の誕生日	並	四六判製	337	一、二〇 六	興亞書局	十二月	▲所謂南洋華僑である新嘉坡の中流支那商人の家に生れた少年小坡の日常生活を描く。									
F・E・シツランパア作 阿部知二譯	少女シリヤ	並	四六判製	457	二、〇〇 一〇	中央公論社	六月	▲フインランド北方の農民達の生活と、其をつらぬく美少女シリヤの香り高い物語。									
ハウプトマン著 川崎芳隆譯	情熱の書	並	四六判製	399	二、〇〇 一〇	萬里閣	十一月	▲第一と第二の夫人との間に經驗した色々な苦悶や激情を描いた告白小說。									
A・J・クローニン著 中村能三譯	城 上卷	並	四六判製	251	一、五〇 一〇	中村家（三笠書房發賣）	四月	▲ロマンチックな夢を持つて學窓を出た若き醫師を主人公にして描いた長篇の前半譯。									
A・J・クローニン著 中村能三譯	城 下卷	並	四六判製	235	一、五〇 一〇	中村家（三笠書房發賣）	四月	▲下卷は第三篇以下を邦譯したもの。									
ローエル・トーマス著 尾崎主稅譯	深海の襲擊者	並	四六判製	349	一、八〇 九	海軍研究社	三月	▲前歐洲大戰に於ける潛水艦の秘話を語つた "Raiders of the Deep" の邦譯。									
フランツ・カフカ作 本野亨一譯	審判	並	四六判製	314	一、五〇 一〇	白水社	十月	▲孤獨の作家フランツ・カフカの「審判」を飜譯す。									
T・サンドル著 高瀨毅譯	戰後小說 すひかづら	並	四六判製	189	一、二〇 九	青木書店	四月	▲現代フランス作家サンドルの "Le Chêvrefeuille" を五十一版の原書により全譯す。									
レイチエル・フイールド作 大久保康雄譯	すべて此世も天國も 上卷	並	四六判製	317	一、八〇 一四	三笠書房	十月	▲美しき若い女の心理の微妙な動きを捉へて冷酷なまでに追求せる長篇の前半譯。									
レイチエル・フイールド作 大久保康雄譯	すべて此世も天國も 中卷	並	四六判製	307	一、八〇 一四	三笠書房	十一月	▲中卷は第一部續「マドモアゼル・D」一八四一—一八四八年を飜譯す。									
レイチエル・フイールド作 大久保康雄譯	すべて此世も天國も 下卷	並	四六判製	316	一、八〇 一四	三笠書房	十一月	▲下卷は第二部續「アンリエット・デポルトレ」一八四九—一八五一年を飜譯す。									

弓館芳夫譯	水滸傳	並	四六判製	457	一、六〇 一〇	第一書房	三月	▲支那四大奇書中の隨一であり世界的に著名な「水滸傳」を現代語譯したもの。									
笠井鎭夫譯	西班牙 綺譚 現代傑作選集	並	四六判製	415	一、七〇 一〇	三學書房	十一月	▲マドリー陋巷圖繪（バローハ）渾身是れ男性（ウナムーノ）他三篇を飜譯す。									
紫文閣編	世界名作選傳奇小說集	並	菊半截	442	一、三〇 一〇	紫文閣	二月	▲水滸傳（多摩松也譯）八犬傳（額田六福）海の野獸（平井豐一譯）の三篇を抄譯す。									
紫文閣編	世界名作選歷史小說集	並	菊半截	424	一、三〇 一〇	紫文閣	一月	▲隊長ブーリバ（露・ゴーゴリ作・巽榮一郎譯）二都物語、スカラムッシュの三篇邦譯。									
クリストフワー・モーリ著 新居格譯	青春の記錄	並	四六判製	404	二、〇〇 一〇	洛陽書院	七月	▲アメリカの最も變動の多かつた時代に生きた一女性を描いた "Kitty Foyle" の全譯。									
リチアード・オールディントン著 岡本隆・牧屋善三共譯	青春の日曜日	並	新四六判製	381	一、六〇 九	岡倉書房	十一月	▲現英文壇に確固たる地位をもつ、オールディントンの "Women Must Work" の譯。									
リチヤードスン著 丸山進譯	青春の倫理	並	四六判製	320	一、六〇 一〇	昭和書房	十二月	▲英國の閨秀作家リチヤードスンの「尖つた屋根」を邦譯なしたもの。									
柳澤恭雄	聖處女ジヤンヌ・ダルク	並	四六判製	302	一、五〇 一〇	萬里閣	十二月	▲身を犧牲にしてイギリスをヨーツロパ大陸から追ひ出したジヤンヌ・ダルクの傳記小說。									
シツランパア著 柳澤恭雄譯	聖貧	並	四六判製	301	一、五〇 一〇	實業之日本社	五月	▲フインランドの一農民が、赤貧の家に生れて非業の死を遂げる迄の苦難な一生を描く。									
シユテイフテル著 吹田順助譯	石灰石	並	四六判製	293	一、五〇 九	白水社	八月	▲シユテイフテルの代表的傑作「石灰石」と「アブディアス」の二篇を譯出す。									
ヘルマン・ヘツセ著 植村敏夫譯	惜春の賦	並	四六判製	278	一、五〇 九	萬里閣	五月	▲惜春の賦・クヌルプ（彼の生涯の三つの物語）、新しき倫理、の二篇を邦譯す。									
神近市子譯	戰線 —世界大戰小說集— 銃後	並	四六判製	245	一、五〇 九	鱒書房	六月	▲エドモンド・ブランデン氏の編輯になる「短篇戰爭小說集」の中から十五篇を譯載す。									
ヂ・ロード 杉捷夫譯	文化叢書（2） ダランベールの夢	並	新四六判製	236	一、〇〇 九	青木書店	一月	▲ダランベールとデドロとの對話、ダランベールの夢、對話の續きの三篇を邦譯す。									

中野好夫譯	ケネト・グレアム作	たのしい川邊	四六判製	309	二、二〇	白林少年館出版部	十一月	▲モグラ、ネズミ、ヒキガヘル、アナグマを中心とした子供にもわかり易い動物物語。
宮原晃一郎譯	ヨハン・ボーエル作	大飢餓	現代世界文學叢書(3)	縦十六十九糎製	337	一、八〇	中央公論社	八月	▲諸威の現代作家ボーエルの "Den Store Hun-Ager" を邦譯したもの。
山縣初男		大俠 —原名・野曼曝言— 史		四六判製	311	一、三〇	興亞書局	七月	▲支那一流の波瀾萬丈神出鬼沒自由奔放を極めた「野曼曝言」を譯縮したもの。
宮崎嶺雄譯	バルザック著	谷間の百合 上卷	創元叢書(39)	上 新四六判製	385	一、五〇	創元社	三月	▲バルザックの作品中戀愛小說の傑作と稱せられる "Le lys dans la vallée" の邦譯。
八住利雄他三氏譯		短篇小說集	ゴオゴリ全集(4)	並 四六判製	490	二、五〇	ゴオゴリ全集刊行會	五月	▲鼻（八住利雄譯）肖像畫（八住利雄譯）外套（中山省三郎譯）他四篇を飜譯す。
大內隆雄譯		蒲公英	滿人作家小說集(2)	並 四六判製	362	一、五〇	三和書房	七月	▲蒲公英（小松）變金（古丁）窓（石軍）荒（疑遲）鄉仇（夷馳）他七篇を邦譯す。
武林無想庵譯	エミール・ゾラ作	地 上卷		並 四六判製	302	一、五〇	鄭友社	十一月	▲一群の農民の生活を通じて地上に於ける人間の僞りのない赤裸を描いた "La Terre" の譯
北村孝・福澤一枝譯	フィールド著	地のさち・天の幸 上卷		上 四六判製	399	二、〇〇	萬里閣	十二月	▲困難な荊の道を切り拓いて大陸に理想の生活を打樹たデボルト孃の一生を描く。
山內義雄譯	ガール作	父の死	チボー家の人々(7)	並 四六判製	307	一、三〇	白水社	九月	▲第七卷は「父の死」を譯述す。
申建譯編		朝鮮小說代表作集		並 四六判製	310	一、五〇	敎材社	二月	▲少年行（金南天）苗木（李箕永）豚（李孝石）滄浪亭記（兪鎭石）他九篇を邦譯す。
秋田雨雀・村山知義・張赫宙・兪鎭午編		朝鮮文學選集 第一卷		上 四六判製	270	一、六〇	赤塚書房	三月	▲鶏（李泰俊）金講師とT敎授（兪鎭午）蕎麥の花の頃（李孝石）他三篇の小說集。
秋田雨雀・村山知義・張赫宙・兪鎭午編		朝鮮文學選集 第二卷		並 四六判製	227	一、六〇	赤塚書房	九月	▲地脈（崔貞熙）距離（朴泰遠）姉の事件（金南天）模索（韓雪野）他一篇を收む。
張赫宙編		朝鮮文學選集 第三卷		上 四六判製	266	一、六〇	赤塚書房	十二月	▲第三卷は謙虛（安懷南）自殺未遂（廉想涉）嵐（李石薰）等五篇を收錄す。

中野好夫譯	サマセット・モーム著	月と六ペンス	現代世界文學叢書(2)	並 縦十六十九糎製	346	一、八〇	中央公論社	八月	▲モームの "The Moon and Sixpence" 1918 を邦譯なしたもの。
平井肇譯		デイカーニカ近鄉夜話	ゴオゴリ全集(1)	並 四六判製	484	二、五〇	ゴオゴリ全集刊行會	四月	▲第一卷は「デイカーニカ近鄉夜話」の第一部・第二部を邦譯し、解說をも收む。
久生十蘭譯	ボアゴベイ作	鐵假面	世界傳奇叢書	上 四六判製	398	一、五〇	博文館	十二月	▲白い寢臺、死の牢獄、悲哀の谷の三部より成るボアゴベイの鐵假面の譯。
安原茂夫譯	ヴァレンティネル著	ドイツ潛水艦長の手記		上 四六判製	305	一、七〇	岡倉書房	十二月	▲ドイツUボート艦長であつた著者の實戰體驗の手記で、U三號慘事其他。
岩田欣三譯	アクセル・ムンテ著	ドクトルの手記 —上—		並 四六判製	312	一、七〇	青木書店	九月	▲パリ、ローマを背景にして活躍せる著者の多彩な生活に取材せる詩と眞實の物語。
高橋健二譯	ヴィーヒエルト作	ドスコチルの女中	現代世界文學叢書(4)	並 縦十六十九糎製	247	一、八〇	中央公論社	二十月	▲ドイツ農民小說の代表作 "Die Magd des Jurgen Doskocil" を邦譯す。
渡邊一夫譯	ヴィリエ・ド・リラダン著	トリビユラ・ボノメ		並 菊判製	333	三、五〇	白水社	二月	▲ヴィリエ・ド・リラダンの "Tribulat Bonhomet" を邦譯したもの。
辰巳篤夫譯	リヴアー著	トルグート族 第二部		並 四六判製	352	一、八〇	生活社	十一月	▲第二部は逞しい迫力と劇的なクライマックスな部分を收む。
辰巳篤夫譯	リヴアー著	トルグート族 第一部		並 四六判製	355	一、八〇	生活社	十一月	▲カザリン二世の虐政に追はれた、トルグート族五十萬の大移動に取材せる歷史小說。
メツケル譯	ヤノシュ・アラン著	トルディイ	若き篤雄	和 四六判裝入	183	二、〇〇	第一書房	三月	▲アランの出世作として著名な大敍事詩、若き洪牙利の英雄「トルディイ」を飜譯す。
星野慎一譯	ハンス・グリム著	土地なき民		上 四六判製	458	一、八〇	鱒書房	二十月	▲獨逸民族の運命を赤裸々に描いたグリムの「土地なき民」の飜譯。
岡田眞吉譯	ピエル・ロテイ著	東洋の幻		並 四六判製	265	一、三〇	白水社	九月	▲ロテイの實際の體驗を基にして描かれた「スタムブウルの春」の續篇を邦譯す。
神近市子譯	オツセンドフスキイ著	動物・人・神々		並 四六判製	325	一、八〇	生活社	二十月	▲死と共に、鬼神の國、緊張せるアジヤの心臟等五篇より成る事實に基いた記錄小說。

村松正俊譯	フォン・ミクシュ著	獨英イラン爭覇記	四六判並製	345	二、〇〇	泰山房	十二月	▲前大戰に波斯土民軍を指揮して抗爭したヴアスムスの生涯と闘爭の事實を述べたもの。
朝倉季雄譯	四六判並製	369	一、五〇	白水社	十一月	▲フランスの持つ懷疑主義を具現せる代表作「鳥料理・レエヌ・ペドオク亭」の飜譯。
南澤十七譯	ガルスチン著	南、支那海	四六判並製	288	一、五〇	興亞日本社	八月	▲二十有餘年南支那海に船長として航海生活を續けた主人公を中心に描いた大衆小說。
山室靜譯	ヤコブセン著	ニイルス・リーネ	四六判並製	360	一、七〇	大觀堂	十一月	▲夢想にみちた一青年の生涯を描いたヤコブセンの代表作"Niels Lyhne"を飜譯す。
藤澤・ヘンリイ桓夫譯	オウ・ヘンリイ著	紐育物語	四六判上製	276	一、五〇	創元社	六月	▲算盤づくめ、天衣、涼しき天國の客、心と手、金の神と戀の神他九篇の短篇を譯載す。
馬場久治譯	シュトルム作	人形つかひ	四六判並製	220	一、三〇	白水社	十一月	▲人形つかひ、廣間にて、マルテを時計、林檎の實る頃他三篇を譯載せる短篇小說集。
伊東鉄太郎譯	イナ・ザイデル女史作	希はしき子 上卷	四六判並製	546	二、〇〇	刀江書院	四月	▲狂亂怒濤の獨佛戰爭を背景にして數奇な運命に逢ふ孤獨の母子の生涯を描く。
伊東鉄太郎譯	イナ・ザイデル女史作	希はしき子 下卷	四六判並製	521	二、〇〇	刀江書院	十月	▲獨佛戰爭を背景にして、孤獨な母子の生き方の問題を說いた教育小說の後半。
朝倉季雄譯	エルネスト・ペロション著	眠れる沼	四六判並製	394	一、六〇	日本社之實業	三月	▲素朴な農民の間に起つた愛欲の葛藤を物語つた「ネエヌ」を全譯す。
綾田正信譯	スウィナトン著	ノクターン	四六判並製	307	一、四〇	新潮社	八月	▲短時間の間に起る老父と姉妹の運命の變轉を描いた「ノクターン」の邦譯。
村上文樹譯	K・D・ウイギン作	野育ち	四六判並製	373	一、八〇	教文館	十月	▲サニーブルック農園の娘レベカを主人公に描ける"Rebecca of Sunnybrook Farm"の譯
村田昌三譯	ジエイムス・モリアー著	ハヂ・ババの冒險	四六判洋布	293	一、〇〇	豐文書院	十月	▲回教徒が住んでゐる西アジヤ中部アジヤ地方の風俗、習慣、氣候、風土等を紹介す。
郭沫若譯	海棠香國	四六判並製	320	一、一〇 九	興亞書局	十一月	▲四川の地志、風俗、學生氣質等を紹介せる郭沫若の自敍傳的小說「我的幼年」の邦譯。

岡田眞吉譯	ボオル・モオラン著	白鳥の死	コバルト叢書	四六判並製	171	一、一〇 六	鱒書房	六月	▲白鳥の死、麗はしのフランス、の二篇を全譯す。
岸田國士譯	ジユウル・ルナアル著	博物誌	四六判並製	306	二、五〇 一四	白水社	三月	▲影像の獵人、雌鷄、雄鷄、家鴨、七面鳥、蟇、蜘蛛、馬等の七十篇の博物誌を邦譯す。
堀口大學譯	マックカラーズ著	花賣り娘	佛蘭西短篇集	四六判並製	358	一、五〇 一四	第一書房	二月	▲ドニイズ（ナディゲ）人殺しのクロドミイル（ジユアンドオ）其他の短篇隨筆等譯編す
中川のぶ譯	H・C・カアライル著	話しかける彼等	四六判並製	446	二、〇〇 一〇	四季書房	十二月	▲三人の啞者の生活を淡々として描いた"The Heart is a Lonely Hunter"を邦譯す。
高瀨毅譯	小說	母は叫び泣く	新四六判並製	362	一、四〇 一〇	新潮社	四月	▲熱切な母性愛を描いたカアライル女史の長篇家庭小說"Mothers Cry"の邦譯。
新庄嘉章譯	ロマン・ルウセル著	春のない谷間	佛蘭西文學賞叢書	四六判並製	293	一、五〇 一〇	日本社之實業	一月	▲一九三七年度アンテラリエ賞を獲得したルウセルの「春のない谷間」を邦譯す。
原子林二郎譯	アレクセイ・トルストイ著	ピヨートル大帝 上卷	四六判並製	346	一、六〇 一〇	鱒書房	三月	▲現ソ聯文壇の大作家トルストイの「ピヨートル一世」の前半を邦譯したもの。
原子林二郎譯	アレクセイ・トルストイ作	ピヨートル大帝 下卷	四六判並製	299	一、六〇 一〇	鱒書房	六月	▲ピヨートル大帝の性格と十七世紀ロシヤの狂亂を描いた長篇の後半譯。
和見正夫譯	シエロツエウスキ著	悲慘の涯	四六判並製	238	一、二〇 九	興風館	八月	▲シベリアの沼地に流送される癩患者の集團生活を客觀的に描いたもの。
大佛次郎譯	コーナン・ドイル作	武俠聯隊長	世界傳奇叢書	四六判上製	432	一、五〇 一〇	博文館	十二月	▲戀と片耳、猛者の約束、黑魔城冒險他七話より成る武俠聯隊長の飜譯。
黑岩涙香譯		武士道 —怪の者—	四六判並製	368	二、〇〇 一〇	明文館	十二月	▲武士道及び怪の物の二篇を譯載す。
岡倉正雄譯	ロラン・ドルジユレス作	再び戰線へ	四六判並製	333	一、五〇 一〇	今日の問題社	十一月	▲「木の十字架」の作者ドルジユレスが第二次大戰に從軍して描いた戰線手記。
秋山六郎兵衛譯	グリーゼ作	多〻	四六判並製	427	一、五〇 一〇	白水社	四月	▲ナチス・ドイツの現文壇に重きをなすグリーゼの"Winter"を邦譯す。

鶴田知也譯	林語堂著	北京の上卷・第一部道教の娘たち	日	並四六判製	430	二、〇〇	今日の問題社	一月	▲林語堂の"Moment in Peking"の邦譯で第一部は義和團事件以後十年間を描いたもの														
鶴田知也譯	林語堂作	北京の下卷	日	並四六判製	503	二、〇〇	今日の問題社	二月	▲下卷は第二部庭の悲劇、第三部秋の歌の二部を邦譯したもの。														
庄野貞一譯	林語堂著	北京—第一部道家の娘たち—	日	並四六判製	423	二、〇〇	四季書房	三月	▲近代支那生活を描いた林氏の"Moment in Peking"の第一部「道家の娘たち」を邦譯す														
中村雅男譯	林語堂著	北京—第二部庭の悲劇—	日	並四六判製	299	一、八〇	四季書房	九月	▲北京好日の第二部「庭の悲劇」を譯出す。														
松本正雄譯	林語堂著	北京—第三部秋の歌—	日	並四六判製	360	一、八〇	四季書房	九月	▲第三部「秋の歌」を譯す。														
古内隆雄譯	丁作	平沙		並四六判製	262	一、二〇	中央公論社	七月	▲滿洲國民生部大臣文藝賞を受けた古丁の「平沙」を邦譯したもの。														
横溝正史譯	パロネス・オルツイ作	紅はこべ	世界傳奇叢書	上四六判製	309	一、三〇	博文館	十二月	▲巴里・一七九二年九月、祕密の花園他十八章より紅はこべの飜譯。紅はこべ夜話附載。														
乾信一郎		紅鱒		上並四六判製入	357	二、〇〇	博文館	九月	▲紅鱒、親狐の心配、戰ふ母豹、小犬の寃罪猫は猫同士、山しぎ他二十二篇の動物小說集														
永井順譯	メーストル著	部屋をめぐつての隨想		並四六判製	255	一、三〇	白水社	十月	▲第一部わが部屋をめぐる旅、第二部わが部屋をめぐる夜の旅の二篇を飜譯なしたもの。														
吉原公平譯	ヘルマン・ヘッセ著	ボゲド・ビダルマサヂ汗物語	新ぐろりあ叢書(10)	並四六判製	207	一、六〇	ぐろりあそさえて	四月	▲古い蒙古に傳へられた代表的文學「ボゲドビダルマサヂ汗物語」を紹介したもの。														
高橋健二譯		放浪と懷郷	世界新名作叢集	並四六判製	316	一、四〇	新潮社	六月	▲放浪、懷郷、幼き日の聖フランシス、聖者と甘いパン、内と外他七篇の短篇を譯す。														
今日出海譯	モオリス・ブデル著	北緯六十度の戀	佛蘭西文學叢書	並四六判製	341	一、五〇	實業之日本社	四月	▲一九二七年のゴンクール受賞作品「ジェロオム」を全譯なしたもの。														
二宮孝顯譯	モオリアック著	炎の河		並四六判製	192	一、二〇	青光社	十月	▲人間の獸性と神性とを追求せる小說"Le Fleuve de feu" 1923を邦譯なしたもの。														

堀口大學譯	オオドウ著	街から風車場へ		新四六判脊洋布	386	一、二〇	第一書房	一月	▲オオドウの第三作品"De la ville au moulin"を邦譯す。														
平井肇譯		ミルゴーロド	ゴオゴリ全集(2)	並四六判製	517	二、五〇	ゴオゴリ全集刊行會	四月	▲第二卷は「ミルゴーロド」の第一部及第二部を邦譯し、解說を收む。														
土屋光司譯	メーリス作	木乃伊の穴		並四六判製	364	二、〇〇	日本公論社	二月	▲葡萄酒、手紙の顏、髭を生やした男、葡萄收獲祭り等其他で描いた名作探偵小說。														
山縣初男譯	巴金作	滅亡		並四六判製	323	一、二〇	興亞書局	七月	▲巴金の處女作にして出世作「滅亡」と「砂丁」の二篇を譯載す。														
川口篤譯	ミオマンドル作	水に描く	佛蘭西文學賞叢書	並四六判製	236	一、二〇	實業之日本社	十一月	▲フランス社交界の墮落と虚僞を暴き、夫れに毒されて行く純情な一本氣の青年を描く。														
青山一浪譯	ソマセット・モウム著	南の風		並四六判製	304	一、六〇	昭和書房	十一月	▲高原療養所、南の風、女曲藝師、海龜の歌夢を追ふ人等他一篇を譯載す。														
淺見淵編		崩—滿洲作家九人集—		並四六判製	261	一、二〇	竹村書房	五月	▲流離（竹内正一）一農夫（青木實）イワンの家（吉野治夫）他六篇の小說集。														
渡邊久男譯	クロート著	めぐる車輪—武裝せる移住民—		並四六判製	481	一、八〇	萬里閣	七月	▲百年前ケープを後にしたフーア人の大移住を主流とせる物語。														
野阿千伊譯	A・E・W・メースン作	モンブランの乙女	山房小說	並四六判製	379	二、〇〇	日本公論社	六月	▲アルベンの精神と感情を表現したメースンの"Running Water"を飜譯す。														
小林高四郎譯註		蒙古の祕史		洋菊判布入	圖版17 341	五、二〇	生活社	二月	▲蒙古文學史上の傑作「元朝祕史」（蒙古の祕史）全十二卷を解譯したもの。														
萩田・バック著	パアル・	山の（英雄		並四六判製	589	一、二〇	改造社	五月	▲高峰セナットを登破し一躍英雄となつた青年を主人公にして描いた"Other gods"の譯														
山本政喜譯	ピー・トレイヴン作	山の寶		並四六判製	341	一、九〇	三教書院	十二月	▲トレイヴンの長篇小說で原名「シエルラ・マドレの寶」の飜譯。														
矢崎彈編		夕暮の對話	世界文學名作選・世界青春小說集(1)	並四六判製	203	一、三〇	公論書房	十月	▲戀の凱歌（ツルゲーネフ）想ひ出のローズマリー（ハーランド）他六篇を飜譯す。														

シエンキウイツチ他三氏著 山梨芳隆譯	ポーランド短篇小說集 勇士バルテツク	並四六判製	262	一、五〇	時代社	十月	▲勇士バルテツク（シエンキウイツチ）黃昏（ゼロムスキ）他四篇を譯載す。		
シユニツラア著 植村敏夫譯	夢と愛の小說	並四六判製	352	一、八〇	萬里閣	五月	▲夢と愛の小說、草花、盲目のジエロニモ、傀儡師の四篇の短篇を邦譯す。		
ロツジエル著 堀口大學譯	夢見るブウルジヨア娘	並四六判製	342	一、四〇	新潮社	六月	▲ブウルジヨアの思想と生活を主題にせる長篇"Beyeuse Bourgeoisie"の前半譯。		
ガーネル作 山内義雄譯	ラ・ソレリーナ	並四六判製	278	一、〇〇	白水社	四月	▲第六卷は「ラ・ソレリーナ」を收む。		
辰野隆他三氏譯	リイルアダン短篇選集 上	上函四六判製入	269	二、〇〇	弘文堂	一月十	▲ヴイルジニとポオル（鈴木信太郎）感傷主義（辰野隆）イザボー女王（伊吹武彥）他。		
濱薫明	劉邦出世物語	並四六判製	365	三、〇〇	東洋政治學會出版部	三月	▲後の漢の高祖皇帝となつた劉邦の出世を描いた政治小說。		
グイリエム・ド・リラダン著 齋藤磯雄譯	ルノワアル夫人の眸	並四六判製	246	一、三〇	第一書房	六月	▲高き信仰と、深刻な懷疑と、猛烈な功利主義の激化する對立が釀す恐るべきドラマの譯。		
ダヌネ・デユ・モオリア著 大久保康雄譯	レベツカ —若き娘の手記— 下卷	上函四六判製	381	二、〇〇	三笠書房	一月	▲下卷は第十五章以下を邦譯したもの。		
リチヤード・レウエリン著 前田河廣一郎譯	わが谿谷絲なりし	洋函四六判布入	630	二、五〇	非凡閣	二十月	▲美しき情愛を描いた"How Green Was My Valley"を飜譯す。		
レオン・ドオデエ著 堀田周一譯	わが戰場	並四六判製	318	二、一〇	牧野書店	三月	▲巴里の裏町の隅々迄描寫したドオデエの"Paris Vegu"の前篇「右岸」を邦譯す。		
ウイラ・キヤサー著 龍口直太郎譯	別れの歌 世界新名作選集	並四六判製	330	一、四〇	新潮社	一十月	▲アメリカ女流作家ウイラ・キヤサーの"Lucy Gayheart"1935を飜譯す。		
シンクレアー・ルイス著 平野花江譯	若き女優	並四六判製	467	二、〇〇	今日の問題社	二十月	▲若き舞台女優生活に材を取つて描いた"Bethel Merriday"1940を飜譯す。		
ヒユーズ著 除村吞譯	笑はぬでもなし	並四六判製	430	一、八〇	白水社	八月	▲黑人が黑人を完全な人間として描いた長篇"Not Without Laughter"を邦譯す。		

戲曲・シナリオ

ポオル・ブウルジエ著 工藤肅譯	我等の行爲は我等を追ふ 上卷	並四六判製	270	一、五〇	白水社	二十月	▲ブウルジエの「我等の行爲は我等を追ふ」の飜譯。		
菊岡久利	野鴨は野鴨	上四六判製	250	一、八〇	三笠書房	十月	▲野鴨は野鴨、戰爭とジヤガイモ（詩劇）の二篇を收めた戲曲集。		
丹後嘉重 萩間惠文	石川啄木 角色	上函四六判製入	248	一、八〇	啓文社	七月	▲明治短歌の革命兒石川啄木の生涯を戲曲化したもの。		
瀧川駿	オルレアンの處女	上函四六判製入	208	二、〇〇	パンフレツト文藝社	一十月	▲オルレアンの處女、時平の哲學、日野俊基の三篇を收めた戲曲集。		
藤森成吉	大原幽學	上函四六判製入	258	一、八〇	筑摩書房	二十月	▲大原幽學（三幕八場）七草旅行（一幕五場）由利公正（ラヂオドラマ）他小說一篇を收む		
北條秀司	閣下	並函四六判製入	382	二、〇〇	双雅房	二十月	▲天高き日、丸の内仲通り、閣下、春星夫婦華やかな夜景等六篇の戲曲集。		
小山祐士	魚族 新ぐろりあ叢書	並四六判製	318	一、八〇	ぐろりあそさえて	六月	▲十二月（三幕）魚族、夕風、（以上一幕）月夜（二幕）の四篇を收めた戲曲集。		
眞船豐	孤雁	上函四六判製入	404	二、〇〇	創元社	三月	▲孤雁、松花江の月、人の影、廢園、の四篇を收めた戲曲集。		
岡池公功編	公共劇小脚本集	上四六判製	332	一、五〇	モダン日本社	二十月	▲上泉秀信氏作「霜雨」を初め十三篇のシナリオと岡池公功氏の「上演の手引」を收む。		
山中貞雄	シナリオ集 上卷	並函四六判製入	314	一、八〇	竹村書房	二月	▲上卷は街の入墨者、帶とけ佛法、風流活人劍、なりひら小僧、河內山宗俊他二篇收む。		
山中貞雄	シナリオ集 下卷	並函四六判製入	308	一、八〇	竹村書房	九月	▲中村仲藏、鼠小僧次郎吉、盤嶽の一生、武藏旅日記、森の石松等他三篇と遺稿を收む。		
翁久允	釋迦如來	菊判上製	134	一、八〇	東邦書院	七月	▲大ヒマラヤの朝に望み、大恒河の夕に掬みて昇華されたる佛陀を描いた六幕の戲曲。		

細田源吉	動乱と創造	上人諫言	並四六判製	218	一、二〇〇	東京書房	十月一日
小林知治	戯曲	新政維新	並四六判製	357	一、三〇〇	國防攻究會	九月一日
日本文化中央聯盟編		青年と子供のための脚本集	並四六判製	348	一、二〇〇	日本文化中央聯盟	六月一日
長田秀雄		大佛開眼	並四六判製	307	一、二〇〇	高田書院	七月一日
近藤春雄	戯曲集	大陸航路	並四六判製	291	一、三〇〇	洛陽書院	九月一日
戸伏太兵		天ノ川辻	並四六判製入	327	二、〇〇〇	牧野書店	十二月一日
中山德重		天の記錄	上四六判製	344	二、〇〇〇	書物展望社	五月一日
大隈俊雄		中山忠光卿	並四六判製	203	一、〇〇〇	皇國社	三月一日
野村政夫	戯曲集	二宮尊德	並四六判製	417	一、二〇〇	章華社	二十一月一日
田尻隼人		日向御進發	並四六判製	175	一、〇〇〇	育生社	三月一日
伊藤松雄他七氏		一握の種子	並四六判製	196	八〇	日本青年館	二十一月一日
近松秋江		浮生	並四六判製入	322	二、〇〇〇	河出書房	九月一日
三好十郎		浮標	並四六判製入	348	二、二〇〇	櫻井書店	十一月一日

▲上人諫言（三幕八場）と、一念（創作）の二篇を收めたもの。

▲新政維新（三幕七場）ヂスレリー（バーカー作）の二篇の戯曲集。

▲田植唄（二景）曉（六景）靡國（十景）昧爽の子供（五場）の四篇を收めた脚本集。

▲大佛開眼（五幕十一場）移民以後（九景）の二篇を收めた戯曲集。

▲烟筒山、お喜代の出發、新戰場、友情の花束、大陸航路、土に唄ふ他三篇を收む。

▲天ノ川辻他五部より成る連作「大山蓮華」「驛」「鴨川千鳥」等の戯曲集。

▲天の記錄（小說）吉野義舉（三幕）三門緣起（四幕）の三篇を收めた小說戯曲集。

▲幕末の騷然たる中に勤王の誠を盡した中山忠光卿を描いた戯曲一篇と隨筆を收む。

▲二宮尊德、源平鎌倉記、柳亭種彦、浪人と若夫婦等八篇を收めた戯曲集。

▲日本精神に立脚せる創作「日向御進發」と古典詩劇「素戔嗚尊」の二篇を收む。

▲別れの國歌（伊藤松雄）梅澤中尉の手紙（林二九太）他六篇の戯曲集。

▲ある有閑マダム、母親、春宵、こんな女もある、伊豆の頼朝（一幕）他二篇の戯曲集。

▲浮標、寒驛、彦六なぐらる、の三篇を收めた戯曲集。

藤森成吉	戯曲集	陸奥宗光・幡隨院長兵衛	並四六判製	300	二、〇〇〇	高見澤木版社	六月
田郷虎雄	戯曲集	螟蛉子	並四六判製	331	一、五〇〇	洛陽書院	十二月

▲陸奥宗光（三幕十場）幡隨院長兵衛（四幕六場）の二篇を收めた戯曲集。

▲若人の道、先驅者の父母、機を織る家、同じ思ひを等十二篇の戯曲集。

メレジュコーフスキー著　昇曙夢譯

トルストイとドストエーフスキイ

——（その生涯と藝術）——

（改訂增補）**葬及版**

四六判　上製　五六〇頁
定價一・六〇　送料一四

小林秀雄氏評……ドストエーフスキイに關する外國の研究書は、僕の語學のゆるすかぎりいろいろ讀んでみた。メレジュコフスキイの「トルストイとドストエーフスキイ」も昔讀んだので最近讀み返してみた。やはりこの論文は光つてゐると思つた。ことにトルストイの分析は鮮やかであると思つた。（文學界）

東京堂刊行

五、美術・音樂・演劇

西洋美術研究

著者・書名	形製	頁數	定價	發行所	發行月	内容大意
櫻元謙永郎 明治初期來朝伊太利亞美術家の研究	四六倍判 洋綿菊布入	版圖66 184	八、〇〇 二二	三省堂	十一月	▲我國の招聘に應じ明治初期に來朝せる數人の伊太利亞美術家の研究をなしたもの。
石井正雄譯 ラスキン 繪畫論	四六判 並製	352	一、五〇 一〇	第一書房	四月	▲美術批評論として著名なラスキンの「近代畫家論」全五卷を抄譯したもの。
森口多里 近代美術	四六判 洋綿菊布入	517	六、〇〇 二二	東京堂	十二月	▲浪漫主義の勃興より最近の超現實主義にまで說述した近代美術史。
ヴォル・ラアル著 成田重郎譯 セザンヌ	四六判 並製	282	一、五〇 一〇	東京堂	七月	▲苦難な荊の道を克服して遂に最後の勝利を得たセザンヌの藝術的生涯を敍したもの。
石井柏亭 西洋美術論 (學生文庫6)	四六判 並製	203	一、二〇 九	河出書房	六月	▲美術の分類、最近の美術、美術展覽會、美術の鑑賞及批評等にて西洋美術を概說す。
ヴアレリイ著 吉田健一譯 造形美論 ドガに就て	菊判 並綴製	182	三、〇〇 一〇	筑摩書房	十月	▲ドガ、ドガとフランス革命、見ること描くこと、裸體に就て、ドガの言葉等其他を收む
板垣鷹穂 ミケランジエロ (新興藝術叢書)	新四六判 上製	216	一、〇〇 一〇	新潮社	十一月	▲彫刻史上のミケランジエロ、繪畫史上のミケランジエロ他四項にて描いたもの。
ヴオラアル著 成田重郎譯 ルノワル	四六判 並製	360	一、八〇 一〇	東京堂	十月	▲宿命的な病魔に侵されながらも晩年は功成り名遂げたルノワルの生涯を敍述す。

百姓社

廣島市宇品町七三四

電話廣島中三三一三番

振替廣島一九七六三番

新刊

田中喜四郎著

一、隨筆集

常會の妙味

一、隨筆集

隣組と常會の理想

各定價八十八錢 送料六錢

賣捌所 廣島市堀川町金座街六八ノ五 やよひ堂書店 電話中七五一番

日本・東洋美術研究

島田勇吉編	河童の影法師	上函菊 製入判	177	二、八〇 一四	俳畫堂	九月	▲故小川芋錢翁の書簡、はがき、電文等三百餘通を纂錄なしたもの。
榊原紫峰	紫峰藝術觀	上函四六 製入判	319	二、五〇 一四	河出書房	十二月	▲第一部繪畫論、第二部生活と制作、第三部藝術雜感の三部に收めたもの。
松本亦太郎 文學博士	山水人物畫談	布函四六 裝入判	485	三、一〇 一四	岩波書店	七月	▲鑑賞、山水畫、繪畫の更新伸展、繪畫の保存、人間及自然の繪畫化の五篇を收む。
金原省吾	日本藝術の課題	布函	269	二、八〇 一四	河出書房	八月	▲純粹、象徴、筆蹟、氣韻、表現、の五章にて論述す。
濱田耕作 文學博士	日本美術史研究	洋函菊 布入判	424	六、八〇 二三	寶雲刊行會	十二月	▲日本美術史に關する諸論攷を收錄した書で我國上古の美術に就いて他三十四篇。
寶雲刊行所編	寶雲 第二十五冊	上四六倍判 製	96	二、三〇 一四	寶雲刊行所	一月	▲高麗時代の寫經に就て（禿氏祐祥）芭蕉の書畫（穎原退藏）他四篇を收む。
村松梢風	本朝畫人傳 巻一	上函菊 製入判	圖版15 408	四、五〇 一四	中央公論社	十一月	▲第一卷は小形光琳、英一蝶、大雅堂、圓山應擧、蕪村、北齋、文晁等を收む。

畫集・圖錄

島田勇吉編	磯野靈山	和四六倍判 裝	24	二、〇〇 六	島田勇吉家	十月	▲國士でもあり畫家でもあつた故磯野靈山の遺作を纂めたもの。—限定版三〇〇部—
高見澤木版社編	浮世繪十五大家集（1） 歌麿・寫樂・北齋	菊函和 裝入判	版圖66 37	四、四〇 一四	高見澤木版社	四月	▲第一輯は歌麿・寫樂・北齋の三家の作品を收めて解說をなす。
横地信輔編	小川芋錢翁草畫帖 第一輯	縦廿五 十八 製觀	並横 25	二、〇〇 一〇	青果堂	八月	▲第一輯は明治四十二・三年に國民新聞に掲載されたものを集めたもの。
横地信輔編	小川芋錢翁草畫帖 第二輯	縦廿五 十八 製觀	並横 25	二、五〇 一〇	青果堂	八月	▲第二輯はホトトギス誌第八卷より十卷に至る迄に掲載されたものを收めたもの。

高見澤木版社編	乾山・抱一	菊函 布入判	圖版143 8	三、五〇 三〇	高見澤木版社	九月	▲尾形乾山と酒井抱一の作品を收錄したもの。限定版六百册。
高見澤木版社編	光琳	菊函 布入判	132圖	三〇、〇〇 三〇	高見澤木版社	六月	▲尾形光琳の作品百四十八を圖版にて收めたもの。限定版八百册。
朝日新聞社編	國展 —第十五回—	四六倍判 製	32	六〇 九	朝日新聞社	四月	▲第十五回國畫會展覽會の作品を圖版にて收めたもの。
朝日新聞社編	春陽會畫集	四六倍判 製	34	六〇 九	朝日新聞社	四月	▲第十八回春陽會展覽會の作品を收めたもの
朝日新聞社編	獨立展集 —第十回—	四六倍判 裁	34	六〇 九	朝日新聞社	三月	▲第十回獨立美術協會展覽會の作品を圖版にて收めたもの。
朝日新聞社編	二科畫集	四六倍判 製	36	七〇 九	朝日新聞社	九月	▲第二十七回二科美術展覽會の繪畫及彫刻作品を圖版にて收む。
朝日新聞社編	二千六百年史展覽會大觀	四六倍判 製	64	一、五〇 一四	朝日新聞社	三月	▲二千六百年に亘る誇るべき國寶、重要美術品三百八十餘點を圖版にて收めたもの。
朝日新聞社編	日本文化史展大觀	四六倍判 製	64	一、五〇 一四	朝日新聞社	五月	▲皇紀二千六百年を表現する數々の國寶、重要美術品等を圖版にて收めたもの。
原色版 浴伊之助・足立源一郎・中川一政編	ボール・セザンヌ	菊函 洋入判	70圖	一八、〇〇 二二	アトリエ社	八月	▲龍の果物とスープ鉢等他六十九枚のセザンヌの作品を原色版にて收めたもの。
高見澤木版社編	ボナアル	菊函 布入判	圖版195 14	三、〇〇 三〇	高見澤木版社	八月	▲ピエール・ボナアルの作品二百九十一を各種圖版にて收めたもの。—限定版六〇〇部—
小野忠重編	マチス	上函菊 製入判	52圖 11	二五、〇〇 二二	三甲社	十一月	▲一八九九年—一九三九年に至る油繪と素描六十五點と解說を收む。—限定版六〇〇、特製册五圓—
高見澤木版社編	宗達	菊函 布入判	圖版124 9	三、〇〇 三〇	高見澤木版社	七月	▲宗達の名作、國寶、重要美術品、未發見作等三百餘點を收錄したもの。—限定版八百部—
伊藤廉編	ルオー版畫集	四六倍判 製	14枚	九〇〇 一四	三甲社	十二月	▲デヨルヂユ・ルオーの版畫集で、風景、郊外小景、傳說的風景其他。

繪畫描法、圖案

中村不折	藝術解剖學	菊倍判	布函	裝入判	圖版29 185
足立源一郎	人物畫の描き方	四六判	上函	製入判	169
鍋井克之	風景畫の描き方	四六判	函	布入判	圖版10 188
正林陶城	現川燒の研究	菊倍判	布函	裝入判	圖版13 129
富本憲吉	製陶餘錄	四六判	上函	製入判	213
原田道寛	大日本刀劍史（中卷）	菊倍判	洋函	布入判	523
成瀨關次	戰ふ日本刀	四六判	並函	製入判	361
松本佐太郎	定本・九谷	菊倍判	洋函	布入判	圖版22 418
小野賢一郎	陶鑑（やきもの一問一答）	菊倍判	上函	製入判	235
本阿彌光法	日本刀鑑定祕法（初心者用）	四六判	洋函	布入判	233
神津伯	日本刀研究の手引	四六倍判	洋函	布入判	318
雄山閣	泰文館	寶雲舍	寶雲舍	日本社	寶雲舍
九月	九月	二月	二月	八月	六月
▲日本刀に關する重要事項を網羅して、日本刀に對する一般概念を把握せしめんとす。	▲初心者に日本刀の一通りの鑑識眼を與ふるを目的として說明したもの。	▲古陶を見る心得、初心時代、三つの觀點、白天目茶碗、萬曆朱繪など其他を收む。	▲古今の九谷燒に關する文獻を抄錄し之に評釋註解を加へたもの。別刷圖版二十二葉。	▲日本刀に關する物語を集めたもので、戰線物斬り譚、白兵戰の實相、戰線の正宗其他。	▲中卷は奈良正倉院の御物と劍、白河院の御劍鵜の丸と土岐の鵜の丸其他を收む。
五月	六月	六月	三月	一月	一月
昭森社	學藝書院	春秋社	寶雲舍	日本社	崇文堂
一、八〇	三、六〇	一〇、〇〇	七、五〇	一、五〇	二、〇〇
一〇	一四	二二	二二	一〇	一四
▲形と色、美術陶器、模樣と工藝、白磁の壺我等の工藝、窯業隨筆等其他を收む。	▲九州の仁清なる稱名の許に九州產陶中の王座にある現川燒の再認識と鑑賞をなす。				

諸工藝

中村不折	藝術解剖學	菊倍判	布函	裝入判	圖版29 185
足立源一郎	人物畫の描き方	四六判	上函	製入判	169
鍋井克之	風景畫の描き方	四六判	函	布入判	圖版10 188
正林陶城	現川燒の研究	菊倍判	布函	裝入判	圖版13 129
富本憲吉	製陶餘錄	四六判	上函	製入判	213
原田道寛	大日本刀劍史（中卷）	菊倍判	洋函	布入判	523
成瀨關次	戰ふ日本刀	四六判	並函	製入判	361
松本佐太郎	定本・九谷	菊倍判	洋函	布入判	圖版22 418
小野賢一郎	陶鑑（やきもの一問一答）	菊倍判	上函	製入判	235
本阿彌光法	日本刀鑑定祕法（初心者用）	四六判	洋函	布入判	233
神津伯	日本刀研究の手引	四六倍判	洋函	布入判	318
崇文堂	崇文堂	崇文堂	日本社	寶雲舍	泰文館
八月	十月	十一月	八月	二月	九月
▲繪畫を描くに必要とするところの系統解剖學中の藝術解剖學を研究す。	▲一通り初步の研究を習得した人々のために人物畫の描き方を指導したもの。	▲視覺に訴る寫眞を根本とした技法の研究を主として指導なしたもの。			
五、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	一、五〇	三、六〇	二、〇〇
一四	一〇	一四	一〇	一四	一四
昭森社	學藝書院	春秋社	寶雲舍	日本社	崇文堂
六月	五月	六月	三月	一月	一月
▲形と色、美術陶器、模樣と工藝、白磁の壺我等の工藝、窯業隨筆等其他を收む。	▲九州の仁清なる稱名の許に九州產陶中の王座にある現川燒の再認識と鑑賞をなす。	▲中卷は奈良正倉院の御物と劍、白河院の御劍鵜の丸と土岐の鵜の丸其他を收む。	▲古今の九谷燒に關する文獻を抄錄し之に評釋註解を加へたもの。別刷圖版二十二葉。	▲日本刀に關する物語を集めたもので、戰線物斬り譚、白兵戰の實相、戰線の正宗其他。	▲初心者に日本刀の一通りの鑑識眼を與ふるを目的として說明したもの。

書道

吉田苞竹	書道讀本	菊倍判	函	裝入判	208
實業之日本社	六月	二、五〇	一四		
▲如何したら正しく立派な字が書けるやうになるか一般向に簡明に指導す。					

寫眞

成澤玲川	寫眞集音と影	四六判	並製		380
長濱慶三	カメラと旅	新四六判	上製		243
朝日新聞社編	科學の眼（最新科學寫眞集）	菊倍判	並製		88
野崎昌人	戶外人物の寫し方（玄光社寫眞全書）	新四六判	並布	裝	173
アサヒカメラ編	戰線寫眞報告（兵隊の撮つた）	四六倍判	並製		144
アサヒカメラ編	第十回國際寫眞サロン集	四六倍判	並製		152
吉川逸男	奈良（カメラの旅）	新四六判	上函	製入判	264
林謙一	野尻湖（椿道寫眞集）	菊倍判	並布	裝	104
冬木健之介	ハイキング寫眞術（玄光社寫眞全書）	新四六判	並布	裝	175
眞繼不二夫	春の寫眞の寫し方（玄光社寫眞全書）	新四六判	並布	裝	174
一、八〇	三省堂	十月			
一〇					
二、五〇	玄光社	十二月			
一〇					
一、八〇	朝日新聞社	六月			
一四					
一、五〇	玄光社	二月			
一〇					
二、〇〇	朝日新聞社	九月			
一〇					
二、〇〇	朝日新聞社	十二月			
一〇					
二、五〇	玄光社	五月			
一四					
四、八〇	フォトタイムス社	十一月			
一二					
一、五〇	玄光社	十月			
一〇					
玄光社		四月			
▲ラヂオとカメラに關する隨筆集で、歐洲大戰とラヂオ、大觀畫伯と寫眞を語る其他。					
▲各季節別に撮影題材並に撮影地を實際本位に述べた書。					
▲肉眼では不可視の世界を、科學の眼を通して捉えた科學寫眞集。					
▲家庭的な戶外寫眞の平明な指導をなしたもので趣味の人物寫眞、太陽禮讃其他。					
▲戰鬪の餘暇に撮つた數々の戰場寫眞を收めて簡略な解說を施したもの。					
▲第十回國際寫眞サロンに應募せる世界二十二ケ國の入選作品百五十四點を收錄す。					
▲短文とカメラとでもつて古都奈良旅行を語つたもので奈良の四季、興福寺に來て其他。					
▲國際色豐かな信州野尻湖畔を圍むいろ〳〵の生活の中から美しい場面を報道す。					
▲カメラ・ハイキング、準備篇、撮影篇、其他の四章にて說明す。					
▲春の寫眞撮影についての全般を述べたもの作例をも收載す。					

大日本體育協會編	美と民族の祭典	菊倍判並製	64	二、八〇	七人社	十二月
北野邦雄	百萬人の寫眞術	横十八糎×縱十五糎上製	109	二、〇〇 九	光畫莊	七月
朝日新聞社編	氷雪に挑む 山とスキー寫眞集	菊倍判並製	88	一、七〇 一四	朝日新聞社	一月
岡田紅陽	富士山	菊倍判布函入製	269	二五、〇〇 三〇	アルス	十月
吉川速男	支光社寫眞全書 風景寫眞の狙ひ方	新四六判布裝	174	一、五〇 一〇	玄光社	九月
下島勝信	支光社寫眞全書 冬の寫眞の寫し方	新四六判布裝	174	一、五〇 一〇	玄光社	二月
寺岡德二	支光社寫眞全書 夜間撮影のコツ	新四六判布裝	176	一、五〇 一〇	玄光社	十二月
下島勝信	支光社寫眞全書 燒付のコツ	新四六判布裝	174	一、五〇 一〇	玄光社	十二月
猪野喜三郎	支光社寫眞全書 ロライ作畫法	新四六判布裝	175	一、五〇 一〇	玄光社	十二月

▲オリンピア記錄映畫、民族の祭典と美の祭典中より拔萃蒐錄せる寫眞集。

▲十數年の經驗によりすぐに役立つ寫眞術を圖解式直線コースにて述べたもの。

▲氷雪に挑んだ登山とスキーの寫眞を圖版にて收めたもの。

▲凡有る角度より富士山を撮影せるもの百五十枚を收めて其解說をなしたもの。

▲風景寫眞の中心はどこか、そして如何にして美しく撮影するかに就いてとく。

▲冬期に於ける寫眞技術の平明な解說をなしたもので寫眞眼とは、被寫眞の狙ひ方其他。

▲準備篇、實技篇の二篇にて夜間撮影の指導をなしたもの。

▲密着印畫法、原板の手入、密着用印畫紙、燒付操作、燒付の實際等其他で說明す。

▲二眼レフの代表ロライ、その他の二眼レフ群、撮影補助用具等其他で說明す。

音樂一般・音樂評論

高野瀏	音樂概論	菊倍判洋函入布	356	三、〇〇 一四	河出書房	三月
大田黑元雄	音樂そのほか	四六判洋函布	320	一、八〇 一四	第一書房	四月
門馬直衞	音樂の鑑賞	四六判上製	511	三、〇〇 一四	春秋社	八月

▲音樂の本質的理解を說き、世界各國の音樂と其の發達史を敍述せる音樂概論。

▲音樂に關するものを主として、テエマ小說映畫等についての隨筆を收めたもの。

▲音樂の鑑賞、ピアノ音樂の鑑賞、室樂の鑑賞、形式の鑑賞等他七章にて說明す。

桂近乎	レコードに依る音樂の常識	四六判洋函入布	418	二、五〇 一四	杉山書店	八月
門馬直衞	樂聖の話	四六判並製	246	一、五〇 九	新興音樂出版社	十月
草川宣雄	樂聖バッハ	四六判上製	235	一、五〇 一〇	敎文館	三月
服部龍太郎	音樂名曲全書(2) 交響詩曲全書	菊倍判洋函入布	427	四、五〇 一四	春陽堂	四月
門馬直衞	西洋音樂史要	菊倍判洋函入布	784	一〇、〇〇 二二	刀江書院	十月
グラモヒル社編	珍品レコード	四六倍判洋函入布	323	一〇、〇〇 二二	グラモヒル社	十一月
大田黑元雄譯	闘爭の一生 —ワインガルトナア自傳—	四六判洋函布	456	一、八〇 一四	第一書房	四月
シュヴァイツァー著 津川圭一譯	バッハの生涯	四六判並製	314	一、八〇 一〇	白水社	八月
原田光子譯	愛國の音樂者 パデレフスキー自傳	四六判並製	439	一、八〇 一〇	第一書房	九月
內山敏譯	パデレフスキ自傳	四六判並製	448	二、八〇 一〇	河出書房	四月
アンドレ・エヴジイ著 長松英一譯	愛の人ベートーヴェン	四六判上製	248	一、八〇 一〇	日新書院	八月
野村光一	レコード音樂 名曲に聽く 上卷	四六判上函製入	657	三、〇〇 一四	創元社	七月

西洋音樂研究

▲四十數人の西洋音樂者の簡單な傳記と、作品の大要とを通俗的に述べたもの。

▲創元的樂聖バッハの生涯を述べたもので樂の花咲くチューリンゲン、樂聖バッハ其他。

▲アルベニス、ベルリオーズ、リスト、メンデルスゾーン其他を收めて解說を施したもの

▲古代の音樂、ロマネスク音樂、ゴシック音樂、ルネサンス音樂等他六章にて敍述す。

▲珍品レコードと思ひ出のレコード物語を集む。（あらえびす）他五篇のレコード物語を集む。（關屋千郎）

▲幾多の苦難を打破して世界的巨匠の地歩を確保したワインガルトナアの自傳を邦譯す。

▲シュヴァイツァーの「J・S・バッハ」二卷の約四分の一を邦譯したもの。

▲誠實の人パデレフスキーが、その苦惱と驚くべき榮光に滿ちた人生の物語を語つたもの

▲音樂家パデレフスキの回想錄（一九一四年八月一日迄）を邦譯したもの。

▲愛の人ベートーヴェンを描いたエヴジイのベートーヴェンの內的生命の譯。

▲過去二千年に亘る西洋音樂の名曲とそのレコードに關する各種の事柄を述べたもの。

▲音樂の簡單なる發達史を述べ、次に音響學心理學、美學等を一系列に說いたもの。

日本音樂研究

野村光一	レコード音樂	名曲に聽く（下卷）	上函四六判製入	613	三、〇〇 一四	創元社	九月
朱中村謙之助次著	支那文化叢書	支那音樂史	上四六判製	304	三、〇〇 一〇	人文閣	十二月
田邊尚雄	學生文庫（5）	日本音樂概論	並四六判製	192	一、一〇 九	河出書房	六月

▲下卷は浪漫派時代、國民樂派の二篇と、追加と補遺を附錄とす。

▲進化論鐵則の下に支那音樂の歴史的進歩を究明した書で、音樂と文學以下七節。

▲學生のために日本音樂の概述をしたもので日本音樂とは何を云ふか、日本音樂の特質他

樂譜・唱歌集

佐木信綱 他三氏編		愛國唱歌	第四集	上四六倍判製	53	一、〇〇 一〇	講談社	八月
島崎藤村詩 長谷川千秋作曲	新興	一〇八名歌集	—鶯唱と合唱—	並菊判製	206	一、一〇 一〇	新興音樂出版社	十月
パースイ・ノーエル原作 山田耕筰作曲	譯編並作曲	夜明け	歌訓	上列四六判四倍函入製	359	二、五〇 二二	清教社	二十月
藤村詩作曲集				並菊倍判製入	45	二、二〇 一〇	小山書店	十月

▲支那の秋、銃後の女性、銀紙集め、いさましく、雨の進擊他十篇を收む。

▲アヴェ・マリア、永遠なる戀、おやすみ少女、戀人よ窓を開け其他收錄。

▲藝村の詩十篇を長谷川氏が作曲なしたもの千曲川旅情の歌等其他を收む。

▲ノーエルの原作になる幕末日本の抒情物語「夜明け」三幕五場を譯編並に作曲す。

演劇一般

岩田豐雄		近代劇	—紹介と批評—	以後	上函四六判製入	299	一、八〇 一四	河出書房	十二月
花柳章太郎	述	菜種河豚			上函四六判製入	370	二、九〇 一四	演劇新派社	八月
進藤誠一		フランス喜劇の研究			上函四六判製入	353	二、二〇 一四	白水社	七月

▲外國演劇に關係ある紹介と批評を收めたもので、ギウ・コロンビエ運動其他。

▲女形への疑問、殘菊物語餘談、十六夜、三升家小勝、菜種河豚其他の隨筆集。

▲コメディー＝フランセーズの沿革、ウージエーヌ・ラビッシュの喜劇他三篇を收載。

能樂・歌舞伎

河竹繁俊		歌舞伎作者の研究		洋函菊判布入製	571	六、〇〇 二二	東京堂	六月
河竹繁俊		河竹默阿彌	創元選書（60）	新四六判上製	377	一、六〇 一四	創元社	十月
三宅丸岡大二	裏編	能樂謠曲	藝談集	並函四六判製入	327	二、五〇 一四	謠曲界發行所	四月
戸川秋骨		新日本謠曲物語		上菊判製	289	三、〇〇 一〇	謠曲界發行所	二十月
內海繁太郎		人形芝居と近松の淨瑠璃		洋函菊布入判	610	八、五〇 二二	白水社	七月
能勢朝次	東京文理科大學助教授	世阿彌十六部集評釋	上	布函菊裝入判	672	五、二〇 二二	岩波書店	八月
能勢朝次	東京文理科大學助教授	能樂研究		洋函四六判布入	315	二、五〇 一〇	謠曲界發行所	二十月
野上豐一郎	岩波新書（62）	能の話		並三六判製	178	五〇 六	岩波書店	四月
三宅周太郎	創元選書（40）改修	文樂の研究		上新四六判製	349	一、五〇 一四	創元社	三月

▲近松門左衞門、三竹屋長庫、河竹默阿彌、等他五名の歌舞伎狂言作者の研究をなす。

▲近世演劇の巨人河竹默阿彌の生涯を敍述したもの。

▲能樂・謠曲に關する藝談を斯界の大家が語つたものを收錄したもの。

▲上卷は世阿彌十六部集中の世阿彌藝能論の主要なるものとして花傳書他六篇を評釋す。

▲近松研究の基礎として人形芝居と其の淨瑠璃の關係を見之を歴史的に考察したもの。

▲能の藝術論的なものや隨想的なものを收めた書で、能樂研究法其他。

▲舞臺、役者、地謠、囃子、扮裝、假面、道具、曲目等其他にて能の話を判り易く述ぶ。

▲文樂物語、文樂人形物語、批評と研究の三部にて文樂の研究をなしたもの。

舞踊・レビュー

佐藤春夫		八雲起出雲阿國		四六判布裝	101	一、五〇 九	協力出版社	七月
石井漠	筆譜	私の顏		並四六判製	352	二、〇〇 一〇	モダン日本社	八月

▲紀元二千六百年奉祝藝能祭用臺本として書かれた「八雲起出雲阿國」を收む。

▲舞踊東京、私のライカ、私の生活、私の舞踊論、海外舞踊家の横顏等を收む。

映畫

著者	書名	裝釘	頁數	定價	發行所	發行月	內容大意
大日本映畫協會編	日本映畫叢書(1) 映畫演出學讀本	上製四六判	394	二、〇〇	大日本映畫協會	十二月	▲映畫監督の生活と教養（溝口健二）等十一課より成る映畫の演出學讀本。
島津保次郎	映畫脚本集	上製四六判	376	一、八〇	通文閣	十二月	▲兄とその妹、嚙みついた花嫁、婚約三羽烏お琴と佐助等六篇のシナリオ集。
山田英吉	映畫國策の前進	菅布入四六判	331	二、三〇	厚生閣	四月	▲映畫の前進、世界の映畫國策を觀る、映畫國策を術く、映畫國策と小型映畫の四篇收載
大日本映畫協會編	日本映畫叢書(2) 映畫撮影學讀本 上卷	上製四六判	366	一、八〇	大日本映畫協會	十月	▲映畫は如何にして生れ如何にして發達したか（三木茂）等八氏が各々分擔執筆す。
今村太平	映畫と文化	並製四六判	226	一、三〇	第一藝文社	一月	▲映畫と言語、映畫と音樂、映畫と繪畫、劇と記錄、他二篇にて映畫文化の性格を考察す
上野耕三	映畫の認識	並製四六判	242	一、四〇	第一藝文社	二十二月	▲映畫理論の史的概觀、藝術的認識について映畫における娯樂性等十二篇。
エイゼン・シュタイン著 袋一平譯	映畫論	並製四六判	163	一、三〇	第一藝文社	九月	▲モンタアジュ論の最高權威エイゼン・シュタインの映畫論を邦譯す。
今村太平	記錄映畫論	並製四六判	212	一、四〇	第一藝文社	九月	▲記錄映畫に關する新らしき系統的論述をなしたもので、文化映畫と記錄映畫等其他。
北川冬彥	散文映畫論	上製四六判	211	一、五〇	作品社	一月	▲日本映畫の勁向、散文映畫論、隨想の三篇に收めた映畫評論集。
倉田文人	シナリオ論	上製四六判	203	一、三〇	第一藝文社	四月	▲シナリオに關する理論的研究と、映畫に關する隨想を收めたもの。
久保田辰雄	文化映畫の方法論	並製四六判	184	一、三〇	第一藝文社	六月	▲文化映畫に關する全概念と方法論を論述したもので一般的概念としての文化映畫其他。

六、語學

一般

著者	書名	裝釘	頁數	定價	發行所	發行月	內容大意
東京高等學校講師 宮田幸一	英友叢書(7) ヴアンドリエスの言語學	新四六判布入	188	一、二〇	興文社	十一月	▲フランスの言語學者バリー大學教授ヴアンドリエスの"Le Langage"（言語）を邦譯す
有坂秀世	音韻論	菊判布入	333	三、五〇	三省堂	二十二月	▲言韻觀念、音韻體系、音韻變化の進行過程音韻變化の諸原因他一編。
ソシュール著 小林英夫譯	言語學原論 —改譯新版—	菊判布入	332	三、五〇	岩波書店	三月	▲現代言語學の生みの親ソシュールの「言語學原論」を邦譯したもの。
飛田隆	言語形象學 —教育的國語學序說上—	四六判布入	259	二、一〇	修文館	九月	▲上卷は植民の歌、歷史と方法、解釋論、作品論の三篇にて敍す。
垣內松三	言語形象性を語る —自敍傳風に—	四六判布入	268	二、〇〇	國語文化研究所	三月	▲榮蟬の殼、素燒の瓶の二篇にて「言語形象性」—言葉の動力的構造を語つたもの。
王力著 佐藤三郎治譯	支那言語學概說	四六判洋布入	139	一、四〇	生活社	九月	▲民國二十五・六年の二年に亘つて講演せる「中國語文概論」を飜譯したもの。
魚返善雄編著	大陸の言語と文學	四六判上製入	260	二、〇〇	三省堂	十二月	▲新支那の言語（ダントン）支那の方言（林語堂）新支那の文學（ヒューズ）他二篇。
廣島文理科大學助教授 山本忠雄	文體 —方法と問題—	菊判布入	280	二、八〇	賢文館	五月	▲文體論の方法、文體論の問題、の二部にて文體論の基礎的事項を體系づけたもの。

國語

後藤朝太郎	漢字の學び方教へ方	菊判 洋布	216	一、八〇	丸井書店	十一月	▲漢字の出來方とその運用、漢字解說一・二・三・四、の五章にて述ぶ。
安藤教授還曆祝賀記念會編	記念論文集	菊判 洋布入製	1437	三、〇〇〇	三省堂	三月	▲日本譯語（淺井惠倫）桂本萬葉集の文字の考察（澤潟久孝）他五十篇の論文集。
奥水實	國語教育文庫(3) 言語教育概論	四六判 洋布	207	一、五〇	晃文社	五月	▲言語を教授しようとする人々のために、言語の學び方、見方、導き方等を說いたもの。
湯澤幸吉郎	國語學論考	菊判 布函裝入製	321	三、一〇	八雲書林 上田屋	二月	▲國語史料としての抄物、軍記物の命令形について、雜語考十則他十九篇の論文集。
佐久間鼎（九州帝國大學教授 文學博士）	現代日本語法の研究	菊判 布函裝入製	430	五、〇〇〇	厚生閣	四月	▲形容詞の特性、形容動詞、性狀語の語性、語の複合による性狀の表現他二十章にて述ぶ
菊澤季生	國語と國民性 —日本精神の開明—	四六判 洋函布入製	318	二、五〇	修文館	九月	▲國語に就いて、音韻に就て、語義上から、語義に就て、語義上から他五章。
石黑修	國語の世界的進出	四六判 並製	128	五〇	厚生閣	一月	▲世界の日本語を目標として海外に於ける日本語の發展と海外普及に關する問題を述ぶ。
山田孝雄	國語の中に於ける漢語の研究	菊判 洋函布入製	573	四、八〇	寶文館	五月	▲漢語が國語の內にあつて如何なる量を占め如何なる地位と性質とを持つてゐるかを述ぶ
藤村作	國語問題と英語科問題	菊判 洋函布入製	243	二、二〇	白水社	五月	▲國語問題及英語科問題に關する諸論文を集めたもので、國語の醇正統一について他十篇
石黑修	日本語の問題 —國語問題と國語教育—	四六判 洋函布入製	272	二、二〇	修文館	九月	▲國語の問題とその教育、國語教育と國語問題等他一部。
新村出	創元選書(67) 日本の言葉	新四六判 上製	352	一、六〇	創元社	十二月	▲日本の言葉に就ての研究を收めたもので、日本人と南洋、天平時代の國語等廿六篇。
國語教育學會編	標準語と國語教育	菊判 洋函布入製	444	三、五〇	岩波書店	九月	▲國語と國民性（久松）標準語と方言（東條）東京語批判（柳田）他十八篇を載錄す。

作文・式辭

尾直三郎（文學士）	これだけは知らねばならぬ 挨拶と演說	新四六判 洋布	245	一、〇〇	大同出版社	七月	▲各項別に幾多の式辭、挨拶の模範實例を示して、挨拶と演說の指導をなす。
小瀧操編	新美文斷錦	四六判 並製	278	一、五〇	桑文社	九月	▲幾多の作品中より美辭麗句を摘出して、春夏秋冬雜の五部に分け收めたもの。
尾直三郎（文學士）	これだけは知らねばならぬ 兵士挨拶の仕方	新四六判 洋布	252	一、〇〇	大同出版社	八月	▲出征兵士の歡送會、凱旋兵士の歡迎會等にて必要な演說挨拶の仕方を述ぶ。

書翰文・習字

木田重三郎（文學士）	これだけは知らねばならぬ 慰問文の書方	四六判 上製	213	一、〇〇	大同出版社	十二月	▲慰問文の書き方、戰地への慰問文、傷病兵への慰問文其他に分け收む。
篠原豐	最新書翰文辭典	四六判 上製	653	二、五〇	テンセン社	四月	▲一般書翰文、女子手紙文、軍事演說文例、慰問手紙文等書翰文の全般を指導す。
光學館編輯部編	ハガキ切信 昭和の手紙	四六判 並製	202	六〇	光學館	一月	▲ハガキ文卽ち短信を書かうとする人達への手引きとして指導したもの。
三好凌石	すぐ役に立つ 手紙實用文	四六判 並製	187	八〇	昇龍堂	十月	▲應用を自在にしてすぐに役立つやう文例を多數示して指導なしたもの。
酒井歌彥	習字手本を兼ねた 手紙の書方	四六倍判 並製	165	二、一〇	潮文閣	十二月	▲書翰文組織上の用語並に作例及類句を揭げ習字手本を兼ねたもの。
三好凌石述書	このまゝ役に立つ 手紙文の作り方と毛筆ペン字書き方	四六判 並製	329	一、三〇	昇龍堂	六月	▲手紙に關する最も必要な作り方の要領を實用向に述べたもの。

ローマ字

上原征生（ハワイ大學教授）譯	原文英譯 ローマ字 日本童謠集	菊判 上製	103	二、八〇	北星堂	二月	▲日本にて現在愛唱されてゐる童謠を英譯したもので、羽衣（Angel's Dance）其他。

英語研究書・學習書

佐々木達	山形高校教授	英語學の周邊	四六判並製	180	一、二〇	矢の倉書店	五月
田中菊雄		英語研究者の爲に	四六判並製	229	一、五〇	北光書房	十一月
乘田利喜太郎譯	アーサー・バーニー著	經濟學概說	四六判洋布	201	一、五〇	研究社	十一月
二反田鶴松	今宮職工學校教諭	自修工業英語ABCから	四六判洋布	271	二、四〇	工業圖書株式會社	九月
柴染太郎編		英米社會實務事典	菊半洋布函入	906	三、〇〇	研究社	十一月

▲古典と標範、言葉の言葉、標準日本國語の確立、言語的不感症其他を收めた隨想集。

▲英語研究者のために英語に關する凡ゆる知識を說いたもの。

▲初めて經濟學に親しまんとする人々に經濟學の知識と興味を與へる語學經濟學讀本。

▲通俗平易に基礎的工業英語の一般を二十三課に收めて講述したもの。

▲四十餘年の體驗中に得た數々の實務知識を分類收錄なしたもの。

英語譯註書・英文著書

市河晴子		アメリカ紀行 —英文—	四六判上製	102	一、五〇	研究社	一月
野口勇譯		明日來りなば	トーキー英語研究叢書(3) 四六判並製	107	一、〇〇	世界堂	八月
市河晴子		イギリス紀行 —英文—	四六判上製	170	一、八〇	研究社	一月
ホワイト著 市河三喜解註		セルボーンの博物誌	研究社英文學叢書(118) 新四六判洋布	452	三、〇〇	研究社	十月
松浦嘉一解註	東京高等學校教授	ダン詩選	現代英文學叢書(119) 新四六判洋布	277	二、五〇	研究社	十月
大島正德		やまと心	四六判洋布	196	三、〇〇	北星堂	二十月

▲婦人文化使節として米大陸を巡歷した時の視察記十六篇を英文にて收めたもの。

▲ユニヴアサル映畫 "When tomorrow comes" を對譯なしたもの。

▲英國の自然風物及び國民等を批評觀察し縱横に描寫せる十九篇の英文紀行集。

▲昆蟲の生活や野鳥の生態を觀察研究せる "The Natural History of Selborne" を譯註

▲John donne の "Poems" を解註なしたもの。

▲眞の日本及び日本人の姿を海外人に紹介せる書。—英文—

戸川明三註釋		ユウトピア	研究社英文學叢書(132) 新四六判洋布	274	二、五〇	研究社	十二月
澤村寅二郎	對譯傳註	ロメオとヂユリエット	四六判洋布	272	二、〇〇	研究社	九月
山本晃紹		A Grammer of Spoken Japanese.	四六判布裝	401	五、〇〇	岡崎屋	九月
小泉八雲著 西崎一郎編		Barbarous Barbars and Other Stories. —鬼屋床屋そのほか—	四六判洋布	319	一、七〇	北星堂	一月
小泉八雲著 西崎一郎編		Buying Christmas Toys and Other Essays. —クリスマスの買物其他—	四六判洋布	166	一、五〇	北星堂	一月
鹽谷榮		Chushingura an exposition —忠臣藏—	菊判布裝	236	四、五〇	北星堂	三月
岡田美津		Good Wives.	新四六判洋布	239	一、八〇	研究社	七月
小泉八雲著 西崎一郎編		Literary Essays. —文藝論集—	四六判洋布	209	一、五〇	北星堂	一月
野口勇	早稻田大學助教授	Men With Wings —翼の人々—	トーキー英語研究叢書(1) 四六判並製	149	一、〇〇	世界堂	三月
小泉八雲著 西崎一郎編		Oriental Articles. —東洋思潮—	四六判洋布	260	一、七〇	北星堂	一月
火野葦平著 L・ブッシュ譯		Sea and Soldiers. —海と兵隊—	四六判並製	172	一、二〇	研究社	九月
岡倉覺三著 岡村博解註	九州帝大教授・文學博士	Shakespeare in Japan. 日本に於けるシエイクスピア研究	菊判上製	139	一、五〇	岩波書店	十月
	田實	The Awakening of Japan. —日本の目覺め—	四六判上製	180	二、〇〇	研究社	五月

▲理想的な社會制度及び風俗を描いたモアのユウトピアに解說註釋を加へたもの。

▲シエクスピアの「ロメオとヂユリエット」を對譯傍註なしたもの。

▲英文で述べた日本口語文法。

▲アメリカ時代に探訪記者として現實に拾ひ集めた浮世草子的實話集。

▲アメリカ時代におけるものを集めたもので隨筆風なもの四十五篇收錄す。

▲我國が世界に誇る忠臣義士の精神を英文にてものしたもの。

▲オルコット女史 "Little Women" の後篇をなす少女物語 "Good Wives" を譯註す。

▲八雲のアメリカ時代の作品を收めたもので本輯は「文藝」主筆時代の文藝論を收む。

▲パラマウント映畫「翼の人々」のシナリオを英和對譯したもの。

▲東洋に憧れ日本に魅力を感じて遂に逢萊の島に歸化した八雲のアメリカ時代の作品收載

▲火野葦平氏の「海と兵隊」を英譯なしたもの。

▲日本英學史の一環として、我邦に於けるシエクスピア研究の歷史的展開を敍述す。

▲「日本の目覺め」を村岡氏が解說註釋なしたもの。

伊地知純正	The life of Marquis Shigenobu Okuma. —大隈侯傳—	菊判 洋布	423	六、〇〇 二二	北星堂	九月	▲明治の大政治家大隈重信侯の生涯を英文にて敍述したもの。
日本學術振興會編	The Manyoshu. —英譯・萬葉集—	三三 洋函 布入	509	八、〇〇 二二	岩波書店	四月	▲日本文學史上輝かしい光彩を放つ「萬葉集」より一千首を選び懇切な英譯をなす。
小泉八雲著 西崎一郎編	The New Radiance and Other Scientific Sketches.	四六 洋判 布	238	一、四〇 一〇	北星堂	一月	▲"The New Radiance" 他三十六篇の科學隨筆を收めたもの。
谷口勝作 フインチャ 岡田よし譯	The Soldier's log: —10,000 Miles of Fattle—	四六 洋判 上製	176	二、〇〇 一〇	北星堂	五月	▲事變に於ける兵士の忠烈を描いた谷口氏の「征野千里」を英譯なしたもの。
獨逸語							
大野勇二	誰にも分る基礎ドイツ語講話	四六 洋判 布	324	一、八〇 一四	日光書院	四月	▲雜誌に連載された「基礎ドイツ語」講座を訂正增補して初學者向きに平明に指導す。
關口存男編	高等獨逸文典	菊判 洋布	229	一、六〇 一〇	三省堂	一一月	▲獨逸語を第一語學とする學級のために編集した稍程度の高い文典。
大谷大學教授 池山榮吉譯	閱和對照 歎異鈔	四六 洋判 布	112	一、五〇 九	法藏館	二一月	▲親鸞上人の「歎異鈔」を獨逸語に飜譯せるもの。
飯沼元	電氣基礎ドイツ語	四六 洋函 布入	356	二、〇〇 一〇	ラヂオ科學社	二月	▲電氣工學中通信工學を專攻する者を目標にして電氣基礎ドイツ語の指導をなす。
桃井鶴夫	獨逸語發音の研究	四六 上製	147	一、〇〇 一〇	太陽堂	二一月	▲獨逸語を學ぶ上に最も重要である發音の一般其他を詳細に說明せる書。
岡本修助	獨逸文法入門三十講	四六 上製	151	二、〇〇 九	藝文書院	一〇月	▲獨逸文法の基礎的知識を平易に、組織的に三十講にて述べたもの。
竹內萬兵衞	註釋 獨文書簡	四六 洋判 布	199	二、〇〇 一〇	南江堂	三月	▲「一人の日本人と一人の獨逸人との間の文通」の意の許に獨文書簡の指導をなす。
櫻井忠溫著 シンチンゲル譯	肉彈	四六 洋判 上製	206	二、五〇 一四	世界公論社	八月	▲皇軍の忠勇を物語つた世界的名作櫻井氏の「肉彈」を獨譯なしたもの。

土井晚翠作 小池堅治譯	野口英世頌	菊判 並製	147	一、八〇 一〇	野口英世博士記念會	五月	▲我國が生んだ大醫學者野口英世氏を讃へた土井氏の詩を小池氏が獨譯なしたもの。
佛蘭西語							
東京外語教授 鷲尾猛	基礎フランス語	四六 菅洋 布	157	一、二〇 一〇	大學書林	六月	▲體系的にフランス語の基礎的解說をなしたものでフランス語を學ぶに就て他三十一講。
伊太利語・西班牙語							
栗田三吾	語學入門長書 伊太利亞語入門	三六 並製	196	一、二〇 六	三省堂	十月	▲全然伊太利亞語の知識のない人を對象として說いた伊太利亞語入門。
村岡玄	新エスパニア語文典	四六 洋函 布入	264	二、五〇 一〇	大觀堂	五月	▲初學者、獨習者にも把握出來るやうスペイン語文法の要項を記述したもの。
露西亞語							
米川正夫	簡易露語教程	四六 洋判 布	217	二、五〇 九	三省堂	八月	▲ロシヤ語修得の指導を二部制にてなしたもの。
岩岡英一 大久保邦男	基礎ロシヤ語講話	新菊 洋函 布入	355	三、五〇 一四	杉山書店	二十月	▲英語の知識を活用してロシヤ語の學習がなせる樣講述した書で、動詞他廿一講。
滿洲語・支那語							
外務省職員 岩村成允	支那現代文講座詳解	四六 洋判 布	202	一、二〇 九	日本放送協會出版	一月	▲支那現代文を收錄して、之に訓讀、字解、飜譯歐文發音等を施したもの。
上野光永郎	社交と實用 支那語會話の手ほどき	三六 洋判 布	232	一、五〇 九	太陽堂	四月	▲全然支那語の知識のない人にも判るやうに支那語の第一歩を說明したもの。
表文化	支那語會話練習帳	四六 上製	198	一、五〇 九	タイムス出版社	九月	▲中等程度の會話を中心とした支那語會話練習帳。

杉武夫編著	現地携行 支那語軍用會話	袖珍 洋布	286	一、〇〇 六	外語學院部	九月	▲大陸の第一線に於て警備に又治案工作に當り必要缺くべからざる日常會話を收む。
諏訪廣太郎	巡査 支那語講座 上卷	四六判 並製	240	一、三〇 九	太陽堂	十一月	▲初めて支那語を學ぶ人に適するやうに、日常多く使用せられる支那語を網羅して說く。
陳文彬	支那語自修讀本	四六判 洋布	107	一、〇〇 六	大阪屋號	九月	▲中國語の初級程度を修了した者にして獨力で中級程度の讀物を讀まうとする人向に適ぶ
徐仁怡	神戸高等商業學校講師 支那語第一步	菊判 洋布	319	二、〇〇 一四	白水社	四月	▲初學者のために日常多く使用せられる言葉を集めて平易な手ほどきをしたもの。
奈良一雄	支那語の手紙 やさしい	三五判 洋布	299	一、四〇 九	三修社	九月	▲支那語の基礎知識を有する者のために、口語體の手紙の書き方を手ほどきしたもの。
澤田星樹	支那時文解釋法	四六判 上製	188	一、三〇 一〇	健文社	十二月	▲近來の中國新聞その他の時文書籍等より例題を收めて解說を施す。
神谷衡平 有馬健之助	支那時文研究	四六判 洋布	402	二、三〇 一四	三省堂	六月	▲新申報、庸報、民衆報等其他雜法や官報から題材を取つて支那時文の指導をなす。
山口高等商業學校教授 鐘ケ江信光	必携 實用日支會話	袖珍 並製	301	一、六〇 六	外語學院出版部	五月	▲短句を多く使用し實用的支那語會話の手ほどきをなす。卷末に交際常識を附す。
諏訪廣太郎	正しい支那語會話の學び方と話し方	三六判 洋布	233	一、五〇 九	太陽堂	八月	▲小學校卒業程度のものにも理解出來る支那語會話の指導をなしたもの。
奈良一雄	日支會話入門	三五判 洋布	342	一、三〇 九	三修社	九月	▲支那語の入門より始めて、日常必須の簡易な實用會話を修得出來るまでを說く。
倉田重太郎	日本語・廣東語會話	四六半截 洋布	150	七〇 六	岡崎屋	六月	▲日支兩國人のために日本語、支那語の日常會話を指導す。
南方事情研究會編	速成馬來語會話	袖珍 洋布	101	八〇 三	三省堂	十月	▲南洋旅行者のために、最も簡單に馬來語の手ほどきをなしたもの。
宇治武夫	馬來語廣文典	四六判 洋布	480	三、八〇 一〇	岡崎屋書店	十二月	▲馬來語の字體と綴字、馬來語の分類、馬來語の運用、馬來語の文章等にて馬來語を說く

國漢・故語辭典

樂師學院教官 小島武男編	日蒙支露會話	三五判 布	187	一、〇〇 六	春陽堂	九月	▲北支・蒙疆・外蒙・滿洲・シベリヤ等にて活躍せんとする人々向に編んだもの。
恒遠毅	永字式索引 漢和辭典	四六判 洋布	1620	四、三〇 特三、三〇	三省堂	八月	▲永字式索引による漢和辭典。
教材社編輯所編	執筆上當識 故事・成語典	新四六判 上製	276	一、五〇 九	教材社	四月	▲一般の常識として留意せねばならぬ、故事成語の平易な解說をなす。
藤樫準二	皇室敬語便覽	三五判 布裝	173	七〇 六	東京日日新聞社 大阪毎日新聞社	十月	▲皇室に關する敬稱・敬語の解釋と正しき使用法を說明したもの。
三省堂編輯所編	類語活用必携	三五判 洋布	334	七〇 六	三省堂	六月	▲實用を眼目として、日常吾人が文章を作るに必要な多くの類語を收めて解說す。

外國語辭典

吉本英一	新語と新形容	菊半截 洋布	224	八五 六	桑文社	十二月	▲現在日常我々が使用してゐる新しい言葉を一通りあつめて說明したもの。
東京帝國大學教授 文學博士 市河三喜編	研究 英語學辭典	菊判 洋布	1165	九、〇〇 特八、〇〇	研究社	一月	▲語學者の傳記をも收め英語學に屬する或は關係ある凡有る事項を敍述說明す。
文求堂編	支那文を讀む爲の 漢字典	三五判 洋布	660	二、八〇 二四	文求堂	十月	▲上海商務院書館發行の學生字典を邦文に飜譯し更に增補をなしたもの。
岩崎民平編	簡約英和辭典	四六判 洋布	1819	四、八〇 三三	研究社	二十月	▲現代英語を主とし新語、復語等をも收めた英和辭典。
諏訪廣太郎編著	かな發音つき 支那語新辭典	袖珍 並製	413	一、八〇 九	太陽堂	十月	▲實用を旨とし、初學者用として編纂されたかな發音つき新辭典。

著者	書名	形	體	頁	定價	發行所	發行月	内容大意
文學博士 齋藤阿具	地名人名英獨佛語對照表	菊半裁 上製	三六	興文社	三月	▲中等教育を受けた者の知れる英語を基本として各種の地人名を英獨佛語に對照さす。
三省堂編輯所編	圖解辭典 日英獨佛	菊 布函	二三〇	三省堂	一月	▲我々が日常遭遇する事物と現象を四百七十圖版に收め十四項目に分類し解說す。
石原質編	獨和辭典 明解	四六 洋函 布入判	897	特三、五〇〇 一四	四、五〇〇	南山堂	十一月	▲ラテン文學をも採用して編んだ獨和新辭典
木村謹治 相良守峯	獨和辭典	三五 洋函 布入判	1658	特五、七〇〇 一四	六、八〇〇	博文館	三月	▲新時代に適應して編纂せる獨和辭典。
三省堂編輯所編	日華會話辭典	三五 洋 布判	363	一、〇〇 九	三省堂	六月	▲兩國人に使用出來、實際に役立つよう編まれた日華會話辭典。
東京帝國大學教授文學博士 木村謹治	和獨辭典	三六 洋函 布入判	1471	特六、〇〇〇 一四	七、〇〇〇	博文館	三月	▲嚢に刊行せる「和獨大辭典」を基礎にして其半分位に縮少なしたもの。

文學博士 西村眞次 著

日本民族理想

日本文化、日本文明、日本民族理想、日本民族教育等を最も簡潔に論じた書。

—東京堂版—

定價二、三〇 送料一四

七、歷史・傳記

史學一般

著者	書名	形	體	頁	定價	發行所	發行月	内容大意
廣島史學研究會編	史學研究 第十一卷第二號	菊 並製	125	六〇	中文館	一月	▲蒙古征歐の英國に及ぼせる影響とその現存史料（杉本直次郎）他四論文を收錄す。
廣島史學研究會編	史學研究 第十一卷第三・四號	菊 並製	230	一〇	中文館	四月	▲本輯は史學史特輯で吾妻鏡記述の態樣について（山中武雄）他五論文と文獻目錄收載。
廣島史學研究會編	史學研究 第十二卷第一號	菊 並製	108	六〇	中文館	七月	▲リフオルメーション史論（渡邊鼎）御家人と本領安堵（山中武雄）他一論文を收錄。
廣島史學研究會編	史學研究 第十二卷第二號	菊 並製	118	六〇	中文館	十一月	▲牢人としての新井白石・上（栗田元次）政治史學の本領・四（池田來）他二篇と彙報。
歷史教育研究會編	肇國精神の傳統	菊 上製	214	一、三〇 一四	四海書房	八月	▲皇紀二千六百年奉祝と古今の史實（中山久四郎）他十八篇の論文集。
大久保利謙	日本近代史學史 日本歷史叢書（11）	新四六 上函製入判	277	一、五〇 一〇	白揚社	十月	▲明治初年の我國近代史學の勃興を中心として序說的立場からその主潮を跡づけんとす。
秋山謙藏	歷史と環境	四六 布函 裝入判	379	二、三〇 一四	創元社	十月	▲傳統と創造、海と日本民族、日本文化の環境、日本の理念等其他を收めた歷史評論集。
秋山謙藏	歷史と現實	四六 上函 製入判	371	二、〇〇 一四	創元社	一月	▲歷史の構成、アジアの變貌、日出づる國と日沒する國其他を收めた歷史評論集。

先史學・民族學・民間傳承

秋山謙藏	歷史の前進	菊	316	三、〇〇	四海書房	一月
柳田國男	妹の力（創元選書(55)）	新四六判上製	404	一、六〇	創元社	九月
岩倉市郎	おきえらぶ昔話	四六判並製	290	一、五〇	民間傳承の會	三月
柳田國男	海南小記（創元選書(44)）	新四六判上製	299	一、四〇	創元社	四月
考古學會編	鏡劍及玉の研究	菊判洋函布入	409	四、〇〇	吉川弘文館	九月
柳田國男	食物と心臟（創元選書(45)）	新四六判上製	315	一、五〇	創元社	四月
柳田國男	傳說（岩波新書(72)）	三六判並製	180	五〇	岩波書店	九月
平泉澄（東京帝國大學教授 文學博士）	傳統	菊判洋函布入	649	六、〇〇	至文堂	一月
西村眞次	傳統と土俗	四六判上函製入	292	二、〇〇	人文書院	五月
原田淑人（京都帝國大學教授 文學博士）	東亞古文化研究	菊判洋函布入	81 542	七、五〇	刊行會座右寶	一月
白柳秀湖	東洋民族論	四六判洋函布入	372	二、〇〇	千倉書房	五月
梅原末治	日本考古學論攷	菊判洋函布入	88 783	一〇、〇〇	弘文堂	一月

▲妹の力、玉依彥の問題、玉依姬考、雷神信仰の變遷等他八篇の民間傳承を收む。

▲沖永良部島昔話を集めたもので猫の面、魚の珠、紙着物、照手の姬、大蛇と童女其他。

▲海南小記、興那國の女たち、南の島の清水、炭燒小五郎が事、阿遲厚佐の島、以上收錄。

▲上代古墳出土の古鏡に就いて（梅原末治）垂玉考（樋口清之）他二十三篇の論文集。

▲食物と心臟、米の力、生と死と食物、モノモラヒの話、酒もり鹽もり他八篇を收む。

▲「傳說とは何か」といふ問を掲げ、傳說の本質、成立の要件、傳承の變遷等にて答ふ。

▲日本の美しき傳統に關する六論文と、フランスに於ける傳統主義を敍述したもの。

▲史觀世觀、民族民譚、人格書格の三篇に收めた史學隨感集。

▲過去三十年間に發表せる論文中から四十八篇を選集したもので唐代女子化粧考其他。

▲滿洲を緩衝地帶として押しつ押されつした南北兩民族の四千年に亘る血統と文化を敍す論講二十二篇を集錄す。

▲支那考古學論攷の姉妹篇で日本考古學上の

▲アジアとヨーロッパ、日本の歷史と現實、明治維新史觀の進展他十二篇の論文集。

世界史・西洋史

肥後和男	日本精神	並四六判製入	200	一、一〇	弘文堂	十二月
越川彌榮	最新日本神話の研究	洋四六判布	276	一、八〇	テンセン社	七月
西村眞次	日本人と其文化	洋函四六判布入	323	二、五〇	富山房	八月
柳田國男	日本の傳說	上四六判製	270	一、五〇	三國書房	十二月
藤木九三編	ヒマラヤの傳說	上菊判製	178	一、三〇	朝日新聞社	二月
後藤興善	又鬼と山窩	布函四六判裝入	310	二、五〇	書物展望社	十二月
小林秀雄（立教大學文學部長）譯	民族學研究法（クレーブナー）	洋函四六判布入	337	二、五〇	十字屋書店	十月
大日向喰代勝譯	民族性格學	上四六判製	177	一、五〇	刀江書院	九月
神近市子（レイモン・コフマン著）譯	アメリカ史物語	並四六判製	390	一、八〇	白水社	十二月
藤原守胤	アメリカ建國史論（下卷）	洋函菊判布入	688	五、五〇	有斐閣	十二月
藤原守胤	アメリカ建國史論（上卷）	洋函菊判布入	660	〃 五、五〇	有斐閣	十二月
E・ビッタール著 古在學譯	人種學的に見たる民族發達史(5) アフリカ・アメリカ・太洋洲の人種	並菊判製	126	一、四〇	泰山房	二月

▲日本歷史の始まる所に來る古史神話の考察をなしたもの。

▲日本神話の特質とするところを闡明したもので神話の本質及研究の必要其他。

▲日本民族の理念、日本人の構成及び發展過程、先史時代の日本等其他を收む。

▲日本各地の傳說を纂錄したもので、嗅のをば樣、驚き清水、大師講の由來其他。

▲チョモルンマの魔鳥、野狐の仁義、黃金の椅子、猿智慧、他三篇の傳說集。

▲又鬼及び山窩の特殊生活者を調査研究せるもので、山窩記、マタギ綺談其他。

▲フリッツ・グレーブナーの「人類學研究法」"Methode der Ethnologie" を飜譯す。

▲ベルリン大學教授エドワルト・シュプランガー博士の「民族性格學」を邦譯す。

▲第五分冊はアフリカの人種、アメリカの人種、太洋洲の人種の三篇を譯載す。

▲上卷は大英帝國と植民地自治を取扱つたもので、英帝國の起源他十章。

▲下卷は獨立革命と聯邦憲法に就て述べた書で、王領植民地制度他八章。

▲アメリカの年少者を對象として書かれた "Our America" を飜譯なしたもの。

吉田彌邦	エルネスト・ラヴィス著	ラヂオ新書(31)	イタリア史話	三六判並製	186	五〇	日本放送出版協會	十一月	▲ナポレオン一世のイタリア統治頃より現代ファシスタ政治の施設等につき概述す。								
廣瀬哲士			歐洲史	四六判並製	276	二、〇〇	牧野書店	三月	▲複雑せる歐洲史を概括的に敍したラヴィスの「歐洲史」を邦譯したもの。								
高木友三郎	郵政學博士		海洋世界興亡史	四六判並製	245	一、六〇	興亞日本社	六月	▲海上權と一國の經濟並に國力との相關關係を說いたもので日本史上の海上權と國力他。								
長壽吉	九州帝國大學教授 文學博士		概觀西洋通史	菊判入製	530	四、五〇	同文書院	六月	▲興亞の新精神を省察し、西洋古今發展の狀勢を通觀し佛蘭西書を參酌せる西洋通史。								
ハンナー・レウイン・ドルシ・ハインリヒ・クノー著 高山洋吉譯			技術の起源	菊判入製	351	三、〇〇	日本評論社	四月	△ドルシ夫人クノー博士の共著「古代及び原始的文化段階に於ける技術」の邦譯。								
G・P・グーチ著 守譯			近代歐洲史	四六判菊判入製	447	二、五〇	改造社	八月	▲今日英國の史學界に王座を占むる著名なグーチ博士の「近代歐洲史」の譯。								
G・P・グーチ著 守譯			菊池 下卷 近代歐洲史	四六判菊判入製	404	二、〇〇	改造社	十月	▲下卷は第十一章英露協商、第十二章近東問題、第十三章英獨の角逐他六章を邦譯す。								
ゲルマン民族物語	ドイツ神話		黒田禮二	四六判並製	240	一、五〇	大日本法令出版株式會社	十一月	▲ゲルマン民族が持つ「神話」の唯一の文獻集たる「エッダ」中より數話を抄譯したもの。								
赤木健介			世界史入門	四六判並製	309	一、六〇	白揚社	七月	▲世界史の概要を把握せしめんとしたものでアレグロ・古代、アンダンテ・中世他二章。								
G・イーストー著 小原敬士譯			世界史の自然的基礎	菊判入製	208	二、五〇	生活社	三月	▲ゴードン・イーストの近著「歴史の背後における地理學」を邦譯したもの。								
ヴアン・ルーン著 柴田賢一譯			太平洋物語	四六判並製	392	一、八〇	青年書房	十二月	▲パナマ運河、地峡地帶の過去と現在、有史前の太平洋等十篇。								
圓地與四松	ラヂオ新書(27)		ドイツ史話	三六判並製	156	五〇	日本放送出版協會	九月	▲獨逸の民族と建國、宗教改革と獨逸文化、ビスマルク時代、ヒットラー時代等其他。								
富田幸	現代學藝全書(44)		獨逸史總說	新四六判上製入	256	一、〇〇	三笠書房	十一月	▲獨逸民族の觀察を通して獨逸史全般を敍述したもので、原始ゲルマン人他十七章。								

東洋史

F・L・アレン著	大使館一等書記官		福田實譯	米國現代史	四六判並製	388	一、八〇	改造社	四月	▲一九一八年對獨戰爭終結より其後十一年間を描いた"Only Yesterday"の全譯。							
ヘロドトス著			青木巖譯	歴史 上卷	菊判入製	445	四、八〇	生活社	八月	▲第十八世紀と今回と二度亡國の悲運に見舞はれた波蘭の興亡史を敍述す。							
木村惇				波蘭興亡史觀	菊判上製	220	一、八〇	日本國際協會	八月	△古代東西爭鬪史を描いたヘロドトスの「歴史」卷四迄を邦譯收載したもの。							
顧頡剛著	創元支那叢書(3)		平岡武夫譯	古史辯自序	四六判並製	232	一、五〇	創元社	六月	▲民族學的視野から古史の眞實を究めんとする現代支那の史學者顧氏の古史辯自序の譯。							
內田吟風	支那歴史地理叢書(5)		古代の蒙古	四六判並製	184	一、二〇	富山房	五月	▲太古の蒙古、西暦前第九—三世紀の蒙古、匈奴制覇下の蒙古の三篇にて敍述す。								
有高巖	文學博士		興亞國民東洋史	四六判並製	486	三、八〇	同文書院	一月	▲上古史、中古史、近古史、近世史、現代史東洋史通觀の六篇にて興國民の東洋史を敍す								
任先著	支那文化叢書		山崎時夫譯	支那教育史 下卷	四六判並製	269	二、〇〇	人文閣	五月	▲下卷は第十章清代の教育思想他一章を邦譯す。第十一章近代の教育思想、							
佐野袈裟美	支那文化叢書		支那近代百年史 下卷	洋菊判入製	565	四、五〇	白揚社	一月	▲下卷は第十章列强の對支鐵道政策、戊戌政變・義和團事變他九章にて敍述す。								
陳登原著			菅茂譯	支那近代文化史	四六判上製	319	三、〇〇	人文閣	八月	▲陳登原著「中國文化史」上下二卷の中その下卷たる近古、近世の二章を全譯したもの。							
景山直治			支那史物語	四六判上製入	279	一、六〇	清教社	十月	▲「十八史略」を經とし「史記」其他を緯として物語風に支那史を編述す。								
F・L・ホークポット著			柴田賢一譯	支那通史	四六判並製	356	一、八〇	高山書院	十一月	▲數年に亘る多岐多端、且つ多樣なる支那史を一圓に纏めたホークポットの著を譯す。							
文學博士			諸橋轍次	支那の家族制	菊判入製	506	四、五〇	大修館	五月	▲婚姻篇、喪葬篇、祭祀篇、宗廟篇、名字諱諱篇、親屬篇、姓氏篇の七篇にて敍述す。							

村田治郎	支那の佛塔（支那歴史地理叢書(9)）	菊	四六判	156	一、二〇	冨山房	十月	▲形態を中心にしてみた支那佛塔史を敍述したもので、佛塔敍說、支那佛塔概說其他。	陳登原著 布施知足編譯	支那文化史	菊	四六判	453	二、二五	白揚社	十一月	▲著者の「中國文化史」を編譯したもので、上古中古近世の四篇に分け簡明に記述す。
出石誠彦	支那文化史觀（ラヂオ新書(7)）	新四六判	198		日本放送出版協會	一月	▲東亞の風土と民族、民族勢力の消長、王朝の興亡、支那文化の發祥他十一講話を收む。	宋文炳著 草野文男譯	支那民族構成史	菊	四六判	284	二、〇〇	人文閣	二月	▲四千年の歴史を持つ、支那民族を敍述した宋文炳の「中國民族史」を邦譯す。
松岡壽八	支那民族性の研究	菊	四六判	340	二、〇〇	日本評論社	十月	▲支那民族發生論、支那民族成立論、支那民族の混亂、支那民族再生論他六章にて述ぶ。	東亞經濟調査局 須山卓	支那民族論	菊	上製	174	二、〇〇	慶應書房	三月	▲西南の支那の民族及種族を中心にして支那民族を論述したもの。
加藤顯治	興亡五千年 支那歴史の話	菊	四六判	532	二、〇〇	桑文社	九月	▲傳說・物語・逸話等を取入れて興亡五千年に亘る支那歴史を平明に敍述す。	岡成志	千萬人の支那歴史	菊	四六判	337	一、八〇	代々木書房	七月	▲革命以後に於ける支那歴史を興味深く述べたもので、若い女の頭蓋骨他五十四話。
加藤繁編	池内博士還暦記念 東洋史論叢	菊	洋	912	八、五〇	座右寶刊行會	四月	▲高麗忠定王朝の倭寇に關する一二の考察（青山公亮）他三十四篇の東洋史論文集。	宮崎市定	東洋に於ける素朴民族と文明主義の社會（支那歴史地理叢書(4)）	菊	四六判	197	一、一〇	冨山房	五月	▲古代に於ける文明主義社會の成立、中世に於ける素朴民族の活動他一篇にて說く。
青木文教	西藏文化の新研究	菊	四六判	283	三、一〇	有光社	二十月	▲西藏の眞貌に就て述べた書で、國名の解說地理概說、民族の由來等十二章。	土岐田日出男・田刀龜城	熱河遺蹟	横菊	廿七廿三	鋼版52 16	七、〇〇	相模書房	八月	▲熱河省の遺蹟を寫眞圖版百二頁に收めて紹介なしたもの。
蔡元培主編 井東憲譯註	我が民族	菊	四六判	256	一、二〇	秋豐園出版部	一月	▲蔡元培他二氏の校訂の下に張其昀氏が編輯せる「中國民族史」を抄譯し註と文獻を附す。									

稻葉岩吉	滿洲國史通論	菊	洋	393	三、八〇	日本評論社	四月	▲康德五・六年兩度に亘り、建國大學生に對して行つた講義を增補訂正なしたもの。	文部博士 清原貞雄	飛鳥白鳳國民の精神生活（日本思想史(2)）	菊	洋	946	特三四、五〇 三八〇 二二〇	維新史料編纂事務局	四月	▲弘化三年の孝明天皇踐祚より明治四年の廢藩置縣に至る迄の政局の推移を敍說す。
宛田茂丸	橿原の遠祖	菊	布	262	二、八〇	平凡社	二月	▲古事記、日本書紀、古語拾遺等を參照して神武天皇の御鴻業を謹記し奉つたもの。	維新史料編纂事務局	概觀維新史	菊	洋	239	二、五〇	中文館	九月	▲佛教儒教等が外來し大陸文化攝取時代である飛鳥白鳳時代の思想史を研究す。
花見朔巳	鎌倉時代概觀（ラヂオ新書(30)）	三六判	並	168	五〇	日本放送出版協會	十一月	▲鎌倉時代に關する國史論文集十篇を纂錄したもので、鎌倉時代の武士道其他。	齋藤隆三	近世世相史概觀（創元選書(59)）	新四六判	上	292	一、四〇	創元社	十月	▲江戸初期より大正の終り迄を數期に分けて世相を窺ふべき重要問題を擧げて敍述す。
佐々木三治郎	現代日本國民史	四六判	並	230	一、三〇	人文閣	二十月	▲簡易に趣味的に國史の全體を敍述したもので、皇國の肇、義は君臣・情は父子其他。	渡邊保	源平抗爭史（日本歴史文庫(9)）	新四六判	上	248	一、三〇	白揚社	一月	▲源平二氏の抗爭を描き其裏面にある當時の政治過程を述べたもの。
渡邊幾治郎	皇國大日本史	菊	洋	546	二、八〇	朝日新聞社	六月	▲皇國發展の原理を國史の展開に求め現代日本の進歩と其方向を國史の基礎の上に觀察す	亘理章三郎	皇國紀元論	四六判	洋	224	二、〇〇	國民教育會	十一月	▲紀元二千六百年、紀元の概念、我が國の紀元の制立等其他にて紀元の意義を檢討す。
藤谷みさを	皇國二千六百年史	四六判	並	220	六五	東京日日新聞社 大阪毎日新聞社	二月	▲昨年の紀元節に公募せる懸賞當選作で、一日本國民女性の手になる活きた國史。	帝都日日新聞社編	皇國二千六百年史講話	四六判	並	237	一、三〇	帝都日日新聞社	十月	▲神代及上代（今泉定助）大化の改新と奈良平安時代（渡邊世祐）他四氏が執筆す。

東北帝國大學教授 古田良一	國民七論	上 四六判 製	177	一、六〇	高陽書院	十二月	▲國史上の重要問題に就て述べた書で、日本文化の生成と發展、大化改新等七篇。
大阪高等學校教授 市村其三郎	國史漫筆	脊 四六判 洋布入	390	二、八〇	文友堂	七月	▲新聞雜誌等に發表せる通俗史論三十篇を收錄したもので奉祝紀元二千六百年其他。
高群逸枝	女性二千六百年史	並 四六判 製	275	一、五〇	厚生閣	二月	▲女性のために建國以來二千六百年の國史を平明に敍述し、併せて隨筆感想をも收錄す。
平凡社編	神武天皇	布函菊 裝入判	674	五、八〇	平凡社	二月	▲神代史に就いて（宮地直一）神武天皇の御事蹟（芝葛盛）他五篇の論文を收む。
仲小路彰	肇國	世界國體大觀史・日本觀史（1） 布函菊 裝入判	320	二、五〇	戰爭文化研究所	二月	▲神代史、神武天皇御東征、神代史外傳の三部にて肇國を謹記し奉つたもの。
山田孝雄	肇國と建武中興との聖業	脊函菊 洋布入判	165	一、五〇	白水社	十月	▲神武天皇の御事蹟、御醍醐天皇を仰ぎ讃へまつりて、御村上天皇御事蹟大要の三篇。
國學院大學教授 志田不動麿	東洋史上の日本	洋 函菊 布入判	349	三、五〇	四海書房	十二月	▲日本を中心として大東亞の歷史的相互關係を敍述す。本輯は政治的經濟的接觸を說く。
栗田元次	ラヂオ新書（16） 奈良時代の特性	並 三六判 製入判	166	五〇	日本放送協會出版	五月	▲國史に特色を持つ奈良朝時代を闡明なしたもの。我國の特性を論述せる四論文を附す。
松下三鷹	補公外史	並 四六判 製	202	一、一〇	東邦書院	七月	▲補子と補公、補公の墓碑、光圀の思想、朱舜水と安東省庵等其他にて述ぶ。
菊池寛	二千六百年史抄	並 四六判 製	128	三五	同盟通信社	八月	▲二千六百年の光輝ある歷史を抄述して、國體の明徵と日本精神を發揚せんとす。
秀文閣書房編輯部編	日支交渉二千年譜	並 四六判 製	244	一、〇〇	秀文閣	一月	▲皇紀四百四十三年から今次支那事變勃發迄の二千百五十五年に亘る日支關係を敍す。
京都帝國大學教授 室伏高信	日本文化史（1） 創世記 —紀前二千年史—	並 四六判 製	360	二、〇〇	モナス	三月	▲石器時代の日本人を主にして天孫降臨迄の紀前二千年の國史を敍述したもの。
東京帝國大學教授 川上多助	日本歷史概說 —下卷—	並 四六判 製	437	三、二〇	岩波書店	六月	▲下卷は織田信長の功業に筆を起し、德川時代より明治維新を經て明治の末迄を敍述す。

風俗史・特殊史

有坂與太郎	鄉土玩具展望 上卷	上 四六判 製	347	二、五〇	山雅房	十二月	▲鐵路に沿つて生產される鄉土玩具とその沿革を敍した書で、東海道線篇其他。
小澤滋	日本の食物文化	上函 四六判 製入判	257	一、六〇	大日本出版社	九月	▲食物文化史的數篇の小品・隨筆及小論を集めたもので、食物往來、日本屬兵糧物語他。
沼田頼輔 中島利一郎校訂	紋章の研究 朝元選書（42）	上 新四六判 製	333	一、五〇	創元社	五月	▲沼田博士の遺稿の一部分「紋章學」「紋章の研究」の二篇を收めたもの。

史料・考證・年表・史蹟

鐵道省編	聖地古日向	並 四六判 製	221	一、〇〇	博文館	六月	▲皇祖發祥の聖地古日向に於ける神代以來景行天皇に至る迄の聖蹟、傳說地等を謹記す。
鐵道省編	聖地大和	並 四六判 製	226	一、〇〇	博文館	二月	▲神武天皇を始め奉り、御歷代の大和國に於ける聖蹟を中心として御陵、神社等謹記す。
關口泰	高千穗	上函 四六判 製入判	158	一、六〇	相模書房	六月	▲天孫降臨の聖地高千穗の正しき檢討をなしたもので日向の高千穗峰他五篇。
石川銀次郎	肇國の史蹟	並函 四六判 製入判	256	一、五〇	立命館出版部	三月	▲神武天皇の御神聖蹟を汎く巡拜されて謹述したもので神武天皇降誕、宮跡、立太子其他
上田三平	日本史蹟の研究	上 新四六判 製	392	二、八〇	第一公論社	十月	▲二十四年間に實地研究せる本邦史蹟中重要なものを選んで蒐錄なしたもの。
鳥羽正雄	日本の城 朝元選書（52）	上 新四六判 製	311	一、五〇	創元社	八月	▲素人向に「日本の城」とはどんなものか平易に述べたもの。

地方史・社寺史・記念誌

大阪毎日新聞社編	滋賀縣二千六百年史	上 四六判 製	270	一、〇〇	立命館出版部	九月	▲高天原の爭奪戰、父は鳥・子は魚を、素手で惡神退治等其他の讀物にて述べた滋賀史。

關口泰編	關口元老院議官地方巡察復命書 —郡國誌—	菊判並製	230	二、三〇 一四	巖松堂	五月
夢殿論誌編纂所編	南都七大寺叢書(3) 唐招提寺の新研究	四六倍判和装	圖版18 172	二、五〇 一四	鵬故郷舎	五月
喜田新六編	喜田貞吉遺集(1) 法隆寺論攷	菊判洋函布入判	496	五、五〇 三三	地人書館	九月

▲蔡文庫所藏の明治十六年甲部巡察使復命書並に資料を整理編纂なしたもの。

▲鑑眞和上の東征と招提律寺（橋本凝胤）他十四篇の論文を收錄したもの。

▲明治三十八年より昭和十四年迄に發表せる法隆寺に關する主要論文二十二篇を纂錄す。

史談・史話

サンデー毎日編輯部編	生きてゐる歴史	四六判上製	284	一、七〇 一〇	教材社	十二月
安藤徳器	維新外史	四六判並製	335	一、六〇 一〇	日本公論社	二月
高須芳次郎	海の二千六百年史	四六判並製	302	一、五〇 六	海軍研究社	六月
鷲谷椿風	大阪物語	四六判上製	317	一、八〇 一一	教材社	八月
小牧實繁	近世探檢史 (ラヂオ新書(22))	三六判並製	166	五〇 六	日本放送出版協會	八月
生方敏郎	源、氏と平家	四六判布函裝	654	四、〇〇 一四	學藝社	十月
佐野年一	今日の話題 (歴史行事)	四六判洋函布入判	780	三、五〇 一四	講談社	十月
板澤武雄	杉田玄白の蘭學事始 (ラヂオ新書(5))	四六判並函製入判	198	五〇 六	日本放送出版協會	一月
柴田賢一譯 (フィリップ・ゴス著)	世界海賊史	四六判上函製入判	362	二、〇〇 一四	牧野書店	六月

▲幕末維新から日露戰役當時までの間に起つた歴史的事件を實話に依つて收めたもの。

▲頼山陽を繞る女性、梁川星巖と紅蘭女史、下田に於ける吉田松陰等其他の維新外史を收む。

▲海洋史上の戰爭、事件、人物等を活寫して二千六百年に亘る海の歴史を興味深く敍す。

▲文明開化の波にゆられた明治初年の大阪それを政治・經濟・社會等の角度より觀察す。

▲近世世界各國の主要な探檢の歴史に就いて語つたもの。

▲第一卷は治承四年六月より壽永三年正月二十日迄を描いたもの。

▲一年三百六十五日其の日その日に結びついた話題並びに記念事項を纂錄したもの。

▲杉田玄白と蘭學事始に就て解說したもので日本民族の海外發展史を附錄とす。

▲今日の植民地の基礎をなした世界各國の昔時に於ける海賊の活躍を物語つたもの。

鷹見安二郎	東京史話	四六判並製	323	二、〇〇 一〇	市政人社	六月
幸田成友	東と西 (史話叢書)	四六判上函製入判	353	二、〇〇 一四	中央公論社	一月
小瀧淳	武士道逸話	四六判並製	320	一、五〇 九	宮越太陽堂	十月
渡邊幾治郎	明治外交史話 (ラヂオ新書(23))	三六判並函製入判	244	五〇 六	日本放送出版協會	九月
板澤武雄	昔の南洋と日本 (ラヂオ新書(24))	三六判並函製入判	224	五〇 六	日本放送出版協會	九月

▲東京史に關する論文隨筆十九篇を集めたもので、江戸と東京三題、江戸無二の物集其他

▲三浦按針、ウイリヤム・アダムスの記念塔寛政九巳年の和蘭風說書其他を收む。

▲武士道精神を發揮せる逸話百五十篇を數多の古典より選んだもの。

▲明治外交史の梗概を興味深く通俗平易に述べたもので、明治維新の外交、條約改正其他

▲南洋の史的概觀、西洋人の南洋進出、日本人の南洋進出其他にて述べたもの。

傳記

中野好夫	アラビアのローレンス (春秋新書(73))	三六判並製	205	五〇 六	岩波書店	九月
R・グレーヴズ著 小野忍・立野重足譯	アラビアのローレンス	四六判上製	380	二、〇〇 一四	改造社	六月
杉本直治郎	阿倍仲麻呂傳研究	菊判洋函布入判	854	八、〇〇 二二	育芳社	十二月
史話會編	維新回天の礎 (國難と人傑)	四六判上製	299	一、八〇 一〇	日本公論社	五月
金澤正造	維新十傑傳	四六判並製	365	一、八〇 一〇	三邦出版社	十一月
田中惣五郎	岩崎彌太郎	四六判洋函布入判	356	二、〇〇 一四	千倉書房	三月
アヌープ・シング著 武井武夫譯	印度の新太陽	四六判上製	272	一、四〇 一〇	霞ケ關書房	十二月

▲トルコの制壓下に敢然立ち上がり、疾風の如く沙漠を馳驅せるローレンスの傳記。

▲T・E・ローレンスの生涯を描いた"Lawrence and the Arabs"を飜譯す。

▲日支交渉史上特異な一存在である仲麻呂の事蹟を幾多の史料より究明した書。

▲幕末から明治維新にかけて各々重要な役割を果した七人の悲劇の主人公の略傳を收む。

▲幕末維新に大活躍をなした吉田松陰、頼三樹三郎、有村治左衞門等他七氏を語つたもの

▲轉換期明治維新の經濟界に強く生拔いた岩崎彌太郎の生涯を敍述す。

▲總べてをなげうつて國民的鬪爭する印度大衆の偶像ジャワハルラル・ネールの半生記。

高倉テル	大原幽學	並四六判製	242	一、三〇	建設社	四月	▲世界で最初に產業組合を作つた偉大な殉教者大原幽學の全貌を紹介なしたもの。
古屋登代子	女の肖像	上四六判製	288	一、五〇	三友社	十二月	▲古屋女子英學塾の建設者古屋登代子女史の自傳で、幼なかりし日他三篇。
宇野木忠	各務鎌吉	布四六判裝	227	一、五〇	昭和書房	五月	▲岐阜の貧農より身を起し、信念と努力によつて實業界の大立物となつた各務氏の立志傳
川田瑞穗	片岡健吉先生傳	容函菊判布入判	935	八、〇〇	立命館出版部	二月	▲政治家として基督教徒として其生涯を捧げた片岡健吉先生の一生を敍述す。
田中惣五郎	勝海舟	洋函四六判布入判	316	二、〇〇	千倉書房	九月	▲勝海舟論、半生の素描、奉還直後、新政府主戮と恭順等其他にて勝海舟の生涯を語る。
三枝博音	技術家評傳	並四六判製	276	一、五〇	科學主義工業社	八月	▲東西の技術家を網羅して其評傳をなしたもので、平賀源内、伊能忠敬、ワット他十二名
大川三郎	巨豪・松岡洋右	並四六判製	218	一、〇〇	東洋堂	十二月	▲日本精神の發揚と東洋の再建の爲に挺身されてゐる松岡洋右氏の言行錄。
泰岡富吉	傳記集成 教養の偉人	並四六判製	304	一、八〇	東邦書院	九月	▲私達の祖國を生んだ偉人の人間と行跡を編んだもので、忠烈・新田義貞其他。
小野田亮正	近世偉人祕話	並四六判製	246	一、三〇	文友堂	十月	▲幕末から明治にかけての偉人烈士の祕話を集めたもので、獄中の吉田松陰他十四話。
神崎清	近世名婦傳	上函四六判製入判	313	一、六〇	朝日新聞社	一月	▲竹崎順子、瓜生岩子、矢島楫子、棚橋絢子奥原晴湖他八女史の傳記を收めたもの。
渡野晃	楠木正成（新しくろりあ叢書(17)）	並四六判製	223	一、六〇	そぐろりあ社	十二月	▲君國の爲に其の一身を捧げた楠木正成の誠忠を回想なしたもの。
中桶武夫	軍神杉本五郎中佐	上函四六判製入判	680	二、八〇	平凡社	三月	▲今事變北支山嶽戰にて崇厳な戰死を遂げられた杉本中佐の思想と生ひ立ちを述べたもの
神崎清編	現代婦人傳 —私の歩んだ道—	上四六判製	521	二、五〇	中央公論社	五月	▲現代日本の代表的婦人十二氏を選んで簡略な傳記をなしたもので長谷川時雨他十一氏。

ストレイチー著 平田禿木譯	ゴルドン將軍の死	並四六判製	184	一、三〇	アルス	八月	▲アラビア・スーダンに於ける龍城の偉人ゴルドン將軍を中心に英國を暴露せる傳記。
中山武夫	小村壽太郎傳	並四六判製	199	八〇	新興亞社	十月	▲日露戰役講和全權委員として我國名を高からしめた小村侯の生ひ立ちを語る。
山本巖	工業日本の先驅者たち	並四六判製	180	一、〇〇	西村書店	十二月	▲明治維新以來工業日本の建設に努力せる各方面の隱れたる技術者達の略傳。
寺島柾史	國難と人傑	洋函四六判布入判	320	二、〇〇	日本公論社	八月	▲近世の武人、國士、烈女などの逸事數十篇を集めて通俗的に書いたもの。
茂野幽考	薩英戰爭と西鄕南洲	並四六判製	291	一、五〇	六藝社	九月	▲幕末に於ける薩英戰爭の眞因を語り、併せてその頃に於ける西鄕南洲を語つたもの。
吉川幸次郎譯	胡適四十自述（朝元支部叢書(1)）	上四六判製	181	一、三〇	創元社	三月	▲現重慶政府の駐米大使胡適が四十歲の時もした自傳を邦譯したもの。
谷本龜次郎	自力奮鬪記（農業教育）	洋函四六判布入判	270	一、五〇	泰文館	五月	▲小學教育をも碌々終らずして遂に今日の地位を贏えた谷本氏の苦難な奮鬪記錄。
奥谷松治	品川彌二郎傳	布函四六判裝入判	363	二、三〇	高陽書院	二月	▲幕末より明治初年にかけて至誠一貫國家皇室のために盡した品川彌二郎子爵の傳記。
白石喜太郎	澁澤翁と青淵百話（ラヂオ新書(33)）	三函四六判製入判	177	五〇	日本放送出版協會	十一月	▲實業界引退後社會公共のためにつくした澁澤翁と青淵百話を語つたもの。
宮川尙志	諸葛孔明（支那歷史地理叢書(8)）	並四六判製	199	一、三〇	冨山房	十一月	▲一般の常識の根據であり、歷史の研究に價値ある各種の史料によつて孔明を再現す。
文學士 大塚久	將軍實朝	布函四六判裝入判	362	二、五〇	高陽書院	十一月	▲若くして逝つた薄倖な天才歌人源實朝を將軍實朝として通俗的に描いたもの。
池田林儀	勝利のヒットラー總統	並四六判製	384	一、八〇	七人社	十月	▲彼の國家理念と人物性格とに基づいて、誕生から今日に至る迄の業績と生涯を敍す。
ジャン・デルペ著 青柳・瑞穗譯	スエズ運河	並四六判製	327	一、五〇	第一書房	六月	▲スエズの開拓者レセップス氏の輝かしき鬪爭の生涯を描いたもの。

日能光子編	聖愛一路	四六判製	239	一、五〇	教文館	八月	▲自己の全財産を始め家族までも社會事業に捧げた佐竹晉次郎翁の事業と生涯を語る。
鈴木五郎	明治維新先驅者の一生—鈴木藤三郎傳—	菊洋布入判	400	二、八〇	平凡社	六月	▲我國の主要食糧品製造法改良を目ざして百五十九件の發明をした鈴木藤三郎氏の傳記。
松本惠子	大陸の聖女—故潮水美穂子傳—	四六判製	376	一、八〇	鄰友社	三月	▲北京の聖者清水安三氏の夫人として崇貞學園を今日あらしめた美穂子夫人の苦難記。
林陸軍中將彌三吉	大楠公	四六判製	237	一、四〇	萬里閣	二月	▲皇國の大忠臣楠公の事蹟を述べ、其精神を說いたもので楠公の修養、楠公の結婚其他。
河村直	大發明家の一生—宮縫玉田熊常吉傳—	四六判製	326	二、〇〇	婦女界社	三月	▲日本の生んだ世界的汽罐の發明者田熊常吉氏の奮鬪と多難な生涯を記述す。
三上卓	高山彦九郎	菊洋布入判	420	三、二〇	平凡社	八月	▲幕末騷亂の中に盡忠報國の誠を成した國士高山彦九郎の眞面目を傳へたもの。
細田源吉	澤庵和尙の一生	四六判製	389	二、四〇	東京書房	十月	△德川時代初期に於ける禪門の第一人者澤庵和尙の一生を敍述す。
石井滿	逞しき建設者—石川武美氏の信念とその事業—	四六判製	363	二、〇〇	教文館	三月	▲主婦之友社長として活躍しつゝある石川武美氏の信念と其事業を語つたもの。
山崎一芳	逞しき人と事業—貝島炭礦物語—	四六判製	192	一、四〇	東海出版社	十一月	▲貝島太助、貝島太市の父子二代に亘る奮鬪と、其炭礦事業の足跡を語つたもの。
菅井近男	闘ふヒットラー	四六判製	217	一、三〇	高山書院	九月	▲ヒットラーの人間味を縱橫に描いたものでビールと爆彈、中隊長と伍長、寫眞の總統他
男爵山川先生記念館編	男爵山川先生傳	菊布入判	532	三、二〇	岩波書店	二月	▲我國理學界の開拓者として功績の多い故理學博士男爵山川健次郎先生の傳記。
隈部一雄	ツエッペリン	新四六判製	236	一、〇〇	新潮社	十一月	▲硬式飛行船の發明者ツエッペリン伯の生ひ立ちと、飛行船の發明について語る。
丹潔	唐人お吉—陸奥の悲歌—	四六判上製	239	一、五〇	泰山房	九月	▲黑船襲來の戰慄の中に片々と落葉の如く鑛みぬかれたお吉の悲戀な姿を物語る。

志水松太郎	獨立苦鬪涙の三年	四六判製	192	九〇	大日本出版社	十月	▲一出版社を退社し、事變の中に血と涙の三年を送つた志水氏の奮鬪記。
石濱純太郎	富永仲基（創元選書62）	四六判上製	227	一、一〇	創元社	十月	▲日本思想史上の偉才富永謙齋先生の生涯とその思想を語つたもの。
龜井常藏譯補	ストレイチ著 文化叢書10 フロレンス・ナイチンゲール	新四六判製	154	一、〇〇	青木書店	七月	▲「ヴイクトリア顯人傳」の中に收められてあるフロレンス・ナイチンゲールの邦譯。
大久保龍	中江藤樹史傳	四六判洋布入判	306	一、四〇	啓文社	十二月	▲近江聖人中江藤樹の苦難な生ひ立ちと其の事蹟を敍したもの。
白柳秀湖	中上川彦次郎傳	四六判上製入判	645	三、〇〇	岩波書店	六月	△近代日本產業界の大恩人中上川彦次郎の生涯と其事績を敍述す。
エ・フ・ニーチエ著 山崎八郎他四氏譯	ニーチエの生涯—若き日のニーチエ—上卷	四六判製	533	二、〇〇	日本モダン社	四月	△ニーチエの實妹の手になる傳記「若き日のニーチエ」を邦譯したもの。
エ・フ・ニーチエ著 山崎八郎他四氏譯	ニーチエの生涯—孤獨なるニーチエ—下卷	四六判製	690	三、〇〇	日本モダン社	七月	△下卷は孤獨の中へ、新しき光、ツアラトウストラ時代等他二章を邦譯したもの。
深谷博治	日清戰爭と陸奥外交（ラヂオ新書11）	三六判製人	242	五〇	日本放送出版協會	三月	▲日清戰爭の史的意義を把握し陸奥宗光の人物を檢討して「蹇蹇錄」の解說をなす。
花野富藏	日本人モラエス	四六判製	306	一、六〇	青年書房	十一月	▲ポルトガルに生れて、日本を愛し終に日本の土となつたモラエスの傳記。
松波治郎	日本武將傳	四六判上製	410	一、五〇	壯年社	十一月	△大義奉公の誠を致した烈々耿々たる武將武魂の傳記十篇を選んだもの。
内山保和 敏彥譯	人間と假面（シャリアピン自傳）	四六判製	403	一、八〇	報國社	十二月	▲數奇な運命を辿つた音樂家シャリアピンの自傳で、帝政ロシア以下二部。
遠藤延雄譯	人間ヒットラー物語（ジー・ワード・プライス著）	四六判製	282	一、五〇	霞ヶ關書房	十一月	△デリー・メールの記者プライスが人間としての彼の生ひ立ちを語つたもの。
E・ベンズ著 大江專一譯	パストウール傳	四六判上製	316	一、七〇	青年書房	十月	▲黴菌の世界を發見して人類に最大の恩惠を與へたルイ・パストウールの生涯を物語る。

山崎一芳	平尾善保論	四六判上製	229	一、八〇	東海出版社	六月	▲日本電建株式會社會長平尾善保氏の人物評論をなしたもの。
矢島祐利	岩波新書（68）アラデー	三六判並製	167	吾〇	岩波書店	七月	▲今日の科學を築き上げるに大きな功績を殘したマイケル・ファラデーの生涯を敍す。
川合貞一編	福澤諭吉の人と思想	四六判並製	210	一、三〇	岩波書店	七月	▲獨立自尊（林毅陸）福澤先生の國家及び社會觀（小泉信三）他八篇の論講集。
桑田透一	海の先覺者 藤川三溪傳	四六判上製	250	二、三〇	水產社	十月	▲海の先覺者でもあり讃岐高松藩の儒醫にして勤王の志厚き藤川三溪翁の生涯を敍す。
大野慎	藤田東湖の生涯と思想	四六判上製	210	一、吾〇	一路書苑	十月	▲幕末に於ける水戸學の中心者として幾多の志士を指導した藤田東湖の生涯を述ぶ。
西村文則	藤田幽谷	菊判上製	240	二、八〇	平凡社	十一月	▲水戸學の後期に於ける逸材藤田幽谷の生ひ立ち思想業績等を敍述す。
森川聿	空の英雄 藤田雄藏中佐	四六判並製	204	一、〇〇	清教社	一月	▲中支戰線沙洋鎭にて壯烈な戰死を遂げた故藤田中佐の功績と人格の全貌を紹介す。
澤田總清	藤原師賢卿	四六判上製	106	一、〇〇	健文社	十一月	▲皇運恢復の籌策に參與し事敗れ、若き生涯を終へた南朝の忠臣藤原師賢卿を物語る。
田中寛一	新傳記叢書 ペスタロッチ	新四六判上製	278	一、〇〇	新潮社	十一月	▲ペスタロッチの生き方、生活の態度を語りそれが現在如何な形で生きてゐるかを述ぶ。
桑田忠親	豐太公物傳記の研究	菊判並製	327	三、吾〇	中文館	七月	▲太閤在世このかた記述出版せられた傳記及物語の類を系統的に研究したもの。
アーヴィング著 小林一郎譯	マホメット傳	四六判上製	421	二、吾〇	東邦書院	十月	▲興味深く述べたアーヴィングの「マホメット傳」を飜譯なしたもの。
市村咸人	松尾多勢子	菊判並製	331	三、八〇	山村書院	六月	▲幕末維新に活躍せる女流勤王家松尾多勢子女史の生涯を敍述したもの。

小田正吾	宗教改革の偉人 マルチン・ルツター傳	四六判並製	248	一、吾〇	鄰女社	五月	▲人間的全力を盡して宗教改革に邁進せるマルチン・ルツターの生涯を語る。
下國佐吉	牧野伸顯伯	四六判上製	239	二、三〇	人文閣	九月	▲大久保利通の第二子として生まれ、明治維新に勳功を立てた牧野伯の生涯を語る。
菊池寛	明治海將傳	四六判並製	316	一、吾〇	萬里閣	三月	▲明治時代に活躍せる海軍將星を語つたもので勝安房、榎本武揚、樺山資紀其他。
相馬黑光	明治初期の三女性	四六判上製	309	二、〇〇	厚生閣	九月	▲明治浪漫期の代表的三女性中島湘煙、若松賤子、清水紫琴の追憶を述べたもの。
山浦貫一編修	東亞新體制の先驅 森恪	菊判並製	1154	一五、〇〇	森恪傳記編纂會（高山書院發賣）	十二月	▲近代日本の要求する革新政治の先驅者森恪氏の傳記で、少年時代他六篇。
岡崎久次郎	矢でも鐵砲でも	四六判並製	230	一、〇〇	岡倉書房	四月	▲一介の貧書生から日本の自轉車王となつた岡崎翁の意氣と實踐との半生を語る。
矢內原忠雄	岩波新書（65）余の尊敬する人物	三六判並製	224	吾〇	岩波書店	五月	▲エレミヤ、日蓮、リンコーン、新渡戸博士の四人の尊敬せる人物を選んで描き出す。
福本義亮	吉田松陰之最後	菊判洋製	314	三、八〇	誠文堂新光社	十月	▲幾度か幽囚獄裡生死の岸頭にあつて、泰然不動、節義を守つて死に就いた松陰を語る。
山路節子	流轉抄	四六判上製	322	一、六〇	三友社	十二月	▲幼少から悲慘な人生流轉の旅をつゞけた著者の自傳で其他に創作、隨筆等を收錄す。
ムッソリニー著 谷名輝哉譯	わが自敍傳	四六判並製	358	二、〇〇	今日の問題社	一月	▲ファッシストを率いて戰後の伊太利を今日あらしめたム首相の自敍傳を邦譯す。
野崎圭介	護國勤王 和氣清麿公	四六判並製	176	一、三〇	書物展望社	三月	▲護國勤王の誠を盡した大忠臣和氣清麿公の生涯を敍述したもの。

文學博士 西村眞次著

萬葉集の文化史的研究

定價二・五〇 東京堂發行

八、地理・紀行

地理學一般

著者	書名	裝釘	頁數	送料	定價	發行所	發行月	內容大意
吉村信吉 岡山俊雄 編著	自然地理學 上卷	洋菊判布入	329	三、三〇	一四	地人書館	四月	▲氣候（福井英一郎）海洋・陸水（吉村信吉）地質（花井重次）土壤、生物地理の六篇。
吉村信吉 岡山俊雄 編	自然地理學 下卷	洋菊判布入	354	三、五〇	一四	地人書館	八月	▲下卷は第七篇地球（井上修次）第八篇地圖投影法（井上修次）他一篇と索引を收む。
山本熊太郎 本位田祥男	實習地理教本	菊倍洋判布	128	一、三〇	一〇	柁谷書院	五月	▲作圖を本位として實習地理の基礎的知識を講述したもので位置、距離、地圖他七章。
飯本信之 理學士	地理學發達史	菊判布	268	二、八〇	一四	中興館	五月	▲地理學の形成進化に關する概略的知識を述べたもので古代文明時代の地理學他十九章。
栗原寅治郎	地理的理法の研究	洋四六判布入	298	二、〇〇	一〇	大同館	九月	▲地理的理法の一般を擧げてその由來する所を概說したもので、地勢と人に關する理法他

政治地理・經濟地理

著者	書名	裝釘	頁數	送料	定價	發行所	發行月	內容大意
小田內通敏	日本鄕土學	洋菊判布入	344	三、五〇	一四	日本評論社	七月	▲鄕土の科學性、わが鄕土、新しい鄕土他二章。
小牧實繁	日本地政學宣言	上製四六判	211	一、五〇	一〇	弘文堂	十一月	▲地理學より地政學へ、地理學に志す人へ、新秩序建設方法論等他十二篇の地理評論集。

〔醫學業績研究會・編纂—既刊診療書〕

臨牀テラピー及レセプト（普及版）
・植松博士外11氏＝共著・
◇總革製・ポケット型◇
◇細密横組・900餘頁◇
◇全1冊・定價4.00（內地〒.09）◇

熱診斷
・稻田博士外18氏＝執筆・
◇三々判・單行綴・天金美布裝◇
◇8,9ポ活字横組・400餘頁◇
◇全1冊・定價4.00（內地〒.22）◇

境域疾患
・稻田博士外29氏＝執筆・
◇三々判・單行綴・天金美布裝◇
◇8,9ポ活字横組・500餘頁◇
◇全1冊・定價4.50（內地〒.22）◇

各科領域ニ於ケル最新療法
・近藤博士外57氏＝執筆・
◇三々判・單行綴・天金美布裝◇
◇8,9ポ活字横組・490餘頁◇
◇全1冊・定價4.50（內地〒.22）◇

各科領域ニ於ケル出血ト其處置
・岡田博士外50氏＝執筆・
◇三々判・單行綴・天金美布裝◇
◇8,9ポ横組・470餘頁◇
◇全1冊・定價4.50（內地〒.22）◇

疼痛ノ診斷
・永井潛博士外40氏＝執筆・
◇三々判・單行綴・天金美布裝◇
◇8,9ポ活字横組・470餘頁◇
◇全1冊・定價4.50（內地〒.14）◇

合併症ト其處置
・眞下博士外61氏＝執筆・
◇三々判・單行綴・天色美布裝◇
◇8,9ポ横組・各400頁◇
◇全2冊・定價 上5.00 下5.50（內地〒 上22 下14）◇

腫脹及腫瘤ノ診斷
・鹽田博士外40氏＝執筆・
◇三々判・單行綴・天色美布裝◇
◇9ポ活字横組・460頁◇
◇全1冊・定價7.50（內地〒.22）◇

非經口的藥劑療法
・植松博士外79氏＝執筆・
◇三々判・單行綴・天色美布裝◇
◇9ポ活字横組・各400頁◇
◇全2冊・定價 上7.50 下7.00（內地〒 上22 下14）◇

東京市澁谷區大向通リ七番地
敬文社
電話＝澁谷82番・476番
振替＝東京8585番

小島榮次	慶應大學教授	經濟地理學序説	菊判	洋装	279	二、七〇	一四	時潮社	十一月	▲第一篇地理學研究序説、第二篇經濟地理學に關する若干の基本的考察の二篇にて説述す	
賀川英夫	松山高等商業學校教授 經濟學士	新東亞經濟地理	菊判	布装	385	四、〇〇	二二	叢文閣	八月	▲新東亞の自然、新東亞の住民、新東亞の農業、新東亞の工業其他にて論述す。	
A・ドヲー著 藤澤保太郎譯		世界政治・經濟精圖	四六倍判	洋布	197	三、〇〇	二二	育生社	十一月	▲製圖式記錄法を用ひて世界政治經濟の諸問題を説いた「今明日の世界」を全譯す。	
		世界地理									
ヴイクトル著 津田邊夫譯		きたかぜ	四六判	並製	487	二、五〇	一〇	青年書房	十二月	▲エスキモ族はどうして彼等の世界觀を築き上げたかを描いた書。	
松井佳一		メキシコ風土誌	四六判	上製	594	四、八〇	一四	育生社	十二月	▲滿二ケ年に亘るメキシコの水産顧問として在留せる時の調査や視察を經めたもの。	
米内山庸夫		雲南四川踏査記	四六判	上製	357	三、〇〇	一四	改造社	七月	▲蔣介石の竄入せる雲南四川地方の實情を、趣味豐かな紀行と確實な調査によつて紹介す	
W・フイルヒナー著 滿鐵弘報課譯		科學者の糧靴行	四六判	上製	339	一、三〇	一四	朝日新聞社	二十月	▲一九三六年以來糧靴にて磁氣學的調査を行つたドイツ科學者フ博士の文獻を飜譯す。	
S・ヘディン著 福富勇雄譯		ゴビの謎	四六判	並製	533	三、五〇	一四	生活社	六月	▲一九二七—三〇年に亘つて中央亞細亞特に蒙藏疆を中心に踏査せる探檢記錄の邦譯。	
ヤングハズバンド著 筧太郎譯	大陸叢書(1)	ゴビよりヒマラヤへ	四六判	上製	241	一、五〇	一〇	朝日新聞社	一月	▲英人ヤングハズバンド大尉の"Among the Celestials" 1898 を全譯す。	
オウエン・ラチモア著 西卷周光譯	大陸叢書(2)	沙漠の蒙疆路	四六判	上製	271	一、五〇	一四	朝日新聞社	三月	▲蒙古よりトルキスタンに至る沙漠地帶にある續路（ヤオル）に就ての紀行を邦譯す。	
文學士 池田靜夫		支那水利地理史研究	菊判	洋布	333	四、〇〇	一四	生活社	四月	▲クリークの意義、クリークの發達、運河の都—杭州、杭州運河の整理他五章にて述ぶ。	

渡邊光編著		支那地理大系	菊判	洋装	489	五、〇〇	一二二	日本評論社	十月	▲支那の地形（渡邊光）支那の氣候（福井英一郎）支那の土壤（多田文男）他五篇を收載。	
グラハム・ペツタ著 高梨菊次郎譯		支那蒙古遊記	四六判	並製	443	二、五〇	一〇	青年書房	二十月	▲支那及び蒙古の自然と生活を詳密に記錄した旅行記で、回遊途上他十八章。	
向尚 河上純一等著		西南支那踏査記	四六判	並製	423	二、八〇	一〇	大東出版社	九月	▲中華職業教育社の國内農村考察團一行の共著になる「西南旅行雜筺」を譯出す。	
上牧淑三郎		ソロン族の社會	四六判	並製	197	二、〇〇	一四	生活社	三月	▲ホロン・バイルの原始民族ソロン族の一部落ホイン・ゴル部落の風俗習慣等を報告す。	
フレミング著 川上芳信譯		韃靼通信	四六判	並製	521	三、五〇	一四	生活社	五月	▲韃靼旅行の見聞錄を綴めた"News From Tartary: A Journey From beking to Kashmir"譯	
ニコル・スミス著 救仁鄉繁譯		瀾（ゆん）緬（めん）公（こう）路（ろ）	四六判	並製	293	一、七〇	一〇	萬里閣	八月	▲今事變にて世界注視の的となつた、雲南ビルマルート視察記"Burma Road"の邦譯。	
デニス・ロス著 ヘンリー・スクライン著 三橋富治男譯	アジア内陸叢刊(3)	トウルケスタン	菊判	並製	582	四、八〇	一四	生活社	一月	▲ロス・スクライン共著になる「アジアの心臟」Heart of Asia を邦譯せるもの。	
西田與四郎 帷子二郎		東亞地理圖集	菊判	洋布	236	四、〇〇	一四	東洋圖書株式會社	十月	▲東亞地理の研究者及び教育者の參考資料として、東亞地理の一般を記述したもの。	
朝日新聞社編		南方圏地圖	四六全紙半裁	並製	1枚			朝日新聞社	十一月	▲佛印、蘭印、ビルマ、泰、フイリツピン、南洋等所謂南方圏を收めた地圖。	
ブルジエヴアリスキー著 高谷橋勝平之譯	アジア内陸叢刊(5)	蒙古と青海 下巻	菊判	並製	358	三、八〇	一四	生活社	一月	▲下巻は第八章再びアラシヤンへ、甘肅省、唐古特人と東干人、他四章を邦譯す。	
大谷光瑞		關領東印度地誌	四六判	並製	438	二、五〇	一四	有光社	十一月	▲關領東印度を疆域、地形及地質等の八項目にて説明し、關係諸統計五十九種目を收錄。	
	日本地理										
國松久彌		國勢新日本地理	菊判	洋布	211	三、〇〇	一四	柁谷書院	九月	▲一般知識人向に教養の書として、日本國勢への省察をなしたもの。	

案内記・紀行

柳田國男	秋風帖（朝元選書(45)）	新四六判上製	160	一、〇〇	創元社	四月	▲秋風帖、秋の山のスケッチ、向小多良、木曾より五箇山へ、其の紀行集。
杉本哲郎	印度の古壁畫を探る	四六判上函入製	276	二、三五	立命館出版部	六月	▲印度アジアンター・シーギリヤ兩壁畫模寫體驗の隨想錄で印度へ、ポンペイ雜感其他。
原（モオリス・デコブラ著）石代譯	印度旅行	四六判上製	332	一、五〇	山雅房	一月	▲大英帝國の心臟と云はれる印度の實相を述べたデコブラの旅行記。
鐵道省編	温泉案内	四六判布函入製	432	二、八〇	博文館	四月	▲地域的に大別し更に鐵道線路別に排列して全日本の温泉の詳略な説明をなす。
村田健藏（調査部中心）	温泉とハイキング	四六判布装	362	二、五〇	登山とスキー社	十月	▲東京附近を中心とした、温泉とハイキングの案内をなしたもの。
大宅壯一	外地の魅惑	四六判並製	349	一、八〇	萬里閣	七月	▲最近數年間に外地を旅行せる時の記錄で、内蒙古横斷記、戰雲下の蒙古草原其他。
小島威彦	喜望峰に立つ（アフリカ紀行）	四六判並製	266	二、五〇	ヨーロッパ問題研究所	一月	▲昭和十一年の初夏より二ケ年に亘つて旅行せるアフリカ紀行を纏めたもの。
鐵道省編	郷土の傳説（郷土旅行叢書）	四六判並製	194	一、九〇	日本旅行協會	三月	▲郷土色豐かな傳説を網羅したもので小栗堂夜泣石、秋葉山、養老の瀧、孝池水其他。
竹久夢二	九十九里へ	菊判和装	48	六〇〇	青燈社	九月	▲夢二の紀行「九十九里へ」の草稿を複刻したもの。（限定版六〇〇）
野依秀市	現地要人を敲く（南北支那）	四六判上函入製	357	一、八〇	秀文閣	十二月	▲本年四月より五月に亘る著者の支那紀行集で、揚子江を抱いて他七篇。
武者小路實篤	湖畔の畫商	四六判並製	420	二、〇〇	甲鳥書林	六月	▲先年の歐洲旅行記を纏めたもので、南十字星の下にて、航海中の日記より其他。
川田順	山海記（紀行文集）	四六判並製	301	一、五〇	第一書房	九月	▲二十年間に及ぶ著者の旅行記二十三篇を纂錄したもので、聖國聖蹟巡拜記其他。

木村毅編	支那紀行	四六判並製	391	一、六〇	第一書房	五月	▲今事變視察のため渡支せる文藝家の紀行を纏めたもので、長城（阿部知二）他四十三篇。
橋本關雪（繪と文）	支那山水隨緣	菊判上函入製	144（四版6）	七、〇〇	文友堂	七月	▲支那の風水を寫生し、簡單な文をも添へて支那風物の隨想的案内をしたもの。
日本地歴研究會編	車窓の日本（東海道・近畿の巻）	四六判並製	120	八五	日本地歴研究會	十一月	▲車窓に望見される舊所名蹟を始め、學術上注意すべき諸事項等を網羅したもの。
鐵道省編	諸國年中行事（郷土旅行叢書）	四六判並製	177	七五	日本旅行協會	一月	▲著名にして郷土的色彩の强い現行の年中行事二十五を選んで其由來と現狀を記す。
大島正德	世界の心を語る（北中南米旅の雜話）	四六判布函入製	227	一、四〇	帝國教育會出版部	四月	▲昨年六月から四ケ月に亘つて北米から中南米に旅行した時の體驗を語つたもの。
北尾錄之助	聖蹟大和	四六判並製	321	一、〇〇	創元社	二月	▲聖地大和の山河に關する論講と聖蹟紀行を集めたもので大和國原、東高野街道其他。
坂井米夫	續ヴァガボンド通信	四六判並製	286	一、〇〇	改造社	十月	▲親善のダンピング、對日輿論、パナマ運河聖林といふところ等其他のアメリカ通信。
興亞研究會編	大陸旅行案内	四六判並製	422	一、五〇	大東出版社	三月	▲滿洲、北支、中南支に分けて大陸旅行者に必要な事項を記述して案内をなす。
中村正利	太平洋風土記	四六判上製	275	一、八〇	大東出版社	五月	▲大成丸に便乘して太平洋を航海した時の海の紀行記、太平洋の歴史等を述べたもの。
牧野義雄	滯英四十年今昔物語	四六判並製	394	二、〇〇	改造社	二月	▲滯英四十年に及ぶ牧野氏の回顧錄で、英國に渡る。伊太利巡遊記、交友の憶ひ出其他。
瀧澤敬一	第三フランス通信	四六判並製	375	一、五〇	岩波書店	四月	▲法學士の巴里見物、花嫁委の少女群、國際三國峠に遊ぶ、燈火管制等其他を收む。
陸軍砲生兵上等兵 長瀨實	中支那スケッチ帖（繪と文）	四六判和装	113	一、八〇	春秋社	十月	▲戰塵の餘暇に書き留めた中支那のスケッチ百枚を收めて解説なしたもの。
タイクマン著 神近市子譯	岩波書店（岩波新書(59)）トルキスタンへの旅	三六判並製	264	五〇	岩波書店	三月	▲北京を出發し自動車によりゴビの沙漠を通りトルキスタンに至る一大旅行記の譯。

津村信夫	戸隠の繪本	新ぐろりあ叢書(15)	四六判製	212	一、六〇	ぐろりあそさえて	十月	▲戸隠山についての抒情日誌で、戸隠の繪本、紅葉狩傳說、信州雜記等收載。
吉田謙吉	南支風土記		四六判製	282	一、八〇	大東出版社	五月	▲考現學的角度・舞臺裝置家の角度から厦門海南島・廣東等を觀察せる繪と文の記錄。
丸山義二	南洋紀行		四六判製	254	一、五〇	興亞日本社	七月	▲南洋に働いてゐる同胞、特に農民の實相を報告した紀行で信天翁、珊瑚礁、甘藷其他。
齋藤清衛	日本人の紀行		四六判製	372	二、〇〇	八雲書林	五月	▲日本の古い紀行文學を研究し、旅行隨筆、北陸巡禮記の二篇を收めたもの。
石井傳一	日本の道は世界に通ず		四六判製	353	一、八〇	警醒社	十一月	▲無錢にて世界二周をした著者の旅行記錄で私の信條、無錢旅行は如何にせば出來るか他
鐵道省編	花と鄕土	鄕土旅行叢書	四六判製	174	七九	日本旅行協會	一月	▲我が國民性によつて培はれて來た花卉の中から十四種を選び由來・現狀・名所等收む。
片岡鐵兵	文學的紀行		四六判洋裝布入	284	二、〇〇	相模書房	十二月	▲文學的紀行、身邊雜記、獄中で愛讀した書物、移時英を悼む等三十三篇の隨筆集。
市河晴子	米國の旅・日本の旅		四六判製	441	二、〇〇	研究社	三月	▲米國の旅・日本の旅の紀行を集めたもので荒るゝ海、ニューヨークにて、尾瀨三題其他
川島理一郎	北支と南支の貌		四六判製入	242	二、五〇	龍星閣	四月	▲軍の囑託として北支南支に旅行したときの風景を描いて紹介せる紀行隨筆集。
若竹露香	北支の旅		四六判製	164	一、五〇	龍星閣	六月	▲鄕土部隊慰問のため北支を旅行せる時の四十日に亘る旅日記を報告したもの。
金子光晴	マレー蘭印紀行		菊判製	276	二、五〇	山雅房	十月	▲馬來半島ジョホールのゴム園とスリメダンの石原鑛山を中心にした南洋の旅行記。
金子光晴	マレー蘭印紀行		四六判製	276	二、五〇	山雅房	二十月	▲センブロン河、バトパハ、ペンゲラン、コーランプルの一夜等八篇を收めた紀行。
若竹露香	北支の旅		四六判製	164	一、五〇	龍星閣	六月	▲北滿における日本農民の開拓地を通じて新らしい國の動きに觸れたもの。

春山行夫	滿洲風物誌		四六判製	450	二、四〇	生活社	十一月	▲昨年一ケ月に亘つて北支、滿洲國を見學した時の旅行報告。
長谷川春子	南の處女地	佛印紀行	四六判製	218	一、五〇	興亞日本社	十二月	▲佛印の實相を興味深く描いた紀行で、女ひとり佛印へ行く、佛印の女たち等十篇。
鎌原正巳	蒙疆紀行		四六判製入	247	一、七〇	赤塚書房	十月	▲昭和十四年五月から六月にかけて北支・蒙疆・滿洲へ旅行せる時の視察記。
深尾須磨子	旅情記		四六判製	352	一、五〇	實業之日本社	八月	▲第三回目の歐洲旅行に於ける紀行を收めたもので、旅情記、旅情便り、旅情日記等。
田中耕太郎	ラテン・アメリカ紀行		四六判製	682	三、〇〇	岩波書店	十月	▲百五十日に亘る南米の見聞錄を纏めたものでリオデ・ジヤネイロ其他。
平野長英 川崎隆章	尾瀨		四六判製入	542	三、五〇	龍星閣	十月	▲尾瀨に關する歷史、傳說、短歌、植物、恩人等を語り、尾瀨登山の指導を詳述す。
三田屋松太郎	奥羽の名山		四六判製	278	二、九〇	富山房	六月	▲奥羽の山々の旅行記を集めたもので、吾妻磐梯縱走、峽谷の白眉中津川等其他。
田部重治編	渓谷	隨想と紀行	四六判製	265	一、六〇	三省堂	七月	▲渓谷に關する隨想と紀行を集めたもので、渓谷の溯行（田部重治）他九篇。
今井重雄編	甲武相山の旅		四六判裝	432	一、六〇	天佑書房	三月	▲甲斐・武藏・相模の山々を紹介し、平易な案内と指導をなしたもの。
今西錦司	山岳省察		四六判製	278	一、八〇	弘文堂	六月	▲初登山に寄す、飛騨の四日、登山の實證的一斷面、短スキー論等其他の山岳隨想集。
内藤八郎	白峰・仙丈・駒・鳳凰		三五判製	107	七〇	三省堂	五月	▲南アルプスに連なる、鳳凰山、駒ケ岳、仙丈嶽、白峯三山等の登山案内をなしたもの。
海野治良	谷川岳・仙ノ倉・苗場山		三五判製	123	七〇	三省堂	五月	▲上越山群の内谷川岳、仙ノ倉、苗場山の三山の登路、狀態、天候等其他の案内をなす。

登山記・山岳案内

原	全	敎	秩父山塊	並	四六判	三五判	102	三、七〇	三省堂	五月	▲關東山地の中心である秩父山地の說明をしたもので秩父山塊とその風物其他。
山下一夫	中央アルプス・乘鞍・御岳	並	四六判	三五判	112	七〇	三省堂	九月	▲中央アルプスと御岳・乘鞍岳の案内をなしたもの。
中村謙	山函遺書(1) 東京附近雪艇の旅	並	四六判	310	一、六〇	山と溪谷社	十二月	▲紀行篇、案内篇の二部に分け七十八篇を收め「スキー・ツーア注意十則」を附載す。
今村學郎	東京文理科大學助教授 日本アルプスと氷期の氷河	洋装	菊判	162	二、八〇	岩波書店	十二月	▲日本アルプスの氷河地形の實地踏査に多大の苦心を拂つた著者が其の結果を纏めたもの
鐵道省山岳部編	日本山岳案内 一、丹澤山塊 道志山塊	布装	四六判	338	一、八〇	博文館	五月	▲初心者のために丹澤山塊、道志山塊の二山塊の登山路を詳細に說明したもの。
鐵道省山岳部編	日本山岳案内 二	布装	四六判	260	一、八〇	博文館	六月	▲第二輯は奥多摩、甲武相國境、奥武藏の山々を收めて解說指導なしたもの。
鐵道省山岳部編	日本山岳案内 三	布装	四六判	366	一、八〇	博文館	九月	▲第三輯は「中央線に沿ふ山」「御坂山塊」の中央線に沿ふ東京附近の山の登山路を紹介。
深田久彌編	富士山	布新菊装	四六判	504	三、二〇	青木書店	十月	▲「富士山」に關係ある學的研究を始め、文學、傳說、信仰、紀行文等を纂錄なしたもの。
加藤博二	密林の怪女	上	四六判	303	二、〇〇	日本公論社	七月	▲山に生活する人々を描いたもので、お花畑番人、山の湯、森林官の生活其他。
茨木猪之吉	山旅の素描	並	四六判	164	一、二〇	三省堂	一十一月	▲山の素描を中心としての隨筆集で、小諸時代他十六篇を收めてある。
松本重男	中央線に沿ふ 山と高原	洋	四六判	406	二、五〇	登山とスキー社	一十一月	▲前夜發で行ける中央線に沿ふ山、峠、高原の大半を收錄して案内をなしたもの。
松本重男	中央線に沿ふ 山と峠	洋布	四六判	301	一、八〇	登山とスキー社	三月	▲新宿驛を發驛として日歸りの出來る中央沿線の山と峠の正確な案内をなしたもの。
朝史門	山と漂泊	並	四六判	222	一、六〇	朋文堂	五月	▲春夏秋冬の高原山岳に關する隨想集で季節の香讀、圖谷の燈火、落葉の手帖其他。

春日俊吉	山と雪の受難者	並	四六判	296	一、六〇	朋文堂	二月	▲山と雪とに遭難せる實話三十有餘を採錄して參考としたもの。
高林棟村	山の子供達	並	四六判	234	一、五〇	朋文堂	十月	▲山村の牧歌をうたひ、山村に起居した間に得た數々の覺書きを纏めたもの。
春日俊吉	山の初登攀物語	並	四六判	211	一、六〇	朋文堂	七月	▲始めて登攀せる十八篇の實話を收錄したもので、二百年前の木曾駒登山祕錄其他。
冠松次郎	廊下と窓	上	四六判	277	二、〇〇	三省堂	二十月	▲廊下と窓、山の神祕と莊嚴、溪谷の美しさ山、溪谷と出湯等四十六篇の山岳紀行集。
回敎圖研究所編	回敎圖要圖	並	四六全紙	二枚	七〇	平凡社	九月	▲回敎圖に於ける要圖。別冊解說及索引を附す。
東亞地理學協會編	分省式 詳密支那全圖	菊	半裁	22圖	二、〇〇	東亞地理學協會	五月	▲支那各省を分省式にて二十二圖に收め、平易な支那支案内と支那語を併載す。
ヒコーキ印地圖出版所編	精緻 大東京市全圖	菊	全紙	一枚	四〇	ヒコーキ印地圖出版所	三月	▲最新の東京市全圖。裏面に區町名、官公署學校等記入す。
九段書房編	最新 大滿洲國詳圖	並	半裁	1圖	四〇	九段書房	五月	▲三百二十萬分の一の滿洲國全圖。附新京市街圖。
アトラス社編	最新版 鐵道地圖	並	三六判	1圖	三五	アトラス社	一十月	▲鐵道線路を中心として日本全國を載せた地圖。
九段書房編	最新模範 鐵道旅行圖	並	縱廿六 橫十	1圖	六〇	九段書房	七月	▲鐵道を中心として沿線にある著名名勝、史蹟、神社、佛閣、溫泉等を案内す。
ヒコーキ印地圖出版所編	東京府詳細圖	半	四六全紙	1圖	三〇	ヒコーキ印地圖出版所	三月	▲東京市を中心にし夫を延長して新宿以西を收めた最新地圖。
九段書房編	最新 南洋詳細圖	半	四六全紙	1圖	五〇	九段書房	十月	▲南洋の詳細圖。

九、政治・社會

政治一般

著者	書名	裝形	頁數	定價	發行所	發行月	內容大意
濱薫明	學としての東洋政治學は如何にして可能なりや	菊判並製	175	二、〇〇 一〇	東洋政治學會出版部	一月	▲東洋政治學の哲學的基礎附け、東洋政治學の體系の說明他十篇の論文を收載す。
木舍幾三郎 編集兼 虛心	政界往來	四六判上製	412	二、五〇 一四	東海出版社	十月	▲政界往來社長として十數年間に政界往來誌上に掲載せる「ひとり言」を纏めたもの。
岩淵辰雄 編輯兼	屑屋政談	四六判上製	449	二、〇〇 一〇	高山書院	九月	▲近衞公と新政治體制、屑屋政談、非常時の外交、言論の權威等其他の隨想集。
安岡正篤	經世瑣言	四六判並製	298	二、〇〇 一〇	刀江書院	三月	▲國家政教に關する諸短篇を收錄したもので大臣、如何なる人物が天下を救ふか其他。
新愛知新聞社編	皇紀二千六百年興亞大觀	四六倍判	60 7/2	一〇、〇〇 三〇	新愛知新聞社	九月	▲東亞新秩序建設に關する諸論策と中部日本の五十年史とを收めたもの。
杉原正巳	國民組織の政治力	四六判並製	399	一、五〇 一〇	日本モダン社	十一月	▲日本政治革新運動の結論國民組織、國民組織要請の國內情勢等十三篇の論文集。
牧野伸顯	閑談	四六判並製	267	一、七〇 一〇	創元社	六月	▲文物・制度に就て、偉れた人々の思出、巴里媾和會議に就て等に收めた回想錄。
法學博士 田村徳治	東亞聯盟運動の新政治體制の目標	四六判上製	359	一、八〇 一〇	立命館出版部	十二月	▲國民戰力體の固成の必要と運動、國民戰力體の固成への原則と注意他五章にて述ぶ。

地理・紀行（地圖）

東京地形社編	滿洲國地圖	三六判洋布	83圖	一、三〇 六	東京地形社	五月

▲滿洲國總圖及各省地圖、重要都市街圖等を收めたもの。

早稲田大學教授 文學博士 西村眞次著

日本古代經濟

交換篇・全七冊

（東京堂刊行）

第一冊 總論・沈默貿易 四六倍判二七〇頁・圖版八葉 定價三圓五十錢・送料三十錢

第二冊 市場 四六倍判一七六頁・圖版十七葉・挿圖十一 定價二圓五十錢・送料二十二錢

第三冊 坐商・行商 四六倍判一四七頁・圖版九葉・挿圖十六 定價二圓五十錢・送料二十二錢

第四冊 貨幣 四六倍判二七四頁・圖版廿二葉・挿圖卅八 定價三圓五十錢・送料三十錢

第五冊 貿易 四六倍判二八〇頁・圖版廿葉・挿圖入 定價三圓五十錢・送料三十錢

第六冊 度量衡（未刊）

第七冊 交通・結論（未刊）

木原通雄 後藤勇	新政治への展望	四六並製	180	一、四〇	九	東海出版社	十月	▲時勢の底流に聽け、擧國一致の再建、責任論以上の責任等其他を收めた政治評論集。	若宮卯之助	日本の理想	上函四六製	400	二、五〇	一四	翠文閣	十二月	▲皇室篇、日本主義篇、日本制覇譯、政治外交篇、教育篇等に分けて其論說を收めたもの
京都帝國大學經濟學博士 谷口吉彦	新體制の理論 —政治・經濟・文化・東亞の新原理—	四六並製	352	二、〇〇	一四	千倉書房	十一月	▲新體制の根本理念、政治新體制の理論と機構、經濟新體制の理論と機構他一篇にて述ぶ	伸小路彰	日本政治論	上函四六製	264	二、五〇	一四	世界創造社	十一月	▲日本政治の基調、日本世界政策の發展、世界勢力圏の全面的批判の三篇にて述ぶ。
G・F・ハドソン著 木村不二彥譯	世界政治と極東	四六並製	250	一、八〇	九	白揚社	八月	▲近世に於ける極東史を敍述せるハドソンの著者を全譯したもの。	木原通雄	日本政治の新秩序	四六並製	308	一、八〇	一〇	東晃社	十一月	▲事變以來の政治的相貌をその變化の現實的場面に應じて把へやうとした評論集。
ハドソン著 尾崎秀實譯	世界政治と東亞	菊並製	229	二、五〇	一四	生活社	十月	▲東洋現代の全運動を素地のまゝ記述したもので、東方貿易の推進、利權獲得鬪爭其他。	京都帝國大學經濟學博士 谷口吉彥	東亞綜合體の原理	菊並製	190	二、〇〇	一四	日本評論社	三月	▲東亞新秩序の理念として提唱されつゝある諸說を批判し東亞綜合體の原理を展開す。
原田鋼	政治思想史概說 —一—	菊並製	277	一、八〇	一〇	有斐閣	二十月	▲ギリシヤ都市國家と倫理的政治思想、ローマ社會の生成とその政治思想他二篇。	加田哲二	轉換期の政治思想	四六並製	350	二、三〇	一四	慶應書房	一月	▲現轉換期のイデオロギー、ナチス思想、イタリア・ファツシズム等の意義を闡明す。
中野登美雄	戰時の政治と公法	菊並製	414	三、五〇	一四	東洋經濟出版部	五月	▲二・二六事件以後阿部內閣成立迄の間に於ける我が國の政治及公法現象の實際を記述す	ハウスホーファー著 日本青年外交協會譯	太平洋地政治學 下卷	菊並製	520	二、七〇	一四	日本青年外交協會	十一月	▲下卷は第十九章太平洋における空間價値—島嶼と周緣空間の價値轉倒八章を邦譯す。
ハウスホーファー著 日本青年外交協會譯	太平洋地政治學 上卷	菊並製	297	二、八〇	一四	日本青年外交協會	八月	▲上卷は第一章太平洋地政治學なるものを存在するか？等十八章迄を譯載す。	鹿兒島大學教授 經濟學博士 加田哲二	轉換期の政治思想	四六並製	350	二、三〇	一四	慶應書房	一月	▲現轉換期のイデオロギー、ナチス思想、イタリア・ファツシズム等の意義を闡明す。
京都帝國大學教授 谷口吉彥	東亞綜合體の原理	菊並製	190	二、〇〇	一四	日本評論社	三月	▲東亞新秩序の理念として提唱されつゝある諸說を批判し東亞綜合體の原理を展開す。	谷口吉彥	東亞綜合體の原理	菊並製	190	二、〇〇	一四	日本評論社	三月	▲東亞新秩序の理念として提唱されつゝある諸說を批判し東亞綜合體の原理を展開す。
木原通雄	日本政治の新秩序	四六並製	308	一、八〇	一〇	東晃社	十一月	▲事變以來の政治的相貌をその變化の現實的場面に應じて把へやうとした評論集。	木原通雄	日本政治の新秩序	四六並製	308	一、八〇	一〇	東晃社	十一月	▲事變以來の政治的相貌をその變化の現實的場面に應じて把へやうとした評論集。
日本政治學會編	日本政治論 日本政界主義體系(5)	菊並製	264	二、五〇	一四	世界創造社	十一月	▲日本政治の基調、日本世界政策の發展、世界勢力圏の全面的批判の三篇にて述ぶ。	伸小路彰	日本政治論 日本政界主義體系(5)	菊並製	264	二、五〇	一四	世界創造社	十一月	▲日本政治の基調、日本世界政策の發展、世界勢力圏の全面的批判の三篇にて述ぶ。
若宮卯之助	日本の理想	上函四六製	400	二、五〇	一〇	翠文閣	二十月	▲皇室篇、日本主義篇、日本制覇譯、政治外交篇、教育篇等に分けて其論說を收めたもの	京城帝國大學法學會編	法と政治の諸問題 京城帝國大學法學會論集(11)	菊並製	397	三、五〇	一三	岩波書店	二月	▲公法上の拋棄に就て（鵜飼信成）他三篇收錄

時局評論・時局情報

三宅雄二郎	變革雜感	四六並製	485	二、五〇	一四	帝都日日新聞社	十月	▲鶏口と鳳口と雞口、成全國の無體、汪氏の位置、ネルソンの血統等其他を收む。	細川嘉六	アジア民族政策論	菊並製	294	三、〇〇	一四	東洋經濟新報社	十二月	▲アジア民族の史的發展と大陸政策への省察南京政權と世界政治他六篇の論文集。
京城帝國大學法學會編	法と政治の諸問題 京城帝國大學法學會論集(11)	菊並製	397	三、五〇	一三	岩波書店	二月	▲公法上の拋棄に就て（鵜飼信成）他三篇收錄	木崎爲之	一民の力 新體制讀本	四六並製	141	九〇	一一	六人社	十一月	▲皇國日本の本質、臣民道の本質、臣民の本務、所有權に就ての反省他二章にて說く。
細川嘉六	アジア民族政策論	菊並製	294	三、〇〇	一四	東洋經濟新報社	十二月	▲アジア民族の史的發展と大陸政策への省察南京政權と世界政治他六篇の論文集。	香椎浩平	英雄日本民族の自覺	四六並製	305	一、七〇	九	第一書房	十月	▲英雄日本民族の自覺、眞の英雄觀、英雄及び指導者の足跡を辿る他六篇を收む。
木崎爲之	一民の力 新體制讀本	四六並製	141	九〇	一一	六人社	十一月	▲皇國日本の本質、臣民道の本質、臣民の本務、所有權に就ての反省他二章にて說く。	福岡醇祐	汪精衞に與ふ	四六並製	248	一、五〇	九	亞洲青年聯盟出版部	十一月	▲新政府を率いて新支那建設途上にある汪精衞氏に宛てた公開狀。
香椎浩平	英雄日本民族の自覺	四六並製	305	一、七〇	九	第一書房	十月	▲英雄日本民族の自覺、眞の英雄觀、英雄及び指導者の足跡を辿る他六篇を收む。	田中直吉	歐洲大動亂と東亞聯盟	四六並製	261	一、五〇	一〇	立命館出版部	七月	▲世界の轉換期と東亞聯盟、歐洲大戰の展望歐洲動亂と日本他二篇にて說述す。
福岡醇祐	汪精衞に與ふ	四六並製	248	一、五〇	九	亞洲青年聯盟出版部	十一月	▲新政府を率いて新支那建設途上にある汪精衞氏に宛てた公開狀。	谷口雅春	慨世血の書	四六上製	451	一、六〇	一四	光明思想普及會	二月	▲今日の非常重大時に處するための根本的人生觀の革命と、その具體的方法とを述ぶ。
田中直吉	歐洲大動亂と東亞聯盟	四六並製	261	一、五〇	一〇	立命館出版部	七月	▲世界の轉換期と東亞聯盟、歐洲大戰の展望歐洲動亂と日本他二篇にて說述す。	神谷茂	協同史觀への志向	四六上函製入	319	一、六〇	一〇	教材社	五月	▲轉換期にある東亞新秩序建設の理論的根據を究明したもの。
谷口雅春	慨世血の書	四六上製	451	一、六〇	一四	光明思想普及會	二月	▲今日の非常重大時に處するための根本的人生觀の革命と、その具體的方法とを述ぶ。	鈴木庫三	教育の國防國家	四六並製	149	八〇	六	目黑書店	十二月	▲國防國家とは何か、教育の國防國家の二部にて說述す。
神谷茂	協同史觀への志向	四六上函製入	319	一、六〇	一〇	教材社	五月	▲轉換期にある東亞新秩序建設の理論的根據を究明したもの。	楢崎觀一	興亞建設の基礎知識	四六並製	331	一、五〇	一〇	大阪屋號	七月	▲東亞新秩序建設、興亞人物素描、支那及支那人、日本の進む道等其他を收む。
鈴木庫三	教育の國防國家	四六並製	149	八〇	六	目黑書店	十二月	▲國防國家とは何か、教育の國防國家の二部にて說述す。	淺野利三郎	興亞聖戰と世界大戰 食糧現代史十講上卷	菊並製	163	一、五〇	九	現代社	四月	▲本輯は興亞聖戰の目標について述べたもので、東亞新秩序の目標、東亞協同體の性格他

戸澤鐵彦	國政論集	上製	四六判	208	一、七〇	中央公論社	十一月	▲近衛内閣と知識階級、宣傳數則、米内内閣と政治の現實等他四篇の政治評論集。
安達晨	國民運動の再出發	並製	四六判	290	一、八〇	霞ヶ關書房	十月	▲國民的新政治運動擡頭の經緯、産業組合黨型より新國民運動への展開過程他五篇。
小田俊與編	近衛新體制の全貌	上製	四六判	306	三、〇〇	皇國日本新聞社	九月	▲昭和維新に於ける新體制運動の理念と方向とを平易に概述なしたもの。
伊豆原洋	年表式 最新時局問題解説	並製	四六判	330	一、三〇	西東社	五月	▲昭和十二年七月支那事變勃發より欧洲動亂の現在までの重要問題を捉えて解説す。
宇田尚編	思想 —建設興亞の理念—	並製	四六判	474	二、五〇	廣文堂	七月	▲興亞の精神的食糧（德富蘇峰）民國新政府の理念（小柳司氣太）他十四篇の評論集。
下村海南 法學博士	持久戰時代	上製入	四六判	426	一、八〇	第一書房	七月	▲南船北馬篇、時局漫語篇、厚生放言篇、白雲流水篇、時事解説篇の五篇に收めた隨想集。
馬場恒吾	時代と人物	上製入	四六判	333	二、〇〇	東洋經濟新報社	十二月	▲最近二三年間の政治隨想を集めたもので、私の人生觀、歴史と人物其他。
平貞三	事變處理の理念	並製	四六判	303	一、八〇	東洋書館	十二月	▲新體制と外交、支那事變處理の理論と實踐大陸縱横談の三篇に分け收めた書。
野依秀市	重臣を衝く	並製	四六判	410	一、三〇	秀文閣	二月	▲重臣を糺彈し、其奏請によつて出現した内閣の施政を批判し事變解決の道を說く。
下村海南 法學博士	昭和の維新	上製入	四六判	358	一、八〇	第一書房	十一月	▲最近の博士の政治・經濟・教育・社會等の凡ゆる部門に亘る論文・批評・側感等收錄す。
滿田巖	昭和風雲錄	並製	四六判	549	二、三〇	新紀元社	十二月	▲ワシントン會議から二・二六事件を經て新體制運動の生成に至る迄を記錄批判す。
中村貞彦編	臣民一億の反省	並製	四六判	171	一、〇〇	清明書院	一月	▲知識人への提言（今橋魁之輔）戰爭と社會（藍田孝）他六篇の論文集。
神崎儲	新時代と國民生活	並製	四六判	170	七〇	興亞協會文化	十一月	▲今後の個人生活はどう變つて行くかに就て說述なしたもの。

原勝 林秀	新世紀の思想	上製	四六判	293	一、三〇	新興亞社	十二月	▲新秩序と文化の問題、新支那建設の現實の地層と方策等五篇を收む。
古田德次郎	新政治體制の全貌	並製	四六判	146	八〇	高田書院	九月	▲新政治體制になるまでの現代日本の政治的推移を平明に敍述なしたもの。
田知花信量	新大陸政策の基調	上製	四六判	193	一、〇〇	日本青年外交協會	十二月	▲事變直前の日支關係、蔣政權の抗戰能力とその地位、事變處理への考察等十九章。
日本經濟研究會編	環流日本 新體制を衝く	並製	四六判	185	一、三〇	伊藤書店	九月	▲世界の新秩序と日本の新體制、政治の新體制、新體制の根本原理等其他にて述ぶ。
津久井龍雄	新體制期の構想	並製	四六判	346	一、八〇	東洋經濟新報社	十一月	▲國際情勢篇、國内政治篇、思想・文化篇、時局と青年篇の四篇にて說いた評論集。
室伏高信	新體制講話	上製	四六判	318	一、五〇	青年書房	十月	▲新體制支持者として、室伏氏が新體制について解說したもので、新體制とは何か其他。
報知新聞社政治部編	新體制とはどんなことか	並製	四六判	258	一、五〇	内外書房	十月	▲新體制運動並に三國同盟があるか平明に解說したもの。
大渡順二 東京朝日政治部次長	新體制讀本	並製	四六判	319	一、三〇	新紀元社	十月	▲近衛公の總裁の下に全國民が大政翼賛運動に集結しやうとする新體制下の全貌を說く。
楓井金之助編	新東亞の展望	並製	四六判	320	八〇	國民新聞社	三月	▲新東亞建設に附隨せる諸問題を論述せる諸論講とニュースを收めたもの。
鈴木庫三 陸軍少佐監修	世界再建と國防國家	並製	四六判	331	八〇	朝日新聞社	十一月	▲陸軍省情報部の鈴木少佐が國防國家について述べたもので、國防國家他三章。
前原光雄 慶應大學法學部教授	世界新秩序建設のために	並製	四六判	344	二、〇〇	慶應出版社	八月	▲國際平和思想の發展、ヴエルサイユ平和體制の缺陷とその崩潰他一篇を收む。
末次信正	世界戰と日本	上製	四六判	281	一、三〇	平凡社	十月	▲國防の本義と軍縮問題、時局と國防、武將縱横談、日本の國防的地位等其他の評論集。
藤谷重雄 菊田義郎編	青年大陸讀本	並製	四六判	324	二、三〇	元宇館（上田屋發賣）	七月	▲青年と大陸（小林一三）支那の人々（清水安三）他二十六講にて說いた大陸讀本。

國田豐	青年は想ふ	並四六判製	244	一、二〇	大日本赤城會（大日本法令登載）	十二月	▲日本的とは何ぞや、現代日本の病弊、何ものをも恐るゝ可からず其他。
加田哲二（慶應大學教授經濟學博士）	政治・經濟・民族	洋菊判並綿布入製	359	三、三〇	慶應書房	十一月	▲民族・戰爭・新秩序・東亞民族の運命と使命・ヨーロッパ民族の沒落と新秩序他一篇。
新政治研究會編	戰時下の國民におくる近衞首相演說集	並四六判製	190	九五六	東晃社	二十二月	▲親任式を終へて、貴族院制度調査會總會における挨拶等五十一篇の演說集。
津久井龍雄	評論 戰爭の背後のもの	並四六判製	204	一、四〇九	八元社	十一月	▲國家の歷史的段階、政治の性格と新動向、民族主義・民族と性格等其他の評論集。
高橋莊造	教育者の見たる 祖國と大陸	並四六判製	312	一、五〇一〇	二松堂	四月	▲全國小學校教員代表として昨年大陸に旅行せる時の見聞視察を纏めたもの。
清水幾太郎	組織の條件	上菊判製	276	二、五〇一四	東洋經濟新報社	十一月	▲組織の條件、日本の進路。知識階級と新生活運動、國內文化の刷新等其他の評論集。
中西鄕市	大政翼贊讀本	上菊判製	112	一、〇〇一〇	刀江書院	十一月	▲體制運動の經過、新體制とはどんなものか、の三章にて述ぶ。
石丸藤太	大戰と日本の進路	上四六判製	501	二、〇〇一〇	高山書院	二十二月	▲歐洲大戰の見透しと日本の對策及び進むべき道を指摘した書。
京城帝國大學大陸文化研究會編	大陸文化研究	洋菊判並綿布入製	546	四、五〇三三	岩波書店	七月	▲國家の目的と大陸經營（尾高朝雄）東亞新秩序の建設（森谷克己）他十七篇を收錄す。
室伏高信	太平洋の夢	並四六判製	252	一、五〇九	青年書房	九月	▲東南洋廣域に新秩序が展開され、日本がその中心となつて發展する未來の太平洋を描く
石原廣一郎	轉換日本の針路	上四六判製	294	一、五〇一〇	三省堂	二十二月	▲東亞新秩序建設の重大使命を帶びて前進せんとする轉換期日本の進路を說く。
原勝	東亞解放論序說	並四六判製	345	一、八〇一〇	日本青年外交協會出版部	六月	▲東亞協同體の建設方途、九ケ國條約廢棄宣言、日支和平と新外交他十四篇の論文集。
小日山直登	東亞創制論	並四六判製	241	一、一〇九	亞細亞書房經濟事情社	三月	▲新秩序の建設を亞細亞の天地にて遂行せんとする日本の興亞聖業を論述す。

井伊亞夫	東亞の理念	並四六判製	316	二、〇〇一〇	東京書房	四月	▲東亞新秩序の建設は日支兩國の國家形成を推進力として成立し得る事を說いたもの。
西山庸平	東亞民族の指標	並菊判製	86	窓九	福村書店	二月	▲日滿支三國民族の結合の必然性と其の指導原理を說いて東亞民族の進路を示す。
野依秀市	日本に鞭つ	並四六判製	460	一、三〇一〇	秀文閣	七月	▲革新的國民の不滿とするところに解決を與へる幾多の諸論策を收めたもの。
加藤一夫	日本の新方向	並四六判製	223	一、四〇九	山雅房	四月	▲日本の新方向、昭和維新論、國內新秩序の基調、國內新秩序の實現他三篇にて說く。
武藤貞一	日本の變貌	並四六判製	329	一、五〇九	興亞書局	十一月	▲試鍊の日本を直視して、昭和維新への躍進革新政治家とは誰々か等其他を收めたもの。
室伏高信	日本豫言	上四六判製	287	一、七〇一〇	三省堂	七月	▲到來しつゝある太平洋時代に備へ、日本。新らしい世界政策を大膽に說いたもの。
安藤正純	發展日本の原理と新體制	並四六判製	184	一、〇〇九	大東出版社	十一月	▲平等思想の本質と新體制の立場、歐洲に於ける權力思想と平等其他にて論ず。
安達謙藏	北進國南	並四六判製	263	一、五〇九	春潮社	十月	▲對支根本方針に就いて、事變處理の要諦、國際情勢と日本の地位等其他の講演集。
中野有禮	明日の世界	並四六判製	322	一、八〇一〇	實業之日本社	七月	▲明日の世界に對する科學的示唆を與へたもので、私を今日あらしめたもの其他。
新更會編	躍進日本の種々相	洋菊判並綿布入製	415	二、五〇一四	新更會刊行部	一月	▲敬神の大義（吉田茂）佛教と日本精神（宮本正尊）他七篇の講義を記錄したもの。
小田俊與	翼贊運動と近衞公	上四六判製	332	二、〇〇一〇	俊平書房	十二月	▲近衞公蹶起篇、近衞公と近衞內閣の性格、新體制內閣の橫顏、翼贊運動の理念解說其他
日本放送協會編	ラヂオ時局讀本	並新四六判製	223	五〇九	日本放送協會出版協會	二月	▲物心總動員の卷、進む新支那の建設、百億圓を目指して他十七篇の時局講話を收む。
日本放送協會編	ラヂオ時局讀本第二輯	並三六判製	213	五〇六	日本放送協會出版協會	十一月	▲第二輯は昭和十四年十二月以降本年八月下旬までに放送された時局談十八篇を收錄す。

國家・國體

石原新三郎	皇道國家建設試論	菊並製判	218	一、八〇	東峰書房	二十年二月
藤井章（東京外國語學校教授）	皇道主義思想の確立	菊洋布入判	257	二、三四	高陽書院	二十年二月
作田莊一（經濟學博士）	國家論（論說集第一卷）	菊洋布入判	384	二、八〇	弘文堂	二年二月
須基浩	國體と國旗	四六並製判	137	八〇	理想社出版部	十年一月
スメラ學塾編	スメラ學藝講座第一期	菊並製判	397	二、三四	世界創造社	十年一月

▲昭和維新改革試案、東亞建設への構想の二部にて皇道國家建設に就ての著者の試論。

▲自由主義の沒落、反國家主義の矛盾、個人主義の缺陷外二章にて論述。

▲全體と分身、內より見たる國家、純粹國家國家主義對社會主義他四篇の論文集。

▲國旗の性質、日章旗の國家的意義、世界各國旗と我國旗の特質他三章にて述ぶ。

▲スメラ學塾第一期の諸講座を收錄したもので、今日の時局の大觀（末次信正）其他。

行政・自治・警察

安平政吉	刑事政策の新動向	菊洋布入判	407	三、六〇	巖松堂	十年十月
窪孝治郎	經濟警察捜査實務	四六洋布入判	250	一、二〇	松華堂	十年十二月
飯田一雄	警察人事相談と其の實例	四六上製判	231	一、一〇	松華堂	十年一月
津田光造	皇道自治精義	四六並製判	437	二、〇〇	青年書房	十年一月
宇賀田順三（九州帝國大學教授）	自治制度改革と特別市制問題（行政法研究 乙）	菊洋布入判	536	五、六〇	清水書店	九年九月
南波李三郎	防犯讀本	菊洋布入判	422	二、三四	南郊社	八年八月

▲刑事政策の一般的基礎觀念を明らかにし、最近に於ける刑政上の諸問題を論述す。

▲統制實施以來現れてゐる違反の實例數十件をあげて捜査記錄を收めたもの。

▲警察人事相談の知識を說き、多數の實例と各種の書式を示したもの。

▲序論、己心自治の新體制、家庭自治の新體制、町村自治の新體制他四章にて述ぶ。

▲第二輯は自治制度改革問題と其に關聯せる特別市制問題とを論述す。

▲常習の犯罪取口を說明して、公衆のために防犯の方法を述べたもの。

國際・外交

三澤寬一編	吏道經典	菊上製判	194	二、〇〇	小山書店	九月
林毅陸（ラヂオ新書（19））	外交の常識	三六並製判	182	一、五〇	日本放送協會出版部	七月
桑田透一	鯨族開國論	四六布裝判	146	一、五〇	書物展望社	九月
同盟通信社調査部編	國際宣傳戰	四六並製判	315	一、六〇	高山書院	九月
松尾樹明	三國同盟と日米戰	四六並製判	352	一、五〇	霞ヶ關書房	十月
伊藤正德	世界と日本（日本外交の再建）	四六並製判	409	一、八〇	鱒書房	七月
野依秀市	日・獨・伊同盟と日本の將來	四六並製判	341	一、一〇	秀文閣	十月
中田千畝	日本外交秘話	四六上製判	342	二、〇〇	博文館	十一月
伊藤述史	日本の外交	四六上製判	142	一、〇〇	三省堂	七月
竹內夏積編	民族外交の顏	四六並製判	257	一、五〇	岡倉書房	七月
三澤弘次譯（ローリングホーフェン著）	ヨーロッパの外交戰（ナチス・ドイツを陰る）	四六並製判	285	一、五〇	東洋經濟出版部	一月

▲漢籍及我國先覺者の言より吏道の模範となるべきものを輯錄せる吏道經典。

▲歐洲外交の史的考察と現勢、ペルリ日本來航記等他五篇の講演錄を纏めたもの。

▲ペルリを恩人とする誤れる觀念を是正して日本近海の鯨族による開國論を說いたもの。

▲現下に於ける國際宣傳戰の實相を衝いたもので、第二次歐洲戰と宣傳戰其他

▲三國同盟によつて對立せる日米の將來を、數々の客觀的事實によつて觀察す。

▲最近に於ける外交評論を集錄したもので、外交求國論、淺間丸の外交と海戰略其他。

▲帝都日日新聞紙上に揭載された日々の小論を集めたもので、三國同盟と日本の將來他。

▲明治維新以來八十年に亘る我邦外交の裏に隱された秘話二十數話を收錄したもの。

▲帝國外交の眞義を一般大衆のために說いたもので、外交とは何ぞや其他。

▲黑船の下田とアストリア（出淵勝次）ハリスとお吉（清澤洌）他三十六篇の外交夜話。

▲一九三三年から一九三九年迄のナチスドイツの外交政策を敍述したもの。

世界政局・歐米事情

伊藤道郎	アメリカ	四六判並製	304	一、八〇	羽田書店	六月	▲舞踊家として二十九年に亘る滞在中得たアメリカの性格を興味深く描寫したもの。
ヴェブレン著 橋本勝彦譯	世界企體主義大系 アメリカ資本主義判批	四六判洋裝布入	370	二、五〇	白揚社	十月	▲アメリカ資本主義を綜合的に觀察究明せるヴェブレンの著書を飜譯す。
西尾忠四郎譯	國際情勢年報（1） アメリカ特輯號	菊並製	258	二、〇〇	青年書房	十一月	▲アメリカの政治・經濟・軍事・外交に亘り凡ゆる視角から論じた諸論文を輯錄す。
ポウタ・カーター著 山本政喜譯	アメリカの反省	四六判並製	266	一、八〇	三敎書院	四月	▲凡ゆる角度よりアメリカの政治・社會・經濟問題等を捉えて立體的に描いたもの。譯。
フランゴ著 濱田耕三譯	アラビヤを探る	四六判上製	335	一、三〇	青年書房	九月	▲英國アデン保護領及イエーメンを背景とする英伊の鬪爭と、回敎諸民族の生活を描く。
アンドレ・モロア著 山内義雄譯	新しき大戰	四六判並製	96	五〇	白水社	六月	▲第二次大戰勃發に至るまでの經緯を描いた「一九三九年大戰の原因」の飜譯。
	獨逸國外務省編	四六判並製	104	五〇	獨逸國大使館	九月	▲獨逸國白書第四號「イギリスの手ノルウエーに及ぶ」を拔萃したもの。
柏熊達生	イギリスの手ノルウエーに及ぶ —獨逸白書第四號抄譯— 伊太利案内	四六判上製	345	一、八〇	改造社	十一月	▲十年に亘る伊太利滯在中に得た數々を物語つたもので、ムーソリーニと會ふ其他。
松浦嘉一	英國を視る	四六判並製	325	一、三〇	第一書房	一月	▲現代英國の性格と英國人の心理とを捉らへて公平に觀察せるエッセイ集。
エヴアルト・マイヤー著 平田元吉譯	英國罪惡史	四六判並製	334	一、八〇	人文書院	八月	▲英國が數百年來取り來つた國内及び對外政策の連續的罪惡を暴露痛擊せるもの。
アンドレ・ジークフリード著 井伊玄太郎譯	英國の危機	四六判並製	275	一、八〇	白揚社	十一月	▲一九三一年既に發行され、二十世紀に於ける英國の危機を豫言せるもの。
國際經濟學會編	英國植民政策史	四六判並製	306	一、〇〇	刀江書院	七月	▲古來より現在迄英國が執り來つた惡辣暴虐の生々しき植民政策を敍述したもの。
ビュックラー著 東洋經濟譯	經濟と軍備より見たる 英國の實力	四六判並製	247	一、五〇	東洋經濟出版部	二月	▲軍備と經濟の兩面より英國の實力を概察せる How strong is Britain? を譯述す。

篠田錦策	東京高等師範學校敎授 英國の風物	新四六判洋裝布入	387	二、五〇	研究社	十月	▲「英人の生活」と「英國の制度」の二部にて英國の一般の知識を大摑に述べたもの。
百々巳之助	日本大學敎授 英國亡ぶか	四六判並製	229	一、三〇	高山書院	十一月	▲滅亡しつゝある英國の實相を究明したもので、イギリスの世界政策的戰略的變遷其他。
W・R・イング著 小山東一譯	英國論	四六判並製布裝入	336	二、五〇	松山房	三月	▲英國人自身によつて批判せられた英國論 "England" を邦譯す。
エ・エム・サハイ著 高岡大輔譯	英帝國敗るゝの日	四六判並製	268	一、三〇	象山閣	十二月	▲英國が如何にして印度を經略し且如何にして印度を其世界制覇の爲に用ひたかを明示す
ウエールト著 佐藤謙三譯	斯くて獨逸は開戰した	四六判並製	237	一、三〇	改造社	九月	▲第二次大戰開幕前に於ける獨逸外交の内狀を描いたもので、一九三九年八月の政情他。
田畑爲彦	驚異のドイツ	四六判並製	241	一、五〇	報國社	七月	▲第二次大戰に於いて驚異的戰果を收めた强剛獨逸國の全貌を示したもの。
南滿鐵調査部上海事務所調査室譯	極東に於ける獨逸の權益と政策	菊並製	112	一、三〇	生活社	十二月	▲大戰前に於ける獨逸支那及び日本、支那の軍備再組織に於ける獨逸の指導他七章。
東健吉	苦悶の英國	四六判並製	211	一、五〇	ふたら書房	十二月	▲英國の經濟力を詳述し、戰時下の近情を紹介し、軍事をも批判なしたもの。
ハムブルグ世界經濟研究所編 木藤誤夫譯	現代英國論	四六判並製	215	一、三〇	刀江書院	十一月	▲英國の大海軍（フォン・ガドウン）他六篇を譯載す。
深山泉 伊藤太郎	最近獨逸戰時下の國民生活と厚生運動	四六判並製	212	一、五〇	英進社	七月	▲獨逸に於ける國民生活と厚生運動の全貌を記述し、厚生運動の眞髓を解說す。
ワルター・ハーン著 永川秀男譯	食糧戰爭	菊並製	114	一、三〇	平凡社	二十月	▲ドイツ國民が如何にその食糧問題と戰ひつつあるかを紹介した書。
山本實彦	新歐羅巴の誕生	四六判上製	419	二、〇〇	改造社	十月	▲ムツソリーニ、羅馬法皇謁見記、巴里入城記、あめりか行、滯英斷想等其他を收む。
ションフイールド著 福岡誠一譯	世界新書（70） スエズ運河	三六判並製	187	五〇	岩波書店	七月	▲スエズ運河を周ぐる諸問題を縱横に取扱つたションフイールドの著書を譯す。

H・Gウエルズ著 前田河廣一郎譯	世界新秩序建設	洋四六判	207	一、〇〇	非凡閣	五月	▲西洋一般文明に對してなされたウエルズ翁の近著"The New World Order"の邦譯。
具島兼三郎	世界政治と支那事變	洋菊判	346	三、五〇	白揚社	十一月	▲世界政治と支那事變、英國外交の研究、ソ聯外交の研究の三篇に收めた論文集。
東京帝大教授・法學博士 神川彦松	世界大戰原因論（政治學叢書 4）	菊判	135	八〇	岩波書店	二月	▲東大法學部特別講義にて六回に亘つて行はれたものを經めたもの。
船田中	世界は斯く動く	四六判	190	一、〇〇	昭和書房	一月	▲三ケ月半に亘る歐米旅行を基とにして複雜怪奇を極めた國際情勢を把握せるもの。
近藤春雄編譯	アードルフ・ヒトラー 青年に檄す	四六判	138	七〇	三省堂	十一月	▲ヒトラー總統の思想の眞髓を拔萃して一册に經めたもの。
ハロルド・ラスウエル著 小松孝彰譯	宣傳技術と歐洲大戰	四六判	264	一、五〇	高山書院	十二月	▲世界大戰時の宣傳戰を交戰兩國側に亘つて研究檢討せる書。
H・C・ピーターソン著 村上倬一譯	戰時謀略宣傳	四六判	593	三、三〇	富士書店	十二月	▲世界大戰の勃發よりサセックス號事件の危機まで、平和最後の年の二部にて譯述す。
シュネーフース著 池田林儀譯	大英帝國の致命線	四六判	171	一、〇〇	大民社	十一月	▲嘗ての封鎖勢力が今日では自らを傷つくる致命傷となつた英帝國の弱點を探る。
大阪外國語學校（ロシヤ） 外務省情報部編	大阪外國語學校（ロシヤ）ソ・芬戰より白蘭進擊	四六判	208	八〇	博文館	七月	▲第二卷はソ芬戰から白蘭進擊を收めたもので、ポーランド分割なる其他。
チヤコティン著 鍵本博譯	大衆は動く	四六判	364	二、二〇	霞ヶ關書房	二十月	▲バヴロフの生理學的心理學の理論より出發して大衆を動かす民衆宣傳に就て述べた書。
エリザベス・モンロー著 杉山一辰 橋本雄譯	地中海を繞る爭覇	洋菊判	255	二、五〇	白揚社	二十月	▲地中海に於ける戰略を初め政治、經濟、外交等あらゆる問題を平易に取扱つた書。
國松久彌	地中海	四六判	190	一、三〇	古今書院	十月	▲政治上・經濟上・交通上重大な役割を占むる地中海の歷史と重要性を說いたもの。
天野芳太郎	中南米の橫顏	洋菊判	293	一、五〇	朝日新聞社	二十月	▲中南米の天地に拓けてゐる萬象を解說した書で、我々の生活と中南米其他。

イヴアン・ラヨス著 大町千二譯	ドイツの抗戰力	四六判	196	一、二〇	モンド社	四月	▲ナチス獨逸の眞相を軍事・食糧及飼料問題農村及工業勞働者等より詳說なしたもの。
東郷豐	ドイツの世界政策	四六判	318	一、六〇	伊藤書店	十一月	▲第二次大戰に於てドイツが示した數々の諸政策に對して解答をなしたもの。
藍谷瑞世	獨逸人氣質	四六判	285	一、六〇	教材社	十一月	▲獨逸の家庭生活や、大學にて學びつゝ得たる體驗を基とにして獨逸人氣質を語る。
菊判	獨逸大觀 —戰時特輯—	菊判	320	二、〇〇	日本電報通信社	十一月	▲戰時獨逸の國策の基本、國民の理想、態度等を考究して編纂せる戰時特輯號。
青山一郎	獨逸の自然と生活 —獨逸の砂—	四六判上製	213	一、四〇	長崎書店	九月	▲獨逸の自然と獨逸人の生活の中から、獨逸民族の本質を究めんとしたもの。
外務省調査部編	獨逸の宣傳組織と其の實際	菊判	237	二、〇〇	日本國際協會	一月	▲ナチスの宣傳機構を客觀的な面から解明したものでドイツの宣傳の思想的背景其他。
波多野繁藏	獨逸の母親	四六判	196	一、二〇	二松堂	十一月	▲今大戰の結果歐洲に君臨した獨逸の女子教育とヒットラーのその見識を檢討記述す。
獨逸國外務省編	獨逸白書	四六判	322	一、八〇	獨逸國大使館	七月	▲伯林「獨逸國情報部」にて編纂せられたる獨逸國政府白書を拔萃飜譯せるもの。
荒木時次譯	ヒトラー ナチス宣言	四六判	157	一、〇〇	報國社	十一月	▲ヒトラー名演說中の精萃五篇を邦譯したもので、ナチスの綱領、ナチスは勝てり他三篇。
教材社編	ナチス獨逸再建史	四六判上製	341	一、八〇	教材社	十一月	▲獨逸民族再建史（蘆谷瑞世）、ナチ政權發達史（長野敏夫）他八篇を收載す。
森川覺三	ナチス獨逸の解剖	四六判	379	二、五〇	コロナ社	九月	▲僅か七年の歲月に今日の驚異的發展を遂げた、ナチス獨逸の全貌を報告す。
慶應義塾大學法學部教授 今泉孝太郎	ナチスの文化を探る	四六判	461	二、三〇	慶應出版社	十月	▲ドイツ、ジヤーナリズム論、ヨオストの文學理論、ナチスと官僚等其他を收む。
ゲオルグ・ウヴーデル著 安井源雄譯	ナチスの倫理	四六判	164	九〇	泉書房	十月	▲ナチス・ドイツの精神的訓練が如何に眞劍になされてゐるかを紹介したもの。

救仁郷繁譯	アントン・チシュカ著	二十億人のパン	上四六判製	473	二、五〇	一四	萬里閣	七月	▲世界の食糧問題・榮養問題等を平明に說いた獨逸人チシュカの著書を邦譯す。
高山洋吉譯	ロールバッハ著	バルカン・トルコ	並菊製	147	一、三〇	一〇	栗田書店	十二月	▲宿命のヨーロッパ東南角「バルカン」及び「トルコ」に就て述べた書。
栗田書店編		ヒットラーわが闘爭の展開	並菊製	141	一、一〇	九	栗田書店	十月	▲第二次世界大戰後に於けるヒトラー總統の重要演說のすべてを集めたもの。
工藤長祝譯		ヒトラー總統演說集	洋四六布	310	二、〇〇	一〇	鐵十字社	十月	▲ポーランド進擊の開始に當り、戰時冬季救濟事業の開會式に臨み他九篇を收む。
小池四郎譯	セオドル・アベル著	ヒトラーとその運動	並四六製	366	一、五〇	一〇	實業之日本社	十二月	▲ヒトラー運動の歷史、ヒトラー運動の分析自敍傳の三部に分け收む。
高野彌一郎譯	アンドレ・モーロア著	フランス敗れたり	並四六製	237	一、三〇	九	大觀堂	十一月	▲第二次大戰にフランス共和國が世紀の嵐に倒れ行く姿を透徹せる眼を以て描いたもの
根岸讓	博文館時局叢書（2）	風雲のバルカン	並四六製	190	八〇	九	博文館	六月	▲現在動きつゝある世界時局、バルカン中心の風雲の動きに對する常識を述べたもの。
東京日日新聞社 大阪毎日新聞社編		米國	並四六製	345	一、〇〇	東京日日新聞社 大阪毎日新聞社	有斐閣	八月	▲米國人氣質（田島繁二）政治の特性（潮田江次）等他十四篇にて米國の全貌を示す。
松下正壽	立教大學教授	米國戰爭權論 —その國內法及國際法學的研究—	菊倍判布裝	470	四、八〇	三	有斐閣	十月	▲憲法學及び國際法學の角度から、アメリカの本態を客觀的に把握せんとしたもの。
武井武夫譯	アルツトナー著	米國の白書	並四六製	212	一、五〇	九	有光社	七月	▲第二次世界大戰物發前後に於ける米外交の裏表や極東政策の裏面等を暴露したもの。
下村昌夫譯	ゲツベルス著	伯林奪取	並四六製	354	二、五〇	一四	永田書店	十月	▲ドイツ宣傳相ゲツベルス博士の「伯林のための闘爭」Kamp fum Berlin"1934の全譯
根岸讓	博文館時局叢書（1）	ポーランド事情	並四六製	187	八〇	六	博文館	二月	▲一九三九年秋遂に獨露兩國によつて分割せられたポーランドの內情を述ぶ。
豐田義道譯	デキスター・パーキンズ著	モンロー主義	並四六製	383	二、五〇	一〇	山水社	九月	▲米國第五代大統領モンローの敎書によつて宣言された「モンロー主義」を詳說す。

黑田禮二	躍進ドイツ讀本	上四六判製	326	一、五〇	一〇	新潮社	十二月	▲躍進ドイツの全貌を取扱つた書で、混沌より秩序へ、秩序より復興へ他三編。
長壽吉	猶太と反猶太	上四六判製	165	一、五〇	一〇	白水社	十二月	▲猶太と猶太主義、反猶太と反猶太主義の二編に分けて說述す。
荒畑勝三譯	ヴエラ・ミヘレス・ダイーレン著	歐羅巴の退却	並四六製	311	二、〇〇	九	東亞公論社	五月	▲第一次世界大戰後に於ける歐洲外交の複雜錯綜せる經緯を解剖し今大戰に迄及ぶ。
山口梧郎	老英帝國の野望	並四六製	177	九〇	九	テンセン社	二月	▲全世界に廣大な植民地を持ち平和の名の許に自己の野望を遂げる英國の眞相を衝く。
室伏高信譯	ヒツトラア著	我が闘爭	並四六製	408	七〇	第一書房	六月	▲ヒツトラア總統の政治的・思想的血肉の書全獨逸國民の指導原理マイン・カンプの邦譯
日本青年外交協會譯	シユテルレヒト著	若きドイツは鍛へる	並四六製	235	一、五〇	一〇	日本青年外交協會	八月	▲シュテルレヒトの "Die Wehrziehung der deutschen Jugend" 1936 を譯す。

露西亞問題・露西亞事情

岡田篤郎譯	バジーリイ著	ソ聯の政治と經濟	並四六製	361	二、〇〇	一〇	慶應書房	十一月	▲バジーリの著書よりソ聯に於ける政治、經濟、社會、文化の全般に亘る部分を飜譯す。
條原武英譯	クリヴイツキー著	ソ聯の內幕	並四六製	258	一、六〇	九	人文閣	三月	▲赤軍大肅清の犧牲から脫れたクリヴイツキーのソ聯邦の內情を暴露したもの。
筒井一史譯	デリツトルベーヂ共著	ソ聯の十年	並四六製	379	二、〇〇	一〇	高山書院	八月	▲十年間に亘つてソ聯邦產金トラストに働いたリツトルベーヂの實見記を邦譯したもの。
遠藤浩譯	ヘンリー・ウルフ著	ソ聯の帝國主義	並四六製	351	一、八〇	一〇	青年書房	十一月	▲ソ聯政府、特にスターリンの外交政策の動きを悉さに檢討し將將を示唆したもの。
日蘇通信社編		蘇聯邦大觀 昭和十五年前期版	上四六判製	515	二、五〇	一四	日蘇通信社	九月	▲國防國家ソ聯邦の動向（大藏公望）ソヴエート政治（尾形總太郎）他十三篇を收む。
花岡止郎		ロシアの民族政策 —特に回教民族政策—	菊倍判布入	199	二、五〇	一四	生活社	十月	▲帝政ロシア及びソヴエート聯邦の民族的構成、帝政ロシアの民族政策他三章にて述ぶ。

支那問題・支那事情

陸軍山岡部本部編	山西省大觀 第一部・中部地方上	菊洋	四六並製	442	六、〇〇二、二〇	生活社	五月	▲蔣介石の人生の內面に立ち入つて彼の苦悶を摘出したもので惡妻禍、列强への懊惱其他	吳村生濟孜郎著	抗戰の首都重慶	菊洋	四六並製	360	二、〇〇一、四〇	東亞同文會	二月	▲支那共產黨・共產軍及共產政府の本質機構より說き起し事變以後の支那共產黨を鳥瞰す
中保與作	最近支那共產黨史	菊洋	四六並製	286	一、五〇一、〇〇	大東出版社	七月	▲吳濟生著「新都見聞錄」を譯出し、其に陸思紅編「新重慶」の一部を併載したもの。	白須賀六郎	苦悶の蔣介石	菊洋	四六並製	181	九〇六	宮越太陽堂	三月	▲蔣介石の人生の內面に立ち入つて彼の苦悶を摘出したもので惡妻禍、列强への懊惱其他
陸軍山岡部本部編	山西省大觀 第一部・中部地方下	菊洋	四六並製	453	五、〇〇一、四〇	生活社	十月	▲下卷は第二十二節長治縣、第二十三節長子縣、第二十四節屯留縣以下第四十四節迄收む	岩村忍編	支那關係歐米名著略解	菊洋	四六並製	83	一、五〇六	タイムス出版社	五月	▲歐米の支那學の代表的著作を網羅してその解題をなしたもの。
大塚令三	支那共產黨史 上	菊洋	四六並製	220	一、二〇一、〇〇	生活社	七月	▲諸雜誌に發表せる、支那共產黨に關する諸論講を經めたもので上卷は第二章迄。	大塚令三	支那共產黨史 下	菊洋	四六並製	266	一、二〇一、〇〇	生活社	七月	▲下卷は第三章ソヴエート問題、第四章紅軍運動、第五章支那は赤化するの三章を收む。
佐藤俊三	支那近世政黨史	菊洋	四六並製	416	四、〇〇一、四〇	大阪屋號	十一月	▲清朝の中葉から孫文の死及び西山會議までの支那政黨史を編述したもの。	呂原振著 田邊勝次郎譯	支那社會政治思想史 上	菊洋	四六並製	376	三、二〇一、四〇	日本青年外交協會	九月	▲支那歷史に社會科學者としての立場からメスを加へた呂氏の「中國政治思想史」の譯。
湯良禮著 中山莧美三譯	支那社會の組織と展望 —新支那建設の一指標—	菊洋	四六並製	286	三、二〇一、四〇	育生社	六月	▲新國民政府宣傳部國際宣傳局長湯良禮氏の「中國之新社會組織」の全譯。	米田祐太郎	支那商店と商慣習	菊洋	四六並製	361	三、〇〇一、〇〇	教材社	三月	▲南北支那各地に轉任した間に蒐集した材料と見聞に基いて支那商店の商慣習を述ぶ。
水谷博	支那情調	菊洋	四六上製	328	一、五〇一、四〇	銀座書院（栗山發賣）	三月	▲一皮むいた支那の姿を描いたもので黃包車雜話、表忠塔前に石拾ふ女、スパイ姑娘其他	カールクローー著 關浩輔譯	支那人氣質	菊洋	四六並製	280	一、五〇九	教材社	五月	▲支那人の生活態度と心理傾向を語つたカールクローの著書を邦譯す。
幸魚返善雄譯	支那人の精神	菊洋	四六並製	213	一、八〇六	目黑書店	十二月	▲支那人のありのまゝの性格及び理想等に就て述べた書で、良民の教へ其他。	後藤朝太郎	支那生活案內	菊洋	四六並製	447	二、二〇一、四〇	黃河書院	二月	▲多年支那各省で體驗した實地の見聞に基き新たに渡支せんとする人の參考とす。
楊幼烱著 古賀鶴松譯	支那政治思想史	菊洋	四六並製	361	二、五〇一、〇〇	人文閣	五月	▲數千年の歷史を持つ支那政治思想史を史的研究せる「中國政治思想史」の飜譯。									

楊幼烱著 森山喬譯	支那政黨史	洋綿菊	四六判	192	一、五〇	日光書院	二月
カール・クロウ著 柴田賢一譯	支那で成功する道	上	四六判	289	一、五〇	高山書院	六月
A・H・スミス著 白神徹譯	支那的性格	上綿	四六判	471	二、〇〇	中央公論社	三月
湯澤三千男	支那に在りて思ふ	並	四六判	208	一、五〇	創元社	八月
米田祐太郎	支那の女	並	四六判	292	一、五〇	教材社	八月
G・クラーク著 荒畑勝三譯	支那の解體と再統一	洋綿菊		435	四、一〇	生活社	一月
米田祐太郎	支那の商人生活	上	四六判	289	一、七〇	教材社	一月
平木多嘉志	支那の生活	並	四六判	247	一、五〇	昭和書房	十月
林語堂著 喜入虎太郎譯	支那の知性	並	四六判	366	一、八〇	創元社	六月
後藤朝太郎	支那の土豪	並	四六判	236	一、五〇	高山書院	三月
ルキーズ・クレーン著 井上嵐信譯	支那の幌子と風習	上	四六判	259	一、三〇	朝日新聞社	四月
林語堂著 吉村正一郎譯	支那のユーモア	並	三六判	198	五〇	岩波書店	一月
ラトウレット著 岡崎三郎譯	支那の歴史と文化（別卷・參考文獻）	洋綿菊		126	二、五〇	生活社	五月

▲支那の政黨の發展過程を述べた書で、清末の祕密結社と政黨他九章。

▲著者自らの體驗によつて支那の民情を深く究め、支那に生きる道を快適に述べたもの。

▲支那の全貌を論述せるスミス博士の"Chinese Characteristics"を全譯したもの。

▲支那人を診斷する、如何にして支那人を味方にするか等其他を收めた觀察記。

▲支那女性の風俗習慣、家庭生活、職業戰線に躍り出した彼女達の近況等を述べたもの。

▲クラークの"The Great Wall Crumbles"（長城は崩壞する）を飜譯したもの。

▲支那新舊商人の商賣振り、その家庭と日常生活、各商人の特質等を語つたもの。

▲十餘年に及ぶ生活習慣より、謎の國支那の全貌を表裏縱横から多角的に觀察す。

▲チヤイナ・クリテイク紙のリトウル・クリテイーク欄に掲載せられた小評論を抄譯す。

▲支那土豪の日常生活衣食住から庭園林泉琴書繪畫、美術工藝等を多角的に觀察す。

▲一九二六年上海で出版されたクレーン女史の"China in Eclipse"の飜譯。

▲The China Critic 誌上に The Little Critic と題して連載された講演隨筆等十三篇の邦譯。

▲"The Chinese: Their History and Culture"の各章末のbibliographyを邦譯一括したもの。

井東憲譯著	支那風俗綺談	並	四六判	291	一、五〇	大東出版社	八月
讀賣新聞社編	支那邊境物語	並	四六判	240	一、五〇	誠文堂新光社	十一月
信濃憂人譯編	支那民衆の告白	並	四六判	283	一、三〇	青年書房	四月
グラハム・ペック著 高梨菊二郎譯	支那蒙古遊記	並	四六判	443	二、五〇	青年書房	二月
ケネー著 勝谷在一登譯	支那論	洋綿菊		194	二、〇〇	白揚社	十月
アーネスト・オ！ハウザー著 佐藤弘譯（大阪の部）	上海の歴史（上海租界發達史）	上	四六判	351	一、四〇	高山書院	二月
ハウクス・ポット著 帆足計譯 滿谷雄譯	上海	上綿	四六判	512	三、五〇	白揚社	二月
ア・ジエルヴエ著 日西一良譯（支那部）	診療餘談	上	四六判	289	一、六〇	生活社	二月
山口梧郎	新支那建國讀本	並	四六判	227	一、三〇	テンセン社	六月
殿田孝次	新支那讀本	並	四六判	375	一、八〇	高山書院	九月
信濃憂人譯編	新支那の出發	並	四六判	239	一、五〇	青年書房	七月
聯盟中國東亞協會譯	新民精神的三民主義	並	四六判	141	五〇	聯盟中國東亞協會	七月
河野一密	孫文の生涯と國民革命（ラナオ新賞(10)）	並綿	新四六判	192	五〇	日本放送出版協會	二月

▲支那古來の傳說、故實、實說等を集めて支那風俗を平明に描寫したもの。

▲呪ひの援蔣ルート（山縣初男）東洋祕密國西藏潛入行（矢島保次郎）他八篇の物語。

▲二十五篇の支那民衆の告白によつて支那の眞相を把握せしめんとしたもの。

▲一アメリカ人の支那及蒙古への旅行記で支那蒙古の自然と生活とを客觀的に記錄す。

▲フランソア・ケネー著「支那の專制政治」（一七六七年）を全譯したもの。

▲國際的魔都「上海」を細部に亘つて解剖せる書で、上海租界の開設他十四章。

▲最も異色ある國際的都市の一つたる上海の共同租界發達史で、開港以前他廿八章。

▲四川省の成都に於いて體驗した大小の事件にユーモアを混へて讀物的に綴つたもの。

▲支那の實狀を紹介したもので支那の女性、支那の國民性と風俗、支那の邊境其他。

▲新政府を中心とする支那の現狀を犀利に觀察し、新支那建設の方途を示す。

▲支那と東亞（汪精衛）事變の回顧と前途（周佛海）他十篇の論講を譯載す。

▲新中國の進む可き道を示唆した「新民精神的三民主義」の邦譯。

▲支那革命運動の父であり新中國建設の指導者孫文の生涯と思想を敍す。

荒川禎三	現地報告 大廣東	四六判製	320	二、五〇	二、五〇	臺北 吉村商會	二月	▲南支派遣軍囑託として、現地に於ける體驗調査、見聞等を纏めて大廣東の全貌を示す。	田中一郎	チャールス・パル著 田中一呂譯	西藏・過去と現在	菊倍判並製	473	四、八〇	一、四〇	生活社	九月	▲四十年に及ぶ印度西藏生活によつて述べられたパルの著書を邦譯す。
日光書院編	東亞 第二輯學	菊倍判並製	292	二、八〇	二、四〇	目光書院	六月	▲三民主義の批判（神川彥松）現代支那の市集と廟會（天野元之助）他四篇の論文集。	山口高等商業學校東亞經濟研究會編		東亞共榮圈の諸問題	菊倍判並製	273	一、八〇	一、四〇	生活社	十月	▲大陸經營（下村宏）事變處理對策（坂西利八郎）重慶政府の新動向（横田實）他八篇。
日光書院編	東亞 第二輯學	菊倍判並製	292	二、八〇	二、四〇	目光書院	六月	▲三民主義の批判（神川彥松）現代支那の市集と廟會（天野元之助）他四篇の論文集。	アメリカ太平洋協會著 小關藤一郎譯		東亞廣域經濟圈と獨逸	四六判並製	227	一、五〇	一、〇〇	東洋書館	十月	▲歷史的轉換期にある東亞廣域經濟と、獨逸との關係について述べたもの。
東亞調査會編	東亞問題研究	菊倍判並製	261	一、五〇	一、〇〇	東京日日新聞社 大阪毎日新聞社	十月	▲東亞共榮圈の問題と日本（田中香苗）他二篇の論說及び研究・資料等を收錄す。	文求堂編		東亞論 第二輯叢	菊倍判並製	300	二、四〇	二、四〇	文求堂	二月	▲現代支那の孔子教問題について（中山久四郎）支那語の現在と將來（曹欽源）他七篇。
文求堂編	東亞論 第三輯叢	菊倍判並製	435	三、六〇	二、四〇	文求堂	九月	▲滿洲の地域性（小田內通敏）遼西の交通路に就いて（園田一龜）他八篇の論講集。	嘉治隆一		東邦研究	四六判上製	516	三、三〇	二、四〇	オリオン社	十二月	▲歐洲動亂と將來政權、東洋に於ける歐米植民政策等廿篇の論說と隨想及び書評を收錄す。
實藤惠秀	早稻田大學教授	菊倍判並製	316	二、八〇	一、〇〇	螢雪書院	七月	▲近代日本の諸文化が如何に中國に影響したかを述べたもので第一篇日本から中國へ他。	松山悅三		日本文化の支那への影響	四六判並製	197	一、三〇	一、〇〇	人生社	一月	▲人間としての彼が幼年時代から今日新中央政府を樹立するまでの全貌を描く。
後藤富男譯	オウエン・ラティモア著	菊倍判脊洋布入判	208	二、三〇	二、〇〇	生活社	三月	▲ラティモアの基本的論文六篇を摘譯したもので、內蒙古民族主義の史的展望其他。	人生新書(5)		人間汪兆銘							
村上知行	北京歲時記	四六判並製	403	二、八〇	二、四〇	東京書房	六月	▲北京滯在十餘年に及ぶ村上氏が北京の風物を語つたもので標目、春、夏、秋、冬の五篇										

ギャムブル著 福武直譯	北京の支那家族生活	菊倍判並製	512	四、八〇	二、三〇	生活社	十一月	▲支那人の生活調査をしたギャムブルの"How Chines Families live in Peiping"を邦譯すの全譯である。	土方定一 橋本八男共譯		ポット上海史	四六判並製	476	三、二〇	一、四〇	生活社	十一月	▲知名な上海人の一人ポットの「上海歷史」	D・H・カルブ著 多川宏一・野沒清譯及		南支那の村落生活 —家族主義の社會學—	菊倍判並製	495	四、八〇	二、三〇	生活社	十月	▲カルブ教授の"Country Life in South China, The Sociology of Familism"の全譯。
長野朗	遊擊隊・遊擊戰	四六判並製	249	一、四〇	一、〇〇	和泉書院（栗田勝實）	六月	▲今事變にて我軍の最も惱まされた遊擊戰の概要と各地の遊擊隊の情況を述べたもの。											
金久保通雄	國境	四六判並製	227	一、〇〇	一、〇〇	ヘラルド雜誌社	二月	▲過去數年間の國境旅行を基に我國の生命線である滿ソ・滿蒙國境の諸情勢を述ぶ。											
滿洲移住協會編	岡策滿洲開拓	菊倍判並製	36	五〇 六	一、〇〇	滿洲移住協會	九月	▲滿洲開拓の聖業に盡す、農業開拓民並に青少年義勇軍の全貌を寫眞にて紹介す。											
德富正敬	滿洲建國讀本	菊並判並製	300	一、三〇	一、〇〇	日本電報通信社	二月	▲建國以來八周年を迎へた友邦滿洲國建國の大精神と現況を解說す。											
朝日新聞社編	滿洲國	縱廿四糎 橫廿二糎	164	三、八〇	三、三〇	朝日新聞社	七月	▲躍進途上にある滿洲國の潑剌たる各方面の寫眞を收めて紹介をなしたもの。											
滿洲國通信社編	滿洲國現勢 唐德八年版昭和十六年版	四六倍判並製	650	五、〇〇	三、三〇	滿洲國通信社	九月	▲建國以來僅に九年にも拘らず大發展をとげた友邦滿洲國の現勢を纂錄す。											
滿洲國通信社編	滿洲國要覽 唐德七年版	菊倍判並製	224	五〇 三	一、〇〇	滿洲國通信社	十一月	▲簡易なる說明と數字の組立により、滿洲國の簡單なる解說をなしたもの。											
田原豐	滿蒙常識讀本	四六判並製	289	一、三〇	一、〇〇	テンセン社	六月	▲滿蒙に關する常識を網羅解說したもので滿洲人の國民性、階級と家族制度其他。											
陸軍少將 碓氷茂	南滿洲の農村	新四六判並製	195	一、三〇 六	一、〇〇	地人書館	六月	▲昨年十月南滿撫順縣の農村見學をした時の觀察記を纏めて南滿農村の眞相を報告す。											

大河平隆光	明日の滿洲	四六判並製	192	一、三〇	大日本法令出版株式會社	七月

▲建設途上にある明日の滿洲に就いての指導原理を語つたもので滿洲移民について其他。

拓殖・植民地・南方事情

南方調査會編	動く大南洋の實際	四六判上製	211	一、三〇	高山書院	十一月

▲南方の重要性に就いて（大宅由耿）、寶庫南洋の展望（川本邦雄）他五篇を收む。

マハートマ・ガンヂー著 日立九馬譯	印度獨立運動編	四六判並製	359	一、三〇	光融館	三月

▲バルドーリ禮節的不服從篇、逮捕大公判篇他五篇にてガンヂー翁の印度獨立運動を述ぶもの。▲第六卷は第十五篇熱帶農業・一を收めたもの。

大谷光瑞	大谷光瑞與亞計畫 —六—	四六判並製	200	一、三〇	大乘社有光社	四月

大谷光瑞	大谷光瑞與亞計畫 —七—	四六判並製	227	一、三〇	大乘社有光社	六月

▲第七卷は第十五篇熱帶農業（二）を收めて述べたもの。

大谷光瑞	大谷光瑞與亞計畫 —八—	四六判並製	194	一、三〇	大乘社有光社	七月

▲第八卷は第十五篇熱帶農業（三）を收めたもの。

大谷光瑞	大谷光瑞與亞計畫 —九—	四六判並製	239	一、三〇	大乘社有光社	十月

▲第九卷は第十五篇熱帶農業（四）を收む。

奥田誠一・添田春譯	海南島農村經濟論	四六判上製	189	一、三〇	野田書房（臺北）	六月

▲林繼春著「瓊崖農村」穆亞魂「新海南島の建設問題」等より海南島に關係ある所を譯す

伊東敬	現代印度論	四六判上製	285	一、三〇	オリオン社	二月

▲印度の實狀を論述した書で、印度の人種言語宗教、印度敎と回敎との問題其他。

東大名譽教授 經濟學博士 河津暹	移民問題研究會	四六判並製	252	八〇	移民問題研究會	二月

▲昨年十月の第二回在外日本人事情講習會に於ける各講師の講演速記八篇を收錄したもの

澤田謙	大南洋	四六判上製人	393	三、三〇	豐文書院	六月

經濟政策體系（9）	植民と植民政策	菊判洋布人	330	三、三〇	有斐閣	六月

▲緒論、植民地の統治、植民政策、の三篇に獨自の立場より植民政策の大要を敍す。

▲昨年三ヶ月に亘つて南洋の政治・經濟・產業・文化等を視察せる時の紀行・報告を收む

宮原武雄	泰國風物詩	四六判上製	254	一、三〇	岡倉書房	十二月

▲泰國の眞姿を描いた書で、熱帶の夜ひらくメナム河生活風景、バンコックの華僑其他。

齋藤正雄	東印度の文化	四六判洋布	459	三、〇〇	寶雲舍	十二月

▲わが南方共榮圈たる東印度の文化的諸相を明細に描き出した書。

ウール・デューラント著 早坂二郎譯	獨立前夜の印度	四六判並製	258	一、三〇	慶應書房	四月

▲壓政下印度の眞相を描いたデューラント教授の "The Case for India" を邦譯す。

茂野幽考	南進日本	四六判並製	222	一、三〇	霞ヶ關書房	十一月

▲南進日本の使命と南方共榮圈の事情とを傳說、民謠と舞踊、南海の防諜戰等にて說く。

飯澤章治	南方共榮圈	四六判並製	297	一、八〇	高山書院	十一月

▲日本の世界政策の一環として不可缺的に解決しなければならぬ南方政策を論述す。

早坂義雄	南方共榮圈とその性格	四六判上製	332	二、〇〇	霞ヶ關書房	十一月

▲大東亞共榮圈の必然的段階、資源より見たる南方共榮圈他一篇にて述べたもの。

大阪毎日新聞社編	南方の將來性 —臺灣と蘭印を語る—	四六判並製	253	八〇	大阪毎日新聞社 東京日日新聞社	八月

▲南進政策の重要な根據地をなす臺灣と、新東亞の寶庫蘭印とを語つたもの。

太平洋協會編	南洋 —諸島 自然と資源—	菊判洋布人	466	四、八〇	河出書房	十二月

▲南洋諸島の自然と資源に就て述べた書で、パラミクロネジア諸島（長谷部言人）其他。

南洋協會編	南洋の華僑	菊判洋布人	190	二、〇〇	南洋協會	七月

▲南洋の華僑事情の一班を簡潔且通俗的に解說・編纂なしたもの。

長崎高等商業學校教授 岡田丈夫	南洋風物誌	四六判上製人	240	一、〇〇	柁谷書院	十二月

▲南洋に於けるいぶかしき信仰や詭怪な生活等を述べた書で、ボルネオの土人其他。

田口孝雄	南洋問題の眞相と國民の覺悟	四六判洋布	222	一、三〇	大生社	十一月

▲南洋の大資源を語る、南洋問題とアジヤ民族の運命他三章にて南洋問題を論述す。

柴田賢一	白人の南洋侵略史	四六判並製	302	一、三〇	興亞日本社	十一月

▲西南太平洋に於ける暴虐なる白人制覇の經緯を敍述したもの。

田澤丈夫	佛印事情	四六判並製	295	一、六〇	羽田書店	十二月

▲最近の佛印の全貌と動向を平易に說いた書で、佛領印度支那の概況其他。

太平洋協會編	佛領印度支那—政治・經濟—	菊判	566	五、八〇	河出書房	十月	▲搾取主義植民政策の許に壓迫せられた、佛領印度支那の產業、經濟、政治等を調査す。				
日本印度支那協會編	佛領印度支那概觀	四六判並製	158	一、七〇	日本印度支那協會（丸善發賣）	十月	▲佛領印度支那の全貌を多數の圖表及び寫眞版を挿入して平易に解說す。				
博文館編	佛領印度支那事情（博文館時局叢書(4)）	四六判並製	215	八〇	博文館	十月	▲東亞新秩序建設の一環として重要な、佛印の全貌を通俗的に紹介す。				
アグネス・キース著 野原達夫譯	ボルネオ	四六判並製	386	一、四〇	三省堂	十月	▲アグネス・ニュートン、キース女史の「風下の國」"Land Below the Wind"の飜譯。				
井上雅二	往け南は招く	四六判並製	259	一、八〇	刀江書院	十月	▲東亞新秩序建設の寶庫たる南洋諸島の視察記と風俗生活等を紹介して其重要性を述ぶ。				
井手諦一郎	蘭印・英印・佛印	四六判並製	397	一、七〇	三省堂	十月	▲蘭、英、佛印の政治外交經濟產業等を述べ日本南進に指針を示す。				
小笠原長丕	蘭印事情	四六判並製	333	一、八〇	羽田書店	九月	▲最近に於ける蘭印の諸事情について敍述したもので、蘭印の一般事情其他。				
松本忠雄	蘭印と日本	四六判上製	211	一、五〇	ダイヤモンド社	二月	▲蘭印の奇蹟的現狀、外人記者の見た軍備、何故に日本を恐れるのか等四十八篇。				
小津さちを	蘭印風物誌	四六判並製	267	二、〇〇	刀江書院	二月	▲蘭印の風物を正直に紹介した書で、平和清淨無垢、或る女苦力其他。				
博文館編	蘭領印度事情（博文館時局叢書(3)）	四六判並製	195	八〇	博文館	一月	▲東亞民族の生命線「蘭領印度」の全貌を、通俗的に紹介なしたもの。				
滿鐵東亞經濟調査局編	蘭領印度に於ける華僑（南洋事情叢書(4)）	菊判洋綴	511	三、〇〇	滿鐵東亞經濟調査局	三月	▲華僑發展の史的概要、華僑人口に關する統計的考察、蘭印政府の華僑對策他三章。				
臭井復太郎	現代大都市論	菊判洋綴	745	六、五〇	有斐閣	十月	▲現代大都市の經濟的・社會的解明をなしたもので、都市理論・都市社會學他五章。				

社會學一般

岐阜高農教授 鈴木榮太郎	日本農村社會學原理	菊判洋綴	695	六、八〇	時潮社	二十月	▲日本農村の社會生活の全面に亘る研究で、日本農村社會學、關心共同圈等十章。				
新明正道	人種と社會	菊判洋綴	402	三、八〇	河出書房	四月	▲人種と社會、人種主義の理論、人種主義的政策の三篇にて人種と社會の關係に就て說く				
ブリツフオルト著 富野敬照譯	招婿婚	四六判上製	373	二、五〇	白揚社	五月	▲ブリツフオルトの大作"The Mothers"の全十二章中の七章を全譯したもの。				
E・ウエスターマーク著 原田東吾譯	人間結婚史	四六判並製	415	一、八〇	大東出版社	四月	▲結婚を多方面より科學的に究明せる"The History of Human Marriage"を飜譯す				

社會史

河合榮治郎編	學生と藝術	四六判上製	601	二、五〇	日本評論社	十月	▲學生叢書の第十篇として著されたもので、第一部藝術以下五部に分けて藝術を說く。				
中島健藏	學生文庫(3) 學窓と社會	四六判並製	174	一、三〇	河出書房	八月	▲事變下に於ける學生の知的生活の綱領を示したもので、使命の知學、學窓と社會其他。				
河合榮治郎編	學生と日本	四六判上製	698	二、八〇	日本評論社	八月	▲日本文化と外國文化との交渉（阿部次郎）他三十篇の論講集。				
河合榮治郎編	學生と歷史	四六判上製	587	二、五〇	日本評論社	四月	▲歷史への關心（河合榮治郎）歷史の概念（狩野亨吉）他二十篇の論文集。				
河合榮治郎編	學生に與ふ	四六判洋綴	396	二、〇〇	日本評論社	六月	▲社會に於ける學生の地位、教育、學校、教養、學問、哲學等其他にて學生の道を說く。				
東京帝大學生主事 大室貞一郎	學生の生態	四六判上製	216	一、五〇	日本評論社	三月	▲東大生を主なる對象として現今の學生の生態をあらゆる角度より觀察したもの。				
此經春毅	簡素で職へ	四六判並製	290	一、八〇	千峰書房	十一月	▲これで勝つ、歷史は欺かず、個人の例證、國家の例證、經濟上の例證等其他を收む。				

社會思想・社會評論

黒木福松	勤勞と皇國民	四六判並製	193	一、六〇	文友堂	十一月	▲勤勞と皇國民、勤勞とは何ぞや、人の本性と勤勞、日本國體と勤勞他四章にて述ぶ。
室伏高信編	現代學生は何を爲すべきか	四六判並製	201	一、三〇	四谷書房	二月	▲現今の學生を語る手紙（茅野蕭々）日本の學生に與ふ（阿部知二）他十三篇を收む。
近藤春雄（教材社思想叢書(3)）	國防國家と文化	四六判上製入	276	一、二〇	教材社	十一月	▲文化一般、青年問題、大陸開拓、藝術雜論の四章にて新體制の文化面を說く。
矢吹慶輝（文學博士）	思想と生活	四六判洋製布入	334	二、三〇	明治書院	二月	▲國難と日本人、舉國忍苦の色讀、時局と信仰、偉い人と良い人他十篇の講演集。
後藤靜香	時局に處する道	四六判並製	246	一、三〇	教育資料株式會社	六月	▲現在我々國民はどんな心構えをもてばいゝか、其ねらい、其考へ方について述べたもの
池島重信編	時代の條件	四六判並製	271	一、二〇	名取書店	九月	▲現代政治の科學生（大熊信行）、國民性の改造（三木清）他十篇を收めた評論集。
阿部眞之助	新世と新人	四六判並製	306	一、三〇	青木書店	二月	▲マンの評論集中から十三篇を撰んで譯したもので、世界主義、結婚について其他。
小松堅太郎（關西學院大學教授）	新民族主義論	新四六判洋製布入	201	一、三〇	日本評論社	四月	▲民族の辯證法的發展、社會の僞裝網、民族主義論、民族主義と知性の要求其他の論文集
室伏高信（思想叢書(7)）	人生世相時局	四六判上製入	262	一、二〇	砂子屋書房	二月	▲わが父・その死、人生、讀書界の傾向、獨學青年に與ふ等其他の社會評論を收む。
大槻憲二	世界人と日本人	四六判並製	278	一、三〇	岡倉書房	十月	▲世界人の性格批判及び、これから生れ代らんとする日本的性格を分析す。
山崎延吉	生活	四六判洋製布入	294	一、二〇	泰文館	十二月	▲生活に就ての研究考察で、新家庭の使命、生活意識、社會組織の改善等二十章。
古谷綱武編	生活文化の方向	四六判並製	237	一、三〇	名取書店	九月	▲都會と田舍（石坂洋次郎）北滿の日本婦人（阿部知二）等其他を收めた評論集。

安倍能成	青年と教養	四六判布入裝	406	二、二〇	岩波書店	十一月	▲知識ある青年を相手としての教養の書で、學生に對する一般的助言、教育の意義等其他
谷川徹三	東洋と西洋	四六判上製入	405	二、〇〇	岩波書店	十二月	▲東洋と西洋、古い日本と新しい日本、民族と國民と文化等廿六篇の評論集。
ヘルマン・ヒトレー著 松尾秀三郎・遠藤平譯	ニイチエと民族社會主義	菊並製	315	二、三〇	青年書房	十月	▲ニイチエの世界觀を民族社會主義の立場から研究せるヒトレの著を邦譯す。
阿部眞之助	人間と社會	四六判並製	449	二、二〇	三省堂	七月	▲人間篇、社會篇の二篇に評論、人物影像等を收めたもので私の人物論、近衞文麿其他。
クライヴ・ベル著 西村孝次譯（文化叢書(9)）	文明論	新四六判並製	268	一、〇〇	青木書店	三月	▲クライヴ・ベルの"Civilzation. An Essay."（一九二八）を邦譯したもの。
シドニー・ウエッブ著 立花士郎譯	民族の共榮	四六判並製	170	一、〇〇	刀江書院	二月	▲青年保護法とヒットラー・ユーゲント、民族協同體と勞働保護問題他一篇にて述ぶ。
土井竹治	民族共同體と生產青年	四六判並製	228	一、五〇	中和書院	十二月	▲シドニー・ウェッブの"Prevenion of Destitution"（防貧論）の飜譯。

社會問題・社會政策

厚生省傷生局經濟課長 野間正秋	醫療制度改善論	四六判洋製布入	258	一、八〇	ダイヤモンド社	六月	▲醫療制度調査會決定にかゝる改善案の解說と改善案を必要とする國民醫療の實相を述ぶ
松永健哉	教育紙芝居講座	四六判並製	217	一、三〇	元宇館	九月	▲教育紙芝居の製作、實演、政策等について指導なしたもの。
伊藤秋次郎	結婚教書	四六判上製	248	一、六〇	大日本出版社	七月	▲結婚の意義と目的、結婚と時代、配偶者の選擇條件、結婚と優生學等に其他にて述ぶ。
東京帝大教授・農學博士 宗正雄	結婚新說	四六判並製	289	一、八〇	錦正社	二月	▲媒酌結婚の正しい事を根柢にして、正しき結婚の道を說いたもの。
堀秀彥	結婚の眞實	四六判並製	282	一、五〇	教材社	二月	▲問題、出發、條件、經過、倫理、終末、哲學・定義の七章にて結婚の眞實を說く。

江森盛彌	現代勞働政策（現代學藝全書38）	菊判	上函	新四六判	製人	231	一、〇〇 九	三笠書房	二十	月	▲新勞働體制建設のために、勞働人口についての覺書、勞働者狀態と勞働政策の三部。
中村明人 板井武雄	國民結婚讀本	菊判	並製			202	一、〇〇 一〇	日本青年教育會出版部	六	月	▲時局下に於ける國民の結婚常識を解說したもので結婚の意義と目的、結婚の起源其他。
澤村康（他五氏）	時局と農村 —四—	菊判	並製	四六判	布人	526	二、五〇 一四	有斐閣	二十	月	▲第一次歐洲大戰時の英國食糧增產政策（澤村康）他五篇を收錄す。
大河內一男	社會政策の基本問題	菊判	洋函		布人	476	四、五〇 二二	日本評論社	七	月	▲社會政策の形而上學、社會政策に於ける生產と分配他十一篇の社會政策論文集。
平林久男	常會立國論（新體制全集3）	四六判	並製			228	一、〇〇 一〇	興亞出版社	二十	月	▲凡ゆる角度からの常會研究書で、皇道發揚と常會新體制と常會他十九章。
石田誠（醫學博士）	人的資源論	四六判	上函		製人	353	三、五〇 一四	秋豐園出版部	六	月	▲人的資源の確保が國家興隆の根基であることを明らかにして人的資源問題を論述す。
片岡鐵兵 上田壓（成城監修） 巡（成城監修）	青年報告（農村）	菊判	並製	四六判		332	一、六〇 一〇	竹村書房	二	月	▲農仕事（小谷綠）收穫祝ひ（富岡安治）豚（向井二三郎）他七十九篇の農村報告。
笹生亭（產業組合）	精神講話	菊判	洋函	四六判	布人	241	一、八〇 一〇	螢雪書院	十	月	▲日本產業精神の問題、日本精神、日本產業の立場、日本產業人の立場等其他を收む。
協調會編	戰時社會政策 —ドイツ篇—	菊判	布			360	三、五〇 一四	協調會	十一	月	▲戰爭と社會政策（大河內一男）大戰中の勞働市場（川崎巳三郎）他三論文を收錄す。
協調會編	戰時社會政策 —イギリス篇—	菊判	洋			306	三、〇〇 一四	協調會	二十	月	▲イギリスに於ける戰時社會政策の研究で、大戰時の勞働市場（美濃口時次郎）他四篇。
池見猛（醫學博士・法學士）	斷種の理論と國民優生法の解說	四六判	並製			112	九〇 六	巖松堂	八	月	▲優生運動の世界的趨勢、世界に於ける消極的民族保護政策の現況他二篇にて述ぶ。
朝鮮農村社會調査會編	朝鮮の農村衞生	菊判	並製			306	二、五〇 一四	岩波書店	二	月	▲朝鮮の一農村を一ヶ月に亘つて實證的且組織的に調査研究せる成果を報告したもの。
矢野浩太郎	轉業の手びき	菊判	並製			232	一、〇〇 六	高山書院	二十	月	▲轉業は國家のため、轉業を要するもの、轉業には國家が援助してくれる他四章。

京野正樹譯	都市と農村 —その人口交流—	ソローキン、ツインマーマン	菊判	洋函	四六判	布人	377	三、五〇 二二	刀江書院	五	月	▲ソローキン、ツインマーマン共著の"Principles of Rural-urban Sociology"を譯編す
熊谷次郎編	隣組讀本	菊判	並製	四六判	布	103	一、〇〇 一〇	非凡閣	十二	月	▲新體制の基本組織と町會隣組の運營に關して多數專門家の意見を輯錄した書。
片岡純治	隣組讀本	菊判	並製		製	130	一、〇〇 一〇	東進社	十二	月	▲新體制とは何か、新體制下の隣組、隣とは何か、なぜ隣組は出來たか等十九章。
林惠海（東京帝國大學助教授）	農家人口の研究	菊判	洋函		布人	133	一、五〇 一四	日光書院	四	月	▲秋田縣由利郡東瀧澤村についての實態調査並に其結果を中心として農家人口の研究をす
全國協同組合保健協會編	農村保健年報（第一輯・昭和十五年版）	四六判	並製			491	三、〇〇 一四	全國協同組合保健協會出版部	十	月	▲產業組合によつて行はれる保健運動の發生以來の經過と其の概況を集約したもの。
圓根康喜	人間と食物	四六判	布裝			238	一、二〇 一〇	成史書院	六	月	▲正しい食物を攝取して時局下に必要な日本精神を持つ强健な志士的人間の改造を述ぶ。
厚生省社會局編	本邦大都市に於ける土地建物賃貸狀況調	菊倍判	並製			178	一、二〇 一四	內閣印刷局	十一	月	▲昭和十四年度に於ける全國四十二市に於ける地代家賃の實狀を調査報告なしたもの。
我妻東策（農學博士）	明治社會政策史（現代學藝全書40）	新四六判	上函		製人	315	一、〇〇 一〇	三笠書房	二十	月	▲過去の社會政策上の大事業であつた士族授產に就て說述した書で、士族授產の契機其他
桐原葆見（文學博士）	勞働と青年	四六判	洋函		布人	278	一、六〇 一〇	科學主義工業社	十	月	▲人的資源と勞働教育、勞働の心理、技術と人格、生活の教育其他を收めたもの。
日本勞働科學研究所長 野崎義（醫學博士）等	勞働力の再編成	四六判	洋函		布人	288	一、八〇 一〇	科學主義工業社	七	月	▲日本產業再編成についての科學的見解を披瀝したもので、勞働力の再編成他四篇。

社會諸相・社會解說・人物評論

秦賢助	いくさの庭	四六判	並製			278	一、五〇 九	高山書院	十	月	▲兄弟六人の出征兵士を出し、名譽の死傷を四人も出した鈴木家の名譽を語る
松本勝三郎	英國のスパイ！救世軍を擊つ	四六判	並製			182	七〇 六	秀文閣	八	月	▲英國のスパイとして賣國奴となつた、救世軍の全貌をあばく。

新聞・雜誌・文化記錄

伊藤金次郎	官僚わしが國さ	四六判上製	405	二、〇〇 一四	寶雲舍	七月	▲近衞・平沼・阿部・米内の四内閣における官僚を對象として縱横に剔抉したもの。
山崎一芳	この人を見よ	四六判上製入	257	二、三〇 一〇	東海出版社	九月	▲著者の敬服せる有名無名の人々を網羅して如何にして現在の地位を得たかを述ぶ。
福岡醇祐	近衞公	四六判並製	418	二、五〇 一〇	亞洲青年聯盟出版部	十一月	▲近衞公の印象、其の風格、政治的動向、識見等につき率直に語つたもの。
山浦貫一	近衞時代の人物	四六判並製	339	一、七〇 九	高山書院	十月	▲近衞公を中心とする政治情勢中に現はれる人物を捉えて論述なしたもの。
東海出版社編	立志奮闘傳 今日を築くまで	四六判上製入	310	二、〇〇 一四	東海出版社	四月	▲現在我國振興産業の中堅として活躍されつつある三十餘氏の立志談を收めたもの。
吉田喜久代	砂丘の蔭に	四六判並製	447	二、〇〇 一四	長崎書店	九月	▲人類愛の炬火を振りかざし、一般保健衞生の指導者として活動せる血と涙の尊い記錄。
慶學士 前波仲子	これ丈は知らねばならぬ 座談の秘訣	新四六判洋布	233	一、〇〇 九	大同出版社	七月	▲人間學・生きた社會學、人を知る法、話術交渉の要領他四講にて座談の眞髓を說く。
日向洋之助	時の人	四六判上製	336	一、八〇 一〇	東亞公論社	六月	▲時局の表に活躍せる時の人を捉えて簡略な論評をなしたもので米内光政、近衞文麿其他
菊地其一	女性犯罪の諸相	四六判上製	260	一、二〇 九	高山書院	十月	▲六人の女性の犯した罪を題材にとつて、女性犯罪の諸相を究明したもの。
佐藤定勝編著	傷痍軍人更生感話	四六判並製	368	二、〇〇 一〇	モナス	七月	▲目露戰爭・上海・滿洲事變等にて戰傷を受けられた傷痍軍人の更生實話を集錄す。
山口愛川	新體制下 常識辭典讀本	四六判並製	586	一、八〇 一〇	天泉社	二十月	▲時局下における常識を養ひ、必要に應じては辭典の役割をも勤めんとせるもの。
全逓信調査官 鈴木嘉一	隣組と常會	四六判並製	278	一、〇〇 一〇	誠文堂新光社	二十月	▲常會運營の基礎知識を述べたもので、常會の開き方、將來の展望他三章。

光行壽	新體制下の新聞構想	四六判並製	250	一、三〇 六	第一公論社	十二月	▲我國現代新聞の特質、現代自由主義新聞の崩壞と新しき課題等四章にて說述す。

齋藤瀏著

獄中の記

四六判三二〇頁・著者自筆スケッチ二葉入・定價一・六〇、送料一〇錢

櫻井忠溫氏評 一頁も殘らず讀みましたが「讀破」といふ言葉はあたらない。一頁々々涙を紙上に落しました。この人でなければ、これほどのことは言へまいと思ふところが數々あり、胸を打つた。友に離れ、先輩に反かれたこともあつたらう。全く同情に堪へない。これはたゞ一篇の著者の獄中記として見るワケには行かない。全篇憂國の至情より發する魂の記錄であり、その一字一句一章一節に大日本帝國が大きな息を吹いてゐる。文章は平明、率直、しかも大膽、歌を通じての感想は悉く涙、涙、血、血。

獄にあつて同志の人の刑死を知つた齋藤少將の感や如何。この書こそ、二・二六事件の血と涙の記錄書ともいへやう。泣きながら泣きながらこの書を讀んだ。

一〇、法律

法律一般

著者	書名	形	體	頁數	定價	發行所	發行月	內容大意
猪俣浩三	一億人の法律 —國家總動員法の綜合的研究—	菊判	洋綴	393	二、五〇	有光社	四月	▲時局下の國民に、國家總動員法と統制法令の理論と實際とを說明なしたもの。
中央大學編	法學新報五十周年記念論文集 第一部	菊判	洋綴	404	四、〇〇	中央大學	十月	▲行政裁判制度に就いて（清水澄）經濟封鎖（松原一雄）他十篇の論文集。
石井良助編	近世法制史料叢書 第二・御當家令條・律令要略	菊判	洋綴	357	三、〇〇	弘文堂	一月	▲第二册は御當家令條（三十七卷）、律令要略、の二部を收めたもの。
瀧川政次郎	支那法制史研究	菊判	洋綴	512	四、五〇	有斐閣	四月	▲過去十年間に發表せる支那法制史に關する論考十二篇と滿洲國法制史論文三篇を收錄。
高橋貞三	社會立法の研究	菊判	洋綴	371	三、五〇	有斐閣	一月	▲社會立法の理論、社會立法の歷史、社會立法の法制、アメリカの社會立法の四部にて說
法學協會編	第七十五帝國議會 新法律の解說 昭・新法律條文	菊判	並製	515	二、三〇	法學協會	九月	▲第七十五議會を通過せる法律を東大教授が各々の立場より解說を施したもの。
末川博編著	總動員法體制	四六判	洋綴	426	二、四〇	有斐閣	八月	▲國家總動員法を中心としてその發動によつて形成展開される法的制度の全體系を解說す
村井藤十郎	日本法律學	四六判	布裝	261	一、六〇	高陽書院	二月	▲日本學としての日本法律を體系づけたもので日本法律學の日本學的基礎理論の意義他。

ウエルナー・ゾムバルト著
梶山力譯

高度資本主義 I

新刊

菊判總布裝
總頁四三〇
定價三・八〇
送料・二二

本書は獨逸の經濟學界が世界に誇る偉業にして其の不朽の金字塔と稱せらるゝウェルナー・ゾムバルトの名著『近代資本主義』の第三卷、即ち「高度資本主義時代に於ける經濟生活」なる副題を有する部分の飜譯である。この部分は產業革命の發端（一七六〇年）から第一次歐洲大戰の直前（一九一四年八月）に至る約百五十年間に於ける近代資本主義の發展を取扱ひ、堂々二册實に一千頁を超ゆる大作であつて本譯書では便宜之を四分册にして刊行する。譯者は曩に多くの好譯書を公にして令名斯界に高き第一人者である。この仕事の途上幾多の困難を克服し、或は原著者へ質問して其の懇切な學問上の說明を受けるなど、不屈不撓、實に涙ぐましい苦心をつゞけられた。近代資本主義の成立發展上の極めて豐富な興味深い歷史の姿は、此の優れた譯書の流麗正確な筆によつて實に完全に國語化されてゐる。切に大方の淸讀を希む。

M・ウェーバー著 プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神
梶山力譯 菊判 二・八〇 布裝 四・一四

東京神田神保町
有斐閣
振替東京三七〇番

井上和夫	藩法幕府法と維新法 諸論・行政・軍事・訴訟編	菊判函入洋布	475	六、八〇	二三	巖松堂	七月	▲最も完備せると稱せらる土佐藩法を中心として幕府法維新法等と比較論述をなす。
新京法政大學教授 建國大學教授 柚木馨	滿洲國民法總論 —一—	菊判並製	220	一、八〇	一〇	有斐閣	十二月	▲新興滿洲國の民法總論を解說なしたもの。
京都帝國大學助教授 小早川欣吾	明治法制史論 —公法之部・上卷—	菊判函入洋布	551	五、〇〇	二三	巖松堂	九月	▲上卷は第一編皇室制度の確立、第二編階級制度、第三編立憲制度の成立過程の三篇。
京都帝國大學助教授 小早川欣吾	明治法制史論 —公法之部・下卷—	菊判函入洋布	1422	七、九〇	二三	巖松堂	十二月	▲下卷は立憲政體の構造に就ての論述で、樞密院官制の發布立法制度其他。
猪俣浩三	闇取引と刑罰	縱十八糎 横十六糎 函入布裝	354	二、五〇	一四	有光社	九月	▲インフレ風景、闇取引の實相、闇取引とは何か他三章にて述べ、關係法令を附錄とす。
穗積重遠	續有閑法學	四六判函入洋布	471	二、八〇	一四	日本評論社	六月	▲大審院の國語變遷論、武家の離縁願書、明治初の大學、大將軍選擧等其他を收む。
久保正幡譯	リブアリア法典	菊判函入洋布	232	三、五〇	一四	弘文堂	十月	▲ゲルマン法制史上最も重要な法源である、"Lex Ribuaria" の解說及邦譯をなす。
牧野英一	理窟物語	四六判函入洋布	346	二、三〇	一四	日本評論社	八月	▲理窟物語、研究室との三十五年、この人あの人、行刑の恩人としての二家等其他を收む。
早大講師・文學士・法學士 戸倉廣	羅馬法概論	菊判函入洋布	443	四、〇〇	一四	巖松堂	十一月	▲羅馬法を學ばんとする人達のために、羅馬法の簡略なる論述をなしたもの。
早稻田大學法學會編	早稻田法學 第十九卷	菊判函入洋布	704	四、五〇	二三	早稻田大學法學會（巖松堂發賣）	四月	▲第十九卷は中村萬吉博士追悼記念論文集で會社の財產引受に就て（寺尾元彥）他十三篇。

憲法

清水伸	帝國憲法制定會議	菊判函入洋布	688	六、五〇	二三	岩波書店	十一月	▲長くも明治天皇の臨御のもとに進められた憲法制定會議の經過を詳に記述なしたもの。
杉村章三郎	概說 日本憲法	菊判並製	126	一、二〇	一〇	弘文堂	十一月	▲憲法の法源、帝國の國體法及皇室法、政體法、天皇の統治作用他二章にて講述す。

行政法

大阪商科大學助教授 原龍之助	企業行政法概論 大阪商科大學研究叢書(10)	菊判函入洋布	244	二、五〇	一四	日本評論社	三月	▲行政法的見地から各種の企業に對する行政作用の法的性格について理論的考察をなす。
臺北帝國大學教授 園部敏	行政法概論	菊判函入洋布	501	四、五〇	二三	臺北野田書房（有斐閣發賣）	五月	▲臺灣行政法規を特に顧慮して行政法の一般理論を簡潔に敍述したもの。
柳瀨良幹	行政法の基礎理論 —一—	菊判函入洋布	274	三、三〇	一四	弘文堂	十月	▲行政法理論に關する論文集で、行政法の編別に就て、平等の原則に就て他二篇。
美濃部達吉	昭和十四年度 公法判例評釋	菊判並製	254	二、五〇	一四	有斐閣	七月	▲行政裁判所判決錄及大審院判例集より公法問題に關係あるもの百五十八件を拔萃す。
京都帝國大學教授 法學博士 渡邊宗太郎	行政法に於ける全體と個人	菊判函入布裝	399	四、〇〇	二三	有斐閣	九月	▲公益の本質、自治行政の社會的基礎と法形式、警察責任の限界他五章にて說く。
美濃部達吉	日本行政法 下卷	菊判函入洋布	1375	九、〇〇	三〇	有斐閣	四月	▲下卷は第四編行政各部の法で警察法・保護及統制の法・公企業及公物の法他三章を收む。

民法

小野久	賣渡擔保論	菊判函入布裝	363	四、〇〇	一四	巖松堂	二月	▲序說、我國に於ける賣渡擔保の狀態、賣渡擔保の沿革、他十章にて講述す。
三澤清彥 磯江弘雄	實例 假差押及假處分手續總覽 —假差押編—	菊判函入布裝	187	二、〇〇	一四	巖松堂	一月	▲東京民事地方裁判所及同區裁判所の實例を引用し假差押の平易な解說をなしたもの。
京都帝國大學教授 法學博士 石田文次郎	契約の基礎理論	菊判函入洋布	225	二、三〇	一四	有斐閣	十二月	▲債權契約の二大型、債權契約の新基因、契約理論の轉回他一篇の論文集。
東京帝國大學教授 我妻榮	債權總論 民法講義IV	菊判函入洋布	414	二、九〇	二三	岩波書店	六月	▲本輯は民法第三編債權の第一章總則を收めて講義をなしたもの。
田島順	債權法	菊判函入洋布	543	五、三〇	二三	弘文堂	六月	▲學生の講義用として、債權の發生として不法行爲迄を契約と並んで敍述したもの。

辻山明・赤田正一・塚本忠一郎編	司法省 戸籍・親族・相續・寄留	先例大系	洋菊	布入判	3571	三五、〇〇〇	清水書店	十月	▲明治三十一年以降昭和十四年迄の親族、相續、戸籍及び寄留に關する訓令其他を收錄す
東北帝國大學教授 法學博士 中川善之助	親族相續判例總評 第三卷		洋菊	布入判	381	三、八〇 一四	岩波書店	十月	▲昭和十一・十二・十三年度の大審院判例中親族・相續法に關するもの、批評を收錄す。
法學博士 勝本正晃	擔保物權法論		洋菊	布入判	281	二、八〇 一四	日本評論社	八月	▲親族法上の問題について發表せる論講を集めたもので、法律關係としての內緣他三篇。
京都帝國大學助教授 小野木常	破產法概論		洋菊	布入判	680	六、七〇 二二	日本評論社	七月	▲民法第二編第七章以下に規定する留置權、先取特權、質權、抵當權等を主として說述す
法學士 小林寬編	判例借地法借家法		洋菊	布入判	465	三、八〇 二二	弘文堂	五月	▲破產の觀念、破產の性格、破產の種類、破產の主體、破產の對象他二章にて講述す。
早稻田大學講師 林信雄	判例に表はれたる信義誠實の原則		洋菊	布入判	205	二、三〇 一四	巖松堂	七月	▲債務の履行における信義誠實、債權者遲滯における信義誠實他三章にて說述す。
法學博士 齋藤常三郎	比較破產法論		洋菊	布入判	700	六、四〇 二二	有斐閣	二十月	▲多數諸國の現行破產制度と我が破產法とを比較して論述した書で、破產の觀念其他。
末弘嚴太郎	民法雜記帳		洋四六	裝入判	346	二、〇〇 一四	日本評論社	四月	▲「法律時報」誌上に連載せるものを纏めたもので民法の獨自性、日本民法學の課題其他。
大審院判事 黑川眞前	民法總則物權法大意		洋菊	並製	268	二、〇〇 一〇	巖松堂	五月	▲民法總則大意（緒論、私權の主體、私權の客體他一篇）物權法大意の二部を收む。
飯塚半藏	無體財產法論		洋菊	布入判	425	四、〇〇 二二	巖松堂	一月	▲創造保護の基本觀念に立脚し無體財產法の全部に亘つて系統的に敍述したもの。

商法

法學博士 西島彌太郎	改正 會社法 —附・有限會社法—	洋菊	布入判	607	四、八〇 二二	日本評論社	十月	▲本年一月一日より施行された、改正會社法の新解釋をなしたもの。

辯護士 佐藤博	改正株式會社法	菊並	製入判	495	四、五〇 一四	佐藤家（櫻田發賣）	三月	▲株式會社に關する改正法律の全般を綜合し組織し之を解說したもの。
東京帝國大學教授 法學博士 田中誠二	改正商法要義 上卷	菊	裝入判	603	四、五〇 二二	松華堂	五月	▲最近迄の法令及重要判例を揭げ、上級學生向に改正商法に關する知識を說述す。
東京商科大學教授 法學博士 田中誠二	改正商法要義 下卷	菊	裝入判	651	五、〇〇 二二	松華堂	六月	▲下卷は第四編商行爲法、第五編海商、第六編保險、第七編手形小切手の四編を收む。
法學博士 桑田熊藏監修	改正新商法	四六並	製判	165	八〇 六	テンセン社	一月	▲昭和十五年一月一日より施行される改正新商法の條文を收錄す。
木村精一	會計法規の理論と實際	洋菊	布入判	603	五、〇〇 二二	政治教育協會	二月	▲會計法規の理論を究明し、之れが適用解釋の實際問題を說述す。
京都地方裁判所登記 竹內米三郎	改正商法中 會社整理・特別清算	四六並	製判	159	一、三〇 九	銀行問題研究會	七月	▲實務家の立場より改正商事非訟事件の取扱方を記述したもので整理及特別清算其他。
法學博士 松岡熊三郎	改正 會社法綱義 第二冊	菊並	製判	247	二、〇〇 一四	巖松堂	五月	▲改正株式會社綱義第二冊は第四編株式會社法を收めて解說なしたもの。
法學博士 松岡熊三郎	改正 會社法綱義 第三冊	菊並	製判	164	一、五〇 一〇	巖松堂	七月	▲第三冊は第四編の殘り及第五編株式合資會社の始め迄を收めたもの。
大隅健一郎	會社法論 第四分冊	菊並	製判	85	八〇 九	巖松堂	三月	▲第四分冊は第三章の續き第四節定款の變更と第四章第一節社債迄を收めたもの。
法學士 河村鐵也	株式會社法 —設立論—	菊洋	布入判	305	三、〇〇 一四	有斐閣	十一月	▲緒論、株式會社の概念、株式會社の權利能力論、株式會社の設立他一章にて說述す。
法學博士 松本烝治	株式會社法改正の要點	四六洋	布入判	278	二、五〇 一〇	巖松堂	五月	▲改正せられた株式會社法の要點を述べ、十六篇の質疑解答を附錄とす。
日本會社實務研究所長 大村聖友	改正 商法 株主重役の權利義務	菊洋	布入判	480	六、八〇 二二	東榮堂	九月	▲現行改正商法上より株主重役の權利義務に關する諸事項を捉えて解說をなす。
東北帝國大學教授 法學博士 小町谷操三	商事法研究叢書(4) 空中運送法論		洋菊	布入判	303	二、五〇 一四	有斐閣	十一月	▲運送契約法の一角から、從來未開拓の狀態にあつた「空中運送法」に就て考察なす。

弁護士	尾山萬次郎	改正新會社法に採る	重役並に株主必携	洋菊四六	布入判	425	二、八〇	テンセン社	五月	▲重役及び株主として是非とも心得ておかねばならぬ改正新會社法の一切を解説す。					
司法書記官	前野順一		商業登記手續解説	洋菊四六	布入判	193	一、八〇	松華堂	三月	▲最近改正公布せられた商業登記取扱手續事務の平易な解説をなしたもの。					
	商法研究會編		商事法判例研究	洋菊四六	布入判	497	五、〇〇	有斐閣	十月	▲昭和十二年度に於ける大審院判例集に載錄せられたる商事判例を較量なしたるもの。					
法學博士	松岡熊三郎		商法綱義 第一分冊 總則及商行爲	洋菊四六	並菊製	200	一、八〇	巖松堂	七月	▲商法綱義の第一分冊は總則及商行爲に就て說述なしたもの。					
法學博士	松岡熊三郎		商法講義 第二分冊	洋菊四六	並菊製	234	一、八〇	巖松堂	十一月	▲第二分冊は、總則及商行爲法、迄を收めて解說なしたもの。					
弁護士	中村武		商法總論概要	洋菊四六	並菊製	147	一、五〇	巖松堂	七月	▲中央大學經濟學部にて講述せる商法總論の講義要領を纏めたもの。					
弁護士	尾山萬次郎		新會社法書式大全	洋菊四六	布入判	456	三、八〇	テンセン社	五月	▲改正新會社法による各種の商事書式を收めたもの。					
拓殖大學教授	豐田悌助		新商法概論	洋菊	裝入判	461	四、五〇	叢文閣	十二月	▲現在日本に行はれてゐる商法を平易に說明した書で、總則論、會社論其他。					
弁護士	尾山萬次郎	改正	新商法書式精解	洋菊四六	布入判	496	三、〇〇	テンセン社	二月	▲昭和十五年一月一日より施行せられる新商法に關する書式を收めて解說す。					
弁護士	尾山萬次郎	改正	新商法精解	洋菊四六	布入判	571	三、〇〇	テンセン社	一月	▲第七十三議會を通過し本年一月より實施せられる新商法の平明な解說をなす。					
	升本喜兵衛		手形小切手概要	並菊	製判	130	一、〇〇	巖松堂	八月	▲總論、爲替手形、約束手形、小切手、國際手形法及小切手法の五章にて講述せるもの。					
	三浦義道	改正	保險業法解說	洋菊四六	布入判	294	二、五〇	松山房	九月	▲有限會社の設立より解散に至る間に於て必要な書式二百二種を收めて解說したもの。					
法學博士	尾山萬次郎		有限會社書式手續總覽	並菊	製判	130	一、〇〇	巖松堂	八月	▲我國保險監督法の沿革を語り、改正保險業法の解說と運用法を說いたもの。					

	民事法判例研究會		判例民事法 十八卷 昭和十三年度	菊並	裝入判	600	五、五〇	有斐閣	一月	▲昭和十三年度大審院判例集（第十七卷）に登載された判決を檢討批判したもの。					
京都帝國大學教授・法學博士	山田正三		日本民事訴訟法概論 上卷	洋菊四六	布入判	271	二、五〇	弘文堂	二月	▲民事訴訟法理論を體系的に其の全體に亘つて解說したもので上卷は第二編判決手續迄。					
	兼子一		民事法研究 第一卷	洋菊四六	布入判	480	四、八〇	弘文堂	十二月	▲訴訟承繼論、請求權とに關する重要問題、質及び效果について等九篇。					
	齋藤金作		刑法各論講義 第一分冊	並菊	製判	190	一、六〇	巖松堂	十月	▲第一分冊は第一編皇室に對する罪、第二編國家の法益に對する罪他二篇を收む。					
	齋藤金作		刑法各論講義 第二分冊 上	並菊	製判	106	九〇	巖松堂	十一月	▲第二分冊上は、第三編中の第四章公共の信用に對する罪以下第五章迄を收む。					
法學博士	牧野英一		刑法研究 第九卷	洋菊	布判	489	四、五〇	有斐閣	二月	▲正當防衛の要件、緊急避難と期待可能性、共同正犯の從屬性他二十七篇の論文集。					
	牧野英一		刑法總論	洋菊	布入判	484	四、〇〇	有斐閣	九月	▲口語體で註脚のないやう述べた刑法總論で刑法理論、刑罰法規、文獻等他七章					
東京刑事地方裁判所判事	佐瀨昌三		刑法大意 第二分冊	洋菊	布入判	418	三、八〇	清水書店	五月	▲第二分冊は刑法各論で、最近の代表的な問題設例を中心に學說判例の迹を檢討す。					
司法書記官	大竹武七郎		刑事訴訟法解說	洋菊	布入判	570	三、八〇	松華堂	八月	▲幾多の判例、質疑回答、決議等を引用して刑事訴訟法の平易な解說をなしたもの。					
	草野豹一郎		刑事判例研究 第五卷	洋菊	布入判	492	四、八〇	巖松堂	十一月	▲第一部（刑罰法規の效力發生時期其他）第二部（所謂狸狢の判決に就て其他）。					

諸法

大塚喜一郎（弁護士・法學士）	価格等統制令・地代家賃統制令解説	新四六判製	220	八〇	九	松山房	一月	▲物價等統制令・地代家賃統制令の二法規を收めて平明に解説したもの。	片岡政一	会社税法の詳解	菊倍洋布入判	991	七、〇〇	二二	文精社	九月	▲会社税法の眞髄を詳述せんとしたもので、緒論、法人税、臨時利得税其他。	朝日新聞社編	会社経理統制令 —早わかり—	四六判並製	200	六〇	朝日新聞社	二月	▲会社経理統制令につき平明なる解説を與へた書で、会社経理統制令の意義他十六章。
片岡政一 三品三代治	会社税法の詳解	四六判並製	308	一、五〇	一〇	第一書房	一月	▲会社経理統制令の理念を明らかにし、各條の解説をなしたもの。	大蔵省臨時財産調査会幹事 迫水久常	会社経理統制令解説	四六判並製	140	六〇	六	戰時生活相談所	一月	▲会社経理統制令の逐條解説と、質疑應答、勅令・閣令・運用方針等を收めたもの。	法令調査研究会	会社経理統制令解説	菊判並製	227	一、七〇	船場書店	一月	▲会社経理統制令の全條文を附録とす。
齋藤榮三郎編	会社経理統制令等の解説 続編	四六判並製	168	一、〇〇	六	伊藤書店	二月	▲價格等統制令・從業者移動防止令、國民職業能力申告令其他の解説。	齋藤榮三郎	会社経理統制令等の解説	四六判並製	328	一、五〇	九	伊藤書店	一月	▲会社経理統制令、銀行等資金運用令、賃金統制令、地代家賃統制令等其他を解説す。	法律時報編輯部編	会社経理統制令等の解説	四六判並製	196	一、〇〇	日本評論社	二月	▲会社経理統制令、銀行等資金運用令、賃金統制令を解説したもの。
商工經營研究會編	会社経理統制令の解説	四六判並製	144	一、三〇	六	大同書院	一月	▲会社経理統制令の解説を問答式にてなし、統制令運用方針及全關係法令を附す。	法令調査研究会	会社経理統制令解説	四六判並製	140	六〇	六	戰時生活相談所	一月	▲会社経理統制令の逐條解説と、質疑應答、勅令・閣令・運用方針等を收めたもの。	法令調査研究会	会社経理統制令解説	菊判並製	227	一、七〇	船場書店	一月	▲会社経理統制令の全條文を收めて解説し、關係全條文を附録とす。
日高巳雄（陸軍書記官）	軍用資源秘密保護法	菊倍洋布入判	470	五、〇〇	三三	羽田書店	八月	▲軍用資源秘密保護法を大體に條文を追ひ説明し、併せて其他の施行令をも解説す。	法令調査研究会	銀行等資金運用令解説 全條文・關係全條文附	四六判並製	167	一、五〇	六	船場書店	二月	▲「銀行等資金運用令」の逐條解説と、其の運用方等を説明す。	商工經營研究會編	会社経理統制令の解説	四六判並製	144	一、三〇	大同書院	一月	▲会社経理統制令の解説を問答式にてなし、統制令運用方針及全關係法令を附す。

松華堂編輯部編	経済統制法令判決例解説	四六判上製	129	一、〇〇	九	松華堂	八月	▲大審院刑事部にて判決せられた經済統制法令に關する事案を網羅收録したもの。	中倉貞重	工場鑛山の法律實務	四六判並製	555	三、五〇	四	ダイヤモンド社	六月	▲現時局下に必要な工鑛業と店舗の勞務關係法規を實務本位に書いたもの。	片岡政一	國時下に於ける國民の税法	四六判並製	355	七〇	第一書房	六月	▲時局下國民の誰もが知らねばならぬ税法の眞髄を平明に解説したもの。
農林省蠶絲局編	蠶絲業關係法規	四六判並製	891	二、五〇	四	産業組合新聞社	十月	▲蠶絲業法規、關係諸法規、主要關係團體定款並に諸規程の三篇に收録す。	中央社編	宗教團體法 及附帯法令の 書式手續	菊判並製	365	二、〇〇	一〇	中央社	十月	▲宗教團體法、施行規則、宗教團體登記令、其他の附屬法規等に必要な書式手續を解説す。	市川三朗	宗教團體法釋義	四六判洋布入判	408	三、〇〇	宗教制度研究會	十月	▲第七十四議會を通過公布せられたる「宗教團體法」三十七條を平明に解説す。
高梨安磨	宗教團體法明解	四六判並製	197	一、〇〇	六	教文館	四月	▲昭和十四年四月より公布せられた「宗教團體法」の平明な解説をなしたもの。	田中勝次郎	所得税の諸問題	四六判布入判	361	三、一〇	四	巖松堂	八月	▲利益配當の時期の問題、時價以下の株式賣買と認定賞與等他三篇を收めたもの。	法令調査研究會	解説	四六判並製	150	一、〇〇	船場書店	二月	▲從業者移動防止令及び青少年雇入制限令を體系的に平易に解説す。
尾山萬次郎（弁護士）	商事書式大全	四六判洋布入判	349	二、五〇	四	テンセン社	一月	▲我々の日常生活に關係ある商事書式を網羅して註を施したもの。	清水書店編輯部編	係文	菊判並製	142	一、三〇	九	清水書店	二月	▲改正された「非訟事件手續法」「商業登記取扱手續」の條文を新舊對照させたもの。	東京財務研究會（會陶書院發賣）	新税	三五判洋布入判	1295	二、八〇	東京財務研究會	五月	▲昭和十五年四月十日現在に於ける法令を直接税、間接税、地方税の三部門に輯録す。
法令調査研究會	新税法解説（講にも解る）	菊判並製	270	一、七〇	一〇	船場書店	五月	▲昭和十五年四月一日より實施せられる新税法を誰にも理解出來るやう説いたもの。																	

尾山萬次郎（醫學士）	新稅法精解	洋四六判	437	二、八〇	一四	天泉社	八月	▲改正せられた國稅、地方稅の全般に亘つて平易な解說をなしたもの。	375	三、五〇	一〇	清水書店	十月	▲組織法、人權保障法、帝位繼承法、民法、商法、刑法等其他の重要法令を解說す。
銀行信託協會編	新稅法早わかり	並菊製判	296	三、〇〇	一〇	銀行信託協會	四月	▲所得稅、法人稅、物品稅等其他の新稅法の全條文と施行手續、計算例等を收む。	257	一、五〇	九	週刊產業社	一月	▲食糧問題に關聯して制定された米穀配給に關する諸法令を解明なしたもの。
後藤米太郎（工學士）	戰時建築統制法規の解說	並四六製判	294	二、〇〇	一〇	丸善株式會社	七月	▲建築統制法規、配給統制法規、其他の時局關係法規、建築統制關係法令集の四篇。	321	二、八〇	一〇	巖松堂	四月	▲著作權法の規定の內容を說明し、著作權に關する主要な問題を概觀せるもの。
堀內信之助（司法省民事局第三課長）	地代家賃統制令解說	並四六製判	84	六〇	六	巖松堂	一月	▲昨年制定公布せられた「地代家賃統制令」の各條を解說し、關係諸法令をも附す。	624	四、八〇	二二	巖松堂	二月	▲現在の經濟統制法規全般に亘つて平明に記述したもの。
谷口壽太郎他三氏（運輸省係官）	地方稅法精義	洋菊布入判	1043	七、五〇	二二	文精社	八月	▲今次改正の地方稅制の全體に付其內容を概說し、次に取扱ひと運用法をも述べたもの。	280	二、五〇	一〇	テンセン社	四月	▲民事訴訟書式、刑事訴訟書式、警察書式、兵事書式、恩給、地租等其他の書式を收む。
尾藤晴夫	著作權の知識	並四六製判	105	一、三〇	六	尾藤家（櫻田書店發賣）	八月	▲出版者のために著作權上の知識を平易明解にしたもの。	175	一、〇〇	六	船場書店	十二月	▲一般國民が心得て置く必要のある賃銀統制令を平易に解說せる書。
法令調査研究會	賃金統制令解說（法令調査研究會編）	並四六製判	175	一、〇〇	六	船場書店	十二月	▲二十數件の統制違反判例を收めて、平明に說明なしたもの。	163	一、五〇	九	船場書店	十一月	▲民事訴訟書式、刑事訴訟書式、地租等其他の書式を收む。
法令調査研究會	統制違反の判例解說（第一輯）	並菊製判	163	一、五〇	九	船場書店	十一月	▲民事訴訟書式、刑事訴訟書式、恩給、地租等其他の書式を收む。	624	四、八〇	二二	巖松堂	二月	▲現在の經濟統制法規全般に亘つて平明に記述したもの。
尾山萬次郎（醫學士）	特別法書式大全	洋四六布入判	280	二、五〇	一〇	テンセン社	四月	▲民事訴訟書式、刑事訴訟書式、恩給、地租等其他の書式を收む。	321	二、八〇	一〇	巖松堂	四月	▲著作權法の規定の內容を說明し、著作權に關する主要な問題を概觀せるもの。
清水象男	日本經濟統制法	洋菊布入判	624	四、八〇	二二	巖松堂	二月	▲現在の經濟統制法規全般に亘つて平明に記述したもの。	163	一、五〇	九	船場書店	十一月	▲二十數件の統制違反判例を收めて、平明に說明なしたもの。
勝本正晃（法學博士）	日本著作權法	洋四六布入判	321	二、八〇	一〇	巖松堂	四月	▲著作權法の規定の內容を說明し、著作權に關する主要な問題を概觀せるもの。	257	一、五〇	九	週刊產業社	一月	▲食糧問題に關聯して制定された米穀配給に關する諸法令を解明なしたもの。
片柳眞吉	米麥等食糧配給關係法令解說	並四六製判	257	一、五〇	九	週刊產業社	一月	▲食糧問題に關聯して制定された米穀配給に關する諸法令を解明なしたもの。	375	三、五〇	一〇	清水書店	十月	▲組織法、人權保障法、帝位繼承法、民法、商法、刑法等其他の重要法令を解說す。
長谷鎭廣（法學士）	滿洲帝國主要法令解說	並四六製判	375	三、五〇	一〇	清水書店	十月	▲組織法、人權保障法、帝位繼承法、民法、商法、刑法等其他の重要法令を解說す。						

國際法

一又正雄・大平善梧編	國際法外交論文集（時局關係）	洋菊布入判	741	六、八〇	二二	巖松堂	六月	▲中村進午博士追悼記念論文集で、ルーズヴエルトの對外政策（出淵勝次）他二十二篇。	前原光雄（醫學博士・大學教授）	國際法要論（上卷）	菊布裝入判	487	四、五〇	二二	巖松堂	六月	▲教科書向きに國際法の平明な敍述をなしたもので上卷は序說、基本法、協力法の三篇。
會計檢査院長官房調査課編	會計檢査法規集加除篇第一號	菊並製判	697	一、九五	一四	內閣印刷局	十月	▲會計檢査法規集の追錄として昭和十三年九月二日より十五年七月一日迄の法令を追補す	原口亮平・小菅敏郎	會計法令類集（現行）	菊洋入判	300	二、八〇	一四	高陽書院	八月	▲會計に關する法令並に諸官署から發表せられた會計準則を類集したもの。
東京能率研究所編	工場關係法規	菊洋布入判	346	三、〇〇	一四	同文館	四月	▲會社經營や工場管理に必要な工業關係法規を集錄したもの。	厚生省社會局編	住宅關係法令	菊並製判	831	三、〇〇	一四	內閣印刷局	八月	▲土地關係、建築關係、貸借關係、登記關係、賃金關係等其他にて住宅關係法令を收錄す。
厚生省職業部編	職業行政關係法令集	新四六並製判	492	七〇	一〇	職業協會（有斐閣發賣）	六月	▲職業紹介法、職業紹介法施行令、無料職業紹介事業規則等其他の關係諸法令を網羅す。	現行法令出版社編	新法令集（第七十五議會通過）	四六並製判	219	二、三〇	六	現行法令出版社	四月	▲第七十五議會を通過せる諸法令を收錄したもので、所得稅法（全部改正）、酒稅法其他。
伊藤嘉彥編	水產關係法令綜覽（候文抜萃）	新菊並判	148	一、五〇	九	水產社	三月	▲基礎法規、一般關係法規、時局關係法規の三篇にて水產關係法規の重要なものを集約す	東洋經濟新報社編	高等文官試驗（第四輯）	四六上製判	333	二、五〇	一四	東洋經濟新報社	一月	▲第四輯は七十四議會通過法施行令同規則、國家總動員法關係勅令等其他を收錄す。
東洋經濟新報社編	戰時經濟法令集（第五輯）	四六上製判	274	一、五〇	一〇	東洋經濟新報社	七月	▲本輯は第七十五議會通過の諸法律の全部と其提案理由を收錄したもの。									

著書名	著者	形	體	頁數	定價送料	發行所	發行月	内容大意
細野長良他九氏著 註釋 大六法全書		四六判 布裝	特	2579	一五、〇〇 一二〇 二二〇	法文社	二十	▲大審院判事諸氏が各專攻法令を分擔して平明に註釋を施した六法全書。
内閣印刷局編 法令全書 第七號		菊判 並製		716	一八〇 一四〇	内閣印刷局	九	▲七月中官報に登載したる詔書、皇室令、法律、豫算等其他の諸令を網羅したもの。
内閣印刷局編 法令全書 第十號		菊判 並製		1050	一八〇 一四〇	内閣印刷局	十二	▲官報に登載したる詔書、皇室令、法律、豫算、省令、局令等其他全部を網羅す。

ジイド・リスト共著
宮川貞一郎譯

經濟學說史 全二巻

好評 上巻十三版 下巻十版

（上）定價送料 三・五〇 二二〇
（下）定價送料 三・八〇 二二〇

世界第一の名聲を博せる經濟學說史遂に完譯さる!!

ジイド・リストの學說史が世界的の名著である事は殆ど何人も疑はぬ點であらう。そしてその特徴はいふ迄もなく、歴史的に資本主義經濟と社會主義的經濟とを對立してそれの發展を批判的に述べた點にあつたのだが、この說明の平易とその行文の流麗なる事は、之亦恐らく如何なる他の著述に付いても見られぬであらうと思はれる。

一一、軍事・交通・遞信

軍事一般

著書名	著者	形	體	頁數	定價送料	發行所	發行月	内容大意
或る獨逸間諜の手記	グライン著 菅原孝譯	四六判 並製		362	一、八〇 一〇〇	高山書院	八	▲一身を犠牲にして祖國に盡した一獨逸間諜の手記を邦譯なしたもの。
一軍人の思想	ゼークト著 篠田英雄譯	三六判 並製		188	五〇 六〇	岩波書店	五	▲近代戰の本質を究明し、現代國防の原則に關し政治と軍事との關聯について明確に說く
英國スパイ五百年史	牧勝彦	四六判 並製		208	一、三〇 九〇	刀江書院	九	▲英國スパイの五百年は亘る長き歴史と、英國秘密諜報部の正體を暴露したもの。
英帝國崩潰の眞因	リデル・ハート著 江本嘉夫 尾野茂譯	四六判 洋布		545	二、八〇 一四〇	實業之日本社	十二	▲英國の軍事評論家リデル・ハートの英國の防衛に關する著書を邦譯。
大空の遺書	間瀬一惠	四六判 上製		264	一、五〇 一〇〇	興亞日本社	十一	▲海の荒鷲故間瀬特務少尉の遺書を發表したもの。
輝く海軍生徒	海軍研究社編	四六判 並製		448	一、〇〇 一〇〇	海軍研究社	十一	▲海軍兵學校、海軍機關學校、海軍經理學校の三校の日日の生活を物語つたもの。
間諜としての余の活躍	R・Bバウエル著 高崎松雄譯	四六判 並製		225	一、二〇 六〇	復ケ關書房	十	▲前大戰に活躍した英國陸軍中將R・Bバウエルの間諜手記。
歸還者は叫ぶ	陸軍主計中尉・法學士 鏡晃	四六判 並製		214	一、五〇 九〇	秋豐閣出版部	十	▲二ケ年半に亘る戰場より持ち歸つた體驗・氣持・信念や歸還者としての所感を述ぶ。

坂本守弘	陸軍中尉	刻む軍靴	四六判製	213	一、二〇	昭和出版協會	八月
長野朗		現代戰爭讀本	四六判製	297	一、六〇	和泉書院	九月
上澤謙二	陸軍歩兵少尉	これぞ日本兵	四六判製	225	一、二〇	新生堂	二月
山中峯太郎編		皇兵	四六判製	295	一、五〇	同盟出版社	十一月
黒田禮二		國際スパイ物語 —ドレイフュス事件—	四六判製	388	二、〇〇	大日本法令出版株式會社	十月
丸山義雄		國際祕密戰と防諜	四六判製	206	一、〇〇	實業之日本社	十月
ポソニー著 大内愛七譯	參謀本部編	今日の戰爭	三六判製	208	五〇	岩波書店	七月
富岡直方編著		散華の手記	四六判製	210	一、二〇	一路書苑	七月
私の手帖社編		死の從軍記者	四六判製	350	一、六〇	私の手帖社	七月
吉村誠		殊勳涙あり	四六判製	100	六〇	東亞公論社	八月
末常卓郎		從軍記者	四六判製	409	一、三〇	中央公論社	二月
武田謙二	陸軍中尉	新陸軍讀本	四六判製	362	一、五〇	高山書院	二月
朝日新聞社編		世界空軍の現勢	四六判製	308	一、〇〇	朝日新聞社	一月

▲坂西部隊の勇士として從軍し、陣中に於けるユーモアを捉えて漫畫にす。

▲現代の戰爭の本質を述べたもので、現代戰とは？、戰略の概要、空中戰、地上戰其他。

▲事變第一線にて輝ける武勳を樹てた皇軍將士の數々のエピソードを收錄す。

▲皇軍將兵の陣中手記と銃後國民の音信とを纂錄して日本精神の眞價を發揮す。

▲フランス陸軍部内に起つたスパイ物語「ドレイフュス事件」を物語つたもの。

▲國際祕密戰の意義と防諜の重要性とを全國民のために平易に說明したもの。

▲強大な國家が國力を堵して爭ふ「今日の戰爭」を凡有る角度から理解したもの。

▲皇軍の大精神を發揮し、芳香萬世に薫る、皇軍將士の尊き散華の手記を蒐集す。

▲事變に從軍し戰線の花と散つた二十五名の報道戰士の血と涙の活躍を描く。

▲殊勳の感狀を頂き海空軍の至寶と仰がれる古賀特務少尉をめぐる兄弟愛を物語る。

▲從軍記者として、戰線を馳驅せる時の記錄で敵前上陸、紙一枚、廣東入城、討伐行其他。

▲近代戰の樣相及び新兵器の活用等に適切なる解說を加へ且つ各國陸軍を紹介す。

▲事變に於ける陸軍航空部隊の活躍、（森本重一）英米佛の空軍（近藤勝治）他四篇收錄。

白根孝之	陸軍騎兵中尉	聖戰の書 —戰爭のロゴスとパトス—	四六判製	214	一、七〇	モナス	一月
藤田實彥	陸軍中佐	戰車戰記	四六判製	284	九〇	東京日日新聞社 大阪毎日新聞社	十月
フラー著 川崎貞次郎譯編		全體主義戰爭論	四六判製	372	一、八〇	高山書院	一月
別院一郎		大陸のあけぼの	四六判製	397	一、七〇	萬里閣	九月
清澤洌		第二次歐洲大戰の研究	四六判洋布人製	474	二、八〇	東洋經濟出版部	四月
長野邦雄		第二次大戰と列强の戰備	四六判製	324	一、〇〇	博文館	二月
鈴木艮		第二次大戰の眞相	四六判製	316	一、〇〇	博文館	三月
E・ヴアルガ著 三宅邦男譯	歩兵實習書	第二次大戰の性格	四六判製	365	二、〇〇	慶應書房	七月
近藤政士	參謀本部編	圖囊の泥	四六判製	123	一、三〇	スメル書房	十一月
陸軍省編		帝國及列國の陸軍 昭和十五年度版	新四六判製	257	三〇	內閣印刷局	二月
同盟通信社編		鐵牛と荒鷲	四六判製	194	五〇	同盟通信社	七月
柴田賢一譯	ロジンスキー著	獨逸國防軍	四六判製	267	一、五〇	青年書房	七月
小島海人譯	リンテレン述	獨逸諜報官の暗躍記	四六判製	207	一、三〇	日比谷出版社	十月

▲著者の內的體驗を以て、一中隊長がその部下に行つた「精神訓話」の形式にて敍述す。

▲藤田戰車隊を率いて北中支の戰場に馳驅せる藤田中佐の戰鬪記。

▲軍事的著作として著名なフラー將軍の"The first of the League Wars"の邦譯。

▲惡辣な手段を用ひる多種多樣な支那軍スパイの內容を抉出して描いたスパイ物語。

▲多角的に第二次歐洲大戰の研究をなしたもので戰爭の前奏と背景、戰爭突入以後他二篇

▲第二次大戰に備へて列强は如何なる軍備に邁進してゐるか其全貌を明らかにす。

▲第二次世界大戰の眞相を裏面より觀察したもので最近外交戰の內幕他五章。

▲ソ聯邦の代表的新聞雜誌より、今次の歐洲大戰に關するヴアルガの論文を抄譯す。

▲事變に應召し、戰場で僅かの間に描いたスケッチ五十餘を收めて想出を附したもの。

▲第二次大戰を目ざして驀進しつゝある列國陸軍及帝國陸軍の現狀を簡述したもの。

▲支那事變に於ける飛行機と戰車の活動を蒐錄したもので、鐵牛血戰記其他。

▲ドイツ國防軍の組織、傳統、士氣等を科學的に解剖したもの。

▲前大戰に活躍せる獨逸の諜報官海軍大佐ファオン・リンテレンの暗躍記錄。

軍事史・戰爭史

國防科學研究會譯編	獨逸の戰爭論	洋菊判	641	四、八〇	講談社	九月	▲フランケ少將總編輯の「現代國防科學提要」全四卷中の第一卷中より譯編なしたもの。
謝冰瑩著 中山樵夫譯	女兵（ニュイ ピン）	並四六製	344	一、五〇	三省堂	二月	▲連戰連敗の支那軍に女兵士として從軍し、今次事變の支那側を描いた敗戰記錄。
小原正忠	入營讀本	並四六製	203	八五	日本兵書出版株式會社	九月	▲壯丁教育と入營に關係あるあらゆる事項を指導なしたもの。
松本顯樹	防諜科學	並四六製	399	二、〇〇	日本モダン社	二月	▲國家總力戰と間諜、間諜科學、戰爭と宣傳と間諜、獨逸の間諜工作他十四章にて述ぶ。
高橋邦太郎	防諜讀本	並菊製	392	二、五〇	富士出版社	十二月	▲第二次歐洲大戰から材料を入れて記述したもので、國家總力戰と防諜他四篇。
陸軍航空兵少佐 西原勝	陸軍航空を語る	並四六製	307	一、八〇	人文書院	十月	▲最初の飛行より三十年、今日の飛躍的發展を遂げた陸軍航空の全貌を語る。
ヨアヒム・アチアス著 石垣綠朗譯	ロンドン爆擊	並四六製	247	一、四〇	霞ヶ關書房	十二月	▲獨英開戰からロンドン爆擊に至るまでの獨逸空軍の活躍を記錄したもの。
仲小路彰	歐洲大戰史（世界興廢大戰史・西洋戰史(17)） イギリス革命戰爭史	菊判	305	二、五〇	研究社	八月	▲第一部薔薇戰爭、第二部ヘンリー八世戰史第三部エリザベス朝戰史等他三部。
仲小路彰	歐洲大戰史（世界興廢大戰史・西洋戰史(38)） —中二—戰	菊判	340	二、五〇	研究社	一月	▲中二は第七部英獨の總力戰體制の形成、第八部政治外交戰他二部を收めたもの
仲小路彰	歐洲大戰史（世界興廢大戰史・西洋戰史(39)） —中三—戰	菊判	325	二、五〇	研究社	三月	▲第三十九卷は歐洲戰史の三で第十一部交戰諸國の國內情勢他三部を收めたもの。
仲小路彰	歐洲大戰史（世界興廢大戰史・西洋戰史(40)） —中四—戰	菊判	342	二、五〇	研究社	四月	▲歐洲大戰中の四は第十五部ジュットランド海戰、タンク戰、空中戰の三部を收む。
仲小路彰	歐洲大戰史（世界興廢大戰史・西洋戰史(41)） —下一—戰	菊判	327	二、五〇	研究社	六月	▲本輯は第十八部ロシア革命、第十九部ロシア革命とユダヤ問題の二部を收めたもの。

仲小路彰	歐洲大戰史（世界興廢大戰史・西洋戰史(42)） —下二—戰	菊判	308	二、五〇	研究社	七月	▲本輯は第二十部宣傳戰、第二十一部潛水艦戰、第二十二部科學動員他一部を收む。
大阪毎日新聞學藝部編	古戰場往來	並四六製	221	一、四〇	文友堂	二月	▲大阪夏の陣、關ヶ原大會戰、長久手の役、賤ヶ嶽の合戰其他古戰場を網羅し案內す。
A・Mコチネフ著 高山洋吉譯	支那軍事史 —戰爭と兵法と軍隊—	並四六製	211	一、八〇	育生社	七月	▲內戰と變革との過程に於て成立發展を遂げた、近代支那軍隊の沿革を說いたもの。
仲小路彰	上代西南アジア戰史（世界興廢大戰史・西洋戰史(1)）	菊判	228	二、五〇	戰爭文化研究所	十月	▲上代スメール民族圖、古代バビロニアの變遷、アッシリアの浸入他八篇にて述ぶ。
伊藤政之助	戰爭 —西洋最近篇— 史	菊判	1217	一〇、〇〇	戰爭史刊行會	十一月	▲十九世紀後半に行はれた大戰爭であつた、獨佛戰爭を中心に記述論評す。
フランク・テイエス作 大河原精一郎 重村和譯	全滅の戰 —バルチック艦隊回航記— 列	並四六製	365	二、〇〇	牧野書店	八月	▲日露戰爭に際して決行されたバルチック艦隊の回航記を譯したもの。
J・Fハラビン著 勝谷在登譯	圖說世界大戰	並四六製	105	一、五〇	慶應書房	十二月	▲第二次世界大戰の發展を地圖に依つて說明し交戰國の經濟力を圖解せる書。
沼田多稼藏	日露陸戰新史（岩波新書78）	並三六製	228	五〇	岩波書店	十一月	▲日露戰爭當時參謀本部にて戰史編纂の事務を擔當せる沼田大尉が日露陸戰を記述す。
仲小路彰	フランス大革命（世界興廢大戰史・西洋戰史(23)）	菊判	310	二、五〇	戰爭文化研究所	九月	▲大革命前、革命イデオロギー、革命兆候、革命の前夜、大革命勃發他十篇にて述ぶ。

戰術・兵器

陸軍大將 吉田豐彥	機械化兵器讀本	菊判並製	278	一、五〇	東京日日新聞社 大阪毎日新聞社	八月	▲現今に於ける機械化兵器の全貌を明示して其必要を說いたもので、戰車の卷其他。
柴田賢一	近代海軍と海戰（世界大戰叢書）	並四六製	312	一、〇〇	博文館	三月	▲一般民衆向きに現在の海軍と海戰の實際とを平易に說明したもの。
松平道夫	近代科學戰	洋四六布判	269	一、五〇	日本公論社	六月	▲近代戰に於ける科學兵器と、近代戰の戰略戰術等を平易に說明したもの。

スレッサー著 中島良夫譯	空軍用兵論	菊判 脊洋布	264	三、〇〇 一四	牧野書店	四月
セイデウィッツ共著 ドベラー 柿本良一譯	驚異の新兵器 殺人光線	四六判 並製	278	一、八〇 一〇	三邦出版社	四月
原圭二	世界大戰叢書 新兵器の驚異と科學戰	四六判 並製	305	一、〇〇 九	博文館	二月
カール、ヘルフェリヒ著 安井源雄譯	世界大戰と潜水艦戰	四六判 脊洋布	228	一、八〇 一〇	泉書房	十月
キラルフ著 澤田謙譯	太平洋作戰論	四六判 並製	271	一、五〇 一六	青年書房	十二月
デンリンガー・ガリー共著 石丸藤太譯	太平洋戰爭	四六判 並製	390	一、八〇 一四	實業之日本社	三月
陸軍中佐 阿部信夫	第二次歐洲戰爭と潜水艦戰	四六判 上製	302	二、八〇 一〇	海軍研究社	三月
ウエルナー・ビヒト著 木暮浪夫譯	獨軍ノールウエー作戰	四六判 並製	140	八〇 六	獨逸出版協會	十二月
海軍研究社編	日本軍艦集 二千六百年版	四六判 上製	164	一、八〇 一〇	海軍研究社	七月
ベルツイッヒ著 秋本敏夫譯	落下傘部隊	四六判 並製	256	一、五〇 一〇	高山書院	十一月
木暮浪夫纂述	落下傘部隊と空中歩兵	菊判 洋布	655	二、八〇 一四	萬里閣	一月

▲英空軍の戰略戰術を說いたスレッサー中佐の"Air Power and Armies"を邦譯す。

▲殺人光線や其他の新兵器に關する著書の邦譯で、獨逸原著より佛譯せられたものによる

▲陸・海・空の各部門にわたつて今日ある兵器の威力を說明し、將來を觀察したもの。

▲第一次世界大戰の內幕と、潜水艦戰の偉力を物語つたもの。

▲アメリカが太平洋作戰を如何に考へてゐるかを扱つた書で、太平洋の渡洋作戰他九章。

▲論理的・實際的に米國側から見た太平洋戰爭を率直に描いたものゝ邦譯。

▲潜水艦と潜水艦戰、近代潜水艦の常識と科學他十四章にて潜水艦の知識と戰術を述ぶ。

▲獨逸軍のノールウエー作戰に對する虛報と其の事實を收めたもの。

▲現在の我國の代表的軍艦を網羅收錄して、その性能等を概略したもの。

▲寫眞を多數挿入して獨逸落下傘部隊の組織と嚴格なる訓練を說明したもの。

▲ロタール・シュッテル中佐及獨逸落下傘部隊員の手記を編譯なしたもの。

防空

磯村英一	防空都市の研究	四六判 並製	140	八〇 六	日獨出版協會	十二月

▲近代戰に於て戰場となつた都市防空の再檢討をなし、完全防空都市の再建を述ぶ。

交通一般

同志社大學教授 松山斌	交通經濟論	菊判 洋綴入	327	三、二〇 一四	千倉書房	十一月
大分高等商業學校教授 田中喜一	陸上交通統制論	菊判 洋綴入	432	四、五〇 二三	巖松堂	三月

▲交通機關の歷史的發展と現狀を實證的に考究し其機能及組織の經濟的意義等を明かにす

▲鐵道對自動車問題を中心にして現在及將來に於ける陸上交通統制に就て論述す。

航空・海

中村伸康	國家の興亡と海上權力	四六判 洋布	274	二、〇〇 一〇	都文社	八月
東京日日新聞社 大阪毎日新聞社編	海洋學讀本	菊判 上製	253	二、〇〇 一四	東京日日新聞社 大阪毎日新聞社	三月
清水今井克彌	滑空機操縱讀本	四六判 洋布	403	三、四〇 一四	有象堂出版部	八月
宮川飛行機株式會社 福原武	航空經營論	菊判 洋綴入	484	六、八〇 二二	ダイヤモンド社	九月
海軍技師 和久田信忠編	航空工業ハンドブック	新四六判 洋綴入	802	八、〇〇 二四	春陽堂	六月
海軍中佐 檜崎敏雄	航空政策論	菊判 洋綴入	266	三、〇〇 一四	千倉書房	三月
中正夫	航空知識事典	四六判 並製	316	一、二〇 九	六人社	五月
朝日新聞社編	航空の技術と精神 —藤田雄藏中佐遺稿—	四六判 上製	286	二、〇〇 一四	朝日新聞社	一月
航空機々關士 宮本晃男編	航空技術叢書(1) ライトサイクロン 航空發動機取扱解說	菊判 洋布	180	二、八〇 一四	育生社	八月

▲海上權を中心として古今東西の國家の興亡變遷を敍述したもの。

▲海洋と航空（小田原俊彥）海洋氣象（大羽眞治）他九篇の論文集。

▲獨逸優秀滑空士の著書の譯を主として、本邦滑空界の技術と體驗をも加へて說いたもの

▲航空輸送に關する一般基礎的事項と、事業經營上に必要な諸事項に就て記述す。

▲圖表を主にして航空工業の基礎的要項を網羅解說したもので空氣力學、有害抗力其他

▲航空發展史論、軍用航空と國民生活、空域法理論、航空輸送論、結論の五章にて說述す

▲二十餘年の體驗により近代航空に關する萬般を網羅し之を通俗平易に解說したもの。

▲今次事變にて名譽の戰死を遂げた藤田中佐の遺稿を收め、各關係者の追憶文を收む。

▲米國の優秀なる發動機ライト・サイクロン固定式空冷星型發動機の取扱法を解說す。

畠山義三郎 加藤健次	航空發動機の整備と運轉法	菊判	206	二、五〇	工業圖書社	十一月
大久保武雄 （航空局國際課長）	國際航空の話	菊判	194	三、〇〇	平凡社	四月
上野喜一郎 （東京高等商船學校教授 運輸技師）	商船の形態	四六判	237	二、五〇	海と空社	十月
柏野榮一	青年海事讀本	菊判	99	一、二〇	海文堂	十一月
佐藤佐内	定速プロペラ	菊判	118	一、八〇	山海堂出版部	十一月
竹内正虎 （歩兵大佐）	日本航空發達史	四六判	552	四、五〇	相模書房	四月
伊藤隆吉	飛行機操縱の理論と實際	菊判	285	二、七〇	工業圖書社	四月
宮本晃男編 （航空機調査士）	旅客飛行機取扱解說（航空技術叢書(2)）	菊判	167	四、八〇	育生社	九月
宮本晃男編	ロッキード・一四・高速輸送機取扱解說（航空技術叢書(3)）	菊判	200	一、三〇	育生社	十一月

▲航空發動機の取扱ひに當つて直接注意を要する一般的問題を記述說明したもの。

▲國際航空路の發達、國際航空機の發達、他三篇にて說述す。

▲七つの海に活躍する世界各國の商船の、種類、用途、形態等について說明したもの。

▲一般青少年のために、現代の海と船に關する常識を說明したもの。

▲定速プロペラの有利な點や、其の構造、作用、取扱等について說明なしたもの。

▲航空思想史・航空發達史・航空機發達表の三篇にて日本航空發達史を敍述す。

▲理論に立脚せる飛行機操縱法の解說をしたもので航空力學概說、發動機の運轉其他。

▲本書はダグラス式DC3型旅客機の性能・取扱方等に就いて解說したもの。

▲ロッキード一四型高速輸送機の取扱解說をなす。

鐵道・運輸・自動車

藤田靜太郎 （工學士）	おはなし自動車	四六判 並製	263	一、六〇	科學知識普及會	九月
鐵道知識普及會編	寫眞解說 機關車進歩の跡	菊判	157	一、七〇	文友社	七月
オートモビル社編	自動車の理論と構造	菊判 洋布判	192	二、〇〇	オートモビル社	七月

▲自動車の沿革と發達、構造と性能、型體と性格、器具と備品等全般を說いたもの。

▲寫眞を多數挿入して說明し、我國機關車發達史の概要を記述なしたもの。

▲本書はガソリン自動車の理論と構造を解說したもの。附錄タイヤの構造他一篇。

高橋秀雄	戰時鐵道運賃論	菊判	254	二、三〇	國際交通文化協會	四月
小野諒兄 （工學博士）	鐵道 —上卷—	菊判	259	二、八〇	同文書院	六月
小野諒兄 （工學博士）	鐵道 —下卷—	菊判	245	二、五〇	同文書院	九月
橋本新助 （土木工學士 基礎定本）	電氣機關車（發電機叢書(98)）	三六判	228	一、八〇	岩波書店	八月
菊池洋四郎	ニッサン自動車取扱法	四六判	357	二、三〇	國際自動車協會出版部	四月
上坂正雄	木炭自動車教本	菊判	151	一、五〇	工業圖書株式會社	七月

▲戰時における鐵道運賃を世界各國に亘つて論述したもので平時運賃にも及ぶ。

▲鐵道に關する一般概念と、鐵道の進歩發達に資すべき基礎的諸要項を簡潔に敍述す。

▲下卷は第三編鐵道線路の撰定、第四編列車運轉方法と保安設備他二編を收む。

▲各方面にて實用されてゐる各種の電氣機關車に就いて平易明確に說明せるもの。

▲ニッサン車の構造、取扱、修理、調整、運轉等に就いて平易な說明をなしたもの。

▲時局に即應する、木炭自動車に關する實用的知識を懇切平明に解說したもの。

郵

高松孝治	郵便切手と文化	四六判 並製	248	二、三〇	教文館	十月

▲郵便切手を通じてキリスト教文化を考察したもので、郵便切手と一般文化他二篇。

ド・モルガン著
成田重郎譯

有史以前の人類

價三圓二〇錢
東京堂刊行

法學士 近藤芳一著

日本暦の神秘を語る

四六判並製本文一七六頁 定價八五 送料六

日本の舊暦に掲載の日柄の吉凶、方位の吉凶等が如何なる理由によつて定められたかを科學的に究明した書。著者は東京帝國大學在學中に關東地方の大震火災に會ひ、この研究を志したといふ。

〔赤堀又次郎氏評〕日本に行はれてゐた舊暦に掲載の方角の吉凶、日時の吉凶等を丁寧に説明した書。著者は其前に同じ意味の書を二三發行せられてゐる。之にも一の道理はあらうから毎年日記の體にして發行せられたならば重寶する人が多からう。（「書物展望」昭和十四年五月號より拔萃）

〔水野千里氏評〕日本古暦の教訓、暦の天文記事の見方と共に近藤芳一氏の力著である。緒論、第一篇干支の實體を語る。第二篇日時及び方位の吉凶の眞相を語る。第三篇定所の吉凶の眞相を語る。第四篇二十八宿及び七曜の實體を語る。第五篇六曜の實體を語る。第六篇九星の實體を語る。第七篇九曜星の實體を語る。第八篇現代民間暦の研究家は無論のこと一般人士も心得て置くべきことが多い。附表—干支表、納音表の内容を有し、暦の誤謬を摘示す。（「天界」昭和十四年五月號より）

昭和十六年 **日本暦の正しい見方** 近藤芳一著 價四〇 送三

法學士 近藤芳一著

日本古暦の教訓

菊判函入紙數三三〇頁 定價二・五〇 送料二一

〔飯島忠夫博士批評の一節〕近藤芳一君は篤學の士である。先には暦の天文記事の見方を著し、今又日本古暦の教訓を著した。君が日本古暦と稱するものは、德川時代に於て日本學者の創意が加はつた貞享暦以來、明治の太陽暦施行に至るまでの暦本を指す。そして、この日本古暦に載せられて居る年月日時の吉凶を示した記述を取つて、その意義を説明したものを本として居るのである。この記述は勿論支那から傳承した古代のものであるから、特に貞享暦以後と限るには及ばなかつたであらう。君は此等のものの科學的根據を闡明しようと努力した。そして大綱に於ては成功した樣である。しかし、細目に於て、既に單なる形式の累層となつた部分をば殆ど如何にして形式化されて行つたかを知るにも、年月日時の吉凶が如何なる理由によつて定められたかを知るにも、本書は甚だ便利なるものである。日本の文化史を論じようとする人、支那思想の特質を論じようとする人、又は東洋に於ける科學發達史を論じようとする人は本書の一讀を要すべきものと思ふ。（昭和十三年九月二日）

解説附圖書目錄及批評集 三錢

日本古暦研究所 德島縣板野郡撫養町 振替德島ハ三七七番

一二、統計・年鑑・要覽・名簿

著者	書名	形	釘	體	頁數	定價	發行所	發行月	内容大意
朝日新聞社編	朝日年鑑 昭和十六年版	洋菊四六	入判	布	1007	一、二〇 一四	朝日新聞社	十月	▲昭和十四・五年度に於ける略史を始めとして社會萬般の事象を記錄した年鑑。
朝日新聞社運動部編	運動年鑑 昭和十五年	菊四六人二	判	製冊	752	一、二〇 一四	朝日新聞社	七月	▲昭和十四年度中に於ける各種競技の記錄を收めたもの。別冊附錄各種運動競技規則集。
日本ゲーテ協會編	ゲーテ年鑑 第八卷	洋菊三	三	布	237	四、〇〇 一四	南江堂	一月	▲和文獨文によるゲーテ研究論文各四篇と前會長故青木博士の追憶、彙報等輯錄す。
ダイヤモンド社編	ダイヤモンド經濟統計年鑑 昭和十五年版	洋菊四六	入判	布	641	三、二〇 一四	ダイヤモンド社	五月	▲實用を旨として我國の經濟現象の全貌と要點が解るやう編んだ經濟統計年鑑。
東洋經濟新報社編	東洋經濟 經濟年鑑 昭和十五年版	容菊四六倍	判	洋布	502	三、五〇 二三	東洋經濟新報社	六月	▲本邦及滿洲支那・歐米諸國の經濟諸統計を網羅した經濟年鑑十五年版。
日本工業新聞社編	工業年鑑 昭和十五年・戰時建設版	洋菊四六	入判	布	479	三、〇〇 一四	日本工業新聞社	一月	▲戰時商工動向、戰時統制解説、戰時産業法規、大陸經濟建設他一篇に網羅收錄す。
萬年社編	廣告年鑑 昭和十五年	洋菊四六	入判	布	381	二、〇〇 一四	萬年社	一月	▲廣告大觀、新聞總覽、雜誌總覽、廣告實務廣告調査、廣告名鑑の六項目を收錄す。
國民新聞社編	國民年鑑 昭和十六年版	上菊四六	入判	製	692	一、二〇 一四	國民新聞社	十一月	▲昭和十五年度に於ける社會各般の諸事情を記述なしたもの。

日本讀書新聞社編	雜誌	昭和十五年版鑑	並製	四六判	728	二、五〇	一四	日本讀書新聞社	六月	▲雜誌目錄を主にして、十四年度に於ける雜誌界の概觀、統計等を收めたもの。	同盟通信社編	同盟時事	昭和十五年版鑑	上製	四六倍判	828	三、〇〇
同盟通信社編	同盟時事	昭和十五年版鑑	並製	四六判	922	五〇	一四	東京書籍商組合	五月	▲昭和十四年度に發行されたる新刊目錄を中心にして十四年度出版界の概況を述ぶ。	同盟通信社	同盟時事	昭和十五年版鑑	並製	四六判	828	三、〇〇
東京書籍商組合編	出版	昭和十五年版鑑	並製	四六判	922	五〇	一四	東京書籍商組合	五月	▲昭和十四年中に於ける新刊雜誌の總目錄を始め出版界の凡有る事象を調査記錄す。	東京堂	出版	昭和十五年版鑑	並製	四六判	922	五〇
東京堂編	出版	昭和十五年版鑑	並製	四六判	1240	二、〇〇	二二	東京堂	八月	▲昭和十四年中に於ける新刊雜誌の總目錄を始め出版界の凡有る事象を調査記錄す。	日本國際問題調査會編	世界	昭和十五年版鑑	並製	四六判	1240	二、〇〇
日本國際問題調査會編	世界	昭和十五年版鑑	並製	四六判	1820	二五、〇〇	三〇	創美社	六月	▲目本を始め世界各國の諸情勢・諸問題を客觀的に各種資料により大觀したもの。	日蘇通信社編	蘇聯邦	一九四〇年版鑑	並製	四六判	1820	二五、〇〇
日蘇通信社編	蘇聯邦	一九四〇年版鑑	並製	菊判	1416	一五、〇〇	三〇	日蘇通信社	五月	▲最近一ヶ年間にソ聯國內及日滿支・ソ關係に於て生起せる事象を記錄せる年鑑。	大陸新報社編	大陸	昭和十五年版鑑	並製	四六判	1416	一五、〇〇
大陸新報社編	大陸	昭和十五年版鑑	並製	四六判	640	二、〇〇	一四	大陸新報社	上海二月	▲中支那を中心として赫々たる皇軍の武勳、新支那の中核、沒落蔣政權の內情を記錄す。	東亞自動車研究所編	東亞自動車	昭和十六年版鑑	並製	四六判	640	二、〇〇
東亞自動車研究所編	東亞自動車	昭和十六年版鑑	並製	四六判	565	三、五〇	一四	オートモビル社	十一月	▲世界に於ける自動車界を概述し、東亞に於ける自動車界の諸事情を記錄す。	アサヒカメラ編	日本寫眞	昭和十五年版鑑	並製	四六倍判	565	二、〇〇
アサヒカメラ編	日本寫眞	昭和十五年版鑑	並製	四六倍判	144 (圖版39)	二、〇〇	一四	朝日新聞社	三月	▲昨年度に於ける寫眞界の概述をなし作品百四十四を收め解說をなしたもの。	新聞研究所編	日本新聞	昭和十五年版鑑	並製	菊判	144 (圖版39)	四、五〇
新聞研究所編	日本新聞	昭和十五年版鑑	並製	菊判	402	四、五〇	一四	新聞研究所	一月	▲總觀、現勢、一覽の三篇にて日本新聞界の全貌を明らかにしたもの。	東京市政調査會編	日本都市	九・昭和十五年用	並製	新菊判	402	三、八〇
東京市政調査會編	日本都市	九・昭和十五年用	並製	新菊判	927	三、八〇	一四	東京市政調査會	一月	▲昭和十四年七月迄の資料によつて全國各都市の全貌を明示したもの。	大原社會問題研究所編	日本勞働年鑑	第二十輯・昭和十四年	並製	菊判	927	三、八〇
大原社會問題研究所編	日本勞働年鑑	第二十輯・昭和十四年	並製	菊判	504	四、五〇	二二	栗田書店	五月	▲內外諸情勢下における昭和十三年の我國勞働者及農民の生活狀態・社會諸事實を記錄す。	作品社編	文藝年鑑	昭和十五年版	並製	菊半截	504	四、五〇
作品社編	文藝年鑑	昭和十五年版	並製	菊半截	123	五五	三	作品社	三月	▲昭和十四年度に於ける思想界・文藝界・國文學界等を鳥瞰し卷末に人名簿を收載す。							

總覽・要覽

文藝家協會編	文藝年鑑	二六〇〇年版	並製	菊判	261	一、五〇	一四	第一書房	十二月	▲記錄（概觀他一篇）便覽（文藝團體他三篇）文筆家總覽の三部よりなる文藝年鑑。	協調會編	勞働年鑑	昭和十四年版鑑	並製	菊判	949	四、〇〇
末弘嚴太郎編	法律年鑑	昭和十五年版鑑	洋綴入製	四六判	535	二、八〇	一四	日本評論社	二十二月	▲最近に於ける法令其他法律關係の一切の事柄を網羅的に輯錄した年鑑。	日本放送協會編	ラヂオ年鑑	昭和十五年版鑑	並製	四六判	488	一、〇〇
大阪毎日新聞社東京日日新聞社編	毎日年鑑	昭和十六年版鑑	洋綴入二冊	四六判	1070	一、〇〇	一四	大阪毎日新聞社東京日日新聞社	十月	▲社會各般の諸事情を綜合的に記錄したもの別冊附錄日本人名選。	滿洲國通信社編	滿洲開拓年鑑	唐德七年版鑑	並製	四六判	553	一、五〇
日本國際觀光局編	滿支旅行年鑑	昭和十五年版鑑	並製	四六判	416	一、三〇	一〇	博文館	四月	▲滿支旅行に關する機關、運賃、統計、觀光ルート、旅行常識等を收めた年鑑。	滿洲國通信社	滿洲國通信社					
滿洲國通信社編	滿洲開拓年鑑	唐德七年版鑑	並製	四六判	553	一、五〇	一四	滿洲國通信社	七月	▲日滿兩國の基本國策たる滿洲開拓政策遂行途上における現地建設の實態を報告す。	日本放送協會編	ラヂオ年鑑	昭和十五年版鑑	並製	四六判	488	一、〇〇
日本放送協會編	ラヂオ年鑑	昭和十五年版鑑	並製	四六判	488	一、〇〇	一四	日本放送協會	一月	▲昭和十三年四月より十四年三月に至る一箇年の放送事業の主要事象を記錄したもの。	協調會編	勞働年鑑	昭和十四年版鑑	並製	菊判	949	四、〇〇
協調會編	勞働年鑑	昭和十四年版鑑	並製	菊判	949	四、〇〇	二二	協調會	一月	▲昭和十三年に於ける日本並に海外諸國の勞働者、農民の狀態及諸運動を分析敍述す。	外務省通商局編	通商上より見たる各國現勢總覽		洋綴入製	菊判	720	六、〇〇
外務省通商局編	通商上より見たる各國現勢總覽		洋綴入製	菊判	720	六、〇〇	二二	日本國際協會	一月	▲最近三ヶ年に亘り在外諸公館にて蒐集せる資料を基礎にして各國の國勢一斑を示す。	東洋經濟新報社編	大陸會社便覽	昭和十六年版	並製	三六判	228	一、〇〇
東洋經濟新報社編	大陸會社便覽	昭和十六年版	並製	三六判	228	一、〇〇	六	東洋經濟新報社	二十月	▲朝鮮滿洲支那に於ける六三一會社の內容を取扱つた便覽。	東亞同文會編	新支那現勢要覽	昭和十五年版	布綴入製	菊判	1665	一〇、〇〇
東亞同文會編	新支那現勢要覽	昭和十五年版	布綴入製	菊判	1665	一〇、〇〇	三八	東亞同文會事業部	二月	▲事變の經過は勿論、事變を繞る內外政局の推移、新生諸政權の現狀等を描破したもの。	ダイヤモンド社編	ポケット會社要覽	昭和十五年版	洋綴入判	三六判	389	一、三〇
ダイヤモンド社編	ポケット會社要覽	昭和十五年版	洋綴入判	三六判	389	一、三〇	九	ダイヤモンド社	一月	▲我國に於ける主要銀行・會社等一千餘を網羅錄して其內容成績等を說明す。							

信用錄・名鑑・名簿

書名	著者	書型	頁數	定價	發行所	發行月	内容大意
内閣印刷局編 職員錄 昭和十五年二月一日現在		菊倍判 並製	446	二、五〇 二二	内閣印刷局	五月	▲昭和十五年二月一日現在に於ける高等官、同待遇者及之に準ずるものを纂錄す。
内閣印刷局編 職員錄		四六倍判 並製	385	二、〇〇 一四	内閣印刷局	十一月	▲昭和十五年八月十五日現在に於ける高等官同待遇者及之に準ずる者を纂錄す。
ダイヤモンド社編 ポケット會社職員錄 昭和十六年版		三五倍判 洋布人判	1146	三、〇〇 一四	ダイヤモンド社	十二月	▲二千會社三萬人に亘つて調査をした職員錄

家

ポール・ブールジェ作
廣瀬哲士譯

上・下二冊

（上巻）定價一・五〇〇 送料一一
（下巻）定價一・五〇〇 送料一一

近代生活に於て「家」は暫く等閑に附せられ自我が不當に第一線に推し進められてゐた。然し、最近再び新しき思想に於て「家」の權威が確認された

この小說は僅か一週間の事件の中に、かやうな新舊思想の葛藤を描くと共に、「家」階級、傳統、國家、信仰等、當代のあらゆる問題に見事な解決を與へてゐる

これこそ「死」「弟子」以上と謳はれたブールジェの代表作であり、本格的心理小說だ！

一三、財政・經濟

財政

書名	著者	書型	頁數	定價	發行所	發行月	内容大意
龜戸稅務署編 勤勞所得の解說と取扱方		四六判 上製	159	一、〇〇 九	ヘラルド社	九月	▲改正稅法の概說をなし、勤勞所得稅の解說と其取扱方を述べたもの。
稅務懇話會編 改正稅法講演と問答		四六判 並製	331	一、五〇 一〇	稅務懇話會	七月	▲本年四月十九日日本工業倶樂部にて開催せる改正稅法講演並に質疑應答を速記したもの
南亮三郎編 國家と經濟		菊判 並製	365	二、八〇 一四	小樽高等商業學校研究室（廣松堂發賣）	十二月	▲國際產兒率の減退と人類計畫生態論（南亮三郎）他七篇の論集。
勝正憲 所得稅及法人稅		四六判 洋綿布人判	477	二、五〇 一四	千倉書房	七月	△大改正をされた所得稅及法人稅の正しい解說をなしたもの。
朝日新聞社編 新稅問答		四六判 並製	517	一、六〇 一四	朝日新聞社	七月	▲大改革を斷行せる新稅制の全貌を平明に說明したもの。附重要新法令集。
勝正憲 稅		四六判 洋綿布人判	565	二、〇〇 一四	千倉書房	四月	▲稅金のゆくえ、日本の國稅、我國の地方稅の三篇にて「稅」の平明な解說をなす。
小穴毅譯 ホルスト・イエヒト 戰爭財政		四六判 並製	160	一、〇〇 六	巖松堂	一月	▲ホルスト・イエヒト博士の「戰爭財政」を邦譯したもの。
田中秀吉 租稅の再檢討		四六判 並製	205	一、〇〇 九	第一書房	三月	▲馬場財政當時發表せるものを增訂なしたもので新稅制の現在と將來を語つたもの。

經濟原論・經濟一般

三好重夫（鳥取県記官・財政課長）	地方稅制讀本	洋函菊	291	一、五〇	一四	良書普及會	五月	▲租稅の基礎觀念、地方稅、地方稅制、外國の地方稅制、我國の地方稅制他一章にて述べ。
大藏省主計局編	帝國豫算提要（昭和十五年度）	並菊	540	一、八〇	一四	内閣印刷局	九月	▲第七十五議會の協賛を經たる昭和十五年度一般會計及各特別會計豫算の概要を示す。
賀屋興宣	轉換期日本の財政と經濟	洋四六	288	一、六〇	一〇	朝日新聞社	五月	▲昨年五六月東大經濟學部にて數回に亘つて講義せるものを纏めたもの。
細野孝一（企畫院調査官）	インフレーションの實證的研究	洋函菊	331	三、八〇	一四	千倉書房	三月	▲インフレーション、範疇的インフレーション、インフレーションの本質の三篇にて說く
沖中恒幸（島嶋高等商業教授）	インフレーションの常識	洋函四六	258	一、三〇	一〇	千倉書房	九月	▲インフレーションの常識的解說をなしたもので、インフレーションと國民經濟他四章。
北久一	エネルギー經濟機構論	上函菊	298	二、五〇	一四	慶應書房	一月	▲總說、エネルギー經濟の發達、我國のエネルギー經濟機構他一篇にて說述す。
造幣局編	貨幣の生ひ立ち	上函四六倍	152	二、五〇	二二	朝日新聞社	九月	▲造幣局及錢幣館所藏の參考品・文獻により我邦に於ける貨幣並に幣制の歷史を物語る。
傍島省三譯（理論經濟學叢書(12)）	ジムメル 貨幣の哲學	洋函菊	504	四、八〇	二二	日本評論社	二月	▲貨幣を通じて近代文化社會の意味を索ねようとしたジムメルの「貨幣の哲學」前半譯。
我妻東策（東京農大教授・農學博士）	剩餘價値說批判	並四六	162	一、〇〇	九	三笠書房	二月	▲批判の對象—剩餘價値說の梗概、「抽象的人間勞働」における兩極他七篇の論文集。
岸本誠二郎（法政大學教授）	價格の理論	洋函菊	532	四、五〇	二二	日本評論社	六月	▲價格論序說、價格當體論、價格組織論、價格の變動と統制、の四篇にて講述す。
東京商科大學會編	學界展望（文化科學 第二輯）	並菊	284	二、〇〇	一四	日本評論社	六月	▲本質理論と純粹理論（大熊信行）コストと價格（山城章）他十篇の文化論文集。
B・レスター著 服部久男譯	技術の經濟的研究	洋函菊	324	三、〇〇	一四	白揚社	二十月	▲現代技術の各產業部門に於ける應用的諸問題を經濟的な面から檢討した書。

谷口吉彥（京都帝大教授・經濟學博士）	恐慌理論の研究	洋函菊	517	四、八〇	二二	有斐閣	一月	▲古典派經濟學に於ける恐慌理論を中心として恐慌理論の研究をなしたもの。
ワーゲマン著 景山哲夫譯	金本位拋棄論	並四六	168	一、三〇	六	辰巳書房	二十月	▲貨幣の意義及び本質を說き金の將來に就て述べた書で、貨幣制度、貨幣の發生其他。
杉浦治七（臺北高等商業學校教授）	金融學說研究	洋函四六	271	二、〇〇	一〇	日本評論社	六月	▲ミルの貨幣及び信用論、オブアストンの景氣論、トウクの景氣論他七篇の論文集。
北澤新次郎（商學博士）	經濟一新講話	洋函四六	355	二、三〇	一四	東京泰文社	四月	▲現下に於ける國民經濟の全貌を何人にも理解出來るやう說いたもの。
杉本榮一編（東京商科大學教授）	經濟學名著選集(1) マーシアル 經濟學選集	洋函菊	315	三、〇〇	一四	日本評論社	十月	▲外國貿易の純粹理論（杉本榮一譯）國內價値の純粹理論（中山伊知郎譯）他六篇譯載す
大道安次郎	スミス經濟學の生成と發展	洋函菊	261	二、五〇	一四	日本評論社	一月	▲スミス自身の內部に於て經濟學的思想が如何に生成發展し國富論に迄到達したかを敍す
後藤基春	經濟主義の克服	並四六	393	一、五〇	一〇	モダン日本社	一月	▲「解剖時代」誌上に「筑後三郎」の筆名を使つて連載せる經濟小論を纏む。
林癸未夫（早稻田大學教授・經濟學博士）	現代工業經濟論	洋函菊	308	三、〇〇	一四	巖松堂	四月	▲現代の工業を經濟的見地から考察して、其容相と特質とを簡潔に記述說明す。
波多野鼎（九州帝國大學教授）	現代の經濟學	洋函四六	389	二、〇〇	一四	日本評論社	一月	▲近代の世界經濟學界に大きな足跡を殘した六大學者の經濟理論を吟味なしたもの。
伊藤久秋（長崎高等商業學校教授）	ウエーバー 工業立地理論の研究	洋函菊	286	三、〇〇	一四	叢文閣	五月	▲ウエーバーの工業立地理論の研究を主として、其內容を紹介なしたもの。
岩重信寛	國民經濟構造論	洋函四六	294	二、〇〇	一四	日本評論社	二十月	▲富、自然と經濟、資源、勤勞、產業組織、通貨の發展他六章にて論述す。
向山幹夫（工學博士）	自然科學と經濟價値	洋函菊	121	一、八〇	一四	日新書院	二十月	▲科學と哲學の境、科學の一般性、自然科學と經濟的價値等十二篇の論說集。
百川元	事業人の行き方	並四六	192	一、三〇	九	旺文社（大東亞經營）	八月	▲太平生命・富國徵兵社長吉田義輝氏の人生行路を中心に事業人の生き方を述ぶ。

藤原銀次郎	實業人の氣持	上製	四六判	306	一、五〇	實業之日本社	一月	▲過去半世紀間に實業界にあつて種々の事柄にぶつかつて來た經驗談・人生觀を收む。
森本厚吉	消費經濟	並製	四六判	344	二、三〇	大日本圖書株式會社	七月	▲消費經濟の意義と基礎知識を說いたもので貯蓄の經濟、食物消費の經濟其他。
北澤新次郎	新經濟學原論	並製	四六判	356	三、一〇	同文書院	十月	▲經濟と經濟思想、經濟學の基礎概念、自由主義經濟と秩序他二章にて講述す。
平岡敏男	新經濟十二講	上製	菊判	354	二、三〇	高山書院	二十月	▲新經濟統制の諸問題を十二講にて說き、其の全貌を明らかにす。
齋藤榮三郎	生活經濟學	並製	四六判	394	三、一〇	伊藤書店	九月	▲昭和十二年七月より十五年七月に至る滿三ケ年間の日本經濟界の重要事象を記錄す。
高田保馬	新利子論研究	並製	四六判	346	三、五〇	岩波書店	七月	▲ケインズの利子理論、利子論の新舊、投資節約の均等について他十四章にて說述す。
大熊信行	政治經濟學の問題 —生活原理と經濟原理—	並製	四六判	602	六、〇〇	日本評論社	十月	▲生活事實と經濟原理、生活理論と本質理論の二部に收めた論講集。
高木友三郎	戰爭・經濟・生活	並製	四六判	312	一、八〇	實業之日本社	六月	▲强く生きよ日本國民、歐洲大戰とその前途日本財界の動向他二篇にて說述す。
伊藤久秋	地域の經濟理論	裝	菊判	494	四、五〇	叢文閣	二十月	▲土地の基本的屬性たる擴延性に就ての論述で、地域と經濟の基礎的關係他一篇。
高島佐一郎	通貨管理研究	並製	菊判	861	七、八〇	千倉書房	一十月	▲第一部總論—經濟統制との關聯性、第二部歷史編—實證的研究他二部にて論述す。
立仙淳三	日本經濟學大意	並製	菊判	260	一、一八	福村書店	二十月	▲日本主義の自覺の下に經濟理論を闡明した書で、生產、流通他五章。
元野義勝	百萬人の經濟學	並製	四六判	276	一、八〇	昭和書房	九月	▲一般人向きに經濟學を說いた「エコノミックス・フォア・ザ・ミリオンズ」の邦譯。
高田保馬	民族と經濟	並製	菊判	294	二、六〇	有斐閣	五月	▲農村と人口、節約と物價騰貴、軍備と國力日本と東亞の問題の四篇に收めた評論集。

經濟史・學說史

慶應義塾大學教授 野村兼太郎	一般經濟史概論	洋	菊判	410	三、五〇	有斐閣	五月	▲西歐民族以外の他民族の記述をも取入れて一般經濟史を具體的事實によりて敍す。
小樽高等商業學校教授 宮谷賢治郎譯	近世物價史要	洋	菊判	371	三、八〇	巖松堂	五月	▲第十九世紀初頭から現在に至る物價の變動を理論的・歷史的に明快に說述したもの。
小樽高等商業學校教授 宮谷賢次郎譯	近世物價史要	洋	菊判	370	三、八〇	巖松堂	六月	▲第十九世紀の初頭から現在に至る物價の變動を理論的・歷史的に明快に說述したもの。
高橋誠一郎	經濟思想史隨筆	洋	四六判	396	二、八〇	理想社出版部	六月	▲爲政者と學者、「經濟學說史」、地代學說、漫筆等其他のスミト著「經濟學說史」、地代學說、漫筆等其他の經濟隨筆集。
經濟學博士 本庄榮治郎	日本經濟史	上	四六判	293	一、四五	地人書館	九月	▲時代的推移に重點をおき、我國經濟文化の伸張を平易に概觀せるもの。
經濟學博士 本庄榮治郎	日本經濟史話	布	四六判	413	二、八〇	同文書院	四月	▲我國財政の變遷、租稅の進脫、江戸時代の財政、讀史剩筆其他を收めた隨感錄。
經濟學博士 本庄榮治郎	日本經濟思想史概說 上卷	並	菊判	158	一、四〇	有斐閣	四月	▲我國經濟思想の發展を概觀的に說述したもので近世の經濟思想概觀他五章。
支那檢出 羽原又吉	大觀日本文化史叢書 日本昆布業資本主義史	上	菊判	310	三、二〇	有斐閣	十二月	▲我國の昆布業を通じて日本主義の發展過程の一環を實證した書で、昆布通說他三編。

經濟政策・計畫經濟・戰時經濟

山城章	價格統制の研究	洋	菊判	387	三、五〇	日本評論社	六月	▲我國現在の最重要問題である價格統制を經營經濟學的立場より考察なしたもの。
ベニト・ムッソリーニ著 獨伊文化研究會譯	組合制國家と統制經濟	並	四六判	230	一、八〇	巖松堂	三月	▲組合制度の指導原理ムッソリーニ首相の"Lo Stato Corporativo"の邦譯。
G・H・コール著 八木澤善次譯	計畫經濟の原理	裝	菊判	338	三、六〇	育生社	八月	▲G・H・コールの"Principles of Economic Planning"を譯述したもの。

岩崎英恭	經濟新體制の諸問題	並四六判製	291	一、五〇六	洛陽書院	十二月	▲經濟新體制前史、新體制下の財經的基本課題、新體制下の財政問題等十二章。
美濃部洋次	經濟生活の日本的轉換	並四六判製	320	一、五〇〇	科學主義工業社	十二月	▲我が國統制經濟の歩める過程を說述した書で、工業政策の日本的轉換他十二章。
齋藤榮三郎（中外商業新報社）	工業者の新體制	並四六判製	376	二、〇〇〇	伊藤書店	十月	▲時局統制下に生きる中小工業の進むべき道を示さんとしたもの。
小濱重雄	公益經濟講話	上製四六判製入	234	二、二〇〇	高陽書院	十二月	▲剩餘價値の源泉よりする分配干涉の視角、分配的正義の原則による戰時利得稅等。
加田哲二	興亞經濟の原理	洋布四六判入	414	二、三〇〇	ダイヤモンド社	二月	▲經濟的測面より轉換期に立つ東亞の諸問題を論述したもので、興亞經濟論他四篇。
大阪商工會議所編	國家總動員經濟講話	洋布菊判	242	二、二〇〇	一元社	二月	▲國家總動員法（中野哲夫）戰時財制と稅制改正（松隈秀雄）他八篇の經濟講話を收む。
奥井復太郎・武村忠雄（現代資料叢書(1)）	國土計畫論・戰爭と經濟	並菊人二冊製判	226	一、八〇〇	慶應出版社	五月	▲第一回は國土計畫論（奥井復太郎）戰爭と經濟（武村忠雄）の二篇を收めたもの。
武田鼎一（商學博士）	國防國家と新經濟體制	並四六判製	251	一、五〇九	高山書院	九月	▲國防國家體制とそれに隨伴する新經濟體制の一端について述べたもの。
安藤春夫（東京商科大學豊門部教授）	商業經濟の實相（戰時統制）	並菊判製	108	八〇九	伊藤文信堂	三月	▲商業・經濟・財政を一丸とせる戰時經濟を捉え、その要諦を理解したもの。
高橋龜吉	新經濟體制研究	洋菊布人判	398	三、八〇三	千倉書房	十月	▲戰時統制經濟の發展と「新經濟體制」、戰時統制最近の實情と其の意義他一篇にて述。
本位田祥男（經濟學博士）	新體制下の經濟	洋菊布人判	450	三、五〇三	日本評論社	二十月	▲新體制一般、產業の新體制、消費の新體制等五部にて新體制下の經濟を說述す。
高木友三郎（經濟學博士）	新體制の經濟	並四六判製	311	七九	第一書房	九月	▲世界歷史の現段階、人生觀の轉向、經濟の意向と目的他十一章にて敍述す。
大毎東日エコノミスト部	新統制經濟讀本	並四六判製	357	二、〇〇〇	一元社	十月	▲統制經濟の實態を各方面より解明せるもので、統制經濟の基本問題其他。

福田敬太郎・本田實	生鮮食料品配給統制	洋菊布人判	344	三、一一〇	千倉書房	七月	▲生鮮食料品の價格統制及配給統制に關する究明をなしたもので生鮮食料品の價格統制他
伊藤竹之助他三氏	戰後の財政經濟對策	並四六判製	350	一、七〇〇	第一書房	四月	▲非常時財政及び財政政策（伊藤竹之助）戰時下の財政金融（竹内文彬）他二篇收錄。
高橋龜吉	戰時經濟講話	上製四六判製入	302	三、〇〇〇	今日の問題社	十月	▲戰時經濟の理論と運用、支那事變の根柢に横はる國際經濟事情の二篇に收めた論講集。
高橋龜吉	戰時經濟と新經濟體制	洋四六判布	306	一、八〇〇	講談社	十二月	▲戰時經濟と新經濟體制とに關する重要問題を系統立てゝ說述した書。
高橋龜吉	戰時經濟の現勢とインフレ問題	洋菊布人判	419	三、二一〇	千倉書房	二月	▲最近に發表せる經濟諸論述を纏めたもので戰時統制經濟最近の動向と其の重要問題他。
永田清（慶應義塾大學教授）	戰爭經濟の潮流	洋菊布人判	270	三、三五〇	日本評論社	六月	▲經濟構造の展開、日本經濟の構造的變化、他四章にて日本經濟の動向を追究す。
阪本泉（ロルフ・ヴアーゲンフユール著譯）	戰爭經濟の理論と政策	並四六判製	302	一、八〇〇	日本評論社	五月	▲戰爭經濟の體系的編述をなしたヴアーゲンフユールの "Kriegswirtschaft" の全譯。
中外商業經濟部	東亞經濟讀本	上菊判製	301	一、八〇〇	千倉書房	二月	▲戰時經濟政策、戰時重要物資の二篇にて時局下戰時經濟の動向を觀察す。
大毎・東日エコノミスト部編	統制經濟講座（第四卷）	並菊判製	292	二、二〇〇	一元社	四月	▲第三卷は物價統制篇（岩井良太郎）財政統制篇・下（山本正雄）の二篇を收む。
大毎・東日エコノミスト部編	統制經濟講座（第五卷）	並菊判製	303	二、二一〇	一元社	九月	▲外國爲替統制篇（丸川賢太郎）外國經濟統制篇（松本治彦）の二篇を收めたもの。
大島輝孝・松本辰馬	統制經濟講座（第六輯―金融統制篇・東亞經濟篇）	並菊判製	296	二、二一〇	一元社	十二月	▲第六輯は大島輝孝氏が「金融統制篇」を松本辰馬氏が「東亞經濟篇」を執筆せるもの。
大河內正敏	統制經濟と經濟戰	洋四六判布	150	一、〇〇九	科學主義工業社	三月	▲低物價政策と統制經濟の矛盾、科學主義工業の一業績他五篇の經濟論策を收む。

中央大學教授 大野信三	日本國家新體制叢書(1) 日本經濟の新體制	菊上	判	450	四、〇〇	一四	白揚社	十月	▲日本經濟新體制の機構の基礎的研究をなしたもので、序論、職業團體の新編成他一部。	小島・精一	日本戰時中小工業論	菊洋	判	269	二、八〇	一四	千倉書房	八月	▲戰時經濟統制下に於ける中小工業の再檢討をなし、其再編成を說述す。
中井省三	日本戰時貿易政策論	菊洋	判	289	三、〇〇	一四	千倉書房	五月	▲第二次歐洲大戰勃發によつて大轉換を齎した日本戰時貿易政策論を敍述す。	勝田貞次	景氣研究所長 日本全體主義經濟の性格	四六並	製判	341	一、五〇	一〇	實業之日本社	十月	▲全體主義下に於ける我が新經濟體制の形態變化、又其の商工業に及ぼす影響等を述ぶ。
原一祐三	日本統制經濟論 —その批判と提唱—	菊洋	判	561	五、一〇	一二	千倉書房	十月	▲統制經濟改善論、戰時經濟統制の方向、通貨及物價政策他四章にて說述す。	山崎和勝	配給機構の再編成	四六並	製判	185	一、二〇	一六	東洋書館	十二月	▲配給機構改革の基本方針と中間配給機構の改革、中小商業者協議會の諸問題等七章。
商工省物價局企畫課長 岩崎松義	物價は今後どうなるか	四六並	製判	183	一、〇〇	一六	株式會社昭和圖書	一月	▲時局下の國民生活に切實の問題となつて來た物價問題を平易に解說す。	日本學術振興會編	慶應大學教授 物價問題—物價問題の歷史的考察—	四六並	製判	436	三、〇〇	一四	日本評論社	四月	▲低物價政策の見透し—理論的考察—（高田保馬）他十八篇の諸論策を收錄す。
沼田嘉穂・井上達雄・番場嘉一郎	利潤統制と原價計算	菊洋	判	332	三、五〇	一四	ダイヤモンド社	九月	▲配當統制から利潤統制へ、軍利潤統制の方法、利潤統制と經營能率の測定他三章。	峯村光郎	法と統制經濟	菊洋	判	321	三、八〇	一四	東洋書館	九月	▲進展する法律秩序、法律生活の基本構造の變動、經濟法の課題他六章にて述ぶ。
日本經濟研究會編	利潤統制はどう行はれるか	四六並	製判	234	一、五〇	一〇	伊藤書店	六月	▲低物價の下に生產力擴充を遂行するに必要な利潤統制の正しき解說をなしたもの。										

世界經濟・國際經濟

ヘンリー・S・ミラー著 小出新次郎譯	伊太利の價格統制	菊並	判	85	一、二〇	九	昭文社	四月	▲前大戰の終頃より一九三五年十月迄のファシスト制度下の伊太利價格統制を概說す。	長守善	英國經濟の衰頽過程	菊洋	判	347	三、〇〇	一四	日本評論社	十月	▲大戰後から最近迄の英國經濟盛衰の過程の分析及英國經濟力の檢討をなしたもの。
J・ハンス著 回教圈研究所譯	回教圈の經濟的現勢	四六並	製判	152	一、〇〇	六	回教圈研究所	五月	▲舊オーストリアの經濟學者ハンス博士の"Aus der Finanzwelt des Islams"の邦譯	倫敦エコノミスト誌 村山公三譯	世界政治經濟叢書 開戰後の英獨經濟體制	四六並	製判	278	一、八〇	一〇	清和書店	十月	▲倫敦エコノミス誌上に揭載せられた第二次大戰後の經濟諸論文を邦譯なしたもの。
アインチヒ著 勝谷貞在・川登樹譯	經濟戰	菊上	判	182	一、八〇	一四	白揚社	八月	▲アインチヒの近著"Economic Warfare" 1940を全譯なしたもの。	杉森孝一郎	他十氏 現代アメリカの經濟及文化	菊並	製判	451	三、八〇	一四	白揚社	十二月	▲アメリカ文化の精神的傳統（溝口靖夫）アメリカの經濟學（中島正信）他九篇
ワルター・トラウトマン著 神戸政彌譯	世界經濟と英國の顚落	四六並	製判	174	九〇	六	大白書房	十二月	▲英國の世界經濟と英國經濟體制における危機と沒落を豫言した書。	オツトー・ブフライデラー著 日本青年外交協會研究部譯	世界經濟と磅・圓及び弗	菊並	製判	299	二、五〇	一四	日本青年外交協會出版部	四月	▲世界經濟恐慌下の世界的通貨—磅・圓及び弗の諸問題を鋭く論究なしたもの。
エコノミスト編輯長 平尾彌五郎	世界經濟の基礎智識	四六並	製判	281	二、〇〇	一四	一元社	八月	▲世界經濟の基本理論、世界經濟の現象形態の二篇にて說述したもの。	滿鐵調査部編	世界經濟の現勢 —戰後の發展と最近の動向—	菊並	製判	523	二、五〇	一四	改造社	十月	▲獨・伊・英・佛・米・ソの六ケ國の國民經濟と英米の對外投資及貿易を取扱つたもの。
經濟學博士 猪谷善一	世界經濟の戰時編成	菊洋	判	306	三、〇〇	二二	一元社	十二月	▲世界經濟の新體制、資本主義の修正、ヨーロツパ經濟のブロツク化等七章にて說述す。	ヴアルガ著 藤英夫譯	世界經濟の再編成	菊並	製判	165	一、二〇	六	高山書院	六月	▲第一次大戰に於ける各國の兵力、戰後の世界分割、獨逸の戰爭準備他十章を邦譯す。
慶應大學教授 經濟學博士 淺香末起	大阪商科大學研究叢書9 世界經濟の展開過程	菊洋	判	309	二、八〇	一四	日本評論社	二月	▲混沌とせる現時世界經濟變相過程中に漂ふ諸命題を選んで其展開過程を敍述す。	金原賢之助	國際叢書 世界經濟の物價・通貨・爲替	菊並	製判	445	三、八〇	一四	千倉書房	七月	▲通貨・物價・爲替を中心として轉換期世界經濟に於ける經濟的諸相を論述す。

加田哲二編	慶應大學教授・經濟學博士 加田哲二編	ヴアルガ著 和泉仁譯	ケインズ著 救仁郷繁譯	高須忠彦	バジーリー著 鬮田篤郎譯	シヤハト著 阿部泰夫譯	カール・ヘルフエリヒ著 安井源雄譯	帝國學士 柚木重三	ハインリツヒ・フンケ著 尾崎達男譯	日本工業倶樂部調査課	外務省通商局編	外務省調査部編
世界政治經濟年報 第一輯	世界政治經濟年報 第二輯	戰爭と世界經濟	戰費と國民經濟	ソヴイエト聯邦の經濟力	ソヴエート・ロシヤ	ドイツの政治と經濟	世界戰爭研究文庫 ドイツの戰時財政と戰時經濟	日本經濟史研究所研究叢書(11) 獨逸經濟史概說	政治經濟叢書(1) 獨逸國民經濟及國防經濟の原理	ヒトラ政治下 獨逸資本主義の變貌	獨逸對支經濟勞力の全貌	獨逸の經濟體制及國防資源
四六判 並製	四六判 並製	四六判 並製	菊判 洋綴布入	四六判 並製	四六判 並製	四六判 並製	四六判 洋綴布入	菊判 洋綴布入	四六判 上製	菊判 上綴製入	菊判 洋綴布	菊判 並製
368	355	202	189	326	361	344	172	350	180	464	187	414
一、八〇〇	二、〇〇〇	一、二〇〇	二、〇〇〇	二、五〇〇	一、八〇〇	二、〇〇〇	一、四〇〇	三、二〇〇	一、二〇〇	二、八〇〇	二、〇〇〇	三、五〇〇
慶應書房 六月	慶應書房 十月	高山書院 八月	東亞書局 二十日	東洋經濟出版部 三月	慶應書房 五月	慶應書房 八月	泉書房 七月	有斐閣 二十日	霞ヶ關書房 十月	實業之日本社 二十日	日本國際協會 十一月	日本國際協會 五月
▲現代世界政治經濟の動向（加田哲二）他八篇にて戰時下歐洲政治經濟情勢を說く。	▲本輯は太平洋問題特輯號で、日本經濟の構想（永田清）他四篇を收む。	▲戰爭と戰時經濟の諸問題、戰爭と一九三九年の世界經濟等他二篇の經濟論文を譯出す。	▲現在ドイツとの決戰に國を擧げて沒頭しつつあるイギリスの戰爭財政を說いたもの。	▲謎の國ソ聯邦の經濟力を生產力を中心にして述べたもので第二次五ケ年計畫概觀其他。	▲バジーリイのソ聯における政治經濟社會及文化全般に亘る著書より經濟部分を編譯す。	▲第二次大戰にて大勝を博した、ドイツの全體主義的國家の諸政策を究明せるもの。	▲カール・ヘルフエリヒ著「世界戰爭」中の經濟及び財政の部門を抽出邦譯したもの。	▲マルク共產體、莊園經濟、都市經濟他三章より成る獨逸經濟史概說。	▲經濟新編成の鬪爭、國民體制の一部としてのナチス經濟政策の最高原理の三篇。	▲ヒツトラー治下に變貌して行く獨逸資本主義の樣相に就て述べた書。	▲在支第三國權益の中獨逸國關係のものを蒐錄したもの。	▲「獨逸經濟體制の樣相と現實」「獨逸の國防資源及軍需工業」の二書を合本したもの。

ヘッセンラント著 木村拾象譯	シヤグハント著 中屋則義譯	中央大學講師 小穴毅	企畫院調査官 菊池春雄	今村武雄	P・I・リヤシチエンコ著 東健太郎譯	北支那經濟通信社編	江西省政府經濟委員會編	エドワード・カン著 谷口啓次譯	木村增太郎 大川彰	交通大學研究所社會經濟班編	江西省農業院農業經濟科編
獨逸の資源鬪爭	ナチス戰時經濟講話 —戰費と財政政策—	ナチスの戰爭經濟政策	ナチス戰時經濟體制研究	列强の經濟體制	ロシア經濟史 上卷	北支那重要資源分布圖	九江經濟調査 支那經濟資料(6)	近代支那貨幣史	現代支那の財政經濟	小麥及び麵粉 支那經濟資料(9)	江西米穀運鎖調査 支那經濟資料(8)
四六判 並製	四六判 並製	四六判 並製	菊判 洋綴布入	四六判 並製	菊判 洋綴布入	四六全紙二枚 並製	菊判 並製	菊判 洋綴布入	菊判 脊綴洋布入	菊判 並製	菊判 並製
278	218	226	421	450	373	2枚	115	388	274	67	324
一、八〇〇	二、二〇〇	一、二〇〇	四、七〇〇	一、八〇〇	三、五〇〇	二、八〇〇	二、二〇〇	四、〇〇〇	二、五〇〇	一、二〇〇	四、〇〇〇
辰巳書房 十月	八元社 二十日	時代社 七月	東洋書館 十一月	ダイヤモンド社 十一月	慶應書房 十一月	北支那經濟通信社 四月	生活社 八月	慶應書房 三月	生活社 三月	生活社 六月	生活社 十月
▲一九三七年ケーニヒスベルク商業大學にて行つた講義要綱を集錄なしたもの。	▲最近の資料によりナチス財政理論を明快に展示せる「澤山の貨幣は何所から來るか」の譯	▲戰時下ドイツの經濟戰略、ナチス國防經濟作戰の示唆、の二部にて說いたもの。	▲緒論、戰時經濟行政機構及機能の再編成、戰時財・經政策の基本體制他二篇にて說述す	▲第二次大戰によつて變革された列强の經濟諸情勢を記述なしたもの。	▲リヤシチエンコ教授の「ロシア國民經濟史」第二版の第一篇から第四篇までの全譯。	▲北支那に於ける鑛山資源を二枚の地圖にて示したもの。	▲江西省北部の關鍵を把握し、長江の中流を扼する重要都市九江の經濟調査をなす。	▲上海「金融商業法」誌主筆のE・カン氏の諸論文を編譯したもの。	▲事變下支那の經濟財政策を紹介し進つてそれ等政策を可能ならしめた轉換過程をも述ぶ	▲全國每年小麥・小麥粉の純入出超額（滿洲國を除く）他九篇の資料を收錄す。	▲江西米穀運鎖調査を飜譯したもの。

社會經濟調査所編	江西糧食調査	支部經濟資料(7)	菊並製判	136	二、二〇 九	生活社	九月	▲江西全省に於ける糧食の調査をしたもの。
張人价編	湖南の穀米	支部經濟資料(14)	菊並製判	178	二、四〇 九	生活社	九月	▲湖南省に於ける穀米の概況を調査報告す。
佐藤弘	興亞經濟地理	ラヂオ新書(15)	三六並製判	207	五〇 九	日本放送出版協會	五月	▲青年向に放送せる東亞經濟の鳥瞰せるものを纒む。卷末に興亞關係論文五篇を收錄。
山口高等商業學校東亞經濟研究會編	支那經濟年報	昭和十五年版	菊並製判	584	三、七〇 一四	改造社	四月	▲昭和十五年版は經濟開發號で、建設途上にある各般の開發事情を基礎的に闡明す。
滿鐵調査部編	支那經濟年報	昭和十五年版	菊並製判	750	三、五〇 二二	改造社	八月	▲一九三八年末より一九四〇年三月に至る期間を對象として支那政治經濟の動向を分析す
大谷孝太郎・河合俊三・坂根哲夫	支那經濟要論	最近	四六並製判	339	二、五〇 一〇	三省堂	四月	▲最近に於ける支那經濟問題の重要なものを取上げて體系的に敍述す。
吳藤枝承丈洛著夫譯	支那資源及產業總覽	產業篇	菊並製判	471	一五、〇〇 二二	支那文化協會	九月	▲吳承洛の「中國實業通志」の產業篇を邦譯す。
吳藤枝承丈洛著夫譯	支那資源及產業總覽	資源篇	菊並製判	411	一五、〇〇 二二	支那文化協會	九月	▲確實な統計・數字によつて十年前に著はされた吳承洛の「中國實業通志」の邦譯。
尾崎秀實	支那社會經濟論	東亞叢書	四六並製判	240	一、四〇 一〇	生活社	六月	▲脆弱な社會的地盤の上に築かれた支那經濟の變化し又變化しつゝある諸問題を究明す。
石濱知行	支那戰時經濟論		菊並製判	303	三、〇〇 一四	慶應書房	九月	▲武漢淪陷直前の支那經濟、抗戰支那の經濟建設他五章にて述ぶ。
羅敦偉著上純一譯	支那統制經濟論		菊並製判	221	二、二〇 一四	生活社	一月	▲本書は羅敦偉著「中國統制經濟論」の下編各論を邦譯したもの。
何中清著小泉西功譯	支那の經濟機構	岩波新書(76)	三六並製判	一五〇 九	岩波書店	九月	▲最近支那社會の經濟機構を最も新しき資料に基いて分析し、總括的に敍述したもの。
朱巴公著日本青年外交協會譯	支那の國家歲計と財政制度		四六並製判	233	一、八〇 九	日本青年外交協會出版部	六月	▲財政や歲計を中心とした近代支那國家の發展史を究明した朱巴公の落書を邦譯す。

若林友康譯	ウイルマンス著	支那農業經濟論	菊並製判	162	二、二〇 一四	生活社	二月	▲ウイルマンスの「支那農業經濟論」を邦譯したもの。
勝谷在登譯	リヨウ・パオセイン著	支那幣制の性格的研究	菊並製判	256	二、三〇 一四	白揚社	二月	▲銀問題を中心に、支那に於ける貨幣制度の發達を分析したパオセインの著書を邦譯す。
飯島幡司	經濟學博士	支那幣制論 —その興廢と再建—	菊並製判	395	四、〇〇 二二	有斐閣	五月	▲複雜多岐を極める支那幣制の興廢と再建を敍述したもので民國革命前後の幣制其他。
東亞問題研究會編	支那邊疆產業要覽		菊半截	174	一、二〇 六	三省堂	五月	▲抗日戰爭の最も頑强な最後の據點支那邊疆諸省の經濟事情を概觀なしたもの。
宇田米夫	支那貿易の實際知識		四六並製判	374	二、二〇 一〇	商工行政社	五月	▲日本の立場から支那貿易の現狀並びに沿革を平明に說述したもの。
王承在志著勝谷登譯	支那民族資本の特質		菊並製判	214	二、二〇 一四	白揚社	四月	▲支那の經濟的構造と民族資本の性格を述べた王承志の「金融資本論」の六章迄を邦譯す
金陵大學農學院農業經濟系編	四省小作制度	支部經濟資料(17) 河南・湖北・安徽・江西	菊並製判	191	二、六〇 九	生活社	七月	▲河南、湖北、安徽、江西の四省に於ける小作制度を調査報告なしもの。
金陵大學農學院農業經濟系編	四省棉產運鎖	支部經濟資料(16) 河南・湖北・安徽・江西	菊並製判	357	四、〇〇 一四	生活社	十二月	▲四省棉產の變遷、四省に於ける棉產の分布と其の現狀他十三章。
平漢鐵路管理局經濟調査班編	重慶經濟調査	支部經濟資料(2) 下卷	菊並製判	293	三、八〇 一〇	生活社	十一月	▲重慶經濟調査報告の下。
平漢鐵路管理局經濟調査班編	重慶經濟調査	支部經濟資料(2) 上卷	菊並製判	293	三、八〇 一〇	生活社	十一月	▲重慶經濟調査報告の上。
社會經濟調査所編	上海米市調査	支部經濟資料(13)	菊並製判	98	一、四〇 九	生活社	七月	▲全國商業の中心にして金融の樞紐である上海に於ける米市の調査報告。
陶希聖著天野元之助譯	西漢經濟史		菊並製判	321	三、〇〇 一四	千倉書房	十月	▲非常時局下に於ける圖南經濟を論述したもので、總論、蘭領東印度、泰國他二章。
稻崎敏雄	圖南經濟論		菊並製判	116	一、六〇 一〇	生活社	五月	▲陶希聖氏が經濟史家の立場から新らしく漢代の社會經濟史を纒めたものゝ邦譯。

支那中國銀行版	本田忠雄譯	西南支那の社會と經濟	洋四六判	184	一、五〇	商工行政社	二月	▲中國銀行にて出版された余定義の編著「西南六省社會經濟之鳥瞰」を飜譯したもの。															
今村忠（）		大陸インフレの話	並四六判	213	一、三〇	商工行政社	七月	▲大陸インフレの話、新中央銀行設立の話の二部にて說述す。															
平漢鐵路管理局經濟調査班編		支那經濟資料(1) 長沙經濟調査	並菊製判	226	二、八〇	生活社	十月	▲長沙の經濟調査報告。															
社會經濟調査所編		支那經濟資料(11) 鎭江米市調査	並菊製判	69	一、〇〇	生活社	六月	▲長江と運河の合流地點にある鎭江の米市調査を報告したもの。															
小笠原三九郎		東亞共榮圈と經濟	並四六製判	197	一、五〇	大日本法令出版株式會社	二十日月	▲新體制と經濟、財政經濟の主なる問題、金融の新體制他三章。															
經濟學博士 木村增太郎		東亞經濟政策	洋菊布入判	381	三、〇〇	千倉書房	二十日月	▲現實に卽した且つ具體的東亞經濟政策の總論的記述をなしたもの。															
經濟學博士 檜崎敏雄		東亞廣域經濟論	洋菊布入判	279	二、八〇	千倉書房	七月	▲新東亞の成立と前途、東亞廣域經濟論、結論の三章にて東亞廣域經濟の新原理を提唱す。															
上海銀行儲蓄銀行調査部編		支那經濟資料(15) 桐油	並菊製判	117	二、四〇	生活社	九月	▲漢口の桐油と桐油業に就て報告す。															
京都帝大教授 經濟學博士 小島昌太郎		支那に於ける 特殊通貨の研究	洋四六布判	267	二、八〇	千倉書房	二十日月	▲主として上海の金融界に行はるゝ信用制度匯劃の制度に就ての研究。															
經濟學博士 猪谷善一		南方經濟論	洋四六布判	171	一、五〇	一元社	八月	▲日滿支ブロック經濟と南洋、南方經濟考、受難期の南進政策他四章にて述ぶ。															
產業統計研究所編		南方資源論	並菊製判	298	二、五〇	東亞堂	十月二十日	▲多年の調査研究により精細なる統計を基礎にしたる南方資源の現狀。															
經濟學博士 木村增太郎編		日滿支經濟の基礎知識	洋四六布判	609	四、〇〇	大阪屋號	十月	▲日滿支經濟の基礎的知識を、各々の專門家が分擔執筆なしたもの。															
樋口弘		日本の對支投資	上菊製判	302	三、〇〇	慶應書房	九月	▲序論、直接事業投資、間接事業投資、日本の對支借款他三章にて說述す。															

平漢鐵路管理局經濟調査班編		支那經濟資料(3) 涪陵經濟調査	並菊製判	119	一、八〇	生活社	六月	▲民國鐵道部が五ケ月に亘つて調査せる長渝鐵路沿線經濟調査分地報告を纏めたもの。															
社會經濟調査所編		支那經濟資料(10) 蕪湖米市調査	並菊製判	160	二、四〇	生活社	九月	▲蕪湖に於ける米市の調査報告。															
外務省通商局編		佛國對支經濟勢力の全貌	洋菊布判	220	二、二〇	日本國際協會	六月	▲一六六〇年頃より支那に投資されたフランス經濟勢力の全貌を明示したもの。															
外務省通商局編		米國對支經濟勢力の全貌	洋菊布入判	273	二、五〇	日本國際協會	一月	▲外務省にて調査せる米國の對支經濟勢力の全貌を紹介したもの。															
平野義太郎編		東亞研究叢書(3) 方顯廷支那の民族產業	並菊製判	618	四、八〇	岩波書店	十月	▲穀物取引と製粉業、天津における絨毯製造業、天津における織布業他一篇を飜譯す。															
對滿支問題研究會編		北支開發企業の現勢	並四六製判	286	一、六〇	對滿支時局史編纂所（二松堂發賣）	七月	▲北支開發會社の創立後の實態と傘下全企業會社の現狀を纏めて報告したもの。															
松崎雄二郎		北支經濟開發論 —山東省の再認識—	洋菊布入判	739	七、五〇	ダイヤモンド社	八月	▲幾多の資料と現地の見聞により、山東省資源の再檢討をなしたもの。															
理學士 門倉三能		北支鐵鑛・硫黃礦資源	洋菊布入判	515	三、〇〇	丸善株式會社	九月	▲北支に埋藏される鐵鑛と硫黃礦資源について調査報告なしたもの。附北支地圖。															
南滿洲鐵道株式會社調査部編		北支棉花綜覽	並菊製判	412	三、〇〇	日本評論社	五月	▲北支棉花に關する資料を昭和十四年三月末日迄の現狀により調査記述す。															
社會經濟調査所編		支那經濟資料(12) 無錫米市調査	並菊製判	112	一、八〇	生活社	七月	▲水路が便利なため江蘇浙江二省米穀市場の巨擘となつた無錫米市を調査せるもの。															
ヘルデレン著 原田禎正譯		蘭印最近の經濟・外交政策	並菊製判	105	一、三〇	生活社	九月	▲ウトレヒト大學の社會學教授ヘルデレン氏の著書を邦譯す。															
井村薰雄		列國の對支投資と華僑送金	洋菊布入判	232	二、五〇	生活社	十月	▲帝國主義的搾取をなす歐米列國の對支投資と華僑の送金について述ぶ。															
平漢鐵路經濟調査班編		支那經濟資料(4) 老河口支綫經濟調査	並菊製判	333	四、〇〇	生活社	九月	▲本書は「京漢鐵道老河口豫定支線經濟調査報告書」を收めたもの。															

日本經濟事情

日本貿易研究會編	日本貿易年報 第三輯	四六判 並製	291	一、五〇	商工行政社	五月	▲第三輯は支那新政權と世界貿易戰について全面的な解剖をなしたもの。	日本貿易研究會編	日本貿易年報 第四輯	四六判 並製	243	一、五〇	商工行政社	七月	▲本輯は第二段階に入れる世界貿易戰資源爭奪と市場確保とを描く。
朝日新聞經濟部編	世界騷亂と日本經濟 —朝日經濟年史・昭和十五年版—	菊判 洋布入	549	三、八〇	朝日新聞社	十一月	▲昭和十四年三月より十五年上半期迄に於ける世界情勢と日本經濟の客觀的記述をなす。	東洋經濟新報社編	會社四季報 昭和十五年第二輯	三五判 並製	303	九〇	東洋經濟新報社	三月	▲轉換期にある重要なる事業會社を網羅して其事業、成績、將來等を簡略に記述す。
西谷彌兵衛	戰ふ日本經濟	新菊判 洋布入	335	二、五〇	新紀元社	十二月	▲日本經濟の渦流、日本經濟の資本構造、戰ふ日本經濟、日本世界經濟の新秩序の四部。	東洋經濟新報社編	會社四季報 昭和十五年第三輯	三五判 並製	303	九〇	東洋經濟新報社	六月	▲全國に於ける主要會社、四百五十七社を網羅して其内容事業成績等を紹介す。
全國經濟調査機關聯合會朝鮮支部編	朝鮮經濟年報 昭和十五年版	菊判 並製	673	三、四〇	改造社	九月	▲昭和十四年度末迄の資料によつて朝鮮經濟の推移を各方面から記錄したもの。	東洋經濟新報社編	會社四季報 昭和十五年第四輯	三五判 並製	287	八〇	東洋經濟新報社	九月	▲重點主義强行下の事業會社四百六十社を網羅して其内容成績を報告す。
大藏省編	昭和十三年 日本外國貿易年表 下篇	四六倍判 並製	366	二、五〇	内閣印刷局	九月	▲昭和十三年度に於ける日本外國貿易年表の下編を收む。	東洋經濟新報社編	會社四季報 昭和十六年第一輯	三五判 並製	291	九〇	東洋經濟新報社	十二月	▲會社經理統制令下の四百七十會社の業績其他を調査したもの。
木村清八郎	日本經濟再建の目標	菊判 洋布	250	二、〇〇	商工行政社	七月	▲日本經濟再建の目標、日本經濟再建の目標探究、再建途上日本經濟の實體他一章。	木村孫八郎	景氣の基礎知識	四六判 並製	284	一、〇〇	一元社	九月	▲景氣の實際的變動に關する手引をなしたもので、景氣の見方、わが國の景氣變動其他。
大阪商科大學助教授 豐崎稔	日本經濟と機械工業	四六判 並製	251	一、三〇	科學主義工業社	二十二月	▲我國民經濟の再編成問題、我國工業勞働力育成の方法、中小機械工業の技術問題の三篇	カール・ムース著 鐵鋼聯盟調査部編	景氣變動と企業合同	四六判 裝	259	二、〇〇	改造社	六月	▲"Kartelle und Konjunkturbewegung" 1933 を底本としてカルテルの機能を說述す。
景氣研究所長 勝田貞次	日本經濟何處力行く	四六判 並製	358	一、六〇	東洋經濟新報社	四月	▲現下の日本經濟界に於ける、統制・財界・インフレの前途等に就て語つたもの。	現代學藝全書(23) 豐崎稔	現代景氣變動論	四六判 並製	263	一、〇〇	三笠書房	二十二月	▲景氣理論の基本問題に就て說述した書で、景氣理論の方法論發達史他四章。
東洋經濟新報社編	東洋經濟新報年報 第四十一輯	四六判 並製	286	一、〇〇	東洋經濟新報社	六月	▲本輯は昭和十五年三月より五月下旬までの資料によつて内外經濟諸情況を述ぶ。	相模太郎	財界夜話 —武裝せる日本經濟—	四六判 並製	368	二、〇〇	萬里閣	四月	▲戰時經濟とその指導者たち、戰爭と財界、戰時下財界の點描の三章に收めた財界夜話。
東洋經濟新報社編	東洋經濟新報年報 第四十二輯	四六判 並製	350	一、三〇	東洋經濟新報社	九月	▲新政治體制の歷史的意義、新體制下の日本經濟、新秩序胎動下の世界情勢他二部。	野田經濟研究所	戰時下の國策會社	菊判 上製	732	六、〇〇	野田經濟研究所	七月	▲日滿は勿論中華民國のものに至る迄百數十個に亘る國策會社を網羅して解說紹介す。
日本經濟年報 第四十三輯	日本經濟年報	四六判 並製	318	一、一〇	東洋經濟新報社	二十二月	▲直面せる戰時下の不景氣と對策、世界新政治秩序と三國同盟後の世界情勢等五部	樋口弘	日本財閥 上卷	菊判 洋布入	306	三、〇〇	味燈書屋	二十月	▲日本財閥の平面的、具體的な批判解剖をなせる書で、上卷は三大綜合財閥他四篇。
伸小路彰	日本經濟論 日本世界主義體系(6)	菊判 上製	237	二、五〇	日本問題研究所	十月	▲日本自給自足經濟の確立、日本戰爭經濟の强化、東亞廣域經濟圏の總力戰的確保の三篇								

財界・景氣動向

樋口弘	日本財閥論 下卷	洋菊	布入判	303	三、〇〇 一四	味燈書屋
三菱經濟研究所編	本邦事業成績分析 昭和十四年下期	並横綴 三二〇頁	製函	98	一、八〇 一四	三菱經濟研究所
三菱經濟研究所編	本邦事業成績分析 昭和十五年上期	並横綴 三二〇頁	製函	86	一、八〇 一四	三菱經濟研究所

▲下卷は產業資本コンツエルン、特殊會社コンツエルン、六大都市の財閥他三篇。

▲自昭和十四年九月至昭和十五年二月間の本邦事業會社三五〇社を撰定して成績分析す。

▲我國各種事業に於ける主要株式會社三百五十社を選定して其業績を分析せるもの。

人口・食糧

長崎高商教授 塚原仁	人口統計論	洋菊	布入判	381	三、二〇 二二	千倉書房
小樽高商教授 南亮三郎	人口理論と人口政策	洋菊	布入判	365	三、五〇 一四	千倉書房
人口問題研究會編	第二回人口問題全國協議會報告書 人口問題資料(35)	並菊	製判	1104	三、〇〇 二二	人口問題研究會
稲村順三	轉換期の食糧問題	洋四六判	布	401	二、二〇 一〇	東洋經濟新報社
金原賢之助 寺尾琢磨	現代經濟叢書(3) 物價物資統制政策・日本人口論	並菊	上製函入二冊	256	一、八〇 一四	慶應出版社

▲從來發表したる人口領域に於ける統計的研究をなしたもので、人口統計序說他一篇。

▲人口論序說、工業國的發展途上の人口問題世界大戰當時のドイツ人口論議他六章。

▲昭和十三年十月開催せられた第二回人口問題全國協議會の議事錄及報告を收錄す。

▲過去の食糧生產、配給狀態等の分析解剖し轉換期食糧問題の進路を論述す。

▲本輯は物價物資統制政策、日本人口論の二論文を收錄したもの。

產業・資源

企畫院編	海外石油事情調査	並三三判	製	1005	二、〇〇 二二	內閣印刷局
ウーゴ・ナンニ著 下位春吉譯	原料爭奪の世界戰	並四六判	製	450	一、八〇 一〇	改造社
ユージン・ステーレー著 山田文雄譯	國際原料資源論	上菊	製入判	326	二、五〇 一四	中央公論社

▲產業上國防上重要な役割を持つ石油資源の海外諸事情を述べたもの。

▲現代の世界不安の一切源泉を「土地と原料」に歸し、世界大戰の必然性を述べたもの。

▲米國の經濟學者ユージン・ステーレーの「平時並に戰時に於ける原料」の全譯。

小野俊一	新產業科學	並四六判	製	201	一、二〇 九	育政治教協會
東亞問題研究會編	世界資源 —植民地篇— 世界木棉戰	洋菊	布	172	一、三〇 六	三省堂
アドルフ・ミュラー著 鐵鋼聯盟調査部譯	鐵鋼原價の分析 鐵鋼聯盟叢書(1)	並四六判	製入	221	二、五〇 一四	改造社
谷本龜次郎	天然自源の開發	洋四六判	布入	306	一、八〇 一〇	泰文館
理學士 內田義信編	東亞の礦物資源	洋四六判	布入	405	三、五〇 一四	昭晃堂
石山賢吉	日本產業の再編成	洋四六判	布入	275	一、八〇 一〇	ダイヤモンド社
アントン・チシカ著 高山洋吉編	棉 —世界木棉戰—	並菊	製	190	一、九〇 一〇	栗田書店

▲內外に於ける產業の凡有る部門に亘つて一般的述論概說をなしたもの。

▲各國の植民地の實狀と資源を語つたもので、イギリス領植民地の資源他八章。

▲獨逸鐵鋼經營學者として著者なミュラーの製鐵業に於ける原價分析の全譯。

▲我國に於ける自然の天產物を開發利用することを述べたもので植物資源其他。

▲滿洲、支那並に南洋の礦物資源に就いて調査報告したもの。

▲統制經濟下に於いて變更を餘儀なくされた產業政策に關する十三論文を收錄す。

▲木棉の原料及市場爭奪戰を通じて世界政治及世界經濟の內幕を曝露したもの。

金融・組合

河沼高輝	恩給金庫の使命と利用	並四六判	製	201	一、二〇 九	育政治教協會
菊澤譲三	協同組合經營論	洋菊	布入	400	三、六〇 一四	巖松堂
園田實	金融經濟學入門	布四六判	製入	257	一、九〇 一〇	巖松堂
東大名譽教授・法學博士 河津暹	財政政策叢書(8) 金融市場と金融政策	洋菊	布入	359	三、五〇 一四	有斐閣
高岡高等商業學校教授 高田源清	組合文獻解題	上四六判	製入	168	一、五〇 一〇	昭和圖書株式會社

▲創業以來滿二ケ年になる「恩給金庫」の使命と其利用法を詳述なしたもの。

▲協同組合に關する經營學的研究をなしたもので、總說、協同組合金融論他一篇。

▲金融機關の動態的機能を平易に敍述して初學者の參考となしたもの。

▲緒論、中央銀行、中央銀行以外の金融機關景氣の變動と金融政策の四篇にて說述す。

▲昭和十四年八月迄に發表された組合に關する邦文文獻を網羅收錄す。

經營・企業

工團組合中央會理事 川端巖	工業組合の常識	洋菊 布入判	303	一、二〇〇	千倉書房	九月	▲工業組合に關する必要事項を全部收錄して平明な解說を施したもの。
山本謙治	產業組合金融要論	布菊 裝入判	297	一、八〇〇	高陽書院	五月	▲國民經濟生活上に於いて大動脈をなす產業組合金融の一般を體系的に敍述す。
宮城孝治	暫體制下の產業組合讀本	洋菊 布判	350	二、五〇〇	千倉書房	十二月	▲我國現下の產業組合運動の實情と今後の進むべき方向とを示唆せる書。
賀川豐彥	產業組合の本質と其進路	並四六 製判	387	一、八〇〇	協同組合新聞社	六月	▲產業組合經濟の本質とその進路、組合社會事業と組合社會政策の二篇にて說述す。
安藤豐作	商業組合叢書 自治監査の實務	上四六 製判	205	二、〇〇〇	伊藤書店	七月	▲組合行政の第一課程でもあり、組合事業の推進力ともなる自治監査の實務を記述す。
岡村正人	同志社大學助教授 社債金融論	布菊 裝入判	284	二、八〇〇	巖松堂	十二月	▲株式會社に於ける社債による資本調達に關する研究で、擔保、證券擔保附社債其他。
坂田武雄	商業組合叢書 商業組合經營の實際	洋四六 布判	344	二、〇〇〇	伊藤書店	五月	▲剩下の商品配給統制に重要な位置を占める商業組合經營の實際を組合役職員に解說す。
小池金之助	商工部門の諸組合	洋四六倍判 布	138	二、五〇〇	杉田書店	三月	▲商業・工業・貿易・重要物產同業・朝鮮工業等の各組合の全貌を明らかにしたもの。
沖中恒幸	新體制金融論	布菊 裝入判	286	二、八〇〇	巖松堂	十二月	▲金融統制より金融新體制への展開、國家資金及產業資金の調達と問題他三章。
伊東岩男	統制經濟と商工業組合	上四六 製入判	377	二、八〇〇	昭和圖書出版部	十月	▲統制經濟の本質を述べ、統制經濟下の商工業組合の行き方を說いたもの。
玉塚締任	不動產金融原論	洋菊 布入判	734	六、二〇〇	高陽書院	一月	▲不動產金融の概念、不動產金融の客體、不動產金融各體の評價他九章にて講述す。
大木秀男	明治大學助教授 企業技術學序說	洋菊 布入判	222	二、〇〇〇	巖松堂	二月	▲企業技術學の研究對象、企業技術學の性格企業經濟學他一章にて述ぶ。

株式・投資

法政大學教授 松本信次	株式取引所研究	洋菊 布入判	339	三、二〇〇	有斐閣	五月	▲株式取引所の本質、株式取引所改革問題他一篇を收めた論文集。
鈴豐證券編	ザッ株總覽	並菊 製判	143	六〇〇	鈴豐證券	一月	▲株式取引所にて扱はれる小型株を網羅して各會社の成績內容等を詳かにす。
中央大學教授 上林正矩	證券市場機構論	洋菊 布入判	383	三、八〇〇	白揚社	七月	▲我國證券市場機構を中心として、その體系的論述をなしたもの。
電氣學士 山中宏	國債本 生保會社の投資情勢	洋菊 布入判	289	三、〇〇〇	山中家（有斐閣發賣）	四月	▲英米獨佛カナダ、スイス等歐米諸國に於ける生保會社の投資情勢を敍述したもの。
株式會長 井上三味	相場高下の値幅觀測法（6）	洋三六 布入判	198	二、五〇〇	三味社	五月	▲相場の最も重要な値幅の觀測法を述べたもので經濟界と株價、相場の分類他十二章
東洋經濟新報社編	短期日表 昭和十五年版	並四六 製判	45	四〇〇	東洋經濟新報社	三月	▲東京市場に於ける新東、大新、鐘紡の三株の前後場の寄附、高値、安値等を表となす。
經營經濟研究會編	經營 第四册	並菊 製判	160	一、五〇〇	森山書店	四月	▲經濟性計算に關する一考察（小高泰雄）他四篇の論文と論評を收めたもの。
慶應義塾高等部教授 鈴木保良	經營概論	洋菊 布入判	339	三、三〇〇	巖松堂	四月	▲今日の發達せる經營經濟學上の廣汎なる諸問題の概念を說き、其研究の目標を明示す。
慶應義塾大學經濟學部教授 小高泰雄	慶應義塾經營經濟研究叢書（1） 濟營計算論	洋菊 布入判	315	三、五〇〇	巖松堂	四月	▲經營評價と經營計算、原價要素の計算、綜合計算、短期經營成果計算の四章にて說く。
池內信行	經營（經濟學序說（3）） 經營經濟學と國民經濟學	並菊 製判	142	一、三〇〇	森山書店	六月	▲第三册は經營經濟學と經濟理念、經營經濟學と國民經濟學、他一篇を收めて論述す。
名古屋高等商業學校教授 郡菊之助	經營統計の研究	洋四六 布入判	251	二、〇〇〇	千倉書房	八月	▲經營統計の性質に關する諸說、科學的產業經營と統計他十一章にて說述す。
日本勞働科學研究所長 暗峻義等	產業と人間 —勞働科學の回顧と展望—	上四六 製入判	443	三、〇〇〇	理想社出版部	七月	▲產業と人間、傳統的勞働についての考察、勞働科學の回顧と展望一・二の四篇にて述ぶ。
東洋經濟新報社編	短期日表 昭和十五年版	並四六 製判	45	四〇〇	東洋經濟新報社	三月	▲東京市場に於ける新東、大新、鐘紡の三株の前後場の寄附、高値、安値等を表となす。

藤木高三	富籤の話	四六判並製	236	一、二〇	今日の問題社	六月

▲富籤の再檢討をなして其新しき認識を把握せしめんとしたもの。報國債券をも説明す。

五三〇

ヴオラアル著
成田重郎譯

セザンヌ

四六判二九〇頁・圖版八葉
定價一圓五〇錢送料一〇錢

鍋井克之氏評……セザンヌは私達が學生の頃、良き指導者となつてくれましたが、それから二昔も過ぎた現在、再び彼を見直すことに依つて、もう一度良き指導者となつて呉れることに心づきました。前の時はセザンヌの技法に主として學び今日では彼が經驗した苦闘をよい戒めにしたいと思つてゐます。特に今日の如き美術衰退期の傾向を見せてゐる時代にあつては尚のこと必要かと信じます。

足立源一郎氏評……ヴオラアルのセザンヌは巴里で讀んで以來の愛讀書です。批評家のセザンヌ傳と異つて一種の理性ある南方人セザンヌを最もよく傳へるものとして、セザンヌへの親しさを一層深めるものです。セザンヌの作品を見る人は是非一讀すべき書が譯された事をよろこびます。

東京堂版

一四、商業

著者	書名	形體	頁數	定價	發行所	發行月	內容大意
商學・商業一般							
關口文雄	支那商業政策論	四六判洋布入	403	二、一〇	高山書院	十二月	▲支那經濟と支那人、支那商業政策案、支那商業の實際、支那金融機關の實際其他。
東京商科大學國立學會編	商學研究（東京商科大學研究年報）—五—	菊判並製	379	二、八〇	岩波書店	十月	▲ギルプレスの動作研究について（增地庸治郎）商品出廻り期の研究（佐藤弘）他五篇。
齊藤榮三郎（中外商業新報社調査部）	戰時下中小商業者の生く道	四六判並製	467	二、五〇	伊藤書店	二月	▲聖戰第四年を迎へて益々その前途の見透しの困難となつて來た中小商業者の進路を示す
相馬愛藏	續一商人として	四六判並製	309	一、〇〇	六藝社	一月	▲私の商賣、歐洲視察感、小賣商經營の實感、商店經營の研究、和菓子其他の隨想集。
菅沼貞風	大日本商業史	菊判洋布入	741	五、〇〇	岩波書店	十一月	▲夙に勃たる雄圖を懷いてマニラに赴き遂に客死せる菅沼貞風の遺著を繙む。
市場・取引・商品・倉庫							
大軒順三田中彌十郎編	公定價格便覽（家庭用品篇）（一）	四六判並製	222	一、〇〇	東洋經濟新報社	十二月	▲家庭用品の公定價格を生産者、卸賣業者、小賣業の三段階に分けて掲載す。
西野嘉一郎	市場分析方法の研究	四六判洋布入	124	一、〇〇	森山書店	十二月	▲市場指數、市場分析の方法、市場分析方法の限界等四章及び附錄參考文獻。

中倉貞重	商取引の法律實務	四六判	洋綴	323	三、八〇
濱田長松（高等商業學校教授）	商品學	菊判	洋綴	468	四、八〇
中外商業新聞社編著	商品統制の知識（續）	四六判	洋綴	247	一、八〇
白崎豐（ダイヤモンド實務叢書第16）	製品管理の實務	四六判	洋綴	293	二、八〇
松本信次（法政大學教授）	取引所の常識	四六判	洋綴	227	一、二〇
增岡尙士（商工省物資局第四課長）	皮革統制（重要物資統制叢書）	四六判	洋綴	293	二、〇〇
今健太郎	輸出商品の解說	四六判	洋綴	248	一、五〇
桑田勇三（法學士）	我國取引所の理論と實際	菊判	洋綴	269	二、四〇
長谷川安兵衞（商學博士）	銀行經營と會計	四六判	洋綴	240	二、〇〇
櫛口午郎（商學士）	銀行信用の理論	四六判	洋綴	150	一、五〇
高末信（早稻田大學教授・商學博士）	組織學とその應用	菊判	洋綴	397	四、〇〇
賀川豐彥	日本協同組合保險論	四六判	布裝	262	一、八〇
大村聖友（新體制研究所長）	日本有限會社設立案內	菊判	洋綴	323	三、八〇
花島得二（日本勤業銀行總定役）	不動產評價の理論と實際（第一卷農地・農牧場篇）	菊判	洋綴	659	六、〇〇
岩田仞（慶應義塾大學經濟學部助教授）	國際貿易理論序說（慶應義塾經營經濟研究叢書第2）	菊判	洋綴	216	二、二〇
桐本陸良	實踐貿易の實務（ダイヤモンド實務叢書第3）	四六判	洋綴	318	二、〇〇
本田實（神戸高等商業學校教授）	貿易經營の基本問題（貿易經營論の第一部）	菊判	洋綴	137	一、六〇
小室恒夫	貿易と物價	菊判	上製	265	二、八〇
谷口吉彥（京都帝國大學教授・經濟學博士）	貿易統制の研究（第三卷）	菊判	洋綴	333	三、二〇
上野陽一（日本產業能率研究所長）	能率ハンドブック（下卷ノ一）	四六判	洋綴	483	四、五〇
新谷新六	物品購買の實務（ダイヤモンド實務叢書第11）	四六判	洋綴	468	二、八〇
山野井房一郎	會計課員の常識	四六判	洋綴	342	二、二〇

中倉貞重	商取引の法律實務	三、五〇	ダイヤモンド社	十月
濱田長松	商品學	四、八〇	嚴松堂	五月
中外商業新聞社編著	商品統制の知識（續）	一、八〇	千倉書房	三月
白崎豐	製品管理の實務	二、八〇	ダイヤモンド社	五月
松本信次	取引所の常識	一、二〇	千倉書房	十一月
增岡尙士	皮革統制	二、〇〇	商工行政社	十月
今健太郎	輸出商品の解說	一、五〇	商工行政社	六月
桑田勇三	我國取引所の理論と實際	二、四〇	桑田家（有定圖書賣）	三月
長谷川安兵衞	銀行經營と會計	二、〇〇	東京泰文社	五月
櫛口午郎	銀行信用の理論	一、五〇	森山書店	四月
高末信	組織學とその應用	四、〇〇	有光社	六月
賀川豐彥	日本協同組合保險論	一、八〇	有光社	十一月
大村聖友	日本有限會社設立案內	三、八〇	東榮堂	十二月
花島得二	不動產評價の理論と實際（第一卷農地・農牧場篇）	六、〇〇	改造社	二月
岩田仞	國際貿易理論序說（慶應義塾經營經濟研究叢書第2）	二、二〇	嚴松堂	四月
桐本陸良	實踐貿易の實務（ダイヤモンド實務叢書第3）	二、〇〇	ダイヤモンド社	七月
本田實	貿易經營の基本問題（貿易經營論の第一部）	一、六〇	嚴松堂	十月
小室恒夫	貿易と物價	二、八〇	慶應書房	六月
谷口吉彥	貿易統制の研究（第三卷）	三、二〇	有斐閣	五月
上野陽一	能率ハンドブック（下卷ノ一）	四、五〇	同文館	十二月
新谷新六	物品購買の實務（ダイヤモンド實務叢書第11）	二、八〇	ダイヤモンド社	五月
山野井房一郎	會計課員の常識	二、二〇	ダイヤモンド社	十二月

▲凡ゆる商行爲及び手形に關する法律と、實際問題に就て實例を揭げ實務本位に說明す。

▲過去六年間福島高商にて講義せる商品學の原稿を增補改訂なしたもの。

▲前書出版以後のものを集めたもので纖維品、金屬品、燃料と窯業品、化學製品其他。

▲倉庫の知識、倉庫の建設、貯藏の方法、運送の方法、倉庫の帳票他四章にて說述す。

▲一般の人達にもよく判るやうに、取引所の通俗的な解說をなしたもの。

▲事變前の皮革業界の概觀と、統制後における現狀及將來を述べたもの。

▲本邦重要輸出品並びに新規輸出品について貿易の角度から分析解說なしたもの。

▲我國取引所一般、我國取引所の賣買取引、取引所の賣買取引の委託關係の三篇にて敍す

銀行・會社・信託・保險

▲銀行經營並びに會計に關する種々の論文を集めたもので銀行經營と經營分析他十章。

▲銀行信用の意義・限界・作用を純粹經濟的に解明なしたもの。

▲組織の理論的研究、組織の實證的研究の二篇にて生保會社事務組織の實證的研究をなす

▲日本の協同組合保險を中心として、其西洋に於ける淵源、其將來性等をば述べたもの。

貿易・爲替

▲古典學派貿易理論、古典學派貿易理論の矛盾とその止揚他二章にて說述す。

▲戰時下に於ける貿易實務の如何なるものかを實際家の立場から平易に解說したもの。

▲貿易經營の特殊性、貿易約款、貿易經營計算の三章にて經營論第一部を述ぶ

▲戰時經濟下の外國貿易、時局下の輸出問題の二篇にて戰時貿易政策を論述す。

▲第一篇清算貿易制、第二篇輸入統制、第三篇リンク制の諸篇にて戰時貿易統制を研究す

▲新體制に必須機構たる小型株式會社設立手續の詳述で、有限會社設立本論其他。

▲第一卷は農地、農牧場の評價に就いての理論と實際を說述したもの。

能率・實務

▲本卷は經營管理資料の集成で、事務管理概說、事務組織と事務制度其他。

▲能率的購買事務管理、購買事務の實際、戰時經濟統制下に於ける購買の三篇にて述ぶ。

會計・簿記

▲會計課員として心得て置くべき事柄を述べた書で、記帳と作表等十一章。

吉村鐵雄	會計監査の實務（ダイヤモンド實務新書(49)）	洋四六	377	二、八〇	ダイヤモンド社	五月	▲會計理論を中心とした會計監査の實際的要諦を說き、其他の問題にも言及す。
武藤榮治郎（元會計檢査院檢査官）	會計綱要	洋四六	444	三、〇〇	寶文館	六月	▲會計事務及法規を平明に解說し其要旨を明にし執務上必要な基礎的知識を培養す。
近澤弘治	會計上の虛僞と誤謬（帝國學術研究會叢書作集(6)）	洋四六	291	二、八〇	巖松堂	六月	▲緒論、監査の目的、內部照合組織、證憑書類に於ける虛僞・誤謬其他にて說述す。
山下勝治（商科高等商業學校教授）	會計理論の新構想	洋四六	334	三、九〇	巖松堂	一月十	▲總說、成果計算論、財產計算論、の三篇にて會計學の理論的構想をなしたもの。
河合壽一（日本大學講師）	組合の簿記	上四六製	411	三、八〇	昭和圖書出版部	七月	▲各種組合に必要な簿記の基礎原理を說き、各組合に適應せる記帳法をも述べたもの。
西野嘉一郎	經營監査の實務（ダイヤモンド實務新書(5)）	洋四六	448	二、八〇	ダイヤモンド社	十月	▲序說、經營財產の監査、經營活動の監査、利益經營への再出發の四篇にて述ぶ。
日本會計研究學會編	經濟統制下の會計問題	布菊	200	一、八〇	森山書店	五月	▲米國に於ける原價計算制度統一運動の發展（丹波康太郎）他四篇の論文を收錄す。
渡邊進	結合原價の研究	洋四六	112	一、〇〇	森山書店	二月十	▲結合生產物の原價、間接費配賦法の吟味等三章及び補論一章を收錄す。
日本會計學會編	原價及原價計算	布菊	364	二、八〇	森山書店	七月	▲吉田良三・原口亮平兩氏の還曆祝賀論文集の一で十七篇の論文を收載す。
青木倫太郎	原價計算の方法	洋菊	339	三、〇〇	森山書店	二月十	▲原價計算方法の意義とその分類、原價計算の諸方法他六章にて說述す。
阿久津桂一	減價償却に於ける時價論	布菊	190	一、八〇	森山書店	六月	▲減價償却に於ける時價論、評價論の構造、記號（Symbole）に就て他三篇の論文集。
神馬新七郎	減價償却の實務（ダイヤモンド實務新書(45)）	洋四六	481	二、八〇	ダイヤモンド社	七月	▲固定資產の意義と其の內容、固定資產とその整理手續他十一章にて論述す。
沼田嘉穂（橫濱高等商業學校教授）	固定資產會計	洋菊	654	六、五〇	ダイヤモンド社	十二月	▲固定資產會計の體系に就て說述した書で、會計學に於ける費用計算等十五章。

白崎豐	固定資產管理の實務（ダイヤモンド實務新書(49)）	洋四六	336	二、三〇	ダイヤモンド社	十月	▲製造工業の基底をなす固定資產管理の實務を說いたもので、固定資產の意義他十章。
日本會計學會編	工業會計	布菊	350	二、八〇	森山書店	七月	▲吉田・原口兩氏の記念論文集の二で、原價記帳（陶山誠太郎）他十三篇を收載。
白崎豐	支配人會計學（經營指針としての規範會計學）	洋菊	798	七、八〇	ダイヤモンド社	三月	▲經營指針として支配人に役立つ所の規範會計學の一般的記述をなしたもの。
芳野國雄（財務管理研究所長）	商業組合簿記の實務（商業組合叢書）	上四六製	307	二、〇〇	伊藤書店	二月十	▲複式簿記の原理を基礎として解說したもので、商業組合經營と會計整理他六章。
太神和好（大分高等商業學校教授）	商業簿記概說	布菊	413	四、〇〇	叢文閣	十月	▲商業簿記の全般に亘り、入門より稍々高き程度に至るまでの概要を說述したもの。
小菅敏金一郎	商業簿記圖表解說	並菊	268	一、五〇	高陽書院	八月	▲複式簿記を圖表にて具體的に平易に解說したもの。
水田浦松盛（計理士）	稅務會計の實際（商店・會社篇）	洋四六	282	二、五〇	東榮堂	六月	▲商店會社の經營に必要な稅務會計の難解な點を平易明快に指導なしたもの。
金田實（東京商科大學專門部教授）	複式簿記の基礎知識	上菊	112	一、五〇	皇國青年教育協會	六月	▲複式簿記の仕組、複式簿記の應用、の二篇にて複式簿記の基礎を解述す。
武田孟（明治大學商學部教授）	簿記概論	並菊	104	九〇	巖松堂	九月	▲明治大學にて講述せる簿記講義を纏めたもので、緒論、財產と資本の關係他七章。
吉井魯齊	商業通信文の實際	布四六	364	二、〇〇	東榮堂	十月	▲社交的商用文、事務的商用文の二講に大別して商業通信文の實際を記述す。
田中要人	支那の商業經營	上四六製	190	一、三〇	森山書店	八月	▲支那商業經營の組織的調査をなしたもので支那の商業形態と其の經營他七章。

商店經營・販賣

商業數學・商業通信

著者	書名	形	體	頁數	定價	發行所	發行月	内容大意
中外商業新報社商店課長 赤羽幸雄	商店企業合同の實際 —日本商業の再編成—	四六判	並製	286	一、三〇	實業之日本社	十一月	▲企業合同問題を、理論的な話、實證的な話に別けて平易に說述す。
藤田敬爾	實踐商店經營指針	四六判	洋綴菊布入	384	一、八〇	森山書店	五月	▲全國の中小商店の經營改善、向上合理化を目的として指示要項を日記風に分割收錄す。
慶應義塾高等部教授 鈴木保良	卸商經營論	菊判	洋綴布入	251	二、五〇	巖松堂	三月	▲現代配給組織の一環として重要な地位を占める卸商經營の一般を論究す。
井關純	ダイヤモンド實務新書(32) 販賣企畫の實務	四六判	洋綴布入	255	二、〇〇	ダイヤモンド社	七月	▲市場調査、販賣組織及びその生かし方、内部販賣組織、販賣計畫他一章にて說述す。
石澤愛三	自動車販賣讀本	四六判	並製	315	一、五〇	オート・モビル社	四月	▲販賣と販賣員、販賣員と顧客、セールスマンの爲めに他二篇にて說いた販賣讀本。

スガール著
廣瀨哲士譯

モオラス

行動の思想家

彼は實にヒトラー、ムソリーニ、フランコ、サラザール乃至ペタン元帥に政治の示唆を與へ、或は與へつゝある世界新紀元の劃期的行動思想の哲人である。新體制進行の渦中に靜かに退いて哲人の敎を受け、靜思するも亦意味無しとはしない。

忽ち再版！

定價一・五〇
送料一〇

一五、工業

工業一般

著者	書名	形	體	頁數	定價	發行所	發行月	内容大意
宮本武之輔	技術と國策	四六判	並製	332	一、五〇	科學主義工業社	一月	▲昭和七年秋から同十三年十二月迄に發表せる論說、時評、講演等を收錄したもの。
宮本武之輔	現代技術の課題	四六判	並製	333	一、五〇	岩波書店	十二月	▲技術を理念的に述べたものと隨想とを收めた書で、技術と現代、技術の性格其他。
相川春喜	現代技術論	菊判	洋綴布入	326	三、一〇	三笠書房	四月	▲技術の本質を追求し、技術の概念を科學的に高め、テヒノロギイの位置を定めんとす。
工學士 内藤敏夫	佛和對譯 工學用語集	新四六判	洋綴布入	233	二、五〇	太陽堂	一月	▲工業方面にて日常使用せられる佛蘭西語を收めて平明に解說したもの。
林一見編	工業計算表	三六判	洋綴布入	489	四、〇〇	西東社	七月	▲第一部工業計算表、第二部數學概論、の二部にて工業計算の簡便をなす。
小峰柳多	工業進路の發見	四六判	布裝	236	一、五〇	科學主義工業社	七月	▲理化學を第一とする科學主義工業を基礎に新しい工業經營方式を說述したもの。
日本工業新聞社編	工業取引案内 昭和十五年版	菊判	洋綴布	742	五、〇〇	日本工業新聞社	八月	▲内地は勿論臺灣、朝鮮、滿支等の外地迄も網羅收錄した工業取引案内第六卷。
獨逸和對譯 太陽堂編輯部編	工業用語集	新四六判	洋綴布	320	二、一〇	太陽堂	五月	▲工業各部門に於ける重要語句一萬を撰び獨和對譯なし英語をも參照なしたもの。

安藤彌一	工場改善 —日本の科學的工場管理—	洋菊	大二	732	ダイヤモンド社	十一月	▲工場管理に必要な各種圖表四十四圖を收め工場管理の科學的方法を說述す。	寺田武夫	工場經營	布菊	裝入列	253	叢文閣	七月	▲統制經濟下に於ける合理的工場經營の解述をなしたもの。
波多野貞夫	工場經營管理 第一編 總論	洋菊	布入列	570	千倉書房	九月	▲國家總動員法、事變に於ける能率問題、工場の經營と管理他六章にて說く。	小野寛德	工場事務の實際	洋四六	布入列	281	ダイヤモンド社	十月	▲工場事務管理上の基本問題を重點主義によつて取扱つたもの。
麻生五郎	工場設備の實務	洋四六	布入列	240	ダイヤモンド社	五月	▲工場計畫者が知つておくべき其本的事項を記述したもので總論、位置及び敷地他十二章	小野寛德	工場組織の實際	洋四六	布入列	247	ダイヤモンド社	七月	▲工場組織の基本理論に關する說述をしたもので、工場組織と工場經營他十一章。
通地暉一	工場動力節約法	洋菊	布入列	465	ダイヤモンド社	八月	▲工場動力（工場電力）消費の合理化を目的として記述したもので工場電動機取扱法其他	淡路圓治郎	職工養成	洋菊	布入列	584	千倉書房	八月	▲重工業部門の職工養成の原理と方法とを學術的に取纏めて說述なしたもの。
水野常吉編著	英和和英 新工業用語辭典	洋新四六	布	418	太陽堂	五月	▲工業學校關係者、機械工業實務者向に新しい工業用語を網羅して解說す。	日下宗基編	工學士 日・獨・英譯 製鐵用術語集	洋四六	布	159	昭晃堂	六月	▲製鐵從業者向に製鐵に關する術語を網羅して日・獨・英語にて對譯なしたもの。
加藤當二	工學士・經濟學士 速修機械工業ドイツ語	洋四六	布	154	工業圖書株式會社	十一月	▲工場技術者のために速修出來るやう機械ドイツ語の指導をなしたもの。	白井義三	商工省記官 代用品工業	洋四六	布	395	商工行政社	四月	▲代用品及び其工業の實體を眞實赤裸々に示したもので代用品工業振興の必要其他。
日滿技術員養成所編	日滿機械用語	洋四六	布	102	立命館出版部	五月	▲資源局選定用語を基本語として、日滿兩國に通用出來る機械用語の纂錄をなす。								

土木工學・土木材料

藤野	大分高等商業學校教授 靖	最近 日本工業政策要論	洋菊	布入列	418	叢文閣	六月	▲工業統制問題を中心として本邦現時の工業政策を論述なしたもの。	寺島柾史	商工省記官 發明二千六百年史物語	四六	布入列	353	啓文社	十一月
商工省工業品規格統一調査會編	JES日本標準規格解說 第一輯・機械工業	洋菊	布入列	394	日本工業協會（共立社發賣）	五月	▲第一輯は機械關係品及鐵鋼材料に關する規格を收めて解說を施したもの。	久保喜六	非鐵金屬統制	重要物資統制叢書	上四六	製列	336	商工行政社	一月
パースンズ著 牧野俊一郎・一治譯	ルネッサンスと近代技術 —ダ・ヴィンチの科學的業蹟—	洋菊	布入列	212	白揚社	十一月	▲神代より現今までの科學、工業上の發明發見と、發明家の業蹟とを平易に記述せるもの								
勝海恭次郎	寒中コンクリート工法	洋菊	布入列	164	興文社	三月	▲大陸にて實際に携はつた時の體驗を基とに寒中コンクリート工法の一般を記述す。	日本道路技術協會編	鋼道路橋設計示方書案解說	洋菊	布入列	182	修敎社	六月	▲過般成案を得て實行に移した、鋼道路橋設計示方書案の各條を收めて解述なしたもの。
清水篤磨	材料力學	洋菊	布入列	378	共立社	六月	▲高等工業學校の敎科書參考書向きに、材料力學の一般的記述をなしたもの。	日本技術協會編	技術者要覽テキスト 材料	並菊	製列	115	日本技術敎育協會	六月	▲機械と金屬、鑄鐵の話、鋼の話、材料試驗鋼の熱處理其他八講にて講述す。
松崎平治	土木工事 水理計算例及解說	洋菊	布入列	240	鐵道圖書局	五月	▲水理土木關係の實際工事に應用なし得る計算例を揭げて平明な解說をなしたもの。								

測量・製圖

久松忠一編	總合基本製圖 掃き方と用例	並菊	製列	91	西東社	十二月	▲綜合基本製圖に於ける描き方と其の用例を收めたもので、比例コンパス其他。								

建築・家具

著者	書名	叢書	出版者	年月	頁	圖	價	摘要
東京府立實科工業學校教諭 野々山佐一	機械製圖	實習指導	工業圖書株式會社	三月	179	540	一、二〇〇	▲講義と實習指導を兼ねた中等學校程度の機械製圖の解説をなしたもの。
濱松高等工業學校教授 藤井義信	機械製圖		丸善株式會社	九月	七〇〇	二二二	一、二五〇	▲濱松高工にて講述せる機械製圖に關する講義案を增補訂正なしたもの。
工學博士 杉浦宗三郎監修	機械製圖青寫眞法	最新	天泉社	八月	212	一二〇	一、二五〇	▲規格に準據して、初學者向きに製圖法の一般を指導したもの。
横山武人・山中秀男	機械製圖手本		共立社	四月	181	一二四	一、七〇	▲學校で製圖の實修に適當な圖面六十餘葉を收め製圖法の基本事項を簡潔に記述す。
盛岡工業學校教諭 松田辰司	機械製圖の引き方	現場實用	工業圖書株式會社	十月	145	一二〇	一、二〇	▲製圖の必構へ、合理的製圖法、製圖作法の委勢の三つに重點をおいて指導す。
久留米高等工業學校教授 大久保正夫	機械製圖	日本標準規格	太陽堂	二十月	184	一二〇	二、〇〇	▲日本標準製圖規格を詳細に解説した書で、投象法、文字及び線等十三章。
佐藤巳之吉	建築設計及製圖法		中央工學會	十月	112	二二四	三、八〇	▲製圖法の基礎學たる一般用器畫法より次第に建築圖法を説明なしたもの。
宮脇保治	自習機械製圖法		中央工學會	四月	164	一二〇	一、二五	▲日本標準規格に依る製圖方式を示して、立體的の想像力涵養を計つたもの。
山中秀男	JES製圖規格と其應用		共立社	四月	131	一二〇	一、二〇	▲JES第一一九號の製圖規格を逐條解説しその具體的應用を述べたもの。
工學士 中川三郎	測定工具及測定法		太陽堂	八月	274	二二四	三、〇〇	▲普通機械工場で取扱ふ測定工具の説明とその取扱ひ法を述べたもの。
工學士 吉方讓一郎	立體圖學 上卷		裳華房	一月	306	二二四	三、七〇	▲高等學校程度の圖學の教科書及參考書として圖學の基礎を平易に述べたもの。
大久保正夫・木村秋夫・溝呂木一夫	立體圖學		太陽堂	十一月	85	二二二	一、〇〇 九	▲十五時間位で一通りの知識を修得出來るやう立體圖學の講義をなしたもの。

著者	書名	叢書	出版者	年月	頁	圖	價	摘要
	洪洋社編		居間・應接・食堂の構成	建築雜誌第十期(19)	48	四六倍判製	一、二〇	▲居間、應接、客間、供待、食堂等を關東・關西の代表的建築によつて示す。
	洪洋社編		喫茶店の新構成	建築寫眞集第十期(24) 卷二	40	四六倍判製	一、二〇 九	▲東京銀座及新宿を主とする喫茶店の建築構成を蒐めたもの。
	洪洋社編		近代家具裝飾資料	卷三十一輯	20	四六倍判製	一、二〇	▲銀座松屋にて開催せられた新作和洋家具展集・二を寫眞圖版にして收めたもの。
	洪洋社編		近代家具裝飾資料	第三十二輯	20	四六倍判製	一、二〇	▲日本橋三越で開催された、新設計室内裝飾展集（五）を圖版にして收めたもの。
	洪洋社編		近代家具裝飾資料	第三十三輯	20	四六倍判製	一、二〇	▲三越本店にて開催せられた趣味の和家具展集・四を圖版にて收めたもの。
	洪洋社編		近代家具裝飾資料	第三十四輯	20	四六倍判製	一、二〇	▲「新設計洋家具」店と「洋家具逸品會」の二家具展集の代表的作品を紹介す。
	洪洋社編		近代家具裝飾資料	第三十五輯	20	四六倍判製	一、二〇	▲伊勢丹「丹麗會家具展」東横百貨店「新作洋家具陳列會」の作品を收錄す。
	洪洋社編		近代家具裝飾資料	第三十六輯	20	四六倍判製	一、二〇	▲日本橋白木屋にて開催せられた、洋家具逸品會展觀集・三を收めたもの。
	大稱恒	建築模造	計算表及圖表		117	四六倍判上製	二、三〇	▲一般建築家が遭遇する代表的構造の一部分を解析して其結果を收錄す。
大阪市立都島工業學校青藍會編	建築設計優秀作品圖集		修文館	五月	47	四六倍判製	五、〇〇 二二	▲最近十年間都島工業學校生徒の作になる建築設計圖の優秀なものを集錄す。
	大河原達海	最新	建築設備	五月	173	四六倍判	二、〇〇 二四	▲工業學校の教科書・參考書として、建築設備に關する工事設計・施工等を記述す。
林學士 田中勝吉	建築用耐火木材		丸善株式會社	三月	184	四六倍判	二、五〇 二四	▲建築用耐火木材に就ての一般的知識を平易に設述したもの。
	堀口甚吉		建築力學		468	四六倍判	四、八〇 二二二	▲建築構造物を設計するに必要な材料力學、構造力學、架構力學等に就て詳述なす。

吉田全三 建築工事	仕様見積	洋菊倍	363	二、五〇 一四	吉田工務所出版部	三月
阿部正雄	趣味の建具圖案集	並四六倍	60	三、五〇 一四	洪洋社	五月
長尾勝馬	新らしい住宅の間取・住宅設計間取板・住宅間取用方眼紙	洋菊倍	81	二、八〇 一二	横山書店	二月
住宅と庭園社編	三〇坪までの住みよい住宅間取圖集 第一輯	四六倍	96圖 18	三、八〇 二二	敬天書房	八月
住宅と庭園社編	三〇坪までの住みよい住宅間取圖集 第二輯	洋四六倍	100圖 13	三、八〇 二二	敬天書房	十月
洪洋社編	新興しるこ店集	並四六	40圖	一、三〇 一〇	洪洋社	六月
洪洋社編	數寄屋趣味の料亭 建築寫眞類聚第十期(21) 巻三	並四六	40圖	一、三〇 一〇	洪洋社	四月
日本電建株式會社編	中小住宅百撰集	洋菊	201	二、三〇 一四	日本電建株式會社出版部	七月
洪洋社編	床の間 建築寫眞類聚第十一期(1) 巻六	並四六	40圖	一、三〇 九	洪洋社	十一月
澁谷五郎 長尾勝馬	日本建築 下巻	洋菊	434	三、五〇 二二	修文館	五月
足立康 工學博士	日本建築史 大觀日本文化史叢書	上新四六	192	一、四五 九	地人書館	十一月
洪洋社編	日本趣味の店舗 建築寫眞類聚第十一期(2)	上四六	40圖	一、三〇 九	洪洋社	十二月
關野貞 工學博士	日本の建築と藝術 關野博士論文集(1) 上巻	洋菊	218 840	七、三〇 二二	岩波書店	六月

▲家屋を建築するに必要な圖面、仕様書、見積書の内建築工事の仕様見積に就いて述ぶ。

▲住宅、別荘、料亭、旅館等の建具製作を指導し、製作した時の實作圖案を收錄す。

▲新らしい住宅設計に關する間取知識を理論と板により説明し方眼紙をも附す。

▲三十坪以内の中小住宅設計圖面多數を收めたもの。

▲三十坪までの住みよい平家、二階家等の各種間取圖を多數收めたもの。

▲新宿、銀座にその新裝を競へる汁粉店中七店を選んで其店舗を圖版にて説明す。

▲築地の「米田屋」と四谷の「たちばなや」の二料亭の各室を收めて説明をなしたもの。

▲木造建物建築統制規則に依る中小住宅の設計圖百種を選んで蒐す。

▲藤村氏邸客間、O氏邸夫人室、山口氏邸客室、神道氏邸客室等其他を網羅したもの。

▲下巻は特殊構造解説の巻で第七篇住宅設計第八篇垣・塀・門・庭他二篇を收む。

▲樣式史的立場より、遺構によつて日本建築變遷の大要を記述なしたもの。

▲日本趣味の店舗建築を收めたもので、平野屋、やまと屋、大和屋、喜の字屋其他。

▲日本建築に及せる大陸建築の影響、日本建築史、日本古瓦文樣史他三篇の論講集。

機械工學

伊東忠太	法隆寺	創元選書(65)	上新四六	204	一、四〇 一〇	創元社	十一月
洪洋社編	浴室・洗面・化粧室の構成 建築寫眞類聚第十期(20)	並四六	40圖	一、三〇 一〇	洪洋社	三月
廣江文彦	理想の小住宅 三十坪以内	洋菊	219	二、三〇 一四	鈴木書店	六月
藏田周忠	陸屋根 —建築工藝小論叢第一—	上四六	348	二、五〇 一四	相模書房	六月
藤島亥治郎	琉璃塔	布四六	374	二、五〇 一四	相模書房	十一月
佐藤巳之吉	和洋建築工學	上洋菊	216	二、〇〇 一四	中央工學會	七月
ケッスベルク著 鈴木正雄譯	型打鍛造法	並菊	116	一、五〇 六	工業科學主義社	九月
石谷清一	汽罐の檢査標準と良否判定資料	洋菊	224	二、八〇 一四	共立社	三月
東京工學研究會編	教育用機械工學全講	洋菊	380	特三、〇〇 二四	國民圖書協會	十月
岩崎良助・芳村多一郎 江島水城・木岡仕	機械工學大意	洋菊	250	二、二〇 一四	工業圖書株式會社	五月
橋本宇一 馬場秋次郎編	機械工學必携	洋三五	873	四、〇〇 一〇	三省堂	二月
日立航空機株式會社技師 酒井重藏	機械工作實務	洋菊	410	四、二〇 二二	有象堂出版部	七月

▲法隆寺、飛鳥文樣の起源について、の二篇の論文集。

▲本輯は浴室、洗面、化粧室の實物寫眞を收めて指導す。

▲三十坪以内で出來る和風住宅の設計指導をなしたもの。五十餘種の例を記載す。

▲白いマッチ箱の樣な住宅、住宅と太陽、茶の間と廣椽とサンルーム等其他の隨筆集。

▲建築形成の技術的考察、建築史の效用性、日本の風土と建築等其他の評論隨筆集。

▲工業學校建築科生徒向に建築工學の一般を平易に記述したもの。

▲型打鍛造法中の最も困難な鍛造工具の設計を中心にして多方面に亘つて敍述す。

▲汽罐及其の設備の檢査標準と良否判定資料汽罐の製作使用に關する技術規定を收む。

▲若き產業青年のために働きながら修得出來る機械工學の一般を講述なしたもの。

▲機械工學の基礎的事項を記述したもので、總論、材料力學、金屬材料、機械部分其他。

▲機械工業關係者に必要な事項を網羅分類し、て平明な解説を施したもの。

▲圖面の讀み方を揭げ、次に機械の構造、取扱ひ並に必要諸事項等を解説したもの。

橋井眞	重要物資統制讀本 機械の需給統制	四六判	並製	236	456	二、七〇	一四	商工行政社	十月	▲機械工業者及機械の入手を必要とする人々のために、機械統制の實際を案内す。							
瀬戸保	機械の不思議	四六判	並製	577	236	一、三〇	六	三省堂	九月	▲工業に從事する青少年向きに機械の概念を與へんとしたもの。							
アッシャー著 富成喜馬兵譯	機械發明史	菊判	洋裝	202	577	四、五〇	二二	岩波書店	七月	▲ハーヴァード大教授フィッシャーの "A History of Mechanical Inventions" の譯							
鈴木久王 中川武夫	金屬整流器	菊判	洋裝	202	147	三、〇〇	一四	有象堂出版部	五月	▲金屬整流器の一般性質、理論、用途等を記述なしたもので金屬整流器概論他二章。							
熊谷直次郎	研削砥石の性能と其の選擇法	菊判	洋裝	147	202	二、二〇	一四	共立社	二月	▲研削砥石の性能を詳說し、之の用途に對する選擇目標を示したもの。							
小谷部久治郎	機械工作 工員技術讀本	菊判	並製	326	431	三、〇〇	九	人文閣	九月	▲小學校卒業程度の見習工に理解出來得るやう機械工作に關する知識を說いたもの。							
相口孝生	工作機械と工具	菊判	洋裝	431	326	五、〇〇	二二	有象堂出版部	七月	▲重工業の最大要素をなす工作機械と工具及作業等について平明な記述をなす。							
橋井眞	商工省一般機械課長 重要物資統制讀本 工作機械と自動車統制	菊判	上製	270	151	二、〇〇	一〇	商工行政社	二月	▲機械製品中重要なる工作・自動車に就いて其概要を記述し、統制の經過概要を敍す。							
北垣豐治	現帝國實用 鋼の熱處理	四六判	洋布	151	270	一、二〇	一〇	工業圖書株式會社	二月	▲容易に會得することの出來ない鋼の熱處理を平易な理論と實際とによつて說明す。							
南野政延	實地旋盤工作法	菊判	洋裝	241	151	一、七〇	一〇	太陽閣	十月	▲實際に役立つ旋盤工作法を指導したもの、ねぢの切り方を附錄とす。							
勝田豐夫	實地熔接術	菊判	並製	237	326	二、七〇	一四	修教社	六月	▲見習工の養成を主眼として熔接作業の實際を平明に記述指導なしたもの。							
菅原雄	京都帝國大學教授 工學博士 新撰 蒸汽タービン	菊判	洋裝	391	150	四、五〇	二二	養賢堂	六月	▲緒論、蒸汽タービンの基本型、ノズル及び回轉羽根中の流動他八章にて記述す。							
佐野益太郎	ストレインメータ	菊判	洋布	315	456	一、五〇	一〇	文憲堂	十月	▲ストレインメータに關する一般的概說をなしたもので、機械的擴大歪計他五章。							

工學博士 青木保	精密工學(3) 精密機械設計學	菊判	洋布	315	四、五〇	一四	丸善株式會社	五月	▲第三卷は緒論、運動學的設計、接合機構、動力と驅動他二篇にて精密機械設計を說く。								
倉田晉吉	船・舶構造	菊判	洋裝	339	三、五〇	一四	修教社	五月	▲船舶構造の理論と實際とを記述したもので船體强力概說、龍骨及び底部縱通材其他。								
日本技術教育協會編輯部	技能省略式テキスト 旋盤 二	菊判	並製	163	八〇	九	日本技術教育協會出版部	二月	▲旋盤卷二は、丸棒仕上、溝入ピン仕上、雄ねぢ切り、バイト研ぎ、座金削り其他。								
香村小錄監修	最新 旋盤機械仕上實習法	菊判	洋裝	233	310	一、五〇	一〇	テンセン社	三月	▲初等卒業程度の人々のために旋盤機械仕上の基礎的學理と實地を指導なしたもの。							
平松秀三	旋盤工教科書 附・旋盤基本實習教程集	菊判	洋布	310	二、六〇	一四	大日本工業學會	六月	▲小學校卒業程度の少年を目標として短日月で養成出來る旋盤工作法を說く。								
長野宇平治監修	實地 旋盤工作法	菊判	洋裝	217	一、五〇	一〇	テンセン社	一月	▲旋盤工作法を平易に說明したもの。								
奥富系司	最も新しく良くわかる 旋盤作業法精說	菊判	布裝	286	一、八〇	一四	新生閣	一月	▲旋盤の構造と種類、旋盤用の双物、旋盤用測定器具、旋盤作業の實際他一章にて說く。								
田中寺三郎	旋盤仕上實習法	菊判	洋裝	538	二、二〇	一〇	天泉社	十二月	▲基礎的な學理と實地指導を目的として敍述した書で、旋盤の構造と其の機能等廿六章。								
香村小錄監修	最新 鍛工作業の實習及燒入れ秘法	菊判	洋裝	223	一、五〇	一四	テンセン社	二月	▲鍛冶工作業の實習と燒入れの方法とを說いて鍛冶工に志す者の道案内をなしたもの。								
南大路謙一	天井走リクレーン設計大意	菊判	洋裝	195	二、五〇	一四	工業圖書株式會社	六月	▲機械設計學と構造力學との初步を習得した人に理會出來る天井走リクレーンを講述す。								
小林勝	鐵道省運轉局 内燃機關の取扱法及び試驗法	菊判	洋裝	410	五、八〇	三三	山海堂出版部	十一月	▲自動車機關、航空發動機等を始めとして各種内燃機關の構造、取扱、試驗法等を記述す								
E・D・ジョーン著 森道雄譯	工學士 加納俊介	菊判	洋裝	255	二、八〇	一四	太陽堂	七月	▲旋盤仕事のうち最も重要且困難なねぢ切り仕事の實際を平明に說いたもの。								
F・オパーグ著	機械工作 ハンドブック	菊判	洋布	1499	九、五〇	二三	誠文光社	十二月	▲設計室及び機械工場に於て利用さるべく編纂された書で、數表、計算尺其他。								

小林節造	現場實用 フライス盤の使ひ方	四六判 洋布	137	一、三〇 九	工業圖書株式會社	八月	▲長年の體驗を公開して初學者のために、フライス盤作業の實際を指導す。
相澤次郎	プレス作業	菊判 洋函布入	315	三、八〇 一四	修教社	二月	▲プレス作業の基礎的事項を說いたもので、プレス加工・計畫、各種プレスの解說他三章
蘆田靜馬	レンズの設計と測定	菊判 洋函布入	214	二、八〇 一四	河出書房	十一月	▲實地の經驗を參考として、レンズ設計計算の實際に關する梗概を記述す。
工學博士 藤田保太郎	冷凍工學	四六倍判 洋函布入	463	七、五〇 三二	丸善株式會社	四月	▲冷凍工學に關する全般的記述をなしたもので、熱力學の基礎的法則、蒸發と凝結其他。
安川繁吉	解り易い鋼の熱處理	四六判 洋函布入	107	一、〇〇 一〇	修教社	四月	▲一熟練工としての三十五年間の體驗を基とに鋼の熱處理に關する知識を說いたもの。

航空・船舶・自動車工學

自動車工學社編	自動車新知識 工場ノート	菊判 並製	120	一、五〇 一〇	德文堂	十二月	歐米最近の自動車界に於いて實際應用出來る新知識・新研究三五〇項目を說く。
遊上尙磨	航空機電氣裝備	菊判 洋函布入	331	四、〇〇 一四	工業圖書株式會社	十月	▲發動機點火裝置、發動機起動裝置、機上電源裝置、機上照明裝置他二編を收む。
日本航空學會編	航空工學便覽	菊判 洋函布入	856	四、五〇 一四	日本航空學會（岩波發賣）	十一月	▲航空工學全般の概念を、各部門の技術者が分擔執筆なしたもの。
關根仁	航空船工學 —航空機工學—	菊判 布函裝入	圖版16 322	三、五〇 一四	東學社 丸井書店	十二月	▲主として氣球及船體關係の器材に就て敍述した書で、浮揚瓦斯、自由氣球他二篇。
金澤修三	自動車及航空機の電氣裝置	菊判 洋函布入	248	三、五〇 一四	共立社	七月	▲自動車の神經系統とも稱すべき電氣裝置に關して記述したもので電氣理論の大要其他。
鐵道技師・工學士 築山閏二	自動車工學	菊判 洋函布入	500	五、五〇 三二	山海堂出版部	五月	▲國防に產業に重要性を增して來た自動車に關する知識を設計工作等の技術より說く。
陸軍步兵中佐 杉谷宗一	發動機用潤滑油ノ實用的研究	菊判 洋函布入	92	二、〇〇 一〇	陸軍戰車學校將校集會所	一月	▲高速度內燃機關の設計及取扱上重影響を及ぼす潤滑油の研究をなしたもの。

大阪帝國大學助教授 三木鐵夫	航空機工學 飛行機設計 下卷	菊判 洋函布入	211	二、八〇 一四	東學社 丸井書店	十二月	▲下卷は艤裝兵裝及び細部設計、飛行試驗と設計との關係の二章及び附錄。
竹內順三郎編	航空機工學 飛行機電氣工學	菊判 洋函布入	320	三、五〇 一四	東學社 丸井書店	十二月	▲飛行機に關する電氣的重要なる部分に就て說述した書で、電氣と磁氣の原理其他。
內燃機關編輯部編	圖集解說 飛行機・發動機・戰車	新菊判 洋函布入	323	四、五〇 二三	山海堂出版部	六月	▲世界各國の航空機、戰車、裝甲自動車の內燃機關圖を集めて解說したもの。

電氣工學

工學博士 田中正三郎	應用電氣化學概論	菊判 洋函布入	358	四、五〇 一四	內田老鶴圃	五月	▲高等專門學校程度の應用化學、藥學、冶金、電氣等の諸科に於ける應用電氣化學を述ぶ。
遞信省電氣試驗所 金子淸次	强電解質論	菊判 洋函布入	246	三、〇〇 一四	昭晃堂	四月	▲溶液の組成、溶液の熱力學、電離說、稀薄な强電解質溶液の熱力學的性質他五章を收む
大阪帝國大學教授 工學博士 望月重雄	高壓電氣工學	菊判 洋函布入	215	二、五〇 一四	工業圖書株式會社	十月	▲空氣の絕緣破壞、他の誘電體に隣接せる空氣の破壞他八章にて記述す。
船曳春吉譯	高周波絕緣物	菊判 洋函布入	195	二、四〇 一四	有象堂出版部	三月	▲イー・アルベールズ・ションベルグの「高周波絕緣物」を飜譯す。
仙波猛 根本忠次郎	最新電氣材料 上卷	菊判 洋布	165	二、三〇 一〇	昭晃堂	七月	▲現在使用されてゐる電氣材料に就き主として其性能に重きを置いて記述したもの。
日本技術教育協會編	技能者養成テキスト 材料・電氣・製圖 —一二—	菊判 並製	178	一、一〇 九	日本技術教育協會	七月	▲本輯は材料、電氣、製圖の各第二講を收めて說述したもの。
工學士 道田貞治	日本工學全書 實用電話學 後篇	菊判 洋函布入	251	三、〇〇 一四	工業圖書株式會社	十二月	▲後篇は主として線路の建設、保守及び電話電送に關する技術に就いて講述す。
池田榮一 田邊陸治	實用 初等電氣工學 第一卷	菊判 洋布	174	一、八〇 一〇	昭晃堂	八月	▲第一卷は電氣工學の全般を平易簡明に記述したもので工業と電氣、電氣理論其他。
藤川由太郎 藤井眞一	綜合電氣工學 上卷	菊判 洋函布入	264	三、〇〇 一四	昭晃堂	五月	▲高等工業程度の電氣工學を一般向に講述したもので上卷は電氣磁氣學、直流工學の二篇

無線工學

著者	書名	出版社	頁	定價	年月	内容
工學士 鏡山俊夫	實用電氣工學叢書(4) 炭礦の電氣	菊判	159	一、五〇	三月	▲近代炭礦が如何に電氣の必要を示してゐるかを說いたもの。
鈴木良藏	蓄電器	菊判	366	三、八〇	六月	▲電氣通信工學に不可缺な蓄電器の一般を說述したものでコンデンサーの概念他三篇。
工學博士 田中正三郎	初級電氣化學	菊判	132	二、〇〇	九月	▲電氣化學總論、水溶液電氣化學工業、高溫電氣化學工業の三篇にて述ぶ。
田中正三郎	電氣化學測定及び試驗法	菊判	166	二、四〇	四月	▲水溶液の電氣化學に於ける測定及試驗に必要な機械器具類の實驗操作等を簡明に記述す
額田巖	電氣過渡現象	四六倍判	381	九、〇〇	九月	▲直流回路閉成、直流回路開放、交流回路、回路定數を變更する場合他四章にて述ぶ。
逓信技師・工學士 早田保實	電氣回路理論に於けるマトリクスの應用	菊判	372	四、〇〇	三月	▲理論・應用の二篇にてマトリクスに依る電氣回路理論を究明したもの。
リヴシツツ著 岡村忠雄・和田重雄・三好義太郎譯	電氣機械 第三卷	菊判	481	三、八〇	六月	▲第三卷は電氣機械の設計に關する實際的な說明で磁氣回路漏洩磁束他九章を邦譯す。
大谷元夫	電氣機械 ダイヤモンド產業全書(20)	四六判	292	二、〇〇	九月	▲電氣機械及電氣機械製造工業に對する一般人の稍々專門的な常識を目標として述ぶ。
大川堅三	電氣機械の故障と對策法	菊判	208	二、六〇	十月	▲緒論、溫度、上昇、卷線に關する諸問題、直流發電氣、直流電動機他七章にて述ぶ。
高橋銀藏 酒井永治	初級電氣材料	菊判	153	一、三〇	一月	▲教科書向きに電氣材料の一般を概說したもので電氣材料概說、裸電線と導體他十篇。
伊藤專治	電弧爐製鋼法	菊判	302	三、五〇	九月	▲電氣爐の變遷とその將來性、電氣爐に於ける使用材料等他十一篇にて記述す。
石井義雄	誘導式電氣爐製鋼法	菊判	150	二、五〇	十二月	▲誘導爐に關する一般的記述をなしたもので低周波誘導式電氣爐、電氣製鋼用材料其他。

著者	書名	出版社	頁	定價	年月	内容
宗友參雄	良く解る 新しい航空無線	菊判	160	一、七〇	十二月	▲通信用送受信機、機上受信に於ける妨害及び其の除去法等十章にて說述。
加藤利治	ラヂオ科學全書(13) 陰極線オツシログラフと測定	四六判	180	九〇	九月	▲陰極線オツシログラフ、時間軸、陰極線オツシログラフの附屬裝置他三章にて述ぶ。
生駒正吉	ラヂオ科學全書(17) 警急自動受信機	四六判	171	八五	一月	▲警急機の概念、繼電器、警急自動受信機、の三章にて述べたもの。
大井脩三	ラヂオ向に必要な 故障修理の知識 下卷	四六判	302	二、〇〇	二月	▲下卷はスーパーの調整と修理、高級電氣蓄音機並に擴聲裝置の故障修理法其他を收む。
平岡寛二	逗子高工助教授 航空無線	菊判	164	一、五〇	三月	▲我國に於ける航空無線施設の趨勢を紹介し其基礎的事項をも說述す。
谷口康雄	ラヂオ科學全書(12) 高速度通信機	四六判	193	九五	七月	▲電氣通信の話、電信の話、高速度自動通信機の話、高速度通信の話の四章にて說く。
日本放送協會編	實用放送工學 中卷	菊判	501	三、三〇	五月	▲中卷は第五篇音響概論、第六篇演奏所設備第七篇放送所設備、第八篇特殊放送の四篇。
日本放送協會編	實用放送工學 下卷	菊判	598	三、三〇	九月	▲下卷は第九篇受信機、第十篇聽取障害、第十一篇テレビジョン放送の三篇を收む。
品田敏雄	ラヂオ科學全書(16) 周波數標準と精密測定	四六判	219	九〇	十一月	▲周波數測定器中精密な周波數の測定に用ひられる裝置と、周波數標準器に就き述ぶ。
百塚平 東新次郎	ラヂオ科學全書(15) 常識ラヂオ技術學	四六判	183	八五	九月	▲ラヂオ技術の知識のない人々のために、其概略的な常識を與へたもの。
逓信省官吏練習所 大熊安雄	眞空管と其回路	菊判	284	二、〇〇	一月	▲通信技術者に重要な眞空管の平明な說述をなしたもので振動回路、結合振動回路他八章
上野辰一	眞空管の特性及び試驗法	菊判	320	四、一〇	八月	▲眞空管基礎理論、眞空管靜特性、眞空管動作特性等他二章にて說述す。
上島雀也	ラヂオ科學全書(11) スーパーヘテロダイン受信機	菊判	218	九五	七月	▲今後ラヂオを學ばんとする人々のためにスーパーの概要を平明に解述したもの。

採鑛・金屬・冶金

鑪一一	送信機試驗法（ラヂオ科學全書(14)）	上海三六製入判	218	九〇	科學ラヂオ社	十月	▲送信機試驗に必要なる基礎知識、送信機の調整法並びに試驗の順序とその目的他一篇。
甲斐季正	增幅器（ラヂオ科學全書(6)）	上海三六製入判	230	九五	科學ラヂオ社	三月	▲中等學校程度の知識で理會出來る增幅器の全般的講義をなしたもの。
ラヂオ科學社編	テレビジョン早わかり	上海菊製判	190	一〇五	科學ラヂオ社	十一月	▲テレビジョン概論（丹波日出夫）他二十二講。
岡部金治郎	特殊熱電子管	洋菊布入判	112	二〇〇	修教社	九月	▲特殊熱電子管に關する一般を記述したもので、二次電子放射を利用した電子管其他。
谷村功（逓信省技師）	方向探知と無線標識（ラヂオ科學全書(7)）	上海三六製入判	103	六〇	科學ラヂオ社	三月	▲方向探知を應用した無線羅針、無線標識に關する概念を平明に說いたもの。
稻田三之助	無線工學（中卷）	洋菊布入判	373	三五〇	誠文堂新光社	六月	▲中卷は第四編無線送信機、第五編無線受信機、第六編空中線の三篇を收めて說述す。
半澤正夫（日本電氣株式會社技師）	無線工學の基礎	洋菊布入判	269	二九〇	有象出版部	二月	▲技術者としての體驗を生かし、無線工學全般の基礎的智識を說述したもの。
H. P. Manly 著 森田基久一譯	無線大辭彙（英和）	洋菊布入判	593	八五〇	誠文堂新光社	六月	▲無線の知識を明確に通俗に說述した "Drake's Radio Cyclopedia" の第四版を全譯す
松本進	無線用變壓器（ラヂオ科學全書(10)）	上海三六製入判	196	九五	科學ラヂオ社	七月	▲オームの法則、電力・能率、電源用變壓器の二章にて說述したもの。
丸山助次郎（理學士）	最新ラヂオ入門讀本	上菊製判	201	二一〇	天泉社	七月	▲ラヂオ受信機の原理、組立設計の解說、故障の診斷法と修理法等を平明に述べたもの。
ラヂオ科學社編	ラヂオ用部分品の選び方使ひ方（ラヂオ科學全書(9)）	上菊製判	240	一〇〇	科學ラヂオ社	五月	▲抵抗の話（山内峰友）バリコンの話（鑪一一）他三十七篇の講座を收錄す。
山内峰友	ラヂオ用部分品の研究	上海三六製入判	204	九五	科學ラヂオ社	六月	▲實用上の知識を旨としてラヂオ受信機部分品の研究をなしたもの。

山本洋一（理化學研究所員・理學士）	化學機械用金屬材料學	上海四六製入判	473	六〇〇	工業圖書株式會社	八月	▲化學機械の構成に於ける金屬材料の知識を平易に記述したもの。
矢口武雄（鑛山技師）	金鑛と砂金及岩石地質	上海四六製入判	124	一一〇	工文社	七月	▲鑛山の發見、鑛業知識の參考として述べたもので山金と砂金、岩石地質等其他。
科學畫報編輯部編	金山發見法	上海四六製入判	235	一八〇	誠文堂新光社	五月	▲金山發見の傳說、金山發見の歷史、近代に於ける金山發見其他にて述べたもの。
日本學術振興會編	金屬材料（二・金屬特論）	洋海四六倍入判	209	五五〇	岩波書店	九月	▲金屬材料の熱處理（濱住松二郎）金屬の磨耗（鈴木益廣）他三章を收めたもの。
西村秀雄（京都帝國大學教授・工學博士）	金屬材料（第二編各論）	洋菊布入判	348	三六〇	工業圖書株式會社	四月	▲各論は地金、工業用純金屬の性質、金屬及合金の溶解他五章にて說述す。
山口巖（日本標準規格に據る判りよい）	金屬材料	洋海四六布入判	307	二〇〇	知進社	七月	▲若い技術者に工業金屬材料の實際的に必要と思はれる知識を分り易く說明したもの。
飯高眞一郎殿統	金屬材料大要	菊製判	153	一五〇	三省堂	三月	▲金屬材料の基礎的知識を平易に講述なしたもの。
山本洋一	金屬材料の腐蝕的性質	洋菊布入判	205	二一〇	修教社	五月	▲緒論、腐蝕的性質總論、腐蝕試驗法、腐蝕的性質各論の四篇にて記述す。
小川康一造（青木敏）	金屬迅速分析法	洋菊布入判	381	四〇〇	修教社	二月	▲鐵鋼分析法、銅合金の分析、アルミニウム合金の分析等九章より成る。
Grange Road 著 林良一譯	金屬とガス	洋菊布入判	198	二四〇	修教社	四月	▲金屬の氣體吸着、溶解並びに金屬內氣體擴散現象等に就き實際的に述べたものの譯。
栗田常雄（日立航空機株式會社技師）	輕合金迅速分析法	洋菊布入判	245	三〇〇	工業圖書株式會社	十二月	▲輕合金の分析法を、專ら工業的實用を目標として述べた書で Mg 合金の分析法其他。
高瀨孝次	航空機用金屬材料	洋菊布判	154	一五〇	工業圖書株式會社	七月	▲航空機用金屬材料に就いての全般的常識事項を記述したもの。
科學畫報編輯部編	鑛山讀本	上海四六製入判	224	一八〇	誠文堂新光社	一月	▲鑛山に關する全般的な知識を平易に述べたもので、鑛床と鑛山、鑛山の事業其他。

内藤訓夫	鑛山の探し方と鑛石の見分け方	上函菊製入判	309	四、八〇一四	昭和圖書部出版	七月	▲専門的理論や説明を除いて、探鑛法並に鑛石の鑑別法に就て其概略を記述したもの。
栗津秀幸	鑛山の調査事項	洋函菊布入判	283	四、〇〇一四	共立社	四月	▲鑛山の實地調査、現場員の實地指導、鑛山土木の設計等に必要な事項を網羅記述す。
寒川俊太郎豐澤豐雄	鑛山發見讀本	四六判布装	163	一、五〇九	厚生閣	七月	▲一般鑛物の鑑別に必要な基本的知識を與へて、鑛山の發見法を述べたもの。
工藤繁	鑛石及び冶金產出物の工業分析法	洋函菊布入判	238	二、二〇一四	修教社	七月	▲普通元素に對し一般に採用せられ且最も妥當と思はるる代表的分析法を數種宛收輯す。
科學畫報編輯部編	鑛石鑑定法	洋函四六布入判	426	二、八〇一四	新誠文光社	九月	▲鑛石に對する概念的論述をなし、各種鑛石の實際的鑑定法を記述なしたもの。
後藤正治（工學博士）	合金（第四卷 學）	洋菊布判	1094	二、〇〇三二	富山房	七月	▲本輯は金屬組織及總論並に熔解・鑄造・加工等其他を收めて説いたもの。
石井義雄	最新特殊鋼の知識	上四六製判	97	八五六	錦正社	十一月	▲初學者向きに特殊鋼とは如何なるものであるかと云ふ事を説いたもの。
江西地質調査所編（支那經濟資料(20)）	支那タングステン鑛誌	並函四六倍製入判	203	一〇、〇〇二二	生活社	二十一月	▲江西省西南のタングステン鑛重要產地を逐一探測して記述せるもの。
コリンス著 西村雄三譯	支那の鑛床及鑛業	洋函菊布入判	294	二、五〇一四	白揚社	一月	▲コリンスの "Mineral enterprice in China" Revised edition 1922 の邦譯
村澤宏（京都帝國大學教授 工學博士）	世界各國の製鐵工業	洋函四六倍布入判	340	八、〇〇二二	工業圖書株式會社	五月	▲Sudeten問題の起りかけたる一九三七・八年頃を主にして世界各國の製鐵事情を記述す
伊木貞雄（明治專門學校教授）	石炭・石炭瓦斯及コークス（實用化學工業叢書(3)）	洋函菊布入判	348	三、五〇一四	太陽閣	二十月	▲石炭、石炭瓦斯及びコークスの加工利用に關する全般的の事項を述べた書。
伊能泰治	洗炭	洋函菊布入判	232	三、〇〇一四	共立社	四月	▲現在の洗炭作業の原理及實際を平易に記述せるもので、洗炭の歷史的概説其他。
遠藤彦造	耐鹽酸合金	洋函菊布入判	160	二、二〇一四	修教社	五月	▲實用的材料とまでは行かぬ研究範圍内の各種合金の耐鹽酸性を比較記述なしたもの。

日本工業新聞社編	探鑛から製錬まで	上函四六製入判	236	二、二〇一四	日本工業新聞社	二十月	▲探鑛から製錬まで（青山秀三郎）鑛石製錬の過程（池田謙三）等四篇。
石井義雄	鑄鐵（上卷）	洋函菊布入判	256	三、五〇一四	太陽堂	二十月	▲工作機械の主體をなす鑄鐵の研究で、上卷は鑄鐵の熔解法等五章。
相浦泰（鑄物作業全書）	鑄鐵鑄物（鑄造十物）	上菊製判	137	一、二〇九	三省堂	十月	▲鑄鐵鑄物の地合配合と熔解を除いた其他の技術に就いて説明指導なしたもの。
吉原幸一他三氏	鑄物專門作業法	洋函菊布入判	275	三、二〇一四	工學書院	九月	▲工場生活をする四技師が鑄造技術の理論と實際を簡潔に記述したもの。
佐々木格三猪俣政義	續鐵鋼統制の實際知識	並四六製判	388	三、八〇一〇	人文閣	四月	▲曩に出版せる「鐵鋼統制の實際知識」の續で、鐵鋼、鐵屑、特殊鋼・鑄鋼他二篇。
村上透	鍍金化學	洋函菊布入判	201	二、八〇一四	修教社	五月	▲鍍金技術の横觀的見地より、その基礎的知識を平易に解説なしたもの。
加藤健（ヒフオスター・ベイン著 譯）	東亞の鑛產と鑛業（東亞研究叢書(7)）	洋函菊布入判	373	三、五〇一四	生活社	二十月	▲近代產業の基盤たる鑛產物、石炭、鐵及び銅、硫黃及び硫化物他六章。
齋藤新吾	特殊鋼統制の實際知識	洋四六倍布入判	160	二、五〇一四	商工行政社	四月	▲特殊鋼統制の現狀について、その理論と實際を綜合的に論述解説したもの。
谷山巖	特殊鑄鐵・鑄鋼及び鋼材	洋函菊布入判	122	二、一〇一四	修教社	十月	▲特殊鑄鐵及び特殊鑄鋼等の低合金鋼材に就いて研究したもの。
山口貞申	ニツケル及ニツケル合金	洋函菊布入判	115	二、一〇一四	修教社	十月	▲ニツケルの一般的性質、ニツケル銅合金、モネル・メタル他六章にて記述す。
濱住松二郎（工學博士）	非鐵金屬及合金（增補近）	洋函四六倍布入判	268	一〇、〇〇三〇	内田老鶴圃	一月	▲ニツケルと其合金、銅及銅合金、アルミニウムと其合金他三篇にて説述す。
遠藤彦造（東北帝大教授・理學博士）	不銹鋼	洋菊布判	244	二、〇〇一四	仙臺書院	二月	▲不銹鋼の各種の材質につき物理的機械的の諸性質・熱處理等其他を平易に説いたもの。
松本十九	防銹及び防蝕塗料	洋函菊布入判	248	二、一〇一四	修教社	九月	▲金屬用防銹塗料に關する知識を繼めたもので、金屬の腐蝕、鐵鋼防銹塗料他二篇。

化學工業

阿曾八和太	燐鑛	洋菊布入判	365	四、五〇一四	丸善株式會社	四月	▲燐酸肥料の原料として缺くべからざる燐鑛の一般現狀と將來の動向等を述べたもの。
内田俊一・亀井三郎・八田四郎・次共著	化學工學	洋菊四六倍布入判	692	二、〇〇三、三	丸善株式會社	十二月	▲流動論、傳熱論、燃燒及工業窯爐、分離法概說、蒸發、蒸溜、抽出等他四篇にて記述す
長崎高等工業學校教授 鈴木恪雄編	最新化學工業辭典	洋菊四六布入判	227	一、八〇一、〇	工業圖書株式會社	一月	▲化學工業に關する一般的事項を網羅して解說を施したもの。
三羽忠廣・宇野征夫	化學工業廢物利用法 —無機篇—	洋菊布入判	437	五、五〇三、三	昭光社	二月	▲主要なる無機化學工業を題材に取り、其實施に際して生成される廢物の利用法を記述す
工學博士 中西健治	實用化學工業叢書(9) 硝子及其成形法	洋菊布入判	255	三、〇〇一四	太陽閣	五月	▲本書は無機硝子に關する特殊な性能と、性質を中心にして硝子工業の全貌を描く。
村上透	金屬着色法	洋菊布入判	137	一、九〇一四	修敎社	十一月	▲金屬着色に關する一般知識を記述したもので、緒言、着色に關する化學他六章。
河野武	ゴム及其の老化防止法	洋菊布入判	233	三、三〇一四	共立社	一月	▲ゴム、ゴムの老化、ゴムの老化防止方法の三篇にて記述したもの。
森山藤吉郎	ゴム配合古今集	洋菊布入判	145	五、〇〇一四	東榮社	十一月	▲本邦ゴム配合普及史、舊配合法、舊配合ダンロップ流、新舊配合、新配合法の五篇。
可物物文獻資料(2) 石丸兵内	ゴムライニング工業	上菊製判	84	一、五〇一〇	東榮社	十二月	▲著者の體驗から割出した最も効果的のゴムライニング方法と實際的配合を公表せるもの
理學士 下光太郎	合成ゴム	洋菊布入判	584	七、〇〇三、三	丸善株式會社	十月	▲緒論、合成ゴム發達の歷史、ヂエン類の製造法、ヂエン類の重合他四章にて記述す。
荻沼金雄	合成樹脂の配合	上菊製判	81	一、五〇一六	東榮社	二十月	▲合成樹脂の配合に就て平易に述べた書で、合成樹脂の配合其他。
楊大金著 星忠太郎譯編	支那の製造工業	洋菊布判	408	三、五〇一四	商工行政社	二月	▲現代支那各種製造工業の全般を記述した楊大金編「現代中國實業誌」二卷を譯編す。

王子健・王鎭中編 國松文雄譯	支那紡績業	洋菊布入判	297	三、一〇一四	生活社	四月	▲國民政府の國立中央研究院の調査になる七省華商紗廠調査報告の譯。
工學博士 秋田穣	自動車及航空機燃料	洋菊布入判	267	三、五〇一四	共立社	五月	▲自動車・航空機の燃料として重要な揮發油に關する諸知識を記述したもの。
中島武太郎	色染要項綜覽	四六倍布入判	551	四、〇〇一四	丸善株式會社	五月	▲諸般の染料要項を綜覽出來るやう編述せるもので第一編度量衡並計器等他十一編。
土屋知太郎編	實用油脂便覽	四六倍布入判	739	六、〇〇一四	工業圖書株式會社	二月	▲油脂に關する必要事項を網羅分類して解說を施したもので油脂化學、他八篇。
ダイヤモンド產業全書(21) 小林正	スフ	四六倍布入判	572	三、八〇一〇	ダイヤモンド社	十二月	▲スフを技術、經濟兩方面に亙つて鳥瞰圖的に記述した書で、スフの概念其他。
工學博士 山田桂輔	染色試驗法	洋菊布入判	146	二、五〇一四	修敎社	十一月	▲染色試驗法に就ての一般的記述をなしたもので、實驗測定に就いて他四章。
柴田林之助	染料工業化學	洋菊布入判	176	二、三〇一四	工業圖書株式會社	九月	▲後篇は染料中間體及び研究法について記述したもの。
安藤遇	染料膠質學	洋菊布判	384	五、八〇三、三	裳華房	四月	▲緒編、染料溶液、染色過程に於ける染料、纖維上に於ける染料の性狀の四篇にて說く。
日本學術振興會第十二小委員會編	染料年報 第四卷	洋菊布入判	416	四、〇〇三、三	共立社	八月	▲昭和十三年度に於ける染料界の趨勢、進歩新刊書、特許等を收錄したもの。
工學士 岩井信次	塗料	洋菊布入判	2817	三、〇〇一四	工業圖書株式會社	六月	▲製造法に重點をおいて我邦塗料の全面的記述をなしたもの。
理學博士 西澤勇志智	合成樹脂 プラスチック	洋菊布入判	693	一〇、〇〇三、三	内田老鶴圃	一月	▲現代に於ける合成樹脂プラスチックの全面的記述をなしたもの。
廣島高等工業學校教授 中江大部	實用化學工業叢書(1) 油脂及其製品	洋菊布入判	413	四、八〇三、三	ダイヤモンド社	十月	▲綿・スフ紡績作業上の最も必要と思はれる點をあげて詳述なしたもの。
森山弘助	綿・スフ紡績	洋菊布入判	413	四、八〇三、三	ダイヤモンド社	十月	▲油脂工業化學入門書として述かれたもので一般油脂化學、採油法、油脂蠟各論其他。

著者	書名	形	體	頁	定價	發行所	發行月	内容大意
工學博士 桑田勉	溶劑	菊洋	判	407	三、五〇一四	丸善株式會社	四月	▲現在迄に知られてゐる溶劑理論を紹介し各種の有機溶劑を統一し製法・解能を記述す。
市川良正	瀝青質塗料	菊洋	判	101	一、九〇一〇	修教社	九月	▲塗料用瀝青質材料の種類、性質、正しき使用法等を說述なしたもの。

印刷工業・手工業

著者	書名	形	體	頁	定價	發行所	發行月	内容大意
最新工業材料叢書 小倉正照	印刷用インキ類	四六洋	判	145	一、三〇六	共立社	一月	▲印刷インキは如何なる材料で、如何に製造されるか平易に述べたもの。

一六、農業

農業一般・農村經營

著者	書名	形	體	頁	定價	發行所	發行月	内容大意
杉野忠夫	現代農業叢書 新しき農業と分村計畫	新四六上製	判	237	一、四五一〇	地人書館	六月	▲凡有る因襲と情實とを打破つて新秩序へ出發せんとする新しき農業と分村計畫を述ぶ。
高谷茂樹	協同作業	四六並製	判	290	一、五〇九	昭和書房	十一月	▲神奈川縣N村X部落、秋收穫の（刈取脫穀麥蒔）協同作業報告を收めたもの。
增田亮一	興亞農村青年の行き方	四六洋綴布人	判	192	一、三〇一〇	泰文館	六月	▲日本農村青年の進むべき正しき道を明示して、銃後農村青年の生き方を述ぶ。
小野武夫	現代農業叢書 國家と農村	新四六上製	判	232	一、四五一〇	地人書館	六月	▲日本國家の興隆原理、非常時局下の農村生活、農村改革と東洋思想の三篇にて說述す。
奥谷松治	再編成過程の農業機構	菊洋綴布人	判	256	三、八〇一四	東洋書館	十二月	▲農業再編成に就て述べた書で、農地問題と小作料統制令、農業團體の再編成等十二章。
W・ウイルマンス著 勝谷在登譯	支那農業機構論	上菊製人	判	212	二、〇〇一四	慶應書房	三月	▲ライプチッヒ大學教授ウイルマンス博士の"Die Landwirtschaft Chinas"を全譯す
天野元之助	支那農業經濟論 上卷	菊洋綴布人	判	762	八、〇〇二二	改造社	八月	▲東洋的、支那的特徵の把握に努めつゝ、廣汎多樣な支那農村の姿相を解明す。
刈屋久太郎譯編	支那農村經濟の新動向	菊洋綴布人	判	280	二、八〇一四	生活社	八月	▲支那農村經濟の新動向、戰時下支那農村の光明面、戰時下支那農村の暗黑面他一章。

中農倶樂部編	時局農村讀本	四六判並製	394	一、九〇	地人書館	八月	▲國民經濟の再編成と農業（三宅鹿之助）農産品の配給統制（本多佐七）他十二篇。
信濃毎日新聞社編	農村青年報告	四六判並製	332	一、六〇	竹村書房	十二月	▲信州の農村青年の眞劍に闘つてゐる銃後の農村生活を報告したもの。
野口傳兵衛	戰時農業政策論	四六判布裝	338	二、〇〇	育生社	一月	▲土地問題、小作問題、農業經營の諸問題の三篇にて戰時下の農業政策を論述す。
ワグナー著 高山洋吉譯	中國農業	菊判並製	262	三、一〇	生活社	九月	▲支那農業を研究せるW・リグナー博士の"Die Chinesische Landwirtschaft"の前半譯
杉本俊朗譯	中國農村問題	菊判並製	337	二、〇〇	岩波書店	四月	▲中國の土地問題・農業經營・市場・金融・農村工業等の諸問題を科學的に分析敍述す。
印貞植	朝鮮の農業地帶	菊判並製	212	二、五〇	生活社	十一月	▲事變と朝鮮農村の諸動向、朝鮮の農業地帶、各地帶農業の實態調査他一章にて述ぶ。
菅原兵治	東洋治鄉の研究	菊判並製	424	三、五〇	刀江書院	十一月	▲東洋農村の本性、日本農村の使命、氣節凌霜の松ケ岡開墾（開拓の事例）他五章。
田邊勝正	日本小作料論	菊判並製	508	四、八〇	巖松堂	十一月	▲我國の農村構成上及農業上重要な地位を占むる、小作料を論述なしたもの。
櫻井武雄	日本農業の再編成	菊判上製	224	一、七〇	中央公論社	六月	▲事變を契機として大轉換期にある日本農業の再編成を論述なしたもの。
稲村隆一	日本農業必携	三六判裝	544	二、五〇	育生社	五月	▲農業全般に關する知識を手輕に引けるやう編んだもので農業の自然的環境他三篇。
河田正嗣郎	農家負債と其整理	菊判並製	452	三、八〇	有斐閣	二月	▲農家負債の意義原因等について經濟學的檢討をなし、負債整理に關する實狀を究む。
蘭村光雄	農機具取扱法（農業原動機第一）	菊判並製	282	三、一〇	賢文館	八月	▲農機具に對する平明な解説をなし、併せてその正しい取扱法を述べたもの。
米倉茂俊	農業共同經營の實證的研究	菊判並製	335	三、〇〇	昭和書房	十一月	▲福岡縣下に於ける調査指導の經驗を通じて農業共同經營の實際を記述なしたもの。

日本放送協會編	ラヂオ新書（25）農業經營と農家副業	三六判並製	187	五〇	日本放送出版協會	九月	▲時局下農業經營計畫の樹て方（石橋幸雄）時局下に於ける農家の副業（見坊豪光）他。
近藤康男編	佐藤寛次博士還暦記念 農業經濟學論文集	菊判並製	718	八、〇〇	日本評論社	四月	▲日本農業の特質（東畑精一）農家小組合の性格（我妻東策）他十六篇の論文集。
渡邊文太郎	農業再編成と統制法規	四六判並製	299	一、七〇	育生社	十月	▲戰時と農業再編成、戰時農業政策と農業立法、の二篇にて說いたもの。
農村問題研究會編	農業團體統制論文集	四六判並製	144	一、〇〇	協同組合新聞社	六月	▲國内體制强化と農業團體統制（豐福保次）他四篇の論文集。
會田甚作	農業と國土計劃	菊判並製	220	三、三〇	泰文館	四月	▲日本農業の國家的使命を强調し、農業の國家的基礎を明確にしたるもの。
谷本勇次郎	農國本の眞義	菊判並製	550	三、八〇	泰文館	十一月	▲日本農業の由來、農山狩獵の祭神、農靈の起原傳播等其他にて日本農業の眞義を說く。
山岸七之丞	農産物價格統制論	菊判並製	484	四、五〇	農林書房	六月	▲世界の重要農産物の價格統制を論じ、之等政策より歸納せる理論を說述す。
山崎延吉	農民生活論	四六判並製	246	一、八〇	育生社	三月	▲現在及將來の農民教育及農民問題の根本を農民生活に覺いて論述す。
松葉熊市	平川彌平氏農家經營	菊判並製	314	一、八〇	泰文館	七月	▲昭和の志士たらんことを望む、平川彌平氏の體驗談を敍述したもの。
東大農學部農業經濟學教室編	分村の前後	菊判並製	196	一、八〇	東大農學部農業經濟學教室	十月	▲分村運動としての實踐を經た長野縣下大日向村、讀書、富士見の三ケ村の調査報告。
ギー著 井上陽之助譯	米國農業政策	四六判並製	181	一、八〇	叢文閣	九月	▲米國ヴアージニヤ大學教授ウイルソン・ギーの「米國農業政策」の譯譯。
南滿洲鐵道株式會社調査部編	北支農村概況調査報告	菊判並製	165	一、三〇	日本評論社	十一月	▲河南省彰德縣第一區宋村及侯七里店の調査報告を纏めたもの。
笠森傳繁	滿洲開拓農村	四六判並製	304	二、〇〇	巖松堂	一月	▲經濟・文化の觀點から滿洲開拓農村・北支那京津地方等を視察し報告す。